闘いはここからだ！
目指せ、黄金郷(エルドラド)!!
猪木、
過激なる引退！
そしてU.F.O.発進!!
紙のプロレス
RADICAL
9
No.9
Jリーグにもプロ野球にもない
この顔はマット界の宝だ!!
髙阪剛
見てみ、この面ッ!!
ツラ
RADICAL衝撃宣言
さらばプロレスマスコミ！
いまこそ業界病を撃滅せよ！
インタビュー＆
話題騒然人生相談!!
前田日明
グレイシーへの雪辱を期す
佐野友飛
誰か忘れちゃいませんか？
「紙プロ・スーパースター列伝」
谷津嘉章
アントニオ猪木
4・4闘魂連鎖大特集
前田日明／石川雄規
ターザン山本／高田文夫
グレート・サスケ／春一番
鮮烈シリーズ第2弾
「格闘家から見たプロレス」
朝日 昇
女子プロ・ザ・タフネス！
下田美馬＆三田英津子
紙のプロレス RADICAL No.9
闘魂は連鎖する!!
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社
定価：本体648円＋税

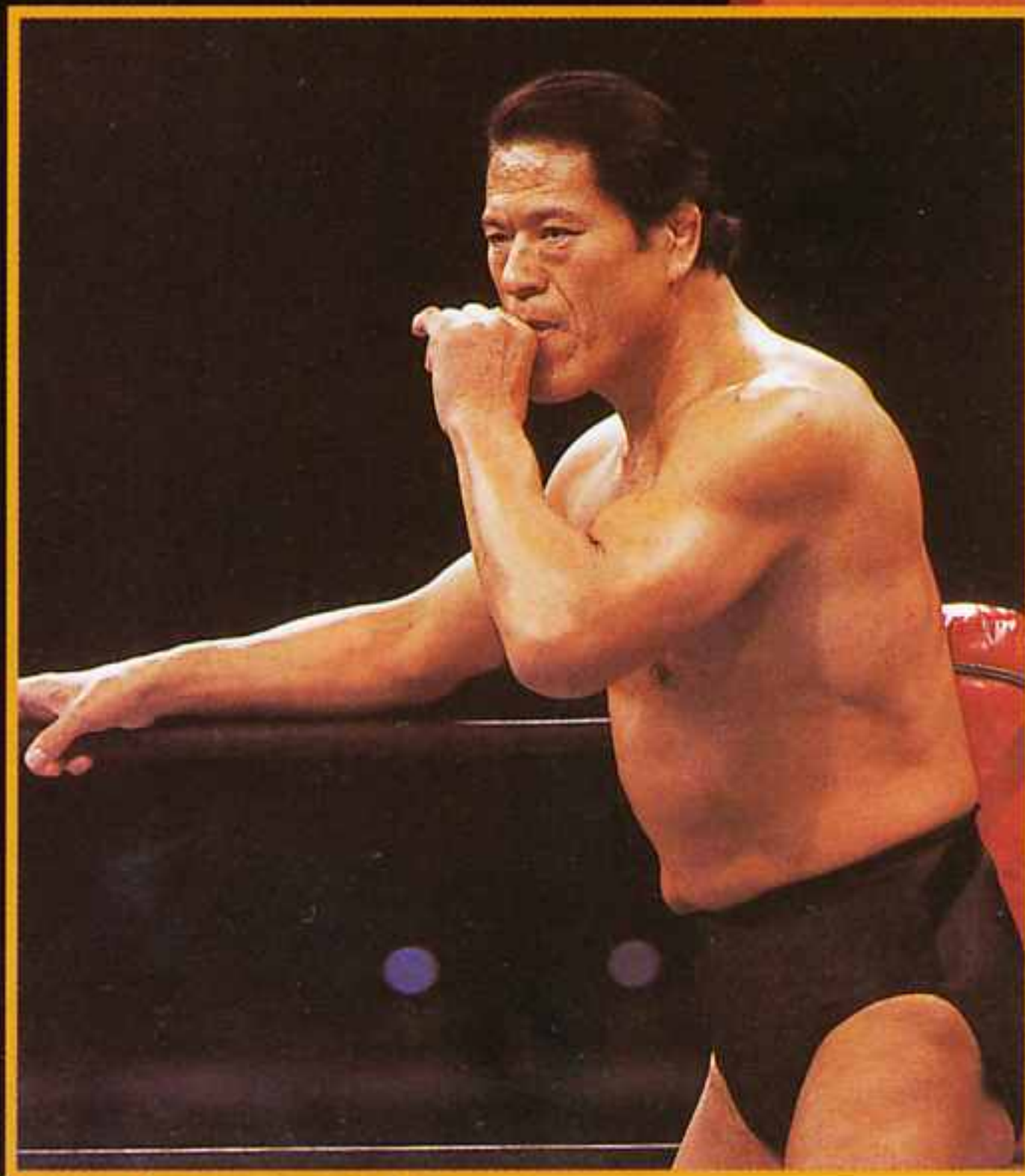
1998年4月4日、猪木引退——。

今度は、我々自身が
闘魂のかけらをたずさえて
旅に出なければならない!
その乗り物は、

UFOだ!!

もう我々は、
闘魂に癒（いや）されながら
時代の砂漠を

時代の砂漠をさまよってはいられない

ANTONIO INOKI

闘う旅人・アントニオ猪木――。
いま、相手のいないリングに猪木はたった一人でたたずんでいます。
思えば38年に及ぶプロレス人生、旅から旅への連続であり、そして猪木の精神も旅の連続であった。
安住の地を嫌い、突き進んでは出口を求め、飛び出しては次なる場所に歩を進め、ドン底からの新日旗揚げ、世界王者とのストロング・マッチ、大物日本人対決、格闘技世界一決定戦、ＩＷＧＰ、巌流島、人質開放、国会に卍固め、魔性のスリーパー！
決して人生に保険を掛けることなく、その刹那、刹那を燃やし続ければよいという生き様。
猪木は、この後の舵をどの方向にとろうというのか。一人ひとりのファンの胸には、いまどんな闘いの情景が映し出されているか。猪木は、すべての人間が内包している闘う魂をリング上で体現する宿命にあった。我々は猪木が闘いの果てに見せる表情に己自身を投影させてきたのだ！
しかし、この瞬間をもって猪木はリングから姿を消す。我々はどうやって灯をともしていけばいいのか。
物質に恵まれた世紀末――。
商業主義に踊る世紀末――。
情報が豊かでとても心が貧しい世の中――。
一人で闘うことを忘れかけた人々――。
もう我々は、闘魂に癒されながら時代の砂漠をさまよってはいられない。我々は今日をもって猪木から自立しなければいけない。闘魂のかけらを携えて、今度は我々が旅に出る番だ！
闘魂は連鎖する!!
１９４３年2月20日、鶴見に生まれし、一人の男（おのこ）。姓名・猪木寛至、闘魂の火種。あなたを見続けることができたことを光栄に思います。
燃える闘魂に感謝！
ありがとう、アントニオ猪木!!

〈リング上からの猪木最後の挨拶前に場内に流れた、古舘伊知郎のナレーション〉

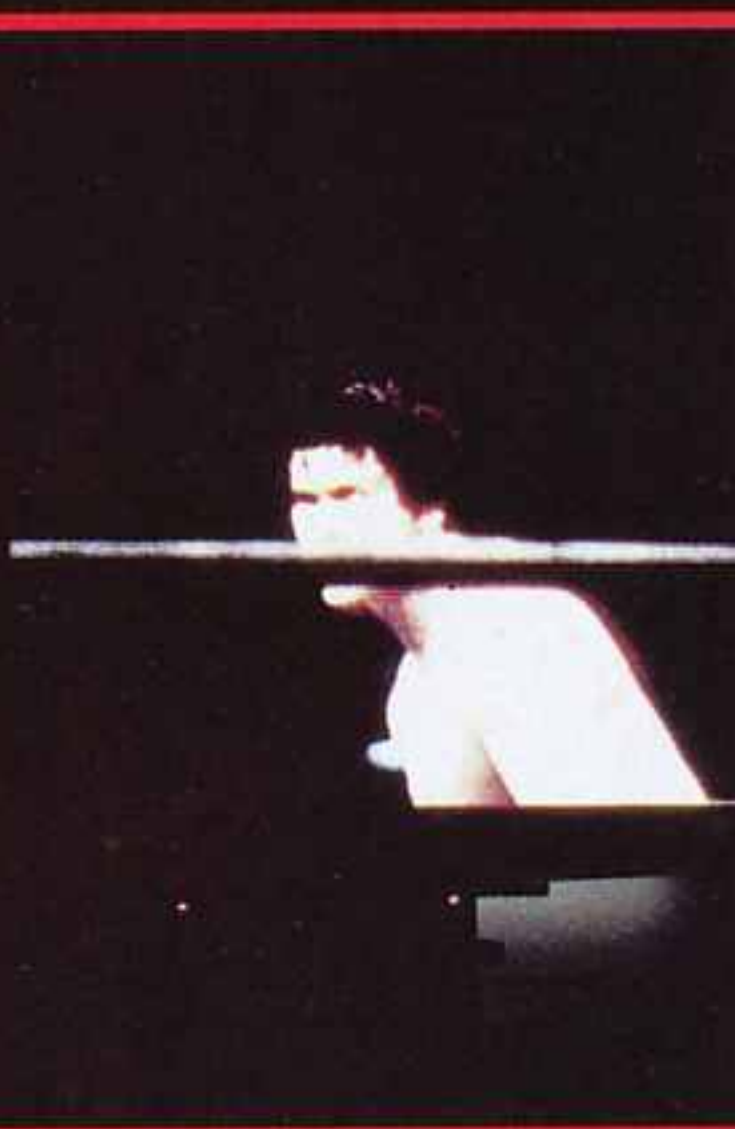
猪木引退

いまこそ心に闘魂棒を持て!!

猪木がコロセウムの幕の向こうに消えた瞬間、心が筋肉痛のようになった。
それだけエネルギーを使って見ていたということである。
非常に心地いい。
エネルギーというのは「ムキ」という言葉に置き換えてもいい。
プロレスはムキになって見ている方が断然面白い。
こっちがムキになっている頃は、リング上で闘っているレスラーもムキになって見ている者に闘いを刻み込んでいた。
その最たる存在がアントニオ猪木である。
猪木はいつもムキになって闘っていたのだ。
『闘魂とは己に打ち克つこと。そして闘いを通じて己の魂を磨いていくことだと思います――』
現役最後となったリング上からのメッセージで猪木はこう言った。
猪木はムキになって己に打ち克とうとした。それと同時にムキになって人々に感動を与えようとした。
猪木がムキになればなるほど、我々もムキになって「闘いを見る」という行為を通して己に打ち克とうとし、己の魂を少しでも磨こうとした。そして、ムキになって猪木から与えてもらった感動を細胞にスリこんでいったのだ。
いつしか、プロレスをムキになって見ることが少なくなった。ムキにならないということは、エネルギーの垂れ流しをしているということである。
ムキになって見れるのは猪木しかいないのだろうか。
それでは「プロレスというジャンル」は「猪木というジャンル」に永久に勝てない。
猪木の試合の二つ前。
西村修が現在の新日本の中では、明らかに異質なクラシックなプロレスを展開し、鈍い光を放った。
一つ前。
猪木登場の前にオーロラ・ビジョンに映し出された数々の歴史を感じさせる名勝負たち。まるで、その画面から飛びだしたかのような試合ぶりを見せた藤波辰爾が7万人を熱狂させた。
その瞬間、歴史がリングから立ち昇った。
西村、藤波の往年のストロング・スタイルへの回帰は、超アメリカン・スタイルを貫く現在の新日本への警笛だと言ったファンもいた。
西村、藤波の試合があり、その繋がりがあったから猪木の試合もまだ見れたといった人もいた。
それに比べてメインの猪木の試合は時代を突き放していた。
しかし、この日のドームは明らかにいつものドームとは雰囲気が違っていた。

ANTONIO INOKI

1Fスタンドの後方が開放された立ち見スペースには人が何重にも織りなしていた。休憩時間に新聞紙を敷いて寝る人や、5~6人のグループで歌ってる人たちもいた。まるで野外ライブの会場である。アリーナ席にも関わらず自分が発してる熱のせいで裸になってるお兄ちゃんも数多く見かけた。
この日のドームは、〝自然〟に囲まれた島に、心が開放された人々が集まってきたと錯覚するくらいの風景があちこちで見られた。
まさに〝イノキ・アイランド〟である。
自然の中には人々の想像もつかないような「偶然」が起こることがある。
この日集まった人たちは圧倒的な偶然を期待していたのだ。
人間の脳味噌では起こしようもない瞬間瞬間の偶然を猪木は味方にしてきた。
小川直也がドン・フライに敗れた瞬間、ドーム内にいる猪木ファンの細胞が叩き起こされた。ドームという巨大な無菌空間に、〝アントニオ猪木という自然〟が偶然の渦を巻きおこしたのだ。その偶然さえも猪木は味方につけた。

“燃える闘魂”アントニオ猪木
引退試合

猪木は、現代プロレスから見ると淡泊に映る4分9秒の中で、力道山も、日本プロレスも、新日本プロレスも、ストロング・スタイルも、異種格闘技戦も、UWFも、そしてアルティメットさえも自ら斬って捨てたのだ。
この日、アントニオ猪木は〝既成のアントニオ猪木〟をも今世紀最高の笑顔とともに叩きつけ、一休和尚の『道』を読み上げた後にUFOに乗り込んだ。
さらば脳化プロレス！　猪木は自分の過去にも保険を賭けず新しい道を選んだ。
黄金郷（エルドラド）にたどり着くには、ムキになって地中を掘り起こし、身体をすり減らして歩いていくしかない。
アントニオ猪木は、未確認飛行物体の中から、室内でゲームを楽しむ私たちに、闘魂棒を突きつけながら「トレーニングでもしますか――！」と微笑んでいるのだ。
プロレスファンよ、いまこそ心に闘魂棒を持て!!　そして旅に出ろ！

（N・Y）

元・猪木の付き人、現・リングス総師

前田日明

4・4を語る

俺がリングサイドで試合を見て、佐山聡がセコンドにいてね。妙に不思議な気持ちにさせられたね。

〈アリのサイン〉

もう俺の宝箱にしまってあるよ。へっへっへ。（前田日明がアリのサインを貰う様子はP134『人生は語らず』参照）何？ へえ、アリが聖火台に火をつけたの？ へぇ～、知らんかった。

〈4・4当日の感想〉

猪木さんとはリング上以外では何も話してないね でもね、猪木さんのコーナーに佐山聡と小川直也でセコンド付いたでしょ。そのセコンドに付いている佐山聡を見て、一瞬気持ちが20年前にパッと移ったね。彼は昔、猪木さんの付き人やってたでしょ。猪木さんは、佐山聡を付き人として一番気に入ってたからね。で、佐山聡がマーク・コステロとの格闘技戦に参加するっていうことになって、俺と付き人を交代したんだよね。

その佐山聡が、猪木さんのセコンドに付いている20年前の光景とまったく同じ光景だったからね。昔のことを思い出して懐かしいというのとちょっと違うんだけど、妙になんか不思議な気持ちだったね。

俺がリングサイドで猪木さんの試合を見て、佐山聡がセコンドにいてっていう光景は、旧UWFの頃からは誰も想像できなかったでしょう。

〈自分の引退試合のプランに参考になるところはあったか〉

そういうのは自分でああしてくれ、こうしてくれとか言うもんじゃないからね。もし言ったからといって、そのままやったらみっともないでしょ。「ここんとこで、涙を誘うような演出で」って、アホかお前はってね（笑）。引退試合には道場開いた頃に、野菜を安くしてくれた近所の八百屋のオジサンとか、そういう人たちもたくさん呼びますよ。

〈アントニオ猪木の試合で一番印象深いのは〉

俺が入門したシリーズの最終戦が猪木さんとモンスターマンとの試合でさ、それが一番印象に残ってるね。技術的には当然、昔と今では隔世の感があるんやけど、面白かったね。猪木さんはプロレスやらせたら最高の天才だから。プロレスだったら誰もかなわないし。

〈UFOとリングス〉

UFOって何？ ああ、格闘技連盟。全然わからないね。格闘技連盟っていうのが、何をどうやるっていうのがわからないし。ただ言ってることを聞いたら、ハッキリいって俺らの理念と似たようなこと言ってるしね。

でも、猪木さんはいつものことだけど、何やるかわかんない人だから。猪木さんは人をその気にさせることは上手いんだけど。それにヘタに乗っかっちゃうと、この齢になってあっち振り回され、こっち振り回されでロデオのカウボーイみたいになっちゃったらボクちゃんイヤだも～んってね（笑）。

〈最後にアントニオ猪木にはなむけの言葉を〉

現役生活が38年に及ぶって聞いて、単純に俺が生まれて、1歳の時からやってるわけでしょ。

それ聞いてビックリしたよ。それだけでも凄いことですよ。ドームでも言ったけど、誰もやらなかったことを人柱となってやってきた人だろうね。

長い間、お疲れさまでした。

猪木さんはロスに住むんでしょ？ 俺もそのうちそっちに住もうと思ってるから、向こうで猪木さんと揉めたりしたら、家と土地をムスタングで襲うよと（笑）。

引退セレモニーで猪木に花束を渡した前田。声援の大きさはゲストの中で一番の反応だった。リングスとUFOの邂逅はありえるのだろうか――

サスケ

覆面闘魂連鎖

4・4を語る

果たしていま何人のレスラーの体の中に猪木イズムが流れているのか問いたいね

引退試合はテレビで観戦しましたね。テレビでアリ戦実現までのいきさつが流れた際に、やっぱり猪木さんは、最初で最後の人だなあってあらためて思いましたね。アリ戦の時は俺は……まだ5歳かな。家族み～んな、オヤジを始め猪木信者だから、みんなで正座して緊張して見てたっていう記憶がありますね。

それとね、アリの現在の姿を見て運命を感じましたね。猪木さんに蹴られてああなったんですよ、元を正せば。あの試合、あのアリキックはいま見ても凄いわ！　あれは本来の意味での闘いですよ！　あれ闘いだ、うん。あ～れは闘いだ、うん。

それとアリ戦のいきさつは自分がダブりましたね！　みちプロも去年無理してアンダーテイカーとかサニーちゃんを呼んで、アリとはぜ～んぜんファイトマネーのケタは違うにせよ、何万ドルも払って結局借金を背負ってしまったと（笑）。しかしそれは、ファンと夢を共有したいという一念だけでやったと。スケールは違うかもしれないけど、俺はやっぱり猪木さんの遺伝子を受け継いでるんじゃないかと。これは自信もって言えるね。

やっぱりね、猪木さんは、ただ単にプロレスラーだけじゃなくて生きる教科書だね。他のプロレスラーには出来ないことですよ。俺は真似したいね、どんどん。果たしていま何人のレスラーの体の中に猪木イズムが流れてるのかと。ねえ？　俺はやっぱり言いたいよね、それは。全プロレスラーに問いたいよね、敢えてね。

猪木イズムとは不可能に立ち向かう、敢えて逆境を選ぶというね。じゃあ果たして逆境を敢えて選ぶレスラーが何人いるだろうかと。

西村修は「ファンはバカだ」って言ったけど、俺から言わせれば、みちのくプロレスのレスラーがバカですよ（笑）。「何やってんだ、みんな」と。「もっと猪木さんを見習えよ」と。古舘さんのナレーションじゃないけど、ホントに我々が旅に出る番ですよ、うん。

今後は俺なりに、世界平和を考えていきたいね。いやいや、これは真剣に考えてるね。でもその前に、日本があまりにも病んでいると。まずは青少年の問題ね。いまはホントに大人がナメられてるんだよね。もっとね、若者の中に飛び込んでいって、「オマエら目を覚ませ！」と言ってやりたいね。いま若者が曲がった方向にいってるというのは、猪木さんのような存在がいないからですよ！

我々が若い頃っていうのは、猪木さんがゴールデンタイムで活躍してたんで、無意識のうちに学んでいたと。ねえ。ところがいま、生き様をもって教える人がいないんですよ。

俺はやっぱり、生き様で若者に示していきたい。俺はねぇ、もう燃えてるよ！

やっぱり内乱が続いてる国にドンドン飛び込んでいってね、鉄砲の弾とかが飛び交う中で試合をやりたいよね。鉄砲の弾が飛び交う中ででも、俺は飛ぶよ！　ガハハハハハ！

猪木さんは実際やってきたからね、あの人は。北朝鮮に行ったりね。普通はやんないって。だからその精神をみちのくのサスケとしてバトンタッチしますよ。

みちプロ内部？　そんなことは、ど～でもい～んですよ。ガハハハハハ！　ついてきたいヤツだけついてくるがいいと。そんな小っちゃいことはどうだっていいんですよ。確かにいまは東北に引っ込んでるけどね、あくまでも僕の目は世界を向いてますからね。

手始めにイスラエルで俺は試合をやりたいね。キリスト教のルーツはイスラエルにあると思うんですよ！　聖地エルサレムでやって内乱を鎮めると。次の第三次世界大戦が、もし始まるとすればね、イスラエルが中心になりますよ、うん。だから、それを未然に食い止めるのは俺しかいないと。

さしあたって俺の復帰後は、イノキ・アイランドのパラオ！　ね。あそこでやってみたい。人はいるんですかね、パラオって？　いや、よくわかんないんですよ。ガハハハハ！　ね、俺はパラオの地を踏みしめて、あらためて闘魂を連鎖して胸を張りたいなと。

それとUFO！　あの名称もいや～、一本取られたと（笑）。UFO好きな俺としては。ホント悔しいよ俺は。マジで悔しい（笑）。でも、UFOの前座でもいいから、俺らで良ければどんどん使ってほしいですよ。世界平和のために闘いますよ！

でもホントにね、夢をありがとうございましたと。引退後の猪木さんの生き様も、僕はずっと注目していきたいんでね。

僕らに生きる指針をくださいと。

TPGの産みの親（笑）

高田文夫

TPGはたけちゃんが悪いんじゃなくて、私が悪い。悪かったよ、謝ります（笑）

4・4を語る

高田　『紙プロ』かこれは？

——いや、別に『ユリイカ』でもいいんですけど（笑）。猪木引退試合は（浅草）キッドと一緒に見てたんですか？

高田　うん。博士と玉ちゃんと。も～近所のバカみたい。二人で鼻たらして泣いてんだよ。情けないよ、オレは。子供引き連れてヨシヨシってもんだよ。大変だよ、お父さんは（笑）。オレはグッと涙を呑み込んだからね。そこは大人だよ、お前。子供と大人の差だな。

——どの場面でグッと来たんですか？

高田　もう、入った時点からだね。ドームに入った時点から。もう、グッグッグッだよ。こみ上げたな、オレは。嗚咽。嗚咽同舟ってな。なに、今度は猪木特集？　いいねぇ。それでな、人から言われて見つけたんだけど、『魚からダイオキシン』ってさ、いまから9年前の映画があるんだよ。そこでさ、たけし、オレ、景山民夫が共演してるんだよ、唯一の。

——見ましたよ。いまとなっちゃあ夢の顔合わせですね。

高田　猪木を語ってんだろ、オレが。

——猪木さんがバグダッドで平和の祭典やった話題が出て、先生が「猪木は凄ぇな～。ジャイアント馬場とは違うんだよ！　たけちゃんに聞いてみろ～って言うやつですよね（笑）。

高田　そうそう。アレいいな。オレはオレを見直したよ。あの頃からオレはそう言ってるんだから。「バカヤロー、磯村コノヤロー」とか言ってるんだよな。「な～にィ？　猪木vsアリが茶番だとコノヤロ、掛かってこい」ってな。オレなんか9年前からそういうフリがあったんだよ。気がつけよ（笑）。トンチが利かないんだから、もう。オレは9年早いな、世の中より。

——先生本人も覚えてなかったって噂がありますけどね（笑）。

高田　思わずビデオ借りてこいだって（笑）。

——で、先生が選ぶ猪木さんのベストバウトってなんですか？

高田　まぁオレが仕掛けたTPGだな。暴動起きたヤツね。仕掛人のオレとしては……悪かったよ。謝っておくよ。ドン・キングとしては。アレはホントにすみませんでした。私ちょっとヤンチャだったもんで。たけしさんが悪いんじゃなくて、私が悪いんです、裏にいた。タケちゃんは、なんにも知らずに当日国技館に呼ばれて来ただけで、あんな凄いことになるとわかってなかったんだから。全部オレが悪いんです。な（笑）。

——1万人から、実に盛大なブーイングを受けちゃいましたからね。

高田　オレは逃げたもん（笑）。マジでやばいと思って逃げたもん。脱出したもん。怖かったーっ。殺されると思ったもん。

——アントニオ猪木といえばTPGですよ、マニアックなとこでは（笑）。あの暴動は歴史に残りますよ。

高田　たけしプロレス軍団な。アレはタブーだからね。テレビ局的にもなかったことになってるから（笑）。カサブタ剥がすんじゃないっての。その頃は世間知らずでね、オレもね。若さゆえだよ。暴走してしまったんだな。

——でも、カサブタ剥がすときって気持ちいいんですよね（笑）。

高田　オレにもそんな間違いがあったんだよ。オレともあろうものがさ。タケちゃんにとってのバイク事故みたいなもんだな、オレにとってのTPGは。

——でもいま、たけしと猪木だけですね、世界に羽ばたいてるのは。

高田　ホントだよな。ところでさ！　テリー伊藤が、この前、郷ひろみとサウナで会ったんだと。お互いフルチンで「どうも」だって（笑）。運がいいよなあ、テリー伊藤。生ダディだよ、お前。天才は運がいいんだよ。『魚からダイオキシン』撮った、（内田）裕也さんも天才だよな。たけちゃん、オレ、景山民夫を競演させたんだから。運がいいんだよ。猪木も天才。

——偶然を味方につける才能ってやつですかね。

高田　それだよ、それ。大衆芸術は常に客の意表をつかなきゃな。予定調和って絶対ダメなんだよ、大衆芸術はな。猪木さんは格闘家だからそういうことを体で知ってるんだよ。今度はUFOだろ。怪しいじゃねぇか、お前。阿久悠かと思ったもん、オレ。ピンクレディーかコノヤローって（笑）。ゆうほうも、ゆうほうってシャレあるよな。

——ガハハハハハ！　抜群ですね。

高田　このネタをあげよう、君に。

——ボンバイエ（笑）。

春一番

猪木信者を越えた猪木信者

4・4観戦記

「4月4日、この東京ドームに於いて、最後の試合をさせていただきます。いつ何時、誰の挑戦でも受ける！　最後まで見栄を張らせていただきます。よろしくお願い致します」と今年の1・4東京ドーム大会で、猪木さんは発表した。

とうとう、この時が来た。

その日から仲間内では、「一体誰が対戦相手になるのか？」それが酒の席でのもっぱらの話題だ。ある人は、「ホーガンだよ」と言い、またある人は「タイガー・J・シンじゃないの？」と言い、「馬場だ！」「いや小川だ」と、様々な選手の名前が挙がったが、みんなの予想は外れ結局8人によるトーナメントという形になった。

4・4は必ずドームに行きたい！　猪木さんの最後の闘魂をこの目で見なくちゃ。早速チケットを手配した。

が……。僕はテレビ朝日の『リングの魂』という番組で仕事として行くことになった。

前日から興奮して眠れずにいた僕は、猪木さんのビデオを見まくり、早くも涙が溢れて、

4・4当日は、パンパンにふくらませた何とも情けない顔で、14時30分に東京ドーム入りした。

引退試合は、第11試合に組まれていた。第1試合、第2試合でトーナメント準決勝が行われ、第7試合で決勝戦が行われた。その結果、ドン・フライが猪木さんの対戦相手となった。

テーマ曲にのってドン・フライが花道から入場、リング・インし今大会3度目のアピールをした。

いよいよ炎のファイターだ！　と思ったら「アリ・ボンバイエ」が流れた。聖火台に火をつけるアリ――。あぁ猪木さんの登場だ！　大イノキコール！　炎のファイター！　花道に現れた猪木さんの白地に赤襟、背中に金色の闘魂の文字のガウン姿！

鳥肌が立った。

「カッコ良すぎる!!」

胸が熱くなり、喉元が苦しいような、カラダ中をザワザワと沸き立たせる血。自然と涙が溢れてきた。TVカメラが回っているのも忘れ、まるでその時自分が猪木さんのオーラに包まれているような、何とも不思議な気持ちになった。だから正直言って、試合内容はあまり覚えていない。

すべてが終わって、猪木さんの控室へインタビューに行くことになった。あまり時間がないとのことなので、『リン魂』一同は、猪木さんの控室の前で待つことになった。待つことしばらくし、僕たちの前に猪木さんが現れた。

南原さんと僕で花束を渡し「長い間、夢をありがとうございます」と言った。そして最後に、「活を入れて下さい」とお願いすると、猪木さんは鋭い顔になり「いいかー！」と言い、返事をすると、〝バコーン〟と一発気合いを入れて下さった。4月4日東京ドーム、アントニオ猪木引退試合、最後にビンタをもらったのは、西村修選手ではなく、私、春一番だ！

4月6日に放映された「アントニオ猪木引退試合」を見た。ドン・フライに放った延髄斬りを見て、まだまだいけるんじゃないかと思った。

これからももちろん、僕は一生猪木信者でいます。

1、2、3、ダーッ!!

（筆）

4月4日東京ドーム、最後にビンタをもらったのは、西村選手ではなく、私、春一番だ！

【はる・いちばん】本名、春花直樹。昭和41年8月13日生まれ。プロレス観戦歴25年。インチキ芸人歴14年。飲酒歴16年。〝イノキ芸〟では他の追随を許さない超猪木信者。

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

Yuki Ishikawa

猪木信者と公言してはばからない石川雄規は猪木イズムの産物、いわば燃える闘魂の落とし子である。最近、その石川雄規のファイトスタイルが著しく猪木化している。「猪木のバッタもん？」「頭を打ちすぎておかしくなったのか？」「あいつは狂ってる！」「ダァーッ！（ヨダレを垂らしながら）」といった大論争がファンや関係者のあいだで巻き起こっているほどだ。そして迎えた4・4猪木引退試合。石川雄規は闘魂最後の晩餐をどのように見たのだろうか？

石川

燃える情念

——4・4、よかったですねえ。

石川 よかったですよ。というのは猪木さんの試合で泣けた最大の理由はセミファイナルにあったんですよ。

——セミでしたか。

石川 セミの藤波さんの試合で、あの頃のオレに、あの頃の新日本にタイムスリップさせてもらったんですよ。藤波さんがあの音楽で、白いソックスをちょっと出した、まさにあの頃の感じで出て来られて、フィニッシュもそういう感じでで。だからこそ、7万人が総立ちになってドラゴンコールをしたんじゃないですかね。

——凄かったですよね（笑）。ドラゴンでまさかあんなわくとは思いませんでしたね。やっぱりでも、ボクなんか完全に平成のファンなんですよ。だから猪木さんの試合を見てて凄いなと思ったんですけど、藤波さんの試合には首を傾げちゃったんですよ、正直言って。

石川 そうでしょう。だから、そういう人間はダメなんですよ。奥深さがわかんないんですよ（笑）。

——利口ぶってわかってるつもりでいたけど、ダメでしたねえ。時間の壁を痛感しましたよ。

石川 でも、それは仕方ないですよ。その時代を過ごしてないわけだから。オレたちが江戸時代の人間の気持ちや価値観がわかんないのも同じだから。

——そうですね。

石川 あのムード作りは、猪木さんの弟子だった藤波さんの最大のはなむけだったんじゃないのかな。メインに繋げるための。だから、花道で入ってくる猪木さんで、『炎のファイター』で泣けたんですね、ボロボロボロボロ。

——そうなんですか。

石川 ただ猪木さんが最後なんだって感慨だけじゃなくて自分があの頃の気持ちになっちゃったんですね。もはや。

——ドームが巨大なタイムスリップ空間だったと。その前の西村さんの試合とかはどうでした？

石川 そんなにピンと来なかったね。

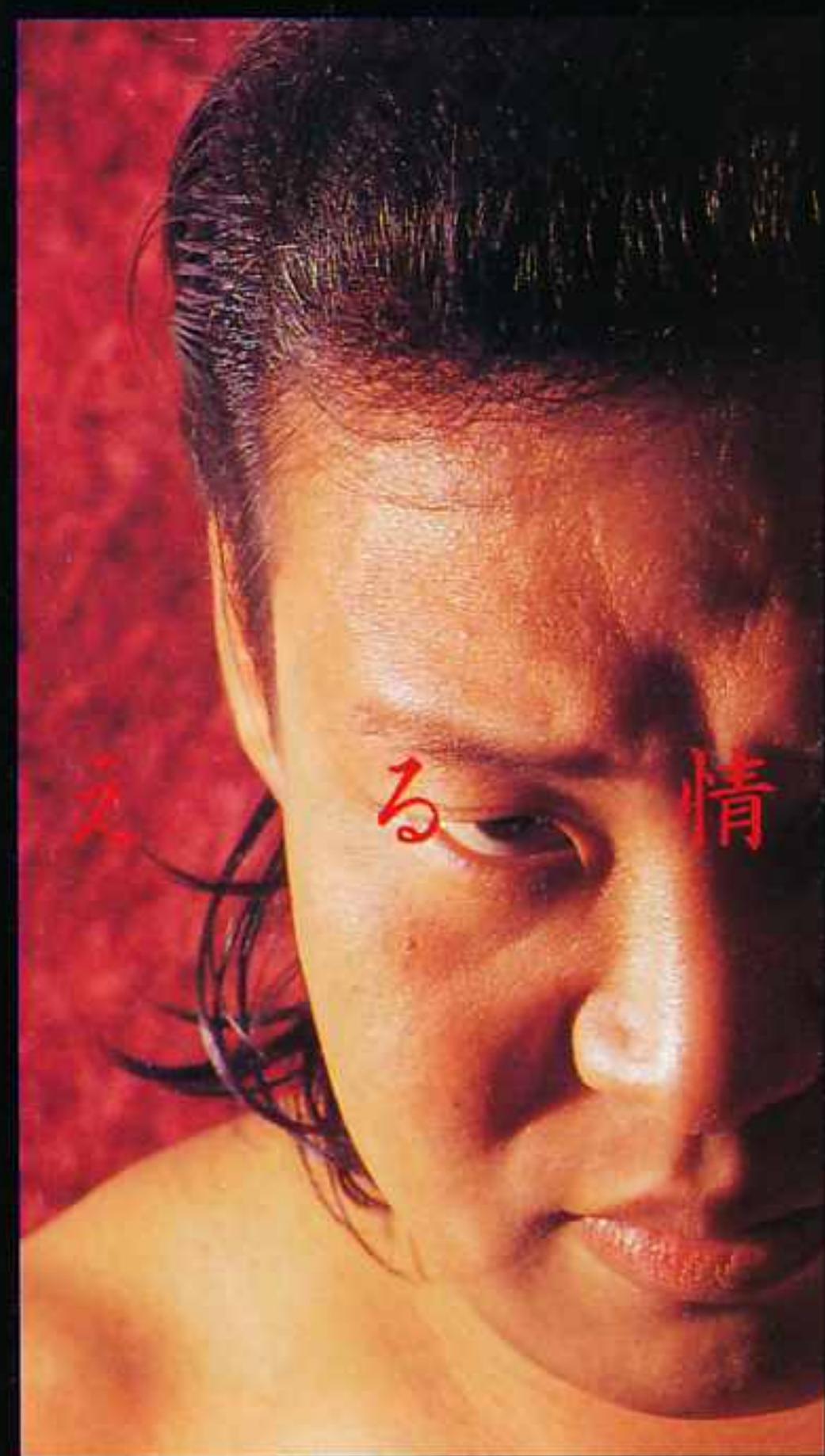
——ボクなんかは西村さんの試合の方が逆にピンときたんですよね。

石川 なるほどね。やっぱりボクはメインとセミ。もし、セミがなかったら、メインもああいう感じで感動しなかったかもしれない。だから、そう言った意味で闘魂を継ぐ者というか、一番そばにいた人間。藤波さんであり、長州さんでありね。ドワァーってくるコールとしては前田さん。

——声援が大きかったですよね。

石川 この引退興行は、久しぶりに心に届きましたね。

——最後に猪木さんからメッセージがありましたけど、ボクはあれにグッと来ちゃったんですよ。

石川 「この道は行けばどうなるものか、危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかる」でしょ。その前の古舘さんのフリもよかったですしね。「闘魂の伝承者たちへ」。「猪木から自立しなければいけない」とかね。たまんないですね。それで猪木さんが「アリガトーッ！」って言った瞬間にコロシアムの絵がバーッと降りたでしょ。一歩を出した瞬間に、「なんだぁ？」って思うくらいもの凄い険しい顔をしていたんですよ、猪木さん。そんで出口に消える寸前に立ち止まって、振り返って見せた素晴らしい笑顔！ あれはゾクゾクっときましたね。たまんないですよ。

最近、アゴが出てきたと言われている石川。これも情念の成せるワザである

——太陽ような笑顔でしたよね。

石川 今のファンで表情を追ってるファンって、います？ まボクが覚えてるのは、どんなビッグネームとやったとか、どんな試合したとか、そんなんじゃなくて、猪木さんがなんかの時にフッとよぎるね、素の顔なんですよ。

——はい。

石川 凄い切ないような悲しげなような狂ったような、なんかそういう表情をずっと思い出してるんですよ。ずっと心から離れない。

——アリのセレモニーもよかったですね。生アリを見れて感激しましたよ。

石川 アリさんにボクは遭遇しましたんで（笑）。

——そうなんですか！ うらやましいなあ！

石川 でしょ（笑）。試合が終わってから、控室の方に歩いてたら、ちょうどアリさんのご一行が来たわけですよ。で、俺たちが道を開けますわね。なんの病気でしたっけ、アリさんはもう震えちゃってて。

——パーキンソン病ね。

石川 そう。で、ふと俺と目が合ったんですよ。その瞬間、アリさんがファイティング・ポーズをとるんですよ！ 俺たちも挨拶したら、グーッと近付いてこられて、右手を差し伸べてきた。

——あら！ すっごいなぁ……。

石川 俺が握手したんだよ（笑）。

島田 （大声で）ん〜、その時、ボクもいたんですよ。

——いきなり誰かと思えば島田さんですか。

島田 「闘魂伝承だ！」って思ったね。その時ばかりは、これからも社長についていこうと思ったね（笑）。

石川 本能で感じたのか何なのか。

——それは石川社長に猪木遺伝子を感じたからですよ。

石川 アリさんはまず俺のことを知ってるわけないし。普通よりはでかいけど、こいつレスラーだってわかんないじゃないですか。

島田 においがわかったんだよ、猪木のにおいが。俺なんか目もくれられな

かったからね。「グッドレフェリー！」といわれることもなく（笑）。

—あたりまえですよ（笑）。あの前田日明でさえ、自分で控室に乗り込んでいったらしいですからね（笑）。でも、凄いなあ。巡り合わせですね。

石川　だって、前にルスカさんと闘った時（96・12・1、代々木第二体育館）に、試合前に挨拶した時はただのグリーンボーイと思ったんでしょうね。「OH！」ってぐらいだったけど、試合が終わったら、藤原さんがきて、「おい、石川よ。ルスカが言ってたぞ、『ヨシアキ、ひょっとしてあのボーイはお前の弟子なのか』って」。なんの知識もなくて試合だけで。

—なんですかね。闘魂の感性をアリもルスカも持ってたんですね。

石川　いいですね。そういう人間の感性って。闘う者にしかわからない。

—あの日は、歴史が一気にドーンと押し寄せてきた感じがしましたよね。

石川　歴史を感じる心って日本には、独特にあるじゃないですか。アメリカって歴史が浅いから、ただ単に古いモノに憧れるんですよ。それは切ない部分だよね。古いモノが愛しいんでしょう。逆に言うと日本はアメリカナイズされちゃって、「先代が日本を守ってきたんだなあ」とか、そういうものを敏感に感じる心があまりにも乾いてる感じがする。

—4・4はボクの周りの観客が、わりと平成のファンが多かったんですよ。だから、「ダァーッ！」が終わったら「さあ帰ろう」みたいなファンが多くて。

石川　俺たちが見てきたのは、闘い終わってヘロヘロになってヨダレたらしながら叫んでた、その「ダァーッ！」なんですよ。猪木さんはもうキ●ガイじゃないかと思われるぐらいね、ホントに狂い人ですよ。でも、それを知らない人間が、「1、2、3、ダァーッ！」をやってるんです。まあ、猪木さんを応援する気持ちは同じなんだから、それはいいんだけど、もっと凄い猪木さんを俺は知ってるんで、伝えたくて仕方ないです。でも時間が違うから仕方ないよね。

—そういうプロレスがあるんだということを、今の世の中に残そうとしてるのが石川社長の今のプロレスなんですね。最近、石川社長が猪木化したとよく言われてて、かなりアゴが出てきてますよね。

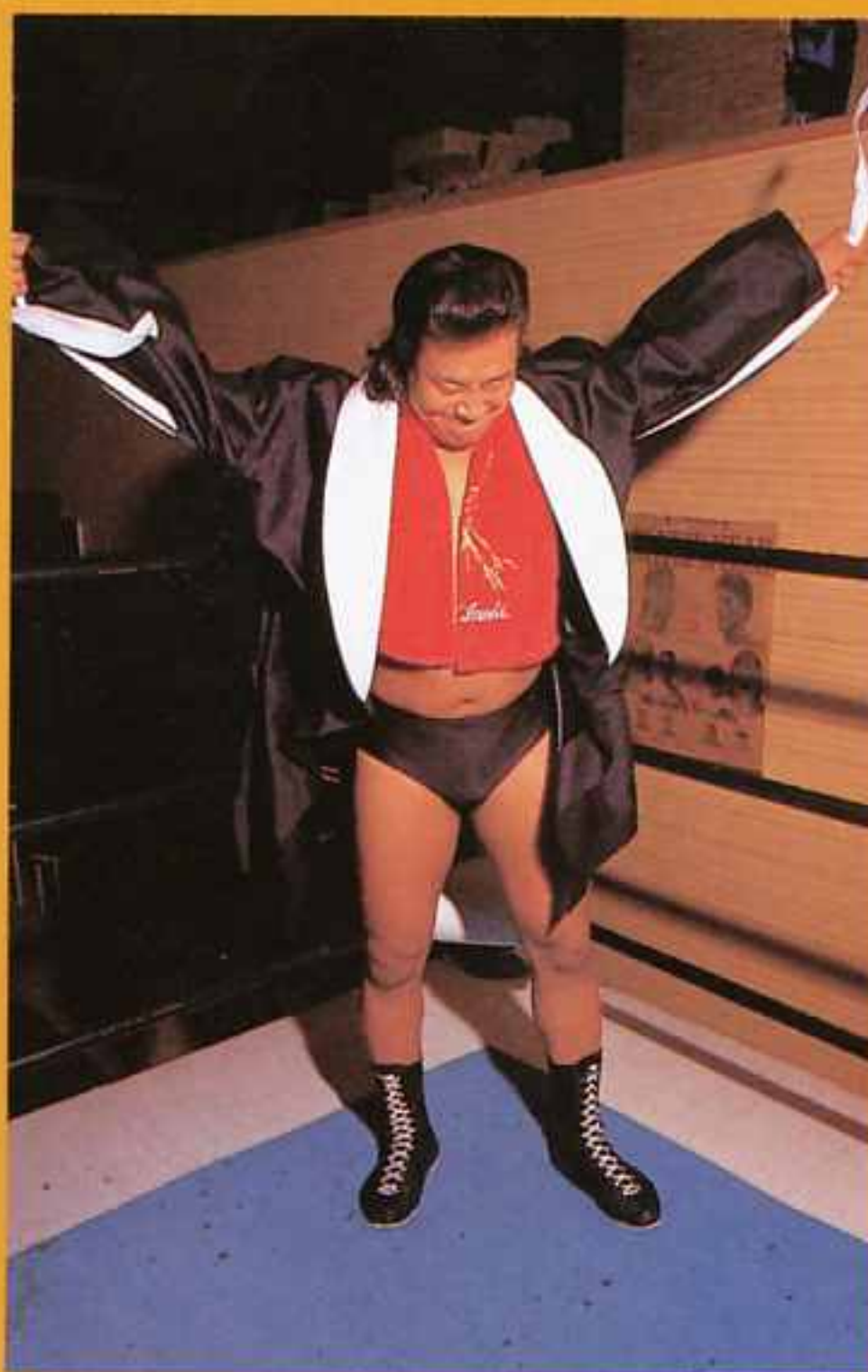
石川　なんかね（笑）。

島田　「ナーシャ！」っていう石川の雄叫びも無意識に言ってるんですよ。たぶん猪木さんの「ダァーッ！」っていうのを無意識にやってるんですよ。ね～？

石川　声にならない声なんですよ、心の叫びなんですよ。感情の底から湧き出てくるもの。儀式じゃないですよ。

—「いきますかァーッ！」じゃないんですね。猪木さんはもうひとつ夢追い人の側面も持ってますよね。

石川　そうですね。

—夢のスケールがものすごい人ですよね。石川社長は、世界格闘技連盟改めUFO（ユーフォー）には興味ありますか。

リングに上がってからの仕草も猪木化している。石川の愛はかくも深い

Yuki Ishikawa

石川　興味あります。猪木さんのやることだったら面白いですよ。ボクたちも、少しでもお手伝いできればね。馳せ参じますよ。

—UFOっていう名前もちょっとビビリましたね。

島田　ん～、あれも猪木さんが考えたらしいですね。みんな反対したのに。

—でも、UFOっていい名前ですよね。なんか忘れかけてたドキドキ感があるじゃないですか。

石川　だから、ものっていうのはそういうものなんですよ。最初、カッコ悪いものも、いずれ、しっかりやってればカッコよく見えちゃうんですよ。猪木さんの名前だってアントニオだからね（笑）。

—冷静に考えてみたらねえ（笑）。

石川　これがべらぼうにカッコよくなっちゃうんですよ。結局、カッコよくするのは自分なんです。モハメド・ヨネも頑張ってほしいですね。（笑）。

島田　ん～、マッハ純一もね。

—あれもギャグじゃないんでしょ。

石川　真剣なんですよね。嘘から出た誠というかね。

—試合中にアゴが出ちゃったりとか、弓を引くナックルパートやっちゃったりとかいうことを社長は大真面目にやるじゃないですか。

石川　そうですよね。

—それは単なるコピーじゃないし、もう石川オリジナルになってますよね。石川社長の場合は心というか猪木さんへのリスペクトが見えますから。

石川　オレは生きてく間で、どんな分岐点でも必ず猪木信者として、猪木さんに恥ずかしくないように、それをいつも肝に銘じてきたんですよ。

—どんな時も猪木さんに恥ずかしくないように。もの凄い価値観ですよね。

石川　ヨダレ垂らしながら「ダァーッ！」ってやった猪木さんを見て、涙流した男たちはそうやって生きてるんですよ。そういう生き方してなかったら、まだまだ猪木信者じゃない！

—「わかったかぁ、コツがァ！」って感じですか（笑）。

石川　そう！　でもね、そうやって今からでも猪木さんを好きになって憧れてくれてる人たちは、その可能性があるから、そうやって生きた方がいいんじゃないかな。猪木信者の先輩としては、そう思う（笑）。そういった意味で、ボクは幸いにも猪木さんに何度か触れさせていただいてる。その後、バトラーツも旗揚げした。そういうことで言うと闘魂のカケラをもって、自立し始めたのかなあって思う。

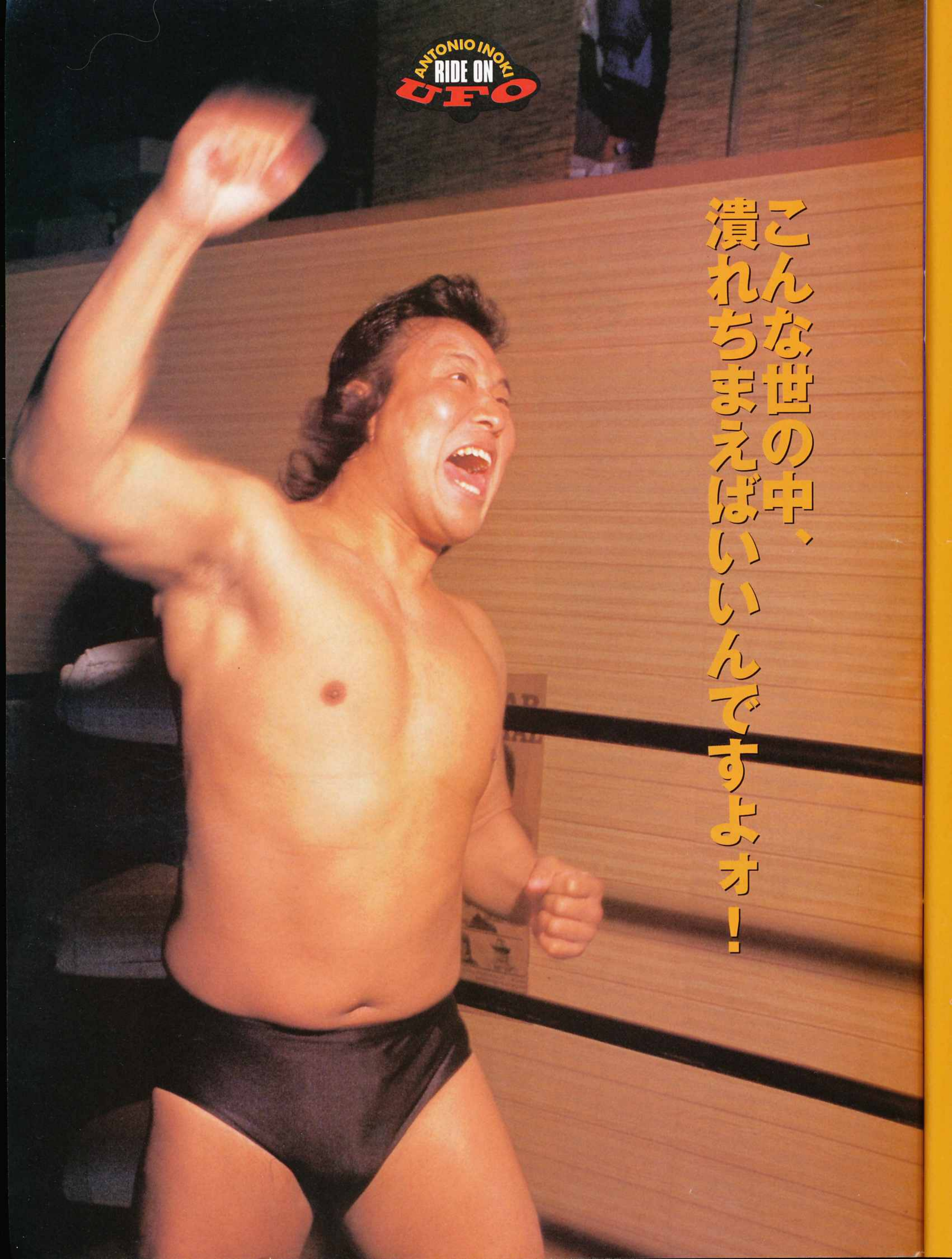
—石川社長は、以前「猪木信者の国があったら面白い」とかいう話をしてましたよね（笑）。

石川　ガハハハハ！　そうですね（笑）。きっといい国ですよ。

島田　統制がとれないっしょ（笑）。

石川　とれないけど、ナイフを持つ中学生なんかいないよ。どっかのバカが持ち物検査をしっかりするべきだとか言ってるじゃないですか。バカが！

速報！　5月27日（水）後楽園ホール大会「Mr.B～ミスター・ビーの大逆襲～」（18：00開始）で、闘魂伝承・石川雄規vs王道伝承・池田大輔のシングルマッチが決定！　夢のBI対決（馬場イズムvs猪木イズム、バカ社長vs池田でも可）見るしかない！　チケットは絶賛発売中！

ANTONIO INOKI
RIDE ON
UFO
こんな世の中、
潰れちまえばいいんですよォ！

猪木さんはバトラーツ的な闘いをやりたかったんじゃないのかな

なんであそこでね、「お前、オレを刺してみろ！」って言えねんだって！　バカ！

島田　ん～、グレート・サスケさんも言ってました。「そのナイフでオレを刺しに来い！」って（笑）。

石川　素晴らしいね！　猪木さんだったら、それぐらい言いますよ。その心意気ですよ！　それでもし、ホントに刺しに来たら偉いですよ。そういう心意気のあるヤツは刺したりしませんよ、人を。ハートがクズのヤツがそんなことをやってるんですよ！　だから、ハートのクズを作ったのはそんなバカなんですよ！　ゴールデンタイムからハズすからいけないんですよ、新日本プロレスの中継を。

――なるほど、敵は大きいんですね。

石川　あれを見てれば自然に身に付いちゃうんですよ、本当の強さ、男のカッコ良さが！　あんなに鍛えた人間だって血を流すし、追い込まれてヨダレ垂らしちゃうし。

――舌出して、口から泡吹いたり。

石川　だから、命の大切さとか知ってれば、あんなナイフ使おうなんて思うわけないんだよ！　だってナイフで人を切るよりも、ナイフを持ってる何百人を相手に、拳一つでブッ殺す『北斗の拳』のラオウの方がカッコイイよ！　男だったら、それに憧れなきゃウソですよ！　なんでそういう感性を育てないんですか、今の大人は！

ANTONIO INOKI RIDE ON UFO

――知ってますか？　最近は暴力シーンになると自動的に映らなくなるテレビを開発してるらしいですよ。

石川　バカじゃないですか、そんなモンは！　だから、狂ってるんですよ、だいたいいろんなもんを規制する、ヘアーとかね、性器露出を規制するとかね、だから狂ってくるんですよ！

――あっ、性器もダメですか（笑）。

石川　当たり前ですよ！　性犯罪が起きたのは、なぜかって言えば江戸時代に混浴がなくなったからですよ！　隠すから、見たくなって狂ってくるんですよ！　バカですよ！　混浴を復活させなきゃいけない！

――混浴の復活（笑）。ポルノを解禁してる国は性犯罪が少ないっていいますよね。

石川　なんで逆転の発想ができないんですかね。その逆転の発想をし続けたのが猪木さんですよ。世の中のお偉方はバカだから、わかんない！　ケッ！　バカだから！　字をデカくして書いていいよ！　バカだ！　あいつらは！

――ガハハハハ！　世の中のお偉方の皆さん、「バカ！」だそうです（笑）。

1993年12月5日、藤原組のリングで憧れの猪木とスパーリングを実現させた石川。夢はかなうのだ

石川　だいたいね、猪木さんを選挙で落としてしまったでしょ。だから、世の中が狂ってきたんですよ！　もう放っときゃいいですよ、日本なんかァ！　猪木王国を作りましょうよ。それをやんなきゃ手遅れですよ。こんな世の中、潰れちまえばいいんですよォ！

――猪木さんは永住権とってカリフォルニアに移住するらしいですね。これから猪木さんはどうなってくと思いますか。

石川　想像だにできない。

――いつも期待や予想を裏切りますからね。

石川　だから、4・4は引退式じゃないんですよ。オレたちの卒業式なんですよ、本当は。

――でも、当然これからも猪木さんを見ていきますよね。

石川　見ていきますけど、違うんだよ。みんな自立しなきゃ、オレがバトラーツを立ちあげたみたいに。バトラーツの中で闘魂を育ててるみたいに、みんなの人生の中で、もらった闘魂のカケラを育てなきゃいけない。何があっても猪木信者。「オレはオレの中の猪木になる！」って思わなければいけない。

――一人一人が猪木（笑）。凄い世の中になりそうですね。

石川　それが世の中を変えることになるんですよ。オレはバトラーツファンだけ、ノアの方舟に乗っけて、パラダイスに連れていきますよ。

――バトラーツ王国に連れてきますか（笑）。

石川　いかにして魂の救済をするか、バカを撲滅してね。クズですよ！　ク

ズ！　クズ以下ですよ！　クズだって、燃せばエネルギーになるけど。肥溜めの糞の方がまだ、役に立ちますよ。だって野菜育てるもん。そういう人らは糞以下ですよ！　もうホント、糞以下ですよォ！　ダァーッ！

——手だてはないんですかね。

石川　バトラーツをTVのゴールデンタイムに流すだけでしょ。それだけです、世の中が救われるのは！

——それだけ（笑）。

石川　悔しかったら、やってみろ！　バカ野郎！　それだけの金をつぎ込んでみろ！　畜生ォ……。そのうちね、やっとそいつらが気付いたときにはオレたちの体はブッ壊れてますよォ！　やってほしいって言ったってこんな闘いできる団体ないんだから！

島田　そこまで、こんな闘いをやろうっていう若者は今いませんよ、キミィ。

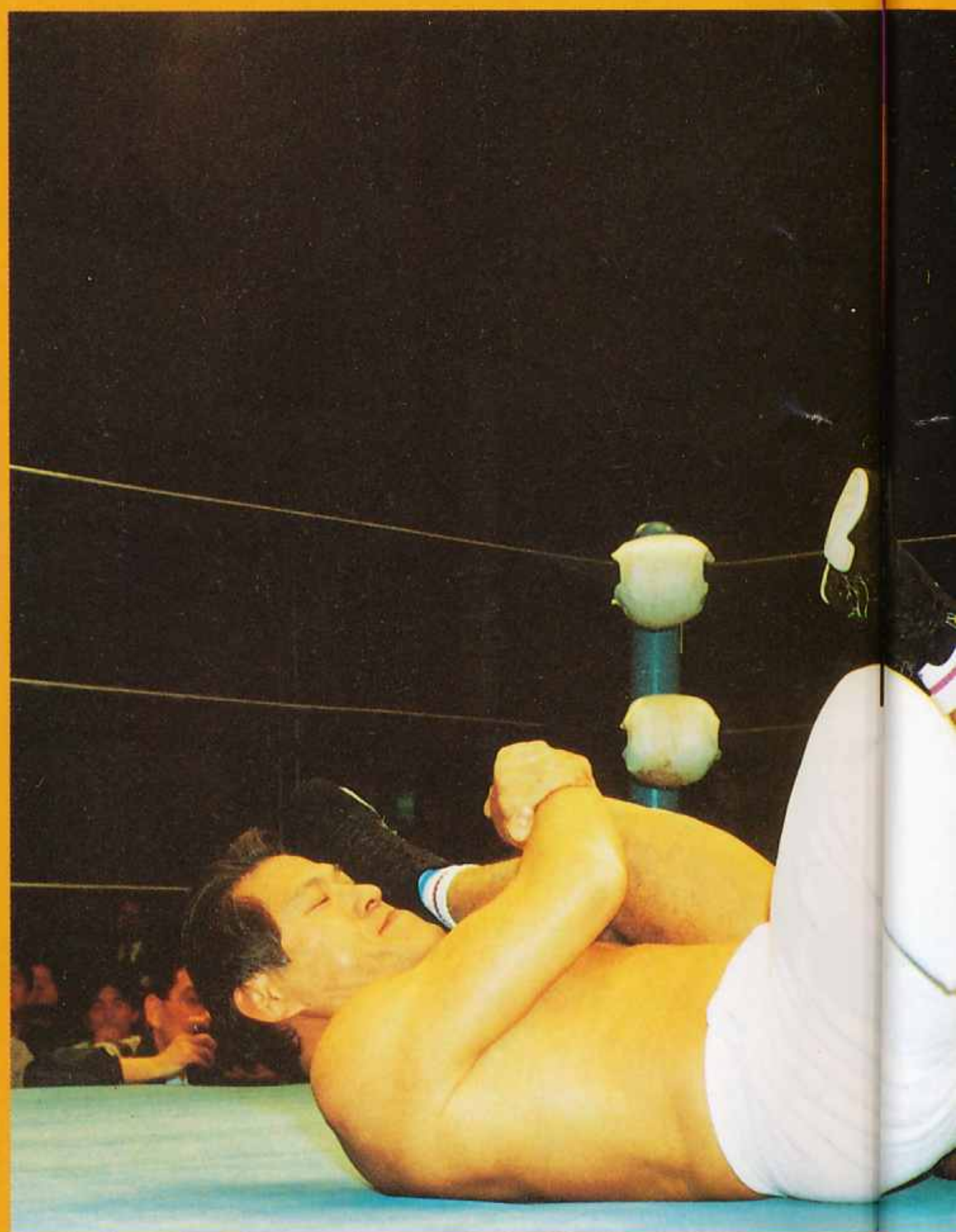
——痛い思いして、苦労して。

石川　苦労と思わないんです。カ・イ・カ・ンなんですよ、自分の体がブッ壊れるのがぁ（笑）。優越感ですよ（笑）。

——凄いなぁ（笑）。

島田　マスコミも猪木さんの引退なのに一面で扱ったのは『デイリースポーツ』だけだよ、キミィ。

石川　号外を出さなきゃダメだよ！　配んなきゃダメですよ、こんなの！　猪木さんの引退なんだから。ふざけやがってェ！　オレが新聞社の社長だったら、すぐに配りますよ！　オレが配りますよォ！

——安室が妊娠したときは号外が出ましたよね。

石川　ふざけんなッ！　猪木さんの引退なのに、バカッじゃねえかッて！（この時点で3人とも朝日新聞が号外を配っていたことを知らなかった。後日、石川は「朝日はいいよ。ブツブツ…世界征服…」とうわごとのようにつぶやいていた）プロ野球全員が束になってかかってもかないませんよッ！　どんだけの人間の心を動かしてると思ってるんですかッ！　オレは王、長嶋に憧れてたけど、猪木さん知った途端人生変わっちゃったもの。その時点で超えてますよ。

島田　国民栄誉賞が当たり前だよ、キミィ。

石川　猪木さんの引退を国民的トップニュースにしないような、こんな日本、潰れてしまえッ！

——じゃあ、新聞は『デイリー』以外受け付けないとか？（笑）

石川　それはダメ！　ボクは載せてね

Yuki Ishikawa

（笑）。

島田　これ見てくださいよ！　記念パンフの猪木史に石川雄規とのスパーリングって出てるんですよ。

——最近のレスラーで猪木さんと肌合わせたレスラーって少なくなってきてますよね。感慨はありますか。

石川　スパーリングが特に印象深いですね。いわゆる情念の世界ですよ。猪木さんを信じてたことは間違いじゃないっていうか。

——お母さんから「お母さんと猪木とどっち取るの」って言われたこともあるんですよね（笑）。

石川　ホントにもう、人間としては極限状態ですよ、それは。闘ってました、猪木信者としては。

——猪木さんが最近、格闘芸術という言葉を言い出してますよね。

石川　それ、うちじゃないですか（笑）。

——まるっきりそうなんですよ。

石川　猪木さんが昔、Uっていう概念を打ち出して、その中の一部分が結晶化されて、いわゆるUWFが出てきたけれど、本来猪木さんがやりたかったことはバトラーツ的な闘いじゃねえかなあ。

——格闘ケンカプロレスですか。

石川　ケンカですよ。ケンカだけど芸術ですよ。だから、きっとロープに何回逃げてとかっていうようなのじゃないような気がしてならないんですよ。というのは、そういう概念が打ち出る前にストロング小林戦っていうのがあって、その時点で実をいうと旧UWFの走りみたいな試合をしてたわけじゃないですか。

——猪木さんが考えたUを石川社長が独自に解釈したのがバトラーツ？

石川　そうなんです。勝手に独自に解釈してるだけなんですよ。きっとそうじゃないかなと思って勝手にやってることが闘魂伝承ですよ。

——格闘文化を伝えていきたいと、よく猪木さんは言ってますよね。

石川　心の文化ですね、一番大事なのは。お互いのリスペクトがなかったら、美しい闘いじゃないんですよ。尊敬があるからこそですよ。それがなんにも知らないバカどもは、ただ殴ってるとしか見ない。その奥が見えない。バカだから！　拳の先に何があるのか見えないようなヤツは死んでしまえ！

——そのせいか、一般マスコミの論調は「いじめにはプロレス技が使われて……」って感じですよね。

石川　泥棒捕まえたら、柔道技や空手技で捕まえたとか。人が死ににゃあ、

己の生き様で人の人生を変えちゃう男になりてえな

プロレス技。ふざけるな！　キックボクシングだって蹴ってるじゃねえか！　投げ技だって相撲からきてるじゃねえか！　テメエはビクターボムを喰らったのか！　喰らいたかったらビクターをドイツから呼んでやるよ！　ふざけやがってクズばっかりだよ！　長州さんはまだ優しいですよ。墓にクソをぶっかけますからね。オレなんか骨壷開けて、骨壷の中にクソを入れてやりますよ。死んでもクソと一緒！

——ガハハ！　クソと一緒（笑）。それだけ情念は深いんですね。

石川　金とか権力で人を動かすことは簡単だけど、己の生き様で人の人生を変えちゃうとか、人の心を動かすことの凄さ。そんな男になりてえなと思ってね。

——石川社長の場合も「猪木さんが好き」っていうエネルギーが石川雄規を変えちゃったんでしょうね。

石川　そうですね。

——猪木さんも以前うちのインタビューで「LOVEとかってあるでしょ」って言ってましたけど、好きになるってことはどういうことなのかなって考えてしまいますね。

石川　全てを捧げてしまうこと。例えば暖簾（のれん）に対してキャッチボールするみたいなもん。

——投げるだけ？

石川　それでもいいと。周りから見たら、暖簾にやって返ってくるわけねえのにって思うかもしれない。だけど、投げることが幸せなんですよ。だってオレは猪木さんが「夢はかなう」とか人生の教訓を言ってくれた。ところが、ある1人の大人が「できるわけない」と言ったんですよ。それが悔しい。「猪木さんが言ったことはウソじゃねえんだよ！　オレが人生賭けて証明してやる！」って。それでレスラーになった。だから、それを証明して、そのバカどもに唾を吐きかけてやるまではギブアップするわけにはいかなかったんですよ。それが情念ですよ。猪木さんのことをバカにするヤツは許さない。墓の中まで追いかけていってやる。仮にそいつが地獄に行って、オレが天国に行っても、オレは地獄まで追いかけて行ってブン殴んなきゃ気が済まない。自らを地獄に落としても、そいつをブン殴んなきゃ気が済まない。

——しつこい愛ですね（笑）。ボクは、よく愛がないって人から言われるんですよ。

石川　ガハハハハハ！　いいなぁ（笑）。わかんないですよ、やっぱ（笑）。形がないもんだから。

——愛とはこういうものかって、また1つ石川社長に教わりました。

石川　いえいえ（笑）。愛は強しです。

——投げかけるのも愛なら、呪うのも愛なんですね。深いなあ。

石川　情念とは愛であり、その裏側の呪いである。愛が深ければ深いほど、その愛を理解しないヤツを呪うんですよ。「いつか見てろよ」って藁人形に釘を打つようなもんです。スクワット1回や腕立て1回が伏せが釘を打つ行為なんですよ。

情念とは愛であり呪いである。ポジティブであるがゆえにネガティブでもある。石川の情念エネルギーはものすごい振り幅を持っている

Yuki Ishikawa

——復讐は達成されたんですか。

石川　世の中全部を変えるまでは、まだまだ。

——石川社長の世界征服と、猪木さんの世界戦略は共通点ありますよね。

石川　実は同じことじゃねえかなって思いますね。スケールは違えど、真の意味ではね。

——石川社長って他のプロレス団体のことは興味ありますか。

石川　ないですね。猪木さんも世界格闘技連盟といいつつ、「最近のプロレス見てねえからさあ」って言ってますからね。そんなもんですよ。だって、己の団体を巨大化させ、それで世間を巻き込むためには、別に周りなんてどうってことないんですよ。

——小さなプロレス村の中にいる必要はまったくないですね。

石川　巻き込む前から負けること考えるヤツがいるかよ！　だから、巻き込んでいけば、あとからついてくるよ。

——ほんとに何も考えてないんだなって思う時もありますけどね（笑）。

石川　ガハハ！　そういうのと同居して、鈴木京香を呼ぶためにはどうしたらいいかって真剣に考えるんですよ。その辺はみんな別個に考えて、ジョークとして考えるでしょ。オレは真剣に考えてしまうんですね、バカだから。

——バトラーツも3年目に突入しましたよね。団体の方針というのは、1年目は地域密着型で、2年目に他団体に出て輪を広げていって。年ごとに戦略が決まってるんですか。

石川　別にないですよ。目の前にあるモノをうまくかわすというか、自然に流れていくだけ。レスリングもそうですよ。視覚じゃないんですよ、触覚なんですよ。昔、藤原さんが目隠ししてスパーリングやってましたけど、触ってさえいれば、相手の態勢とか、すべてわかるんですよ。経営も同じです。

——目隠し経営なんですか（笑）。

石川　なんにも考えてないんじゃなくて、すべてのことに反応すればいいんですよ。ただ単に目を閉じてたらダメだよ。心の目が開いてないと。

——心眼ですね。

石川　流れていくんですからしょうがないですよ。無理に作るもんじゃないんですよ。自然をどのように見極めて、それにゆだねるか。調和なんですよ。

道

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむなかれ。
危ぶめば道はな
踏み出せば
その一足が道とな
迷わずにゆけよ
ゆけばわかる。

誰もが度肝を抜かれたコロシアムの絵。それを上回るインパクトの猪木さんの顔！
我々は猪木から自立しなければならないが、猪木と一緒にＵＦＯに乗ってみたいものである

ANTONIO INOKI RIDE ON UFO

妥協とか、支配とかじゃなくて調和するんです。経営もそうです。でも、これが一番難しいです。みんな世の中の価値観に流されてるから世の中が崩れると自分も崩れちゃうんです。

――自分の羅針盤を持て、と。

石川　例えば、ノーパンしゃぶしゃぶ事件。どうして謝罪するの。世間はホントにいけないと思ってバッシングしちゃいませんよ。うらやましいと思ってるだけですよ、バカどもは！　だから、そんなバカどものために謝ってちゃダメなんですよ。「ノーパンしゃぶしゃぶってのはテメエがノーパンになってしゃぶしゃぶ食うんだ、この野郎！」って言って、ヒールになっちまえばいいんですよ！　その方が面白いじゃないですか。

――ガハハハ！　ムチャクチャだ。

石川　どうせ謝ったって地位とか全部なくなっちゃうんだから。悪いことは悪いけど、バッシングしてるバカな世間の人間の9割方うらやましいなと思ってるはずですよ。オレだってうらやましいもん！

――非常に同感ですね（笑）。

石川　ノーパンしゃぶしゃぶ屋やろうかな。ナイフ屋もやろう。「オレを刺すナイフ」専門店。

――ガハハハ！

石川　でも、これから新たな展開として、大学のサークルでアマチュアバトラーツを作ってくれねえかなと。それでオレたちが週に1回でも講師として行けたらいいですね。実は1つ、2つプランが動き出してるんですよ。

――修斗とか、パンクラスもアマチュア育成してますよね。石川社長にとってのアマチュアバトラーツは純粋に競技なんですか、それとも人の輪として考えてるんですか？

石川　どっちかって言うと、人の輪ですよ。

――そういう意味では、これも世界征服のひとつですね。

石川　そうですよ。プロレスファンはいずれ、取り尽くされちゃいますから。バトラーツというブランドじゃなくて、総合格闘技をやりたい人が「じゃあ、近所にバトラーツという道場があるから、そこで学ぼうか」って。それでいいと思う。

――格闘文化のひとつなんですね。

石川　だって、アマチュアの空手道場だって100人からいますからね。オレたちだってやれねえはずないんですよ。それであちこちにジムみたいなもんを作っておいて、選手がダメになったら、「そっちで独立採算して」って、退職金としてジムをあげようかと思って（笑）。「はい、さよならぁ」って感じで（笑）。

――そういう意味じゃ、猪木さんのアントン・ハイセルも老後のレスラーの保証のために作ろうとしたわけですから、コンセプトは同じですよね。

石川　そうですよ。ある程度いったら、それぞれにリングを持たしちゃって、それを近くにきた団体に貸すプランもあるんですよ。運送屋バトラーツもやろうかな（笑）。

【98年4月6日、バトラーツおんぼろ道場にて収録】

今夜は無礼講!! マット界を追放された落武者が猪木引退試合に喧嘩を売った!!

猪木がみせた最大の裏切り! あの笑顔の謎を解け!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

語り手／ターザン山本

95年に新日本プロレスの取材拒否事件がきっかけで『週刊プロレス』編集長を辞任。マット界の浮浪者もとい落武者となる。その情念が爆発したときの面白さは他の追随を許さない——！

——もうしゃべりたくてウズウズしてるみたいですね。「迷わず語れ、語ればわかるさ！」ということで、どうぞ！（笑）。

山本　あのね、ハッキリ言うと、当日は、ドームに集まった7万人の全ての人たちが、猪木の引退興行の歴史的瞬間の歴史的証人になるために、予定調和して感動して満足しようという形のムードができあがってたんだよね。だから、ボクから言わせると答えが最初から決まった世界ですよ！　でも、最初から答えを出してる人は、ボクからすると猪木ファンとは言えないんだよ！

——ガハハハハ！　言い切りますね。

山本　そうすると、この人たちは、お祭りに参加しに来て、縁日の気分で来た、いわゆる「猪木テーマパーク」みたいところに来たなっていう感じなんだよね。ボクは4日前に、「アントニオ猪木とは何か?」ってことについて村松（友視）さんに電話したんだよね、朝。村松さんは猪木について「猪木のアイデンティティというのはファンに喧嘩を売り続けたプロレス人生だった」と言うんだよな。

——ファンに喧嘩を売り続けたプロレス人生！

山本　だから、喧嘩を売り続けたから、暴動とかいろいろあったわけでしょ。例えばベイダーが出てきたアレとか、海賊が出てきたアレとか、あるいはホーガンのIWGPとか。つまり、あの時に怒ったファン、暴動を起こしたファンが一番記憶が鮮明なんだよね。喧嘩を売り続けたってことに猪木イズムの真髄があるわけじゃない。だから、喧嘩は買わなきゃいけないわけよ！

——買わなきゃ猪木に失礼だと。

山本　そう。ということは、ボクはあそこに一人だけ、あらかじめ決められた感動を味わいに行ったんじゃなしに、猪木と緊張感のある関係の中で喧嘩を売りに行ったんですよォォォ。

——しかし、喧嘩を買ったり売ったり忙しいですね。引退試合なんだから黙って見てればいいじゃないですか。ズバリ言って、ビョーキですね。

山本　そう！　要するに、猪木ファンって言うよりも、ボクは「猪木病」なんですよ！（テーブルを興奮してドンドン叩く。しかも喫茶ルノワールの）。

——ガハハ！「猪木病」（笑）。

山本　「猪木病」こそ、猪木ファンのテーマというか真髄なんですよォォ！　だから、「猪木病」と「猪木ファン」あるいは「猪木チルドレン」はゼ〜ンゼン違うんだよ！「猪木ファン」は感動したっていいわけよ。ボクは「猪木病」にかかってるんですよォォ！喧嘩を売ってくる猪木さんとの関係を受け入れてる。この俺こそが真の猪木ファンなんですよォォ！

猪木病こそ最強のウィルス！
A猪木を額縁化するな!!

—その真の猪木ファンが記者席にいずに、追放されてネットの向こう側の観客席にいたと（笑）。

山本　おい、なんで俺だけが追放されなきゃいけないんだよ。俺には7万人の中で唯一の「猪木病」にかかった男としての特権があったはずなんだよ！（ドン）。だから、一番ボクがシラけたのがね、み〜んな「猪木さん、ありがとう。猪木さん、ご苦労さん」って言ってるんだよな（ドンドン）。でも、「ご苦労さん」とか、「ありがとう」とか「お疲れさん」とかは、喧嘩を売り続けた猪木に対して、最も失礼な言葉なんだよ！

—最も失礼ですか！

山本　その言葉を言うということは、ボクからすればアントニオ猪木という存在を最も平凡なものにさせてしまうんだよ！「猪木病」にかかった人間にとっては「ご苦労さん」とか「ありがとう」とか「お疲れさん」という言葉は禁句だし、絶対に言わないよ。

—でも7万人の中で「猪木病」にかかってるのは山本さん一人なわけでしょ。

山本（まったく人の話を聞かず）言ってしまったら、アントニオ猪木が平凡になるし、自分も平凡になるし、猪木とボクの関係もまったく日常的な平凡な関係になるということですよ！

—あの日の観客は、猪木さんを額縁（がくぶち）に入れて家に持って帰ることをあらかじめ決めていたと。それが気にくわないわけですね。

ANTONIO INOKI RIDE ON UFO

山本　要するに、平凡なスターだとか、普通のレスラーが、最後に自分以上の輝きを見せるのが引退興行なんですよ！　でも、猪木さんは「引退」とか「引退興行」というものに納まりきらない輝きと凄みを持ってるから、「引退」という額縁の中にハマりきらないんだよ！　平凡なスターレスラーだけが最後に引退興行をやって輝けばいいんですよ！　で、おい！　あの日の中で一番いけないのが、あのセレモニーだよ！

—え、あの誰もが感動したセレモニーの一体どこがいけないんですか!?

山本　あのセレモニーは、その〝額縁の思想〟の中に猪木さんをハメ込もうとしてるわけ。猪木さんっていうのは引退という力を借りなくても輝くものが初めからドカンッとあるんだから、引退そのものがしゃらくさいんですよ、俺からしたらァァ！（ドンドン）。

—いまさら、猪木さんを額縁という器にハメ込むなと。

山本　そう！　ハメ込んで、猪木さんを額縁化するなと言いたいんですよ！

—額縁化！（笑）。

山本　アントニオ猪木を額縁化させたんだよ！　違う？　みんな猪木さんを額縁に納めようとして、そして家に飾ろうとしたんだよ！　み〜んな、セレモニーが良かったって言うんだよ。でも、俺は違うんだよ！（ドン）。アントニオ猪木は試合で何かを感じさせてくれるのが猪木じゃないの！　試合で喧嘩を売ってこい！　つまり、図らずも小川が勝たなかった瞬間に、俺は猪木ウィルスがボカンッてきたわけよ！

—ボカンッてきた（笑）。猪木ウィルスが目覚めちゃったわけですね。

山本　完全に目覚めた！　これで猪木はドン・フライにメチャクチャにやられてグシャグシャに負けて、引退興行という額縁さえも破壊されて、セレモニーもなくなってしまうような形になって、猪木の最大の裏切りが起こって、これで「猪木病」がドーム中に大発生すると！　ファンを裏切り続け、ファンに挑戦し続け、ファンに喧嘩を売り続けた猪木がここで大爆発すると、これこそが猪木だ！　と席の周りの知らない人間に「こりゃ！　面白いィ！」って叫んだんだよ！　み〜んな俺の顔をみたよォ！（ドンドンドン）。

—ああ、山本さんと一緒に行かなくて良かった。「クソ食らえ、額縁化」ってところですか。

山本　額縁なんてクソくらえ！（ドン）。俺がナイフで突き刺してやるよ！（ドンドン）。グサグサですよォ！（ドンドンドン）。だから、ハッキリ言って、ボクから言わすと、猪木さんが引退興行でさらし者になったと思う！

—うわぁ！　言い切りますね。

山本　でも、そこで、猪木さんはみんなが知らない裏切りをやってたわけですよ。

—それは面白そうですね！　一体どういうことですか？

山本　これが一番大きなテーマでね。ホントは引退興行をやることによって等身大以上の輝きがで

きる人たちにこそセレモニーという額縁が必要なんだよな（笑）。だから、ボクはセレモニーがイヤだったんだよ。猪木さんに、リング上でレスラーが握手したり花束を渡すのもイヤだったしさ。ああいうことはアントニオ猪木という存在に対してやってはいけないことなんだよ。猪木さんはあれに全部付き合ってたんだよ、俺から言わせたら。

――受けきってたわけだ。

山本　だから、これは猪木と新日本の離婚がうまく成立して、和解による離婚ですよって演出してるわけよ。新日本側は傷つかない形で、いい形で離婚したと演出したいと思ってるわけよ。それがシャクに触るわけですよ。「畜生！　こんな離婚調停しやがって」っていう感じですよ。セレモニーに行った人たちは、実は離婚調停のために呼ばれた人たちですよ。それが遠藤幸吉であり、音楽評論家のなんとか言う人たちですよ。

――音楽評論家のなんとか？　小室哲哉のこと？

山本　そうそう。モハメド・アリが一番いい額縁に入ってた。違う？　あれは引退という名の額縁ですよ！　だけど、みんなはそれに感動してるわけね。そんな猪木さんを見て、「猪木はこれでホントに極小化された、さらし者にされたな」って思ってねぇ。「イヤだなあ、俺、アントニオ猪木に失望したな」って思ってさ。あの場から逃げたくてしょうがなかったわけさ。ところが猪木が最後にやってくれたんだよ！　クックック。

――なにをやってくれたんですか、猪木さんは！

山本　その時、ホントに猪木というのは人をダマす天才だと思った（笑）。いや、いい意味で。猪木も古舘伊知郎が詩を読んでる時とか悲しい顔、沈んだ顔をしてるわけ。それで全部のセレモニーに付き合ってるわけでしょ。それで長い花道を帰っていくわけでしょ。で、フェードアウトするその瞬間に振り向いてパーーーッと笑顔を出したでしょ！　その笑顔は"いままでやってたことは全部ウソなんだよ、俺は単にセレモニーに付き合ってたんだよ"ってことなんだよ！　つまり、猪木が「あっかんべぇ」したんだよォ！（笑）。

――はっはー！

山本　クックック。つまり「因幡の白ウサギ」ですよ（笑）。「ザマアミロ」ってやつですよォ（笑）。それじゃなきゃ、あの沈んだ顔から、一気にあんな太陽のような笑顔できます？　平凡なスターにあの笑顔はできませんよォォ。

――確かにあの笑顔が出た時は、猪木さんが必殺技を繰り出した時にハッとする感覚に近かったですね。

まさに今世紀最高の笑顔を見せた猪木。これからは佐山、小川を引き連れ、ＵＦＯに乗りこんで世界中に"闘魂の欠片"を撒く旅に出る。世界中に闘魂の火種が生まれ落ちることを願おう

山本　あの瞬間に俺は「やったァ！」って思ってガッツポーズだよ！（笑）。あの笑顔の中で、猪木が舌を出したと思ったもの。瞬間的に喧嘩を売ったと思った。

――笑いながら舌を出す人（笑）。

山本　お前ら勝手にセンチメンタルな気分に沈んどけって感じで舌出してるんだよ！「あっかんべえ」だよ！　それに釣られて7万人が集まったんだよ！（笑）。

――いやぁ、面白い！

山本　それが猪木の猪木たる所以じゃないの。俺が一番言いたいことは、「プロレスというジャンル」があってプロレスがあるんじゃない！　プロレスというジャンルには何も根拠がないんだよ、世間から八百長だなんだって言われてるんだから。ただ、この30年間、何があったかといったら「アントニオ猪木というジャンル」があったんだよォ！（ドン）。俺たちはアントニオ猪木というジャンルと関わって燃えたんだよォ！（ドンドン）。これからは「猪木というジャンル」がなくなるんだから、プロレスもなくなりますよ。これが一番言いたいことだァ。

――それは自分を追放したプロレス界への怨念から出た言葉ですか（笑）。

山本　それもあるよね。でも！　人間の思想っていうのは、全部個人的な怨念と挫折と絶望と裏切りと、そういう下劣な、卑劣な、下品な感情のもとに、それが根になって地上の上に昇華された芸術、作品、思想が咲くんだよォォ！（ドンドンドン）。

――しかし、こと猪木のことになると炎上しまくりますね。

猪木の「博愛」と「あっかんべー」今世紀最高の笑顔に乾杯！

山本　俺は病んでる！「猪木病」に！

——ガハハハ！　そりゃ、病んでる時は心が卑しくなりますとも（笑）。

山本　だからこれも、一種の卑劣、下劣な見方だよ。でもね、潜在的なものを自分の中で掴み出せなかったら、外側からの概念で自分を調和して、あの興行に予定調和していくしかないんですよ。その予定調和していくことが猪木は「ダメなんだよ」と言ってるんだよね。もっと自分の中の下劣というか、エゲツなさというか、そういうものを引っ張り出せと言ってるわけですよ。俺は自分の中から引っ張り出してるわけですよォ！　だから、あの興行を「NO」と言うわけよ。でも、みなさんは「YES」って言っちゃうわけ。猪木は「YES」になることがいけないことだよ、と言ってるんだよ。だから笑って舌を出したんだよな。あれこそ最大の裏切りじゃないの。あの時、イヤでイヤでしょうがなかった引退興行から猪木さんが解放されたからこそ、あの笑顔が出たんだよ。

試合後、記者会見に臨む猪木。「悔いはありません」と言い切った猪木だが、イノキはイノチある限り"燃える闘魂"である

——じゃあ、あの笑顔は7万人に対して「はい、ご苦労さん！」って言ってるわけですか？（笑）。

山本　そうそうそう。「みなさん、ご苦労さんでした」って言ってるわけよ。だって猪木さんは終わってないんだから、一つの通過点に過ぎないわけですよ。

——しかし、この笑顔は今世紀最高の笑顔ですよね。みんなが額縁に入れて持って帰りたくなるのはわかりますよ。（笑）。

山本　そうだよ。でも、みなさんはその笑顔の謎が解けなかったんだよね。だから、村松さんが『日刊スポーツ』で「猪木はどんなスフィンクスの謎を仕掛けてきたのか」とかなんとか書いてたけど、これですよ。この笑顔じゃないの。猪木さんが『道』とかいう言葉をリング上から言ったでしょ。なんかわけのわからん言葉を。

——わけのわからん言葉（笑）。みんなアレで感動したんですよ。

山本　ここに書いてあるよ（と『東スポ』をめくる）。「この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せば、その一歩が道になる。迷わずいけよ。いけばわかる」ってね。猪木の一番の哲学を表してるんだけど、これもオレから言わしたら猪木さんのフェイントなんですよ。み〜んなフェイントに引っかかってるわけ（笑）。わかる？

——全っ然わかりません。

山本　あのね、もう一個言うと、さっきの『道』をみなさんは、もの凄く道徳的かつ美的に受け取ってるわけよ。

——はいはい。

山本　でも違うんだよ、これは！　いい加減に、行き当たりばったりで、見切り発車で人生を生きなさいって言ってるんだよ。そうした時にホントに未来がありますよと。「行き当たりばったり、野垂れ死にしていいからさ、そうした人生を選んだ時に本当の自由と道があるよ」と言ってるんだよ、この言葉は。どちらかというと不道徳な言葉なんだよ。でも、誰も行き当たりばったりになれないでしょ。その日暮らしに。それになった時に初めて何かを掴めるんだよって言ってるんですよ。でも、それは怖いからできないでしょ、みなさん。「迷わず行けよ」ってことは行き当たりばったりに賭けてみろ！　と言ってるわけですよ。だって猪木さんの人生、行き当たりばったりばったりじゃない。

ANTONIO INOKI RIDE ON UFO

——だからUFOなんですよ（笑）。

山本　そうそうそう（笑）。未確認だから。行き当たりばったりなのがUFOだから。不

確定要素だからゼ〜ンブ。

—でも猪木さんの場合、行き当たりばったりが等身大じゃないんですよね。ズバリ言って過剰も過剰なんですよ。

山本　うん。行き当たりばったりにやっていて、それが結果的に道になったわけだから。道が最初から決まってたら等身大にしかなりませんよ〜。

—ところで、「猪木病」にかかってない山本さん以外の6万9999人は、あそこで引退という名の額縁を持って帰って、猪木さんに区切りを付けようと思ったわけですかね。

山本　そう！　ピリオドを打とうとした。この後も猪木と付き合っていこうというエネルギーが残ってないんだよ！　長い間、「猪木というジャンル」に付き合ってきて疲れ果てて残ってないわけ。だから額縁にするしかないわけ。猪木さんもそれに納まってほしいと思ってるわけ。感じるエネルギーもないから、綺麗に終わらせようと。自分も一緒に額縁の中に入って綺麗に飾ろうと、家に。

猪木の試合後の会見を凝視する古館伊知郎。この日、古館はまさにアントニオ猪木そのものだった。ＶＩＶＡ古館！

—しっかし、過剰なものの見方をしますね。相変わらず。

山本　だから、猪木というものを過剰に感じることだけが猪木ファンの特権だよ。過剰に感じるということは、ねじ曲げて感じることでもあるし、屈折して感じることでもあるし。まったく事実と正反対のことを感じるかもしれないけど、でもそこにリアリティーがあればいいんだよ！　だから、ボクたちは、村松さんもそうだけど、過剰に物事を解釈する、裏読みするっていうプロレスファンの一つの典型。でも、これは猪木さんが教えてくれたことなんだよ！　つまり猪木さんしか過剰な解釈をさせてくれないんだよ!!　それが「猪木というジャンル」なんですよ。

—ここまで狂った見方をさせる猪木さんはやっぱり凄いとしか言いようがないですね（笑）。

山本　だけど……（なぜかヒソヒソ声で）実は、あの笑顔の中にはもう一つ最大の裏切りがあるんだよ。

—ゲ！　裏切りの二重構造ですか。

山本　そう！　あの笑顔にはもう一つの意味がある。これはハッキリ言って大発見なんだよ！　猪木さんというのは博愛主義者なんですよ！　人々を挑発して喧嘩を売ると同時に、すべての人に愛を分け与えてきた。「博愛」というのは「すべての者を同時に愛すること」っていう意味なんだよね。猪木も、同じ時間、同じ時代を共有しているすべての人に愛を与えてきたわけ。人に感動を与えることが、すなわち博愛主義そのものなんだよ。猪木を見てきた者に与えたものが、プラスもマイナスも含め最大級に凄かった。つまり、猪木は今世紀史上最大の博愛主義者なんですよォォオオ!!

—つまり、あの笑顔は「あっかんべぇ」と舌を出した猪木と、博愛主義者の猪木の二つの顔が、もの凄い早さで回転してるということになりますね。

山本　そうそう。ダイナミックにクロスしたから、あの誰にもできない笑顔が出たわけ。猪木さんは、スキャンダルを起こしたり、利己主義だとかなんとか言われてきた裏で博愛主義者でもあった。つまり、時代を共有した人々をダイナミックに裏切ると同時に、ダイナミックに愛を与え続けていたのがアントニオ猪木ということになるね。だから、ボクらは猪木さんから喧嘩の売られがいもあるし、愛しがいもあるんじゃないの？

—史上最大の二刀流ですね。

山本　うん。つまり、猪木という弁証法だよね。そこにダイナミズムがあるわけよ。だからドームは成功したわけでしょ。猪木ファンの中には猪木を愛した自分と裏切られて怒った自分が二つあるわけ。

—とすると、猪木ファンはこれからどうすればいいわけですか。

山本　離れられない！　ということだよね。つまり、猪木は最強ということですよォォォ！

—「俺は猪木だ」と言った山本さんも博愛主義でいかなきゃなりませんね。

山本　おい、俺は最強なんだよォォォ。

—狂ってる。

【4月8日、水道橋の喫茶店・ルノワールにて収録】

我々は猪木を額縁に入れて部屋に飾ってはならない。猪木と共に新たな旅に出るのだ！　行きますか－！

前田日明

ラス前メッセージ

引退試合に向けラストスパート!!
リングス総師の言葉の中の"沈黙"を読め!!

聞き手／山口昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

前田日明 300人アンケート

前田日明になら何を言っても許されるのか!?

Q1 「前田日明」が落とし前をつけなければならない相手は誰ですか？

第1位・ヒクソン・グレイシー46票
●前田なら勝てる!!（鳥海太郎／18歳／高校生）●コンディションを考えると難しいが、ファンとしてやってもらいたい。（島田正之／26歳）●やれば前田が勝ったのに。逃げるヒクソン。（山宮典子／23歳／OL）●なめられたままでは悲しい。つぶせるのは前田だけ（ハートで）。（百瀬啓一／25歳／フリーター）●口ばっかりで前田戦をやらなかったから。日明兄さんにボコボコにしてもらいたい（古河芳裕／25歳／会社員）●あんだけ言っといてやんないのはダメだ。あきら兄さんらしくない。借金してまでやるっていったのに。（橋本欽也／25歳／ギタリスト）

第2位・鈴木みのる27票
●陰であらそわないでリングであらそえ（子安進英／23歳／フリーター）●やっぱりやらなあかんでしょう。TOP同士（染谷浩慶／22歳／学生）●最後は握手を望みます。（久保涼子／23歳／地味な事務員）●前田に失礼なことを言う人とはきっちり落とし前つけにゃあ。（熊倉一志／19歳／学生）●リングスとパンクラスの問題が不透明だったため（宮城英人／20歳／学生）

第3位・船木誠勝25票
●個人的にイヤだから（本木茂之／23歳／会社員）●戦えば、わかりあえるはず。（鏑高貴／22歳／Jリーガー）●ボンクラス発言の落とし前は？（山口哲／29歳／自営）●どちらの方向性が正しいか？　僕は知ってるけど（浪岡翔太　／25歳／コンビニ店員）

第4位・高橋義生24票
●例の騒ぎのケリをつけてほしいデス……。（田中美子／22歳／会社員）●高橋さんは強いですよ。（石川みのる／22歳／フリーター）●1度試合はムリでも雑誌の対談でもいいから二人一緒の場面を見てみたい。仲直りの場面なら一番いい！（岡崎明博／24歳／サラリーマン）

第5位・安生洋二22票
●前田は嫌がりそうだけど（福嶋哲平／24歳／無職・元編集者）●「本当に残酷なこととは何か」を教えてくれそう。中高生に観せたいね。（原田幸治／32歳／フリーライター）●今ならできるでしょ。キングダムも無くなっちゃったし。（佐々木亜由美／22歳／ぷー）

第6位・佐山聡20票
●落とし前つったら佐山でしょ。試合前にマイク合戦もしてほしいッス（後藤雅活／25歳／リーマン）●カンベンしてよ！（A・KASAHARA／30歳／ライター）●とりあえず対談してほしい……恐すぎか？　（石澤薫／28歳／マンガ家業）●総合格闘技を始めた人だから（原光享／26歳／フリーター）

第7位・高田延彦18票
●これだけしてもらっておいて、勝手なことばっかりしてるから。どちらかというと高田が落とし前をつけるべき。前田さんに（金子阿佐美／19歳／フリーター）●ヒクソンを取られたから（荒井幸一／25歳／会社員）●ホントの高田はどこに行っちゃったんだろうねぇ（高城次正／26歳／販売業）

第8位・長井満也16票
●長井の立場がないから（武田和安晃／18歳／高校生）●ファンの関知しないところの話だから（岡島裕広／34歳／会社員）●長井がもったいないし、納得がいかないから。（中川雅博／20歳／大学2年）

第9位・田村潔司15票
●あんなにあっさり負けていいのか！（木下正弥／20歳／学生）●昨年の暮れに負けたから（橋本貴志／21歳／大学生）●絶対やるべき！（板垣亮／23歳／公務員〈戦う男〉）

第10位・アントニオ猪木13票
●そりゃそうでしょ（若月智之／22歳／学生）●海外で一試合やってほしい。落とし前ではないが見たい。（佐藤／23歳／会社員）

その他
●ターザン山本・ターザン山本が言う前田に対しての意見も、前田が言うターザンに対する意見も、客観的にみるとどちらも正しい。ということはリング上で決着をつけたらええんや。（武上康夫／22歳／紅茶鑑定人）●ホイス・グレイシー・ヒクソンが駄目でもとりあえず弟は絞め落として丁尻をあわせてほしい。（山?淳／27歳／会社員）●「格闘技通信」・100号記念企画でも無視されていた。今まで十分売り上げに貢献しているだろうに。（吉岡隆二／20歳／会社員）●天龍源一郎・マスコミがやりそうなことを書きまくっている割には、いっこうに実現しない。（平松祐一／32歳／会社員）●佐竹雅昭（K−1）・今やってもつまんないと思うけど客は入るんじゃないですか。（徳永伸／18歳／学生）●スーパーストロングマシーン・昔ストンピングやられていた（林／23歳／ツアーコンダクター）●ゼットン・まだ対戦していないから（杉山浩司／26歳／フリーター）●ケンドーナガサキ・かつて苦戦したから（新間ひすわし／28歳／会社員）●星野勘太郎・ケンカマッチの決着（加藤稔／29歳／板前）●鈴木健キングダム取締役&パンクラス尾崎社長・前田のほうが正しいから（清水貴史／28歳）

前田　飯島はね、『千代乃光』っていう新潟の秘蔵の酒があってね。

飯島女史（リングス広報）　あー、すいません！

前田　あの名酒『越乃寒梅』を水のように飲んでる人が『千代乃光』だけはどんなことをしてもゼヒ欲しいっていうほどの酒やねん。それを苦労して手に入れたんだけど、割りやがるの（笑）。

――ガハハハハ！　割った！　一滴も飲んでないんですか？（笑）。

前田　全然飲んでない。

飯島女史　す、すいません！

――訴えますか（笑）。ところで、3月28日のNKホール大会は、試合はなかったものの前田日明の喜怒哀楽がよく出ていた大会でしたね（笑）。

前田　そう？　なんで？　喜怒哀楽っていえば、飯島も怒ったら怖いで。『千代乃光』を割っちゃうから（笑）。

飯島女史　も、申し訳ございません！

――当分言われますね（笑）。で、そのNK大会を総括してください。

前田　まずね、始まった早々、段取りが悪くて俺がスタッフを怒鳴ることになってね。

――激怒してたらしいですね。

前田　高阪がアルティメットで勝ったってことと、北沢（幹之＝レフェリー）さんが最後の試合になったってことをね……。

――リング上から報告するはずだったんですよね。

前田　報告するはずも何も、そんなん言うのは当たり前やんけ！　俺が指示せんでもやることや!!

――裏の通路で前田さんがスタッフを怒ってるところを通りかかった島田裕二レフェリーが「前田さん、プレスとかカメラマンがいるんで奥に……」って言ったら「うるせえ！　ブチ殺すぞ!!」って怒鳴ったらしいですね。

前田　え、ホント？　俺が怒鳴ったの？

――もちろんです（笑）。

前田　覚えてない覚えてない。へっへっへっへ（その様子を頭に描いてるのか、うつむいて笑う）。

――島田レフェリーは「ボクがせっかく気を使って言ってあげたのに『ブチ殺すぞ！』って言われちゃいましたよ～」って言ってました。不運な男ですね、よりによって前田さんに怒鳴られるとは（笑）。

前田　デヘヘヘ。

――だから、前田さんはあの日、終始ご機嫌斜めなのかって思ってたら、割とリングサイドでは落ちついてましたね。

前田　関係あらへんもん、だって。

――一瞬にして忘れると（笑）。

前田　瞬間に生きてる。中途半端は辛いことだよ。一生懸命怒って、一生懸命笑って。そういうことで、島田クン、カンベンして（笑）。で、質問なんだっけ？

瞬間に生きてる。中途半端は辛い。一生懸命怒って一生懸命笑ってね

Message from
AKIRA MAEDA

――これからです（笑）。そのNK大会といえば、まずはキングダムから来た山本健一選手。リングス初見参でいきなり凄絶な試合になりましたね（vsヴァレンタイン・オーフレイム戦）。

前田　第1試合で初参戦ってこともあったと思うけど、ちょっとカタいなと思ってるうちに、ロープ際でフッと気を抜いた瞬間に膝蹴りが入っちゃったよね。

――はいはい。

前田　本人に聞いたら、全然覚えてないらしいけどね。ああいう連中っていうのはタックルが来たら、渾身の力で、これしかないって感じで首を絞めにくるからね。アマチュア・レスリングの選手はタックルに対して必ず当たってから対処するってやり方。だけど、オランダの選手はまずステップバックする。だから、ちょっと失敗して手を付いたりすると、ガブられて首絞められて終わりっていうね。だけど、あの膝蹴りがなかったら、もうちょっといけたのかもわかんないね。膝を一発もらって、わけがわかんなくなって。

――出血もしたし。

前田　人間、ボーッとしちゃうとアゴが浮いちゃうんだよ、アゴが。顔が浮いちゃうからさ。だから、スタミナとかなんとかよりも、あの膝一発でいかれちゃったね。まあ、ヤマケンはまだ21歳だしね、これからまだ10年やっても31歳でしょ。ある意味じゃ、大いに楽しみな選手だからね。

――前田さんが「辿ってきた道筋が似てる」ってヤマケンに対して言ってた記憶があるんですけど。

前田　あいつのプロレス入り前夜っていうか、プロレス入りする前の逸話を聞いたんだけど、けっこう似た境遇にあったんじゃないかなぁとね。

――前田さん好みのファイターではあるんじゃないですか（笑）。

前田　そうやね。そのうちジャパン勢もヤマケンらもひっくるめて、総当たり戦みたいな感じになっていくでしょ。全員当てて、その闘いぶりを見ながらマッチメイクとかランキングが決まっていくからね。

――では、ヤマケンとはまた違ったタイプの金原弘光選手。同じくキングダムからの初参戦ですけど（vsイリューヒン・ミーシャ戦）前田さんが「ここまでやるとは思わなかった」と試合後に言ってましたね。

前田　スタンドがいいっていうのはわかってたからね。だからグラウンドでもついていくどころか、押し込んだりとかしたから面白かったね。後半ちょっとスタミナが切れてたけどね。せっかくスタンディングに戻ったのに、いい展開にもっていけなくて。あそこでバーッとスタミナを消耗させてグラウンドにもっていけばいいのに、できなか

ヤマケンはまだ21歳だしね。10年やってもまだ31歳でしょ。大いに楽しみだね

Q2 「前田日明」より強いと思う選手は誰ですか？

第1位・いない34票

●前田日明が最高（岡崎明博／24歳／サラリーマン）●今はいない（井田武揚／22歳／国家公務員）●地球上に存在しません。地上最強の生物前田日明。（大川原英毅／22歳／U−FILE−CAMPER）●いるわけない（湯野川智則／22歳／フリーター）●本当に前田と、これから、リング上で戦う気があって、尚かつ、勝つ奴。だから、いない。（裏夢首領／33歳／会社員）

第2位・ヒクソン・グレイシー27票

●ギャラが高いから（原田正巳／21歳／学生）●450戦無敗だから（吉田竜樹／23歳／JR職員）

第3位・田村潔司25票

●そうでないとこれからこまる。（田中和子／23歳／会社員）●ほとんど差はないけど（川村／22歳／公務員）

第4位・船木誠勝18票

●プロレス界で強そうなのは船木ぐらい（若月智之／22歳／学生）●他にもたくさんいると思いますが、とりあえず1人（宮崎博揮／26歳／学生）●船木（でも自分は前田ファン）（岸本拓也／21歳／学生）

第5位・アントニオ猪木14票

●プロレスラーとしてのアントニオ猪木。プロレスラーとしたら猪木さんは誰にも負けない！（中村充／23歳／大学生）●2人で並んだ写真から前田の「トホホ」って声が聞こえた。（武田いづみ／17歳／学生）●もちろん全盛期のアントニオ猪木（松宮隆光／36歳／自営業）

第6位・女性12票

●美人で、巨乳な18〜36才くらいの女の人々全て（矢野／24歳／子育て）●未来の前田さんの妻（金子阿佐美／19歳／フリーター）

第7位・たくさんいる10票

●大勢いると思う（大場満／26歳／フリーター）●たくさんいると思う。誰とは言い切れない。（伊藤由夏／24歳／会社員）●前田選手をそんなに強いとは思わないので挙げきれません（橋本貴志／21歳／大学生）

第8位・わからない8票

第9位・ヴォルク・ハン7票

●そう思うんだけど（安田光徳／29歳／書店勤務）

第9位・三沢光晴7票

●プロレスでなら三沢（福嶋哲平／24歳／無職・元編集者）

第10位・大山倍達6票

●前田は牛を殺していないから（田原博巳／20歳／考え中）

第10位・橋本真也6票

●今のコンディションでは、さすがの前田も、橋本にはかなわないだろう。（大原由樹／16歳／高校生）

その他

●カール・ゴッチのみ（染谷浩慶／22歳／学生）●山本小鉄（谷内田敏行／30歳／会社員）●3年後の小川・5年後の藤田（恒遠聖文／24歳／就職浪人生）●天りゅう、三沢、こばし、川田、田上、あきやま、ハンセン、ゲーリー・オブライト（福田貴泰／15歳／中3）●武蔵丸光洋（中川雅博／20歳／大学2年）●桜庭和志（細田和也／28歳／学生）●藤原喜明（寺島千歳／22歳／OL）●ドン荒川、グラン浜田（ペガサス木村／33歳／レコード店店員）●マサさん（監獄固めでタップとったから）（後藤雅活／25歳／リーマン）●池田大輔（武田和晃／18歳／高校生）●マーク・ケアー（島田尚弥／28歳／ボクサー）●天龍源一郎・天龍チョップを耐えられるかな？（WAR・OB／36歳／会社員）●スコット・ノートン・文句なし！（行方和臣／18歳／専門学生）●ストーン・コールド・スティーブ・オースチン（杉山浩司／26歳／フリーター）●ジャンボ鶴田・90年初期、（90年〜93年）。（島田正之／26歳）●ビターゼ・タリエル・大不評ではあるが、あの胴まわし回転蹴りがあたれば前田はマットに崩れ落ちる。（熊倉一志／19歳／学生）●草やなぎさん（内藤宏治／22歳／会社いん）●アレキサンダー・カレリン（清水貴史／28歳）

Q3 「前田日明」の好きなところをあげてください

◎好きなところ

●真っ直ぐなところ。自己中心なようで結構気配りなところ。強さを求めるところ（島田正之／26歳）●一途で素直、ユーモアがあり、常に前を見つめているところ（森原義弘／27歳／会社員）●何でも隠さずに物事を言う。言ったことはやる。ウソつかないところ（瀬川／25歳／会社員）●あついところ、純なところ、かなり哲学入っているところ（石橋豊／20歳／大学生）●職人気質なところ（伊藤由夏／24歳／会社員）●期待を裏切らないところ。ドラマチックだね（原田幸治／32歳／フリーライター）●大きいところ♥（中川雅博／20歳／大学生）●人に対して誠実。強い。いつ、何時でもキレる用意がある。ASKAが寿司屋で、「隣の客が真面目に音楽の話をしていて、がたいがよくてとてもミュージシャンとは思えない奴が、何年のギターがどうのこうのとか、けっこうなるほどってこと言ってるな」って見たら、日明兄サンだったところ。その上ASKAはプロレスの話をして日明兄サンは音楽の話をしてたところ（武田いづみ／17歳／学生）

あい〜や。21世紀のパワー・オブ・ドリームを実現させるべくリングスマットにやってきたヤマケン。だが歯が下唇を貫通し18針縫い、鼻にも裂傷を負ってしまった（3・28NK）

ったから最後は金魚状態になってたね。口をパクパクさせて。

——金魚状態ですか（笑）。

前田　ここが勝負どころだって所で体が全然動いてないんだよね。顔はそういう顔になってるんだけど、体が全然動いてないんだよ（笑）。それでね、ミドル・ハイが肩口にあたるっていうのがどういうことかっていうと、ハイを狙ったんだけど足がそこまでいかなかった（笑）。金原はこの間の試合はそういう蹴りが多かったね。それは相手のミーシャもうまくグラウンドで引きずりまわして、スタミナを奪う作戦に出たからうまかったんだけどね。でも金原は良くなる可能性は持ってるね。

——で、アルティメットでキモに勝った髙阪選手には「前田さん亡きあと」ってリング上から言われちゃいましたけど、感想はいかがですか（笑）。

前田　別にいい。いいもんいいも～んってね（いじける）。

——あ、いじけますか（笑）。前田さんもあの発言を聞いて本部席で苦笑いしてましたけど、髙阪選手は目標が定まった感じですね。

前田　髙阪はなんだかんだいって、いつも目標を立ててやってるんだよね。とりあえず、いまはUFC系とかに挑戦してるんだけど、目標までの一環だと思うんだよね。海外での知名度を上げることと、自分が海外に出た時にどのくらい通用するのかっていうのを試してるんじゃない。髙阪はいろんな意味で冷静な男じゃないんかな。よく見ると己の価値観をしっかり持ってて、そういう部分ではいいと思うけどね。だけど、俺が髙阪の年齢の時は、長州力の顔を蹴飛ばしてたからね（笑）。

——ガハハハ。血気盛んもはなはだしいって感じですね。そう考えると、ジャパン勢はお行儀がいいって部分は感じないですか、前田さん的には。

前田　俺の場合はそうならざるをえない状況だったからね。俺らの世代っていうのは、自分のやりたいことがあっても、まず場所から作らなあかんってのがあったでしょ。で、いまの若い連中っていうのは、すでにその場所があるんだよね。その中でどうするかってことだから、単純に俺らの時代とは比べられないとこもあるけどね。

——でも、場所を作らなければいけないっていうのが、前田さんの場合、強力なエネルギーになった部分ってないですか。

前田　ああ、あったね。自分の居場所なんかどこにもなかったからね。ブルドーザーでジャングルを開墾していったようなもんだから。ああいうのは消耗戦だから粘り勝ちなんだよ。粘り勝ったというのは気持ちの部分だよね。ハートですよ、ハート。

——だから例えば、バトラーツの選手はマット界の中では居場所作りをしている段階じゃないですか。

前田　うーん、だから、うちの選手が負けたっていうのは悔しいね（坂田亘が3・3後楽園大会でアレクサンダー大塚に判定で敗れる）。

——アレク選手は、当日リングの組み立て、解体をやって、試合直後に自分の団体のチケットまで売ってましたからね、ド貧乏団体だから（笑）。

前田　へぇ～、ホンマ。うちの選手はそんなことしなくていいんだからね。選手としては、もの凄い恵まれてると思うよ。トレーナー常駐でマッサージもできて、何が不服なのって感じやね。

——不服がある選手がいるんですか。

前田　いや、不服っていうか、なんでそれなのに負けるのっ

参戦記者会見で「前田さんと闘いたい」というほどの強心臓で鳴らす金原だが、リングス第1戦はランキング1位のI・ミーシャにタップ・アウト。ジャパン勢との対決はいつか（3・28NK）

3・3後楽園で坂田亘から勝利を奪ったバトラーツの急成長株・アレク。ジャパン勢とのつばぜり合いはもちろんだが、ヤマケン、金原とのボーダレス対決にも期待大

Message from AKIRA MAEDA

ていうこっちゃね。坂田も連戦続いて、きつかったと思うけどね。

――前田さんは選手の環境を整えることに力を注いできましたからね。

前田　環境を整えてあげたいっていうのが一番ですよ。そうしないといつまでたっても前に進めないでしょ。だから団体運営っていうのが、ここ10年ぐらいの間に違うような形になってきてね。でも、アマチュア組織がちゃんと確立されるようになったらマット界の団体運営っていうのは必要なくなってくるよね。KRS的なマッチメーク方式でいけるからね。

「俺は掃除当番ですか？」――納得のいかない相手との連戦に苛立ち気味の成瀬。トーナメント21王者の風格も漂ってきたが、今年はノールール系への出陣はあるのか（3・28NK）

――ああいうイベント形式の大会は考えたことないんですか。

前田　ハッキリ言って、あんなんは前から考えてたよ。だから、アマチュアの底辺を広げていくことによって、あとはプロモーション方式でやっていけると思うんだよね。そうなったら団体経営っていうわずらわしいことからは抜けていけるからね。

――じゃあ、前田さんがリングスという名前を残したいっていうのは、別に団体経営にこだわってるわけじゃないんですね。

前田　でも、リングスを設立した91年の時点で、「プロモーション方式でやります。選手のみなさん、来てください」って言っても出てこないですよ。UWF、リングスっていう段階を踏んで、その最終的な目標ってのをちゃんと置いておいて、そこに行くまでの時点で実際の状況を鑑みながら、どうやっていくのがベストなのかって、いつも悩んでるところやね。まだ、いまの状況なら団体運営方式でやってくしかない。いろんな意味でアマチュアっていう下部組織の地盤固めをやらないとね。

――なるほど。で、話を戻すとNKでは成瀬（昌由）選手の「消化試合ばかり。俺は掃除当番ですか！」っていう試合後の発言がありましたけど。

前田　でもね、アレは消化試合じゃないんだよ。一つ言えるのは、なんでトーナメント21っていうのを作ったかっていうと、リングスネットワーク内で95キロ級以下のいい選手がいっぱいいるんだよ。まだ未発掘の。その部分を吸い上げるにはどうしたらいいかっていうんで、敢えてジュニアヘビー級っていうのを作ったんだよね。で、成瀬がその初代チャンピオンになってリングを引っ張っていかなきゃいけないんだけど。成瀬はいま、いろんな意味で修業期間中なんだよね。だけど、成瀬がどーのじゃなしに、いまの若い奴らってリングはリング、私生活は私生活って分けてるでしょ、ビシッと。田村（潔司）だって成瀬だって、なんかカッコつけてる部分があると思うね。その分、爆発力に欠けるんだよね。みんな頭の中は冷静で、それはそれでいいんだけど、エネルギーの出し方が全然違うんだよね。小出しに小出しに出して、いっぱい出しちゃったら後でバテちゃうからさ。そんなしょうもない計算してるんだよ（笑）。なんか優等生っぽい試合なんだよね。「凄いな」とか「怖いな」とかいうものが、もっとストレートに出てもいいと思うんだけどね。

――NKのフライ戦の時の田村選手は怖かったですよ。前田さんとは別種の怖さを持ってると思うんですけどね。

前田　そう？　もっとシバき倒してもよかったと思うけどね。「いけいけー」って（笑）。でもホントに爆発力がない。マット界とか格闘技界とかだけじゃなく、ボクシングの世界でも、それぞれ一番いい時の爆発力には全然及ばないね。なんかつまらなくなったねえ。トンパチがいなくなったね。トンパチ待望論やな。

――トンパチ待望論（笑）。それは大賛成ですね。

前田　何考えてるかわからない、わけのわからん奴が出てほしいね。

――いいですね。若き日の前田日明のような（笑）。

前田　俺はわけはわかってましたよ！

――失礼しました（笑）。だけど、猪木さんも引退し、猪木さんのファンも去り、前田日明も引退して前田ファンも去りと……。

前田　♪魔法使いサリィ～って感じやね。みんな去りましたぁ。♪サリィ～ちゃ～ん

「前田さん亡き後、若い世代の幕開けだと思ってください！」――UFCでキモに勝ったことをファンに報告する際、力強い宣言をした高阪。世界に羽ばたけTK（3・28NK）

って感じやね。

――ガハハハ！　歌いますか。で、前田さんは、いま言った若い世代に、どう前田イズムを叩き込んでいくのかという……。

前田　（遮って）前田イズムを叩き込むつもりは全然ない！

――ないんですか！

前田　見るなら自分を見ろと。俺を見るな、自分を見ろ！　そんなもんやね。みんな子供じゃないんだから。

――じゃあ、ズバリ言って選手として前田さんがやり残したことはないんですか？

前田　まあ、まだあと2～3試合あるからね。俺なんか、いま考えてみたら、25歳のユニバーサルの頃から一選手じゃなかったよ。妙なもんを背負わされてズッとなんかあがいてた感じだよ。背負い込んだっていうか、みんな何にも言わないから、しょうがなしにわめいてたらさ、「お前、行け！」ってなってさ。気付いたら誰もいませんでしたって（笑）。そういうのばっかりだったから。だから、やり残したこととかそういうのは完全に終わってからわかることで、いまどうのこうの言ってもね。これが猪木さんだったらいろんなこと言えるんだろうけどね。俺思うんだけど、猪木さんの、人をその気にさせる凄さっていうのは、（倍賞）美津子さんの影響だね。絶対そう思うよ。女優って人たちには独特なムードがあってね、それにそっくりなんだよね。猪木さんの持ってるムードって役者という職業の人が持ってるムードっていうのがあるんだよ。

――そう考えると前田日明っていう人は役者のムードは皆無ですね。

前田　俺はドキュメント（笑）。

――猪木さんは巨大なフィクションですよ。

前田　巨大なフィクションがアントニオ猪木だったら、俺はドキュメンタリー・前田日明だから（笑）。

――ガハハハ！　となると、今年は巨大なフィクション人間と巨大なドキュメンタリー人間が終わるエポックメーキングな年じゃないですか。

前田　そうそうそう。

――巨大なフィクションと巨大なドキュメンタリーがなくなっちゃったら何が残るんですか、マット界に……グスン。

前田　わかんない。そん時はそん時でしょ。あのさ、今日のインタビューはなんかジュクジュクしてないか？

――いや、柄にもなく専門誌っぽいことをやろうかなと思ったら失敗しちゃいました（笑）。

前田　でしょ？　専門誌っぽいっていうか、山口君の言葉の発し方にね、なんかウルウルした感じがあったね。なんか辛いことあったんじゃないの？（笑）。普通にやればええやん。ムリにそんなわけのわからん

Message from
AKIRA
MAEDA

Q4 「前田日明」のベストバウトを一試合あげてください。

第1位・アンドレ・ザ・ジャイアント戦 (86・4・29) 25票

●プロレスそのものを問いかけた。そして新生UWFやリングスが生まれたと思う。(島田正之／26歳)●今、「いっていいんですか!?」って言って、ホントにいける人が何人いますか。最高だ!!(武田いづみ／17歳／学生)●見てないから。想像ではものすごい事になっている。(寺島千歳／22歳／OL)●最も緊張感があった。(三好智之／26歳／会社員)●「前田らしい試合」だったと思う。(斎藤良史／25歳／フリーター)

第2位・藤波辰爾戦 (86・6・12) 22票

●大車輪キックをもう一度(安部敏雄／26歳／町工場づとめ)●魂のぶつかりあいだった。(藤野武夫／26歳)●UWF対新日本の中で納得いった試合だった。(三浦／23歳／会社員)●ビデオで見ても迫力が伝わるから(能登俊介／17歳／学生)●文句なし!　たっつぁん大流血(久保涼子／23歳／地味な事務員)

第3位・ドン・中矢・ニールセン戦 (86・10・9) 21票

●異種格闘技戦の正統にして最後の試合だったと思うので(石澤薫／28歳／マンガ家業)●前田がスリムでかっこよかった(後藤雅活／25歳／リーマン)●その日の猪木よりおもしろい試合をやったから(杉山浩司／26歳／フリーター)●結構昔にみたのに印象に強く残っているため。(伊藤由夏／24歳／会社員)●あの試合は感動しました。(徳永伸／18歳／学生)

第4位・田村潔司戦 (97・3・28) 19票

●見に行って感動したから。(山口哲／29歳／自営)●一言、前田の強さが一番感じられた。田村の今がある試合だったと思う。田村がのぼりつめるために必要な壁だった。(茂山永介／22歳／学生)●リアルタイムでみた中では一番残っている。(山下淳／27歳／会社員)

第5位・ディック・フライ戦 (94・7・14) 17票

●前田が10年分キレた(半澤大／21歳／学生)●前田の後半のベストバウトといえばフライ。その中でも生の前田が見られた試合だった。(行方和臣／18歳／専門学生)●ブチきれた時、カッコよかった(小坂真吾／22歳／会社員)

第6位・ヴォルク・ハン戦 (94・1・25) 12票

●いつもいい試合になる(川田／29歳／会社員)●ハンなくして今のリングスは絶対にない。(本田慎二／24歳／接客業)

第7位・田村潔司戦 (97・12・23) 10票

●まさか前田が負けるとは……(横森圭司／17歳／高校生)●田村さんになら負けても納得できる(黒江賢次／19歳／アルバイター)

第8位・ディック・フライ戦 (91・5・11) 9票

●リングスの方向性が決定付けられた素晴らしい試合(結城大地24歳　無職)●UWF時代よりも良かった。(真藤誠／21歳／学生)

第9位・田村潔司戦 (89・10・25) 7票

●デビュー5戦目の田村さんを骨折させた試合には改めてスゴミを感じた。(大川原英毅／22歳／U−FILE−CAMPER)●デビュー5戦目の新人相手に執拗なヒザ蹴り。生の前田がほんの少し見えた気がした(熊倉一志／19歳／学生)

第10位・長井満也戦 (97・11・20) 6票

●プロレスっぽかったから。いろんな意味で(飯田光信／21歳／大学生)●うしろ姿であんなに恐しいと思ったのは初めてだった。(金子阿佐美／19歳／フリーター)

その他

●UWF対新日本のイルミネーションマッチにおける、馬之助とのからみ。・前田のキックにたじろがなかった上田がかっこよく光ったから。上田ファンとしては最高!(恒遠聖文／24歳／就職浪人生)●ポール・オンドーフ戦(新日凱旋帰国試合)・ニールキックのインパクトとスープレックスの華麗さ(山本純一／27歳／新聞配達)●長州力戦・プロレスの究極の形だと思う。(木村／18歳／学生)●猪木VS藤原戦後のハイキック・スッキリしました。(松井収／27歳／ガテン)●クリス・ドールマン戦(『週プロ』のドーム興行)・あの前田コールは凄かった。(宮崎博揮／26歳／学生)●ミスターポーゴ、ケンドーナガサキ組との試合・ポーゴ、ナガサキの強さが見られた試合(PAI／33歳／会社員)●タリエル戦(平成6年・1・21)・リングス旗揚げ以来の1つの区切り。内容もよかったしトーナメント優勝もめでたかった。(新間ひすわし／28歳／会社員)●船木誠勝戦・試合後のリング上での会話が印象深いから。(岡崎明博／24歳／サラリーマン)

●アンケート収集地　2・28全日本(日本武道館)3・3無我(恵比寿303)3・8新日本(後楽園ホール)3・3リングス(後楽園ホール)3・10WAR(後楽園ホール)3・13IWA(後楽園ホール)3・15ガイア(クラブチッタ川崎)3・15PRIDE2(横浜アリーナ)3・18パンクラス(後楽園ホール)3・20キングダム(横浜文化体育館)3・21LLPW(後楽園ホール)3・21全日本(後楽園ホール)3・28リングス(東京ベイNKホール)その他(一部読者)

んことするからや。

飯島女史 山口さん、ビョーキなんですよ。

――ビョーキって何、その言い方！（怒）。

飯島女史 高熱を出した後だから元気がないんですよ。

前田 恥ずかしがり屋の子供に「歌を歌え」って言ったら、息を吸いながら歌うやん。あんな感じやね。息を吐きながら歌ってる。声出てない（笑）。で、あんまり言ったら泣き出すし。

――泣いちゃおうかな、俺（笑）。そこまでいうならズバリと言います。NK大会の時の前田さんを見てて、なんであんなに怒ったり笑ったりしてるんだろう、この人って思ったんですよ。

前田 一生懸命怒って一生懸命笑う。シンプル・イズ・ベスト。

――でも問題は前田日明の喜怒哀楽は見えるのに、肝心のリングの闘いの中から選手の喜怒哀楽が最近見えにくいじゃないかと思ったんですよ、正直なところ。

前田 みんなバカ正直なんだよ。

――等身大しか見せてくれないってところがありますよね。

前田 あいつらがカッコつけようとしたら、等身大に着飾っちゃうんだよ。本能的なセンスの問題。

――リングスは掛け値なしに面白いんですよ。でも、本能を引きづり起こされるような闘いに出会えないんですよね、なかなか。

前田 一つ言えるのはね、山本（宣久）とかはそういうのがよくわかってきたと思うんだけど、格闘技っていうのはそんなカッコイイことじゃないんだよ！ 人の前でなんかやるってことはカッコイイことじゃない。それをみんな勘違いしてカッコつけようとすると、凄い落とし穴があるんだよ。カッコつけなくていいためにトレーニングしたりするわけじゃない。

――地力というか、その人から湧き出る部分で勝負できるように。

前田 そう。それをまたカッコつけようとすると余計なことしちゃうんだよ。余計なことをしちゃうし、その選手が持ってる強さも弱さもわかんない。無個性になるし。カッコつけるんだったらアメリカ人だろうが、日本人であろうが、韓国人であろうが、台湾人であろうが、パプアニューギニア人であろうが、みんな同じ。老いも若きも。で、個性ってなんだろうかって言ったら、カッコ悪いことなんだよね。

――カッコ悪いこと！

前田 カッコ悪いことに個性があるんだよ。だから、この間のNKで一番個性的な、そういう予感を感じた試合は、ヤマケンの試合だよ。

――ああ、そうですね。

前田 血ィ出してわけがわかんなくなって「なんじゃあ！」ってね（笑）。ちょっと目は危ないかなとは思ってたけど、まさか飛んでるとは知らんかったから。だから、もっとみんな、そういうひたむきさがほしいんだよ。勝とうとする意思は当然必要なんだけど、そんなことよりも、一発当てられたら当て返してやろうとか、投げられたら投げ返してやろうとか、そういう小競り合いの結果として勝ち負けがあるわけでしょ。いまはもう、まず「勝ち」っていうことが頭にあって「ああやろう、こうやろう」って思ってるんだけど、あんまりそれに捕らわれすぎると、自分がイメージできる力しか出ないんだよ、人間って。

――なんか今日のインタビューのことを言われてるようですね（笑）。

前田 そう。だから、そういうことをあんまり気にしてると今日の山口君みたいに息を吐きながらスーパー質問しちゃうと（笑）。

――そういうことですね（笑）。

前田 あのね、見てて妙に面白いのはオランダの選手なんだよね。

――ああ、はいはい。

前田 ある意味でね。技術もちゃんとあるんだよ。あるんだけど、その瞬間瞬間に小爆発するじゃない、あいつら。それが凄く面白いんだよね。

――だから、そういった爆発力とかエネルギーのぶつけ方とかを前田日明に残り2～3試合で伝えてほしいっていうことをたぶん言いたかったんじゃないかと思います、僕は（笑）。

前田 だから、俺みたいなわけのわからんのがいたら、みんな俺の後ろに隠れちゃうんだよ。

――前田さんは大きいですからね。

前田 だから、衝立がなくなった方が早いんだよ。剥きだしになるから。まずはそっ

格闘技ってカッコイイもんじゃない！ 勘違いすると落とし穴がある

Message from
AKIRA MAEDA

からやね。

—なんか最近、前田さんも試合で爆発を見せてくれないんで、引退ロードはどうなるかわからないとか言っていずに、ゼヒ爆発してほしいなということです。

前田 なんで！ 俺が爆発してもしゃあないやないか（笑）。

—それはズルイ（笑）。

前田 いや、いま爆発したらリングの中で収まんないような気がするから嫌なんだよ。

—それはどういうことですか。

前田 いろいろあるじゃない……グッスン。

7月20日横浜アリーナで引退試合を行う前田日明。とうとうこの時が来てしまった。秋にはリングスと別ワクのラストマッチがあるかもしれない！ ラスト・ゴンタだ、前田!!

—ガハハハハ！ 泣いてどうするんですか。

前田 『千代乃光』も割られちゃったし（笑）。

飯島女史 なんでェー、私に来るのォ……

あ、す、すいません（笑）。

—この号が出る頃には大阪でのV・ハン戦（4・16）が終わってますけど、やっぱり素敵で怖い前田日明をゼヒ見たいんですよ。最近はプロデューサー・前田日明の発言が多かったんで、リング上で爆発する前田日明をゼヒ見たいというインタビューでした（笑）。

前田 でもね、ハッキリ言って、もうあと1試合、2試合って言ってる人間に対して、そういう期待されても、うちらの業界はよくないんだよね。

—それは猪木さんにも言われました。「もう俺は隠居の身なんだから期待するな」って。確かに過渡期ですよね、いまは。

前田 過渡期っていうよりも、実際まだまだこれからでしょ。

—では、前田さん、最後のシメで、引退試合ではこういう闘いを見せてやるぜ、っていうことを言ってください。ビシッと。

前田 へっへっへ。安っぽい選挙活動じゃあるまいし（笑）。俺が25歳とかだったらいいけど、39歳になったらそんなもん言ってられへん。

—年は関係ないですよ（笑）。

前田 相手が誰になるにしてもね、優しくしてくれなきゃ、俺も優しくしないよと。

—おお。前田日明の優しくない試合は非常に見たいですね。

前田 その前に息の吸い方と吐き方を練習してきた方がええで（笑）。

【4月2日、リングス事務所にて収録】

〝俺を見るな、自分を見ろ！〟

前田日明がよく言うセリフである。

しかし、俺を見るな、と言われても、見たいものはしかたがない。それほど前田日明の存在は、我々の本能を引っかき回す存在なのだ。

そして前田日明のラスト・ビッグバンが起こることを想像してドキドキすると同時に、ワクワクして見なければならないのは次世代のファイターたちである。

マット界では地図の塗り替えがものすごい早さで始まっている。一番顕著なのは、次世代を背負う選手の意識の変化である。彼らの中では確実に何かが動いている。

彼らはいま、闘いを通じて、マット界の地ならしをしている段階である。

しかし、前田日明がいみじくも言うように、今年は巨大なドキュメンタリー・アントニオ猪木と巨大なドキュメンタリー・前田日明がリングを去るという劇的な年である。

次世代のファイターたちが、その劇的な年に、いかに衝撃的な大爆発を起こしてくれるのか。それをしっかりと見ていくしかない。でしょ？

5.29(FRI.)札幌・中島体育センター

●OPEN 17:00 | START 19:00●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…￥20,000／アリーナリングサイド…￥15,000
リングサイド…￥10,000／アリーナSS…￥6,000
スタンドS…￥7,000／スタンドA…￥5,000／スタンドB…￥3,000
学生特別優待席A…￥2,000／学生特別優待席B…￥1,000

◉発売場所
チケットセゾン ☎011-232-9999／プロレスショップ リングパレス ☎011-261-5580
チケットぴあ(電話予約)☎03-5237-9999／4プラプレイガイド ☎011-251-5574
大丸プレイガイド ☎011-221-3900／チケット24(24h電話予約)☎011-232-1192
(チケット番号※7777)／ローソンチケット☎011-737-4649(Lコード11174)

◉お問い合わせ
リングス札幌大会事務局 ☎011-832-0489

チケット絶賛発売中!

6.27(SAT.)東京ベイN.K.ホール

●OPEN 17:00 | START 18:30●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…￥20,000／アリーナリングサイド…￥15,000
リングサイド…￥10,000／スタンドS…￥7,000
スタンドA…￥5,000／スタンドB…￥3,000
学生特別優待席A…￥2,000／学生特別優待席B…￥1,000

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード39080)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999

5月10日(日)発売開始!

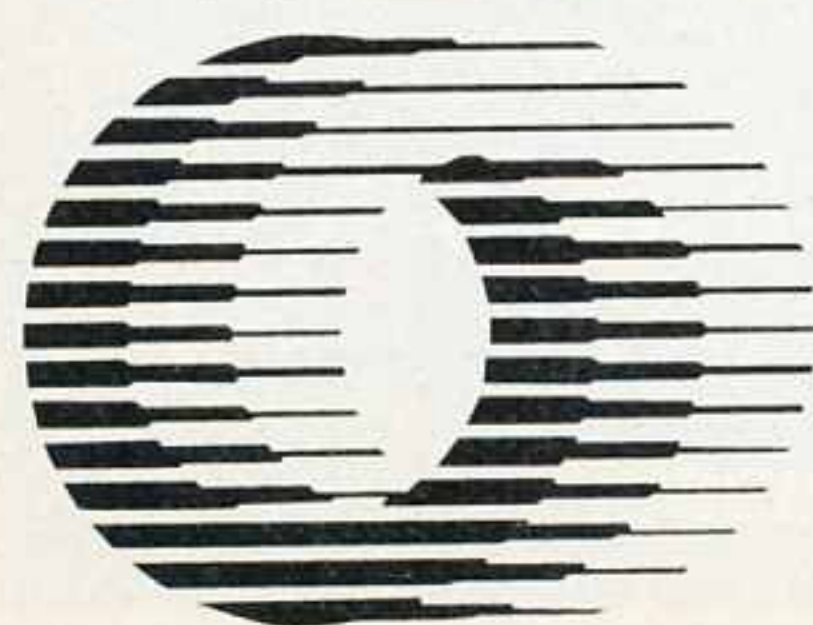
BATTLE GENESIS VOL.4
6.20(SAT.)後楽園ホール

●OPEN 18:00 | START 19:00●

◉入場料金
特別席(3列目以内)…￥10,000／S席…￥8,000／A席…￥6,000

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999

4月29日(水・祝)発売開始!

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999
CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード39079)
オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443
ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
WOWOW BS-5ch
FIGHTING NETWORK RINGS

紙のプロレス RADICAL

1998 no.9

信じられない～
ことばかりあるの
もしかしたらもしかしたら
そうなのかしら……UFO!

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.9 MAIN-EVENT

● SCANDAL&SCOOP

● RADICAL FIGHT

● SPECIAL NOVELS

● COLUMNS

● ANOTHER

※ピンポンパンポーン。T印刷の大杉様、大杉様、太りすぎでしたらこちらにおいでください。版下入れ何時でしょうか?　ピンポンパンポーン

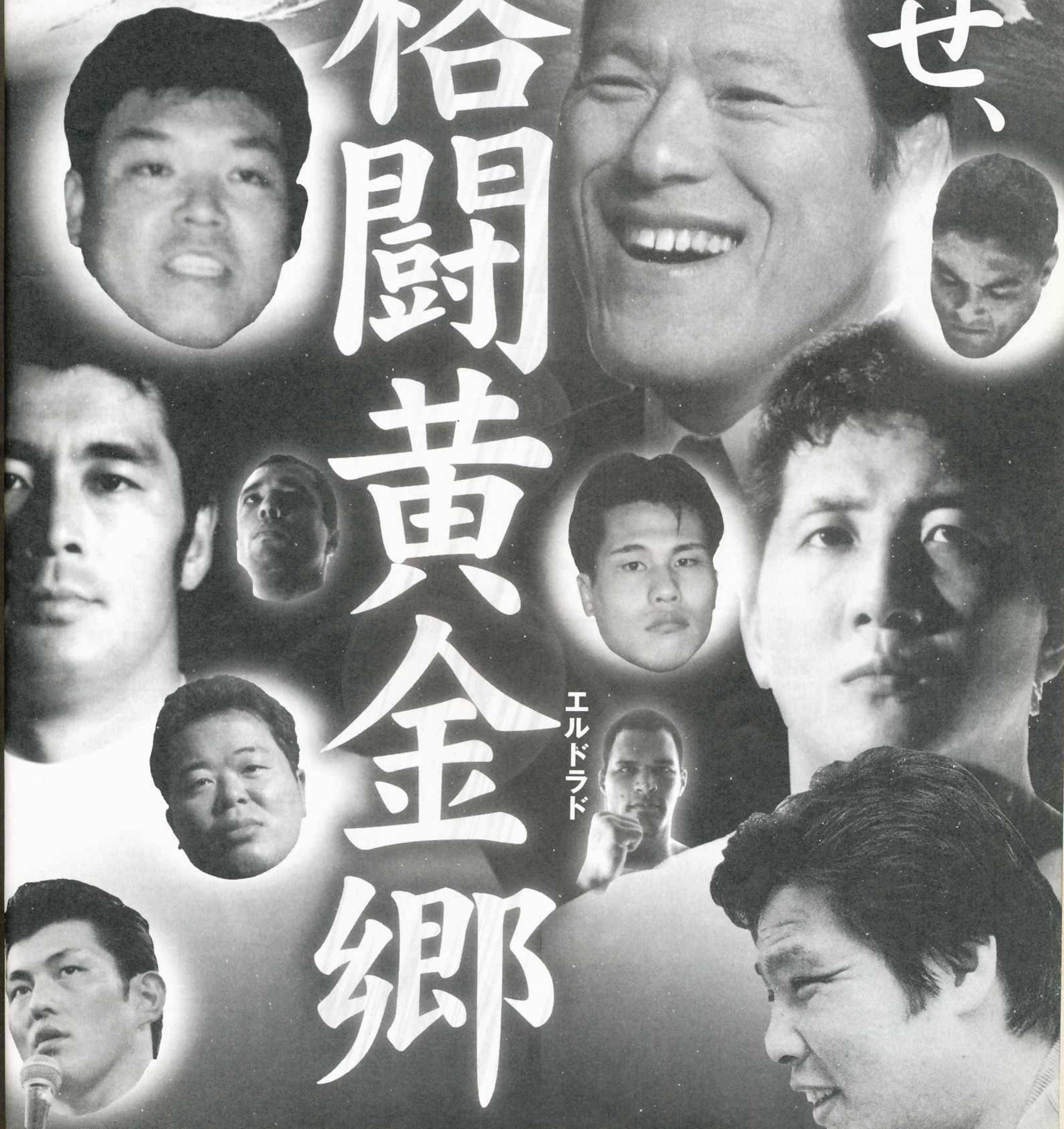
Art Director
出田さん●San Ideta

Design／two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル／髙阪　剛
撮影／松永源さん（本名・勉）
スタイリング／Tsuyoshi Kosaka
ヘア＆メイク／Tsuyoshi Kosaka

※この道を行けばどうなるものか危ぶむなかれ。「RADICAL」は「根源的」「根的」という意味でとらえてくれると非常に嬉しいというか!!

山口 日昇
（やまぐち・ひがのぼる）

めざせ、格闘黄金郷（エルドラド）

猪木は神だ。
猪木は悪魔だ。

猪木は強い。
猪木は弱い。

猪木は面白い。
猪木はつまらない。

猪木はかっこいい。
猪木はかっこ悪い。

猪木は真面目だ。
猪木はいい加減だ。

猪木は素敵だ。
猪木は醜悪だ。

猪木は日本人だ。
猪木はブラジル人だ。

猪木は正直だ。
猪木は嘘つきだ。

猪木は芸術家だ。
猪木は乞食だ。

猪木はプロレスラーだ。
猪木は格闘家だ。

猪木のダジャレは笑える。
猪木のダジャレは笑えない。

猪木は華がある。
猪木は暗い。

猪木は生まれ変わった。
猪木は死んだ。

猪木を愛してる。
猪木が憎い。

猪木に惚れた。
猪木に裏切られた。

猪木の光。
猪木の闇。

猪木寛至は猪木だ。
アントニオ猪木も猪木だ。

1998年4月4日。
今世紀最高の二刀流・猪木引退——。
1998年7月20日、前田日明引退——。

マット界の貯金は使い果たされた。
僅かに貯金が残っているところは、それを守ることに必死だ。
そして我々の記憶の貯金も使い果たされた。
田村潔司、髙阪剛、桜庭和志、小川直也、石沢常光、藤田和之、バトラーツの面々、そしてここに名前を挙げていなくても数多くの面々が、いま身体をすり減らしながら、マット界と我々の脳味噌に貯金を貯めてくれている。
しかし、現状では現ナマがないから博打も打てない。
マット界も、我々のマット界に対する気持ちも酸欠状態だ。
だったら、旅に出よう。
現ナマがなくて博打ができないなら、泳いでも海を渡り黄金郷（エルドラド）を探しにゆこう。
我々も過去の記憶を守るだけでなく、黄金郷を探しにゆこう。

その方がおもしろい。
脳肥大プロレスよ、さようなら。
さようなら、脳肥大プロレスファン。
プロレスファンと呼ばれる人たちへ。
エネルギーをもってマット界に目を凝らそう。脳味噌の筋肉を使え！
きっと、黄金郷はマットの中に転がっているはずだ。
「元気が売り物」の猪木は、リングから降りるのを待つまでもなく、もうすでに旅だっている。

この道を行けばどうなるものか危ぶむなかれ。
危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。
迷わずゆけよ、ゆけばわかるさ！

アリガトーッ!!

本誌前号が引き金となって大問題が次々発生
ならば本誌はこうします!

さらば!プロレスマスコミ

~業界病を食い止めろ!~

私たちのロマン
利害を超越して
プロレスマスコミが出来ないことを
プロレスマスコミがやらないことを
夢としてそれに挑戦する!!
それが私たちのロマンである
紙のプロレス

すべての道が業界病に通じるなら ドンキホーテよ、デタラメに行け!

ドンキホーテ座談会出席者
山口日昇(紳士)/吉田豪(金髪)/坂井ノブ(酒乱)/
松澤カクリョー(マツカクと呼んでチョンマゲ!)/中村カタブツ君(35歳&居眠り(ずっと))

ノブ　今日は「さらばプロレスマスコミ」と言うことで、お集まりいただきました。

豪　なんで、いきなりおさらばしちゃうんだよ（笑）。

ノブ　いや、ちょっと事件が一つ起こりまして。

豪　誰が起こしたんだよ、失礼な!!

ノブ　ウチ絡みなんですけどね。本誌前号で某格闘技団体のM選手が（ピー）という団体について語ったインタビューがあったんですけど。

そんなこと言うと俺はおたくを応援できないよ！

豪　ああ、「クサイ！」ってヤツね。

ノブ　ええ。

山口　それはどこの部分なの？　ちょっと読み上げてよ。

ノブ　「みちプロと新日がおもしろいと感じるということです。●●●●●は、生理的に受け付けないんですけどね」と。で、どういうところが受け付けないんですかと聞くと「クサイじゃないですか。『帰ってきたぜぇ〜』とか、ああいうのが、嫌なんですよ」と答えてるんです。

豪　失礼だねえ、俺も翼が欲しいよ。

ノブ　読者的には評判良かったんですけどね。

豪　なんかいけなかったの、これ？

ノブ　これを読んだ某プロレスマスコミのフリーライターの方が、M選手本人に直接電話をして、「そんなこと言うようだったら、俺はおたくの団体を応援できないよ。だいたい体格も違うんだし、リング上で決着付けられないんだから、ちょっかい出すんじゃない」というようなことを言ったそうです。

山口　何でその人がM選手にそんなこと言うの？　（ピー）の悪口を言ったから、その人は文句を言ってるわけ？

豪　きっと、その人はプロレスじゃなくて、（ピー）の味方なんですよ（笑）。

ノブ　主に（ピー）のことを書いていますよね。問題は、なぜ某フリーライターが牙を剥いたのかということです。

豪　そりゃ、（ピー）のことをバカにするからでしょ。

ノブ　バカにするしないっていうのはM選手個人の感性の問題ですからね。プロレスファンとしての個人の嗜好の問題を言ってるだけであって。それに対して、ヤ●カクが……。

山口　個人名を出さない！（笑）。

ノブ　ああ……。この人は前にも、某Rと（ピー）が揉めたときに、そのRに対して断筆宣言をしてるんですよね。

豪　一言で言えば取材拒否ってことですかね、書く側からの。

ノブ　ヤ●カクはなんだかもう……。

豪　だから名前を出すなっつってんだよ、お前！（笑）

山口　もう、面倒臭いから出しちゃえよ、安田拡了だろ。『週刊P』の（笑）。いいよ、出していいよ。俺が許可する。出せ出せ、ドンドン（笑）。だから安田拡了ってのは、（ピー）を応援してるフリーのライターなんでしょ。要するに、M選手が（ピー）の悪口を言ったから、「『週刊P』では応援しないよ」ということを電話したわけね？

ノブ　「俺は応援できないよ」と言ったそうですけどね。

山口　脅迫じゃねえか、それ！　逮捕した方がいいよ。警察に電話した方がいいよ！

ノブ　マッカク、電話しろ！

マッカク　はい（と、受話器を取る）。

山口　なにホントに電話しようとしてるんだよ、お前は！（笑）

豪　マッカクっていうのはホントにバカですねぇ（笑）。

ノブ　他にもラジカル8号ではいろいろと問題があったんですよ。吉田さんが書いた書評の星座。『TAKAKO　PANIC』（以下、『TP』）の書評のところですね。

豪　ああ、ファンクラブの方々から、書評のコーナーで載せて欲しいということで送っていただいたものですね。

山口　豪ちゃんは、書評として載っけたわけね。

ノブ　まず、吉田さんの書評の姿勢というのをうかがいたいんですけど。

豪　引用勝負だね。面白いところをいかに引き出して、読者に伝えて差し上げるかということでしょ。となると『TP』の面白いところっていうのは、やっぱりアンケートなんですよ。

ノブ　「好きな関係者、嫌いな関係者アン

『週刊P』編集部が血相を変えて探しまくったという『TAKAKO　PANIC』。文字どおり「タカコ・パニック」が巻き起こった

ケート」が面白かった、と。
豪 それだけじゃないんだけどね。他のアンケートも面白いのに、皆さんのツボには嫌いな関係者が入っちゃったみたいですけどね。
ノブ このアンケートの、好きな関係者部門に『紙プロ』関係者がたくさん入ってるんですよ。
豪 わかってないねぇ、井上貴子ファンっていうのは。
ノブ 『紙プロ』の中では、1番ランクが高いのは、原タコヤキ君でした。
一同 ガハハハハ！
山口 タコ？ 誰やったっけ？ カタブツ君の親せき？
豪 嫌いな方はどうなの？
ノブ 嫌いな関係者部門はですね、「超ウルトラスーパー大嫌い」その他諸々の理由で、第1位がケロちゃん。
山口 なに、あの素敵なケロちゃんが1位なの？ それはおかしいよ。
豪 暴動から、身体を張って新日を守ったのはケロちゃんだよ！
山口 今まで新日を支えてきた一人じゃないか！ 失礼だよ！
ノブ それで2位が、「『週刊P』を影で牛耳る悪魔」という斉藤文彦氏。
山口 ミーのフレンドだよ。
豪 なにしろ「文学青年」って言ってますからね、山口昇のことを。
山口 そうなの？ 光栄だなぁ。
豪 最近、なんだか勘違いする人が多いですよね、紳士とか。
山口 言っとくけどねえ、全国1千万の『紙プロ』ファンの皆さん！ 俺は紳士だよ！ マツカク！ 説明してやれよ。俺がなぜ紳士かということを！
マツカク 『フロムA』で、紹介されたんですよ。「名物紳士、淑女図鑑」その中の、あ行～わ行の中のゆ行の中で。
豪 ゆ行って、どんな行だよ（笑）。ホントにマツカクはバカだね。
ノブ で、3位「やたら偉そう」「ずっと入院してて欲しかった」宍倉次長がランクインしてます。
山口 豪ちゃんのその引用の仕方、チョイスの仕方に悪意があるなぁ（笑）。
豪 また失礼な、これは無作為に選んだだけですから（笑）。
山口 無作為でチョイスするってどういうことだよ、それ。
豪 最初の2つとかそういうことですよ（笑）。
ノブ で、ボクが掴んだ情報だと「ズッと入院しててほしかった」というところに、ご立腹らしいんです。
山口 それは（ピー）という団体の社長から俺も直接言われた。それは「宍倉次長が入院していた時の苦労なり、心情なりを知ってるから」ということらしい。何で入院してるかは知らないよ。だけど、「そういうのをネタにして、面白おかしく載っけてほしくはなかった」というような電話で言われた。
豪 人間味に溢れてますすね。
山口 その際にM選手の発言に関しても、『紙プロ』に対しては別になんとも思ってない。ただし、Mは許せない」、と。
ノブ 嫌いな関係者ランキングを引き続き読み上げますと「あの白けた、傲慢態度が失礼」なロッシー小川、『週刊P』をつまらなくしている」浜部さん、「いでたちからレスラーをナメきっている」須山ちゃん、「陰では人の悪口三昧」ヤスカクおじさん、「こいつの記事はムカつく」藤本かずまさということがランクインしてます。
山口 『週刊P』関係が奇遇にも集まってるね（笑）。
豪 僕らの大好きな『週刊P』が。
山口 俺は創刊号から持ってますから。同居人に捨てられちゃったけど。で、誰がどう怒ってるの？
ノブ まず、『TP』を訴えるという話があったらしいんですね（その後、ヤスカクが『TP』を名誉毀損と営業妨害で訴えることを真剣に検討中であることが発覚！ 要注目だ！）。
豪 だって、その人ファンでしょ？
山口 プロのマスコミがファンクラブの素人を訴えるの？ 面白いな（笑）。
豪 それは読者ハガキを訴えるようなもんですよ（笑）。
ノブ それでも訴えるということは、ヤスカクも環状線の外側に出て、世間の荒波にもまれながら勝負を決しようじゃない

PRIDE-2の会場でお仕事中のヤスカクおじさん（右端）。本誌が独自に入手した情報によると、『TAKAKO PANIC』を名誉毀損と営業妨害で訴えようとしているとのこと。もし、実際に訴えることになったら、出版を生業とする者として「応援できないよ！」というメッセージを送らせていただきたい。

かということですよね。非常に立派な姿勢じゃないですか。

山口 世間のルールにゆだねようとしたわけね、プロレスが!（笑）

ノブ 非常に立派じゃないですか! 雑誌商売だって、立派に人気商売ですからね。看板に泥を塗られたら怒るのは当たり前ですよ。

山口 怒るのはいいと思うよ。人間は感情というエネルギーの中で暮らしてるんだから。

豪 だけど、それが「訴えてやる!」になっちゃうんだ（笑）。

ノブ これを載っけた『紙プロ』も悪いというのが、あちらの言い分ですね。

山口 そうきましたか（笑）。

豪 というと、これを書いたボクと編集長の山口昇が全部悪いということになるわけだ（笑）。

山口 そんなもん書いたヤツが悪いんだよ（笑）。なんでもかんでも編集長が責任取ると思ったら大間違いだ!（笑）。俺は紳士だよ（笑）。

ノブ 紳士は犬を殺しませんよ（笑）。

山口 でも、その『週刊P』の方々っての は、出版をやってる人たちでしょ。ということはある程度、出版界の勝負所というものをわかってるわけだよね。つまり書評というものの最大の特徴である「面白い部分を引用する」という行為に関して怒ってるということにもなりかねないわけだよ。書評という文化行為を、彼らは悪口を書かれたという感情によって壊そうとしてるわけだね?

ノブ そうなりますね。

山口 オーケイッ! わかった! もう、オレは紳士だからズバリ言ってあげるよ。

ノブ じゃあ、どうぞ。

山口 要するに彼らは、リング上での闘いを通じて自分を表現しようとするレスラーを批評したり、応援したりするわけだよね。で、彼らは原稿というもので、あるいはインタビュー写真に自分の顔を入れて誌面に顔をさらけ出すということで、表現行為をしてるわけだね。つまり人前で勝負してるわけですよ。人前で勝負をしてる人は、悪口とか批判を浴びる覚悟がなければ、リングには立っちゃいけねえんです。

批判を浴びる覚悟がないなら人前で勝負するな

豪 それはカタブツ君ですらわかってることですからね。

山口 で、悪口を言われたから頭にくるという感情のぶつけ方は非常に賛成です。怒りを抑える必要はまったくありません。だから、怒るんだったら、直接電話なり、オレに言ってこい、と。そういうやり方に対して、同じプロとして許せません。

豪 悪口言われてなんぼですからね。

山口 そういうことですね。ボクの悪口が言いたいんだったら、堂々と表紙に打って下さい。

豪 「山口昇に絶縁宣言」とか（笑）。そもそもプロレス界なんてもめ事をいかにプラスに転化してくかっていう商売じゃないですか。

山口 だから、ヤスカクが応援してる（ピー）という団体は、悪しきプロレスの風習、と思われる事をことを否定してる団体だから。そういう考えに染まっていくのは確かにわかります。理解できます。だけど、それとこれとはまったくの別問題です。ヤスカクさんのやってることははっきり言ってプロ失格ですよ。だいたい原稿で勝負できないの?

豪 原稿だって面白いですよ。ヤスカクの自己紹介なんて「ヤスカクと呼んでチョンマゲ!」なんだし（笑）。

山口 面白いな! それ（笑）。まあ、原稿が面白い、面白くないは個人の問題だからいいとして。（ピー）という団体を応援することによってマット界が少しでも良くなると思ってやってるわけでしょ。その人たちが、一番鼻持ちならないのは、そのマット界が良くなると思って、某格闘技団体に脅しの電話を入れるということだね。

豪 その人たちにとっては、邪魔者がいなくなればいい世界なんですね。

山口 なるほどね。じゃあ、（ピー）という団体さえ存続してくれればいいわけだ?

豪 要するに、ほっといてくれればいいわけですよ。「うちのことを口にしないでほしい」と。

山口 だから、ズバリ言って業界病という病気ですよ、それは。ああ、その病気ってことで思い出したけど、シッシーが病気になって、入院してたのも、実際は誌面でネタになってたことでしょ。それをいまさら隠蔽しろというのはおかしな話であってさ。

豪 まるで「ガス室はなかった」みたいなもんですね（笑）。

山口 歴史をねじ曲げちゃいけないよ。一度書いたネタっていうのはみんなの共有のものになるんだよ。だから、他人にネタにされるのは当たり前なんです。で、話を戻すと、さっき言ったように某格闘技団体に電話するとか、姑息なことをするな。これではっきりわかった! 彼らは業界の中の談合によって勝負してるんだよ。

ノブ 誌面じゃないんですね。

談合とはエネルギーを互いに消し合うこと

豪　活字プロレスしてないわけだ。

山口　この件でうちを業界として認めないというんだったら、いつでも業界から出ていきます（笑）。私はマット界は好きですけど、マット業界は嫌いですから。

豪　マットプレーも好きですね（笑）。

山口　かなりね（笑）。オレは個人的には『週刊P』は大好きです。その担ってきた役割には敬意を表します。だけど、ヤスカクが、もし本当にそんなことを言ってるとしたら、それはもうお門違いもはなはだしいですよ。で、驚くべきことに、この問題でうちにクレームがついてるんだよね。だけど、それは「こういうことを言われたんで、ヤツらをギャフンと言わせなきゃいけない」と別の問題にすり変えてやってきてるわけなんですよ。

豪　とんでもない話ですね。

山口　まあ、うちも出版業界の中でやってはいけないことをやってるのは事実なんだよね。だから、訂正文なり、それに見合う形の謝罪をしなければいけない。ただ、ヤスカクとか宍倉次長とかにはまったく謝罪はしません。文句があるなら来なさい。

ノブ　うちが確実に出版業界のルールを侵したというのは？

山口　それはまったくの別問題だよ、この件に関して。アンケートを引用したことは、出版業界のルールからまったく逸脱しちゃいないからね。むしろ、ルールを利用して、面白くしてやってるんだから感謝してほしいくらいだよ。ただ、彼らはターザン山本がいた頃と比べると確実につまらないわけ。それはプロレス雑誌としてかじゃなくて、雑誌としてつまらないわけだから。そういうことも認識できないで『週刊P』というブランドなり、築いてきた肩書を守りたいなら、それはクソですね。

豪　ブルシットですよ!!　ターザンなんか、あれだけ悪口言われた男でしたけど、決して読者を訴えなかったですからね。

山口　読者を訴えたら気が触れてるとしか思えないよ（笑）。だから、この業界病が今のマット界をつまらなくしてるんじゃないんですか。談合というか、昔ながらの村社会というか。そうやってる限りは今の『週刊P』はプロレス村という小さな枠組みから出ることはないよね。それが今の『週刊P』を読んで感じること。でも、落武者がやってる時は、出版業界からも注目されてたわけだからね。

豪　今の状態は、週刊化した初期の頃に戻っただけなんですよ。

山口　過去に前田日明や長州力が『週刊P』に噛みついたよね。あれは感情をストレートにぶつけ合ってるんだから、正常な状態なんだよね。談合っていうのは、お互いのエネルギーを消し合ってるわけだから。エネルギーを消し合ってマット界が良くなるわけないんだよ。せいぜい裏でつるむのが関の山だから。そんなんじゃ誌面にもパワーは出ないよね。

ノブ　最近気になった『週刊P』の記事はありますか。「4・4、鈴木みのるはどこに……」っていうのはどうでしょう?

山口　あれはキャッチーですね（笑）。

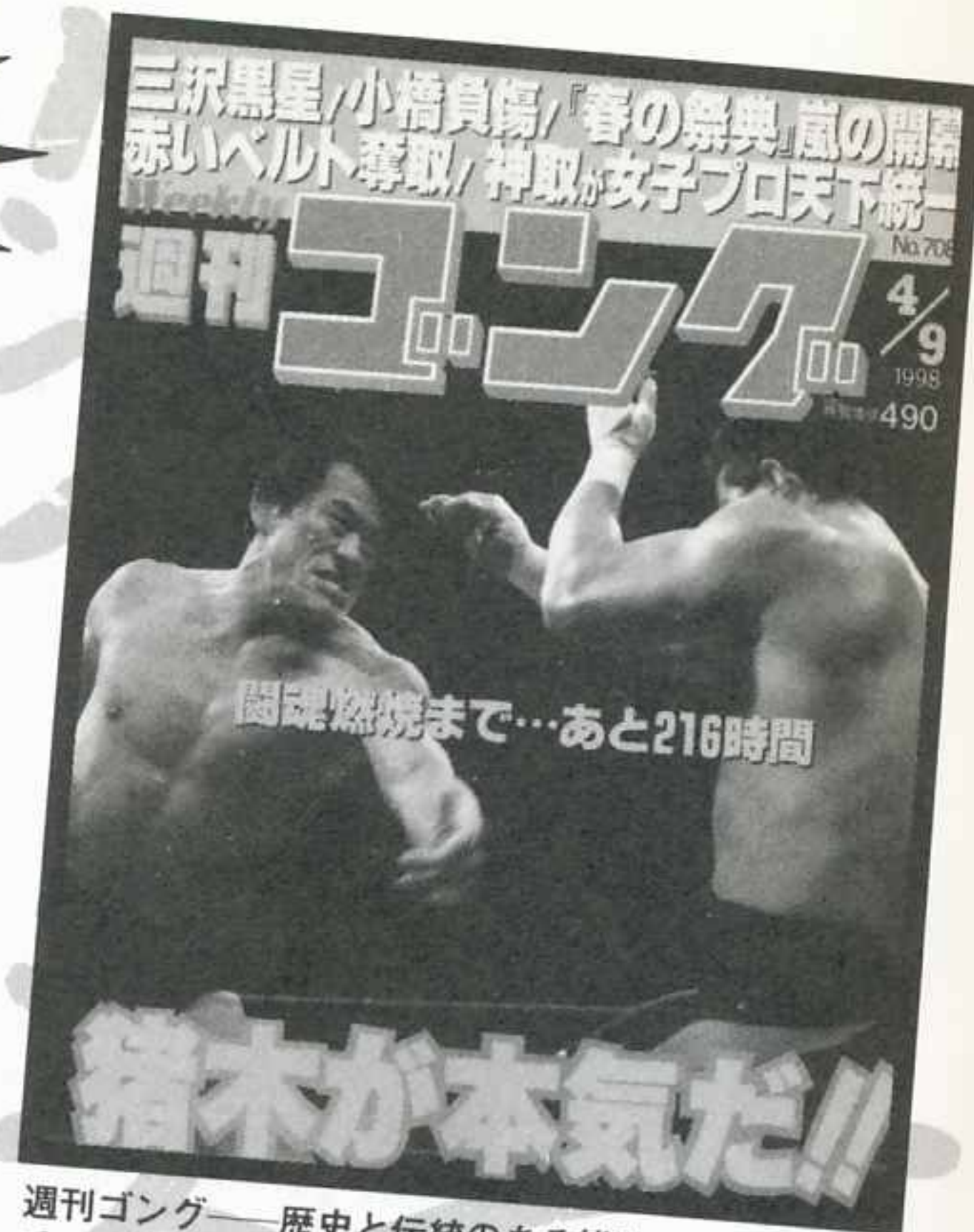
★スペシャル・リサーチ
PRIDE.1 マスコミ報道を徹底検証！
高田 ヒクソン
格闘技人生かけ対戦
「私を初めて倒すのは私の息子でしょう。」
ヒクソン・グレイシー 400勝無敗の理由
10・11ドーム夢対決 高田VSヒクソン
シカティック参戦
10・11ヒクソン戦

『ヒクソン×高田戦の真実』という本の中に「マスコミ報道を徹底検証」というコーナーがあった。PRIDE-1のマスコミ報道を徹底検証する企画だが、高田を全面的に支持した本誌のことはきれいサッパリ黙殺されていた。業界での居場所のなさを痛感させていただいた記事である、押忍。
（KRS-PRIDE.1オフィシャルブック「ヒクソン×高田戦の真実」）

これが プロレスマスコミ 三大誌だ

週刊ファイト
4/16
"宇宙人"
猪木
反攻のノロシ
『UFO』で世界マット制圧へ
10月インドで現役復帰？

週刊ファイト――大阪発の新聞というスタイルで、他の週刊誌とは明らかに異質。スクープ記事や強烈かつ個性的な連載陣が読みごたえたっぷり。　（週刊ファイト　98年4月16日号）

週刊プロレス――最盛期は40万部（公称）発行し、業界内外から注目を浴びた。記者の主観で試合を語るという手法はおなじみ。猪木引退も『週プロ』マジックにかかるとこうなる。素敵だ。　（週刊プロレス　98年4月14日号）

週刊ゴング――歴史と伝統のある雑誌。表紙やキャッチコピーなど、プロレス雑誌の王道を闊歩している。業界病に対して一番免疫のある雑誌でもある。　（週刊ゴング98年4月9日号）

豪　興味津々でしょ（笑）。誰もが気付かないところにスポットを当ててくのが宍倉次長のセンスですよ、小さなところに（笑）。だから、以前ボクが言った「小さな梶原一騎」という部分はそういう部分なんですね（笑）。

山口　針の穴に糸を通すことが凄いと思ってるからね（笑）。

豪　それも、また凄い頑張って通しますからね（笑）。

山口　当たり前のことを当たり前に通すからね（笑）。

豪　で、通ったら自慢しますからね（笑）。「ホラ、通ったぞ！」って（笑）。

山口　当たり前だよ、通るもん（笑）。

豪　「今はまだ言えないのだが、実は昨日通った」って感じで（笑）。

山口　という文法だもんね（笑）。

豪　だから、面白いんですよね（笑）。ボクの中ではターザンの編集長末期の面白さと同じですね。キャラクターとしての異常な面白さがあるから。

山口　でも、筆力って部分でいえばターザンはあったよね。気のせい？（笑）。

ノブ　最近の『週刊P』は、その小さな作業ばかりしてますよね。以前のダイナミックさがなくなって。

山口　それはマット界全体に言えるよね。マスコミも自分の付き合ってる各団体との付き合いで目一杯なんでしょう。その各団体との付き合いっていうのは談合だから、そしたら、等身大のものしか出てこないし、書けなくなるよね。例えば、よく知ってる選手に不利なこととか、嫌がられるようなことは書けなくなるよね。でも本来、表現っていうのは過剰なものしか、届かないからね。

ノブ　シッシーやヤスカクっていうのはある意味、過剰ですよね。

山口　過剰にも一流と五流があるってことだよね（笑）。過剰とタイミングだよ。週刊なんてのは一番タイミングを掴みやすい発行ペースなんだから、タイミングを逸してるよね。タイミングを掴む運がないというか（笑）。それもこれも業界病が悪いんですよ。

ノブ　マスコミと団体が喧嘩ができない状態になって、互いの歩みよりによって、話合いによって団体の方向性なり、マスコミとの付き合い方なりを決めるという、その状態を業界病というわけですか。

山口　それが面白い方向に向かっているんだったらいいんだよ。「病は気から」じゃないけど、面白い病気になる可能性もあるわけ（笑）。

ノブ　それで入院しちゃう可能性もあるわけですかね。

山口　笑えりゃいいんだからさ、読んでる方にしてみればね。一時期のみちのくプロレスみたいにターザンが東北まで行って、「みちのくプロレスはなんとかのおとぎ話である」とかいうことを書いて、それによってレスラーも刺激されて、いい方向に行くとかね。お互いにキャッチボールが出来ていればいいんだよね。『TP』に出てきた人たちでも、浜部さんとかかずまさ君はそれはないと思うけどね。

豪　彼らはキャッチボールできる人たちですからね。須山ちゃんも冬木とキャッチボールしましたし。藤本かずまさ君も、うちのこのダメな新人とキャッチボールしたし。

ノブ　それも拳のキャッチボールですけど（笑）。

山口　いいことだと思うんだよ、そういうこと。かずまさ君にとっては不名誉なことだろうけど（笑）。

豪　こんな若造と一緒に（笑）。

山口　シッシー、ヤスカクというのは誌面上から投げたタマを団体が返したりとか、そういうキャッチボールをせずに、じかにお互いの手の平でボールの触りっこをしてる印象を受けるよね、誌面を読んでる限りは。

豪　今回のことに関しても、『週刊P』の読者がせっかくタマを投げてきたんですから、それをいかに打ち返すか、ですよね。

ノブ　誌面でレスラーや読者とキャッチボールをすれば業界病はなくなるんですか？

山口　『週刊P』が今のスタイルをやっていく限りは、業界病はなくなんないんじゃないの。彼らは針の穴に糸を通すことで、「どうだ、凄いだろ！」ってことをやってるんだけど。ボクらは……。

豪　よりによってラクダを通そうとして失敗してますよね（『紙のプロレスRADICAL』3号参照）。

山口　大きなお世話だよ！　通るわけねえじゃねえか！（笑）

一同　ガハハハハ！

豪　なんとかして通そうとするから（笑）。通った時の喜びはラクダの方が大きいんでしょうけど、そもそも通りゃしないですからね（笑）。

山口　それはどっちがいいとは言えないよ。オレからしてみれば、業界病はマット界をダメにしてると思うし。だいたい考えられる？　いちフリーライターがさ、格闘技団体に電話してだよ、「もう応援してあげられなくなる」だって？　いいよなぁ、偉そうで。うちなんか、ただの“紙”だもん。ペラペラだもん（笑）。日明兄さんに踏まれたら一発で終わりだよ。ヤーブローなんかどうすんだよ（笑）。お前何様だと思ってるんだって（笑）。

ノブ　ヤスカク様なんですよ。

山口　リングス断筆宣言とかさ。お前が書かなくなって、どうだっていうんだって（笑）。ヤスカクさんが応援しなくなったら、一体どうなるの？　ねえ？

豪　恐ろしいことに『週刊P』のページが減るんですよ、きっと。

山口　そしたら、その団体は潰れるの？　もし、その程度のことで潰れるようだったら、潰れた方がいいよ。

週刊プレイボーイ――さらば、プロレスマスコミ！　狭い業界に目を向けてもしょうがないので、身の程知らずな本誌は週刊プレイボーイをライバル誌とさせていただきます。日明兄さんの連載や馬場さんの麻雀仲間・松山千春の人生相談など、刺激と破壊力に満ち溢れているのでプロレスファンにはオススメだ。（左・週刊プレイボーイ　98年4月14日号、右・同　98年4月21日号）

マガジンWOoooo！――一般誌にも毎号、定期的にプロレス&格闘技を扱う雑誌も増えつつある中、マガジンWOoooo！は以前から積極的にプロレス記事を掲載している。（マガジンWOoooo！　98年5月号）

スコラ――ほぼレギュラーでプロレスネタを取り扱っている。最近では、高田延彦と石井館長（正道会館）のビッグ対談もあった。（スコラ　98年4月9日号）

ノブ　団体が悪い？

山口　いや、団体にとってはマスコミは必要だろうし、利用しなきゃいけないものだろうだろうけど、たった1人のフリーライターに潰されるような団体だったら潰れた方がいいってことです。

豪　共存共栄の世界だからね（爽やかに）。

山口　ヤスカクはプロレス村の手法でM選手を脅したりしてる一方で、うちや『TP』に対しては世間のルールを適用してくるわけでしょ。これを卑怯と呼ばずして何と呼ぶか（笑）。だから、「さらばプロレスマスコミ」というよりもね、「さらば業界病」なんですよ。選手を脅して発言を規制するのが業界のルールだと彼らが言うならば、うちは業界からおさらばしても構いません。ただ、マット界からおさらばするつもりはありません。マット界を観察する権利はうちらにもあるわけだから。読者がうちを必要とするんだったら出しゃいいだけだし、うちが作りたいと思えば作ればいいだけ。「あいつらみたいなのは業界から追放しちまえ」と、この人たちが音頭を取るんだったら、やればいいことですよ。

ノブ　うちが取材拒否をあっちこっちからくらったりして（笑）。

山口　別に無理してケンカしようってわけじゃないんだから。だから、「さらば業界」だね。業界っていうのはどこの世界にもあるけど、その“業界”と“界”は違うからね。

ノブ　その違いは何なんですか。

山口　業がつくかどうかだよ（笑）。業っていうのは、“なりわい”だからさ。彼ら

はこの仕事をなりわいにしなきゃいけないわけだよね。だから、プロレス業界の中でしか、生きていけないわけでしょ。うちは出版社だから、仮の話『紙プロ』がダメになったら、他の雑誌を出しゃいいだけの話ですよ。ビデオでも何でもいいけど。じゃあ、彼らはプロレス業界から出た時に自分たちで雑誌を作ったりとか、プロレス以外のことで何ができるんだっていう力量が見えてこないじゃない。

ノブ　ヤスカクは支那そば屋をやってるそうですよ、毎年1日だけ（笑）。

山口　愉快な人だなあ（笑）。

豪　よくよく聞いたら面白いんですよ、ヤスカクも（笑）。

山口　好きだな、そういう人（笑）。ただ、誌面に関しては、彼らは自分たちが食ってるためにやっているのか、それともホントにマット界をよくしようと思ってやってるのか、その辺が明確に見えない。

ノブ　うちはどうなんですか。

山口　うちはマット界のためにやってるじゃない。だって、儲け出てねえもん（笑）。でも、業界病にかかると、物事を隠蔽しようとするんだよね。パンクラスが好きな人とリングスが好きな人がいたら、リングス派とパンクラス派が堂々と誌面でやり合えば活性化するわけでしょ？　でも、これは例えばの話だけど、パンクラスに「あいつはリングス派だ」って見られたりとかいう目がイヤで、どっちかに偏っちゃうっていうのも情けない話だよ。偏りは悪いことばかりじゃないと思うけどさ、業界癒着的な偏りっていうのは必要ないことだよね。

業界病にかかると レスラーのエネルギーも 誌面で伝わらない

ノブ　必要ないですか？

山口　別に業界内の付き合いまで、否定してるわけじゃないよ。ただ、業界病にかかっちゃうと大変なことになるということ。そうすると雑誌のエネルギーも正常に誌面から発散されないよ。そうなるとレスラーのエネルギーだってマット上で正常には観客に届かなくなるよね。

豪　マスコミにしても環状線の外に向いてるか、どうかってことですね。

山口　マスコミが「プロレスファンにしか届かないモノ」だけしか作ってないんだったら、ファンは増えないわな、当然（笑）。

ノブ　ファンも飽きて減ってきますよね。

豪　外を向いていたターザンと、内側を見てる浜部さん。どこを見てるかわかんないシッシー（笑）。

山口　「シッシー（笑）」ってオレに言われても！　俺はなんにも言ってないよ（笑）。いまのは豪ちゃんの発言だよ（笑）。

豪　そんなシッシーがボクはたまらなく好きです（笑）。

山口　オレは出てきた雑誌に対して言ってるだけでね。業界病にかかると「作ったもんでなんぼ」っていう勝負ができなくなるってことになって、今回のヤスカク事件みたいになるんだよね。一選手の発言まで規制していくとかさ。

豪　ファッショですね。ナチですよ。

山口　でも、皮肉な話で、環状線の外を向いているオレらの雑誌は、なんで部数が少ねえんだろうなぁ。そこがやっぱり業界病のいけないところだね（笑）。全部業界病のせいにしちゃえ（笑）。うちの雑誌が売れないのも業界病が悪い（笑）。

豪　病気が悪い（笑）。

山口　だから、病気を持ってるヤツは病院に行け！

【98年4月2日、バカ軍団事務所にて収録】

連載⑧

この一週間に見たこと、感じたこと

感動させてよ！'98

宍倉清則

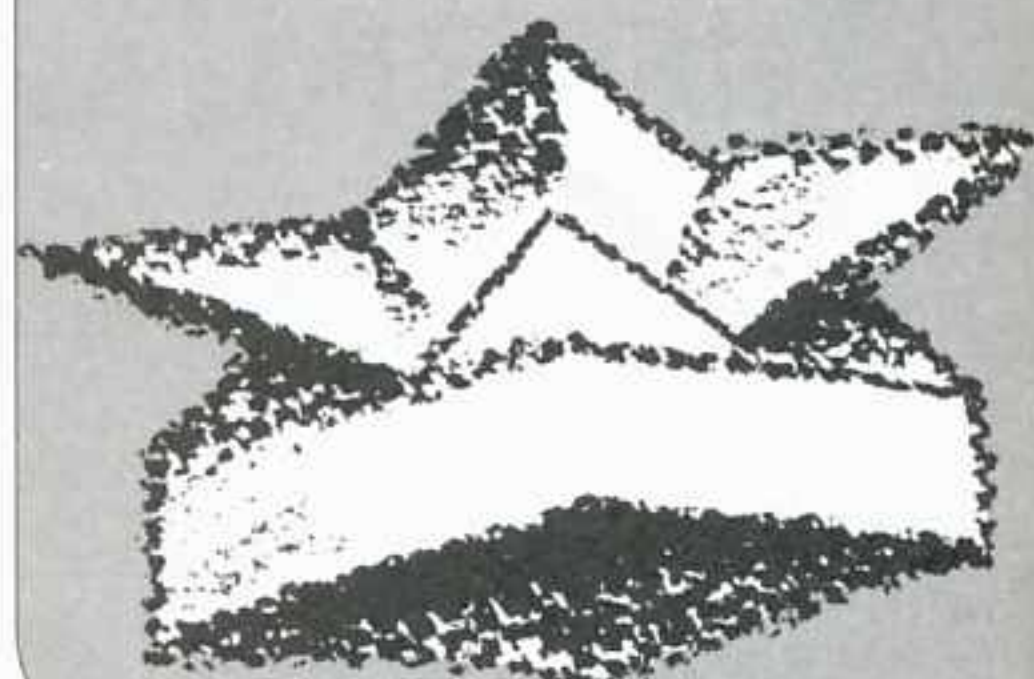
後楽園の"立見"問題について再び…

通称シッシーこと宍倉次長の連載「感動させてよ！'98」は必読である。特に98年4月21日号では、後楽園ホールのバルコニーを「安くて、見やすいうえ、野次がリングに届きやすいという、私にいわせれば実に"始末が悪い"場所」と言い切っている。そこからぶら下がる垂れ幕は『TAKAKO PANIC』のもの。次長の小さな復讐だろうか？

（週刊プロレス　98年4月21日号）

プロレスマスコミ観察雑記

これはスポーツ新聞、プロレス専門誌、一般雑誌、ミニコミ、パソコン通信、インターネットなどに掲載されたプロレスネタの数々を勝手に観察して勝手に報告する、人のフンドシで相撲を取るかのような雑記帳である！

文／吉田豪　え／マツくん

ヒクソンvsグリズリー
（『マガジンWOOOO!』98年4月号より）

犬殺しといえば本誌編集長であり、熊殺しといえばウィリー・ウィリアムスなわけなのだが、ハッキリ言って関節技の鬼と呼ばれる藤原組長ですら歯が立たないほどに熊は強い。ついでにレスリングベアーは来日できない。だから松永は悔しがる。それが世の中というものなのである。

では、灰色熊＝グリズリーの場合はどうだろうか？　そして「風俗業界にトラバーユし、新宿界隈で働いているらしい」とロッシー本に書かれていた元・全女のグリズリー嬢の場合は？　そういうわけで一人レスリング・クイーンダムこと、五反田東口のSMクラブ『マスコット』の麗奈女王様（公称24歳）の登場である。

この図版を見れば一目瞭然だろうが、つくづくエロ本業界の猥雑なパワーにはかなわないと痛感させられることだろう。

ファッション雑誌なんかでは無条件で神格化されがちな常勝チャンピオン、ヒ●ソン・グ●イシーに「風俗では0勝400敗」という下品なキャッチコピーを付けた上で、元・極悪同盟のグリズリー岩本と闘わせ、最後は聖水ドロップで惨敗するというキャラクターを与える。

サン出版～マガジンマガジン系の下世話パワーの前にはヒ●ソンも完敗だろう。

と思ったら、さすがはヒ●ソン。『POPEYE』誌上で「私は学校やディスコで一番美人の女性を狙っていた。私はできるだけなんでも一番でいたいと思っている」と発言してたり、ボクの取材時には「男として私は性欲のある方だと思っている（キッパリ）。そういうことはとても大好きだ。SEXは日常生活においてとても重要なことだと思っている」とフリーファイトならぬフリーセックスばりのことを豪語してたりと、風俗でも無敗伝説を築き上げそうな勢いなのである。

池袋コミュニティ・カレッジに『青空プロレス道場』開設!!

特報!!

行けば、わかるさ!! 迷わず行けよ、まだ間に合う!!

『紙プロ』が、西武の池袋コミュニティ・カレッジからの要請で、なんとプロレス講座を開いているのを、あなた御存知か？　男女の性別、民族、そして文化の違いを超越して、プロレス講座を通じた世界平和を推進する、まあ、そういう企画です。つまり、様々なテーマとアプローチから「プロレスとは何か？」を考えるというかね。どんなことになるのか、私たち自身も非常にワクワクしています。この5回を「元気」と「健康」で乗り切る！　そして皆さんと一緒にプロレスを考える！　かといって理屈をコネくりまわしたものでもない！　それが『紙プロ』のロマンです。それではみなさん、受けますかーーーッ!!

講座名 青空プロレス道場!

講師 『紙プロ』編集長 山口日昇＋『紙プロ』編集スタッフ 吉田豪、坂井ノブ他＋特別講師 or 特別ゲスト(プロレスラー)

	講座内容	日時（毎回 第2 or 第4水曜日 18:30〜20:15）
1	**猪木とは何か?** 今世紀最大のプロレス本『猪木とは何か?』を手掛けた本誌編集部が、4・4後にいま一度"イノキ"という概念をとらえにかかる。猪木に熱い思いを馳せる"燃える情念"石川雄規も参戦!!	4月 終了
2	**UWFとは何か?** 今年4月で第2次UWFが旗揚げして丸十年。その記念に、Uの理念と功績を通してプロレスを考えます。もちろん「マエダアキラとは何か?」という大命題もあります。Uに縁の深いあの人も登場します!	5月13日
3	**プロレスマスコミの現在と未来** プロレス村とは何か?　世間とは何か?　プロレスマスコミとは何か?　プロレスが様変わりしていく中でプロレスマスコミはいま現在どうなっているか。プロレスマスコミといえばあの人です!	5月27日
4	**プロレス者(もの)って何だ?** 「プロレスは哲学である」などと言うインテリゲンチャもいれば、ただ大騒ぎするだけの人もいる。そもそも人はなぜプロレスに入れ込むのか。プロレスの生命力と神秘に迫るツッコミ講座。特別ゲスト有り!	6月10日
5	**「格闘技」と「プロレス」の愛憎関係!** アルティメット、バーリ・トゥード、K－1。新日本、全日本、FMWにみちのく。そしてUWF。そこにはどんな関係があるのか。その謎を解けばプロレスがますます面白くなる。最後はあのお方が来ます!!	6月24日

受講料
【5回通し】　一般16,000円　CC会員14,500円
【1回】　一般・CC会員共通4000円 ※消費税別
※それだけでもお得な、レアなお土産付き！　それから、「生カタブツも見たい」なんて声が有れば、いつ何時、誰にでも見せます!

申込み方法
池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。
受付時間　10:00〜18:20（日曜は18:00まで。祝日は休館）

必ずお読みください

えー、上の講座内容はあくまでも予定です。受けたとたんに講座内容が変わってるなんてことは、『紙プロ』だったらありえるし、それで文句を言われてもたまらないので、講座を1回づつ受けようと思ってる人はコミュニティ・カレッジに問い合わせてからにしてください。順番も変わるかもしれないし。でもね、あーた、これね、5回の間にどんどんどんどん面白くなっていくあるよ!　ゲストだって誰が来るかわからない方がドキドキするあるね。だから続けて受けた方がお得あるよ!　私たち絶対損させない自信あるある!　ダイジョブよ!　お土産も付けるあるよ!　ササ、ホラ、コッチアルヨ、コッチ!!

★問い合わせ　池袋コミュニティ・カレッジ　TEL.03-3988-9281★

RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的 RADICAL観戦記

つちゃー観戦記なんですけどね

新名物!!

毒グモ　ラッド

K-1 KINGS '98

4/9（横浜アリーナ）

正道会館

「Showちゃん、アメリカで待ってるから（笑）」

午後2時、『紙プロ』の山口昇氏から電話が入る。

「今日、K—1に行くんだったら、リングスの髙阪剛がモーリス・スミスのセコンドについたか教えてよ」

そうか、すっかり忘れていた。今日のK—1にはそのテーマがあったのだ。ってことは、パンクラスの柳澤龍志も来るのか。そうすれば、K—1にリングスとパンクラスが揃うことになる。

そんなことを考えつつ、会場入り。結論からいえば、モーリスの試合には高阪も柳澤もセコンドにはつかなかったものの、聞いた話では、高阪は一端は会場入りしたが、他の仕事があるために、すぐに引き上げ、柳澤も一般客として会場には来ていたらしい。ただ、2人の代わりといっては失礼だが、試合後にモーリスと佐竹雅昭の両者に花束を渡したのは、なんと高田延彦!! なおかつアンディ・フグの試合後には、勝利したアンディに小川直也が花束を。そして、メインのアーネスト・ホースト vs ピーター・アーツの試合前には、引退したばかりのアントニオ猪木の姿もあった!! 結果的には〝旬〟ともいえる高田道場と世界格闘技連盟（UFO）が見られたK—1は、ちょっと得した気分。

そうそう、この日の『東スポ』に「前田日明の引退試合の相手」と報じられた佐竹は試合後、「誰の挑戦でも受けますわ」とニガ笑い。花束を渡された高田に対しても同様のコメントで一笑に付していた感じだった。一方、花束を渡した高田は石井和義館長に挨拶すると、そそくさと会場を後にする。それを追いかけてエレベーターまでいくと、「Showちゃん、アメリカで待ってるから（笑）」と一言。高田は4月半ばから約1カ月、米国のマルコ・ファスのところにいくのだ。さあ、どうしよう!?（Show）

極私的ベストバウト

1位　ピーター・アーツ vs アーネスト・ホースト

番外1　リングサイド最前列の少し痩せた林家こぶ平かと思った秋元康

番外2　なぜかK-1なのに哀愁が漂うサダハルンバ谷川氏とその残党

アントニオ猪木引退試合

4/4（東京ドーム）

新日本プロレス

極私的ベストバウト

1位　アントニオ猪木
2位　アントニオ猪木引退試合一式（トーナメント&セレモニー含む）
3位　アントニオ猪木vsドン・フライ

猪木しか見えないドームでこの男の顔がはっきり見えた

西村　修様

合格です。

（日昇）

FIGHTING INTEGRATION 1st

3/28（東京ベイNKホール）

RINGS

極私的ベストバウト

1位　イリューヒン・ミーシャvs金原光弘
2位　田村潔司vsディック・フライ
3位　髙阪剛vsニコライ・ズーエフ

傷だらけの戦士たち フリーファイトの行方

「オマエら、あっち行けオラァー」

この日、初参戦の山本が、担架でバックステージへと運ばれてきた。血まみれの顔をフラッシュが一斉に包み込む。ボクもその中の一人だった。そこで田村の言葉である。目があった訳ではないが、その表情、その迫力にクラクラしてしまった。正直、あれリング上の出来事なら、ボクは間違いなくタップしていたはずだ。「闘う前から、負けることを考えるヤツがいるか！」とアントンは言ったが、あの顔つきを見れば「考えるヤツもいるだろ」などと思えるぐらいの殺気が感じられた。

フライの怒涛のラッシュの前にダウンを喫するが、すぐさまダウンを奪い返し、完璧なスリーパーを極めた。しかし、ここで苦し紛れのサミング。当然のようにイエローカードが出された訳だが、フライは何事もなかったかのように、おどけて握手を求めてきた。その手を払いのけ、冷静に、瞬間的に、それでいて芸術的にしとめて魅せた。もちろん、あの顔つきで、である。前田とは明らかに質の違う、それではあるが、凄みでは負けてはいない。

例え、どんな相手であろうが、相手の力を最大限に引き出し、そのうえ説得力充分のフィニッシュで極める。

『前田日明』なき後（by髙阪）の“ゴンタ顔”を、『アントニオ猪木』引退後の“格闘芸術”を、継承するのは、この男ではないかと、強く感じた次第である。君の名は――。

前田の引退試合の相手は、日本人選手による挑戦者決定トーナメントという案も出されているという。ならば、この日観戦に訪れた、心は日本人、大和魂を搭載したエンセン井上の電撃参戦を激しく望む！　無理か!?

（チョロ松＝セミプロ）

激突～聖地の闘争～

3/21（後楽園ホール）

LLPW

極私的ベストバウト

1位　神取忍vs堀田祐美子
2位　風間&イーグルvs飛鳥&土屋
3位　なし！

あんたがフィクサー！ 今世紀最後の豪傑！ 神取忍！

「今年は女子プロレス界のフィクサーになる！」と、神取が発言しちゃっています。フィクサーという職業は、普通、雑誌の表紙にはならないような人種がやるようなものだろうけど……というツッコミは入れちゃいけませんね。プロレス界において、いや、世間において、もとい、この地球上では力を持っている者こそが強いのですから。その“力”にもいろいろあります。相手をねじ伏せる力だったり、観客の心を奪う力だったり、お客を会場に集める力だったり、無人島でも一人で生きて行けそうな力であったり……神取にはそんな力がいっぱい詰まった力人という感じを受けます。

ズバリ言って、現在、日本の女子団体は男女混成の団体も併せると10団体以上、なのに最近の女子プロレスでの大きな話題といえば、アルシオンの裸パンフぐらいのもの。ほぼ無風状態のところに神取が打ち上げた花火、それがこの日のメイン・神取vs堀田だったわけですね。他団体時代とはいえ、女子プロレスという同じ土俵の上で闘っているに過ぎないわけです。一番大きくものを見てるのが神取かなという気がしました。

何のジャンルにも言えることでしょうけど、中心がしっかりしていなければなりません。過去の対抗戦ブームの頃は、全女という惑星の周りを衛星であるＪＷＰやＬＬＰＷが周囲を回っていたからこそ爆発したと思います。現在の女子プロ界に、確固たる惑星なんかないし、小さな衛星がシノギを削り合っているちんけな世界です。そんな中、まず神取が惑星になろうと奮闘しています。もちろん、人間的にも巨大な器を持つ神取のこと。女子プロ界のビッグバンは、すぐそこまで来てるのかも知れませんね。

（チャパリーマン金太郎）

RADICAL BOUT REVIEW

EXTENSION
3／20（横浜文化体育館）
KINGDOM

極私的ベストバウト
1位　北原光騎vsジェシー・ケリス
2位　入江秀忠のエキジビションマッチ
3位　セイントvsニーハオ

プロレス団体・キングダムの命日！　不幸な新人・入江よ！　どこへゆく？

この日をもってプロレス団体としてのキングダムは事実上崩壊した。

1・28、暴動寸前の後楽園大会から約2ヶ月ぶりの試合だったわけだが、試合開始20時間前にプレスリリースが流れてきた。「悪い方の鈴木健」というありがたくない愛称がすっかり背中に貼り付いてしまった健ちゃんの直筆で、この日出場予定だったガイジン選手が悪天候によるフライト予定の大幅変更により来日不能となった旨が記してあった。ヤマケンも金原も、リングス参戦が決定していた後だけに痛々し過ぎるファックスであった。

なんとも寂しい興行だったが、最後ならではの開き直った無礼講ムードがリング上には漂っていたように思う。対戦相手が来日不能になり、デビュー戦をやる予定が急遽エキシビション・マッチになってしまった入江などは、やりたい放題やっていた。この日のリング上でのハシャぎっぷりを見る限り、プロレス向きなキャラクターであることは間違いなさそう。まだまだ見てみたい男だ。

さて、この日のメインは安生だったのだが、注目はキングダム初参戦・北原のファイトぶりだった。シューティング出身の北原は柔術家と対戦。いつものトロピカルなコスチュームのままなのも痛快だったが、それ以上に痛快だったのは、圧倒的な体力差で相手を封じ込めたこと。柔術や総合格闘技など競技への幻想が膨らみすぎた最近の風潮に釘を刺す素晴らしい試合だった。レスラーの持つ常人とはケタが違うパワーを見せつけた。当たり前なことだが。（ノブ）

PANCRASE1998 ADVANCE TOUR
3／18（後楽園ホール）
PANCRASE

©M・GIGIE

極私的ベストバウト
1位　髙橋義生vsリオン・ダイク
（宍倉次長同様、試合後に「髙阪」の名前が出て嬉しかったことも含む）
2位　鈴木みのるvs窪田幸生
3位　柳澤龍志の不完全燃焼

僕もアントニオ猪木に勝ってみたいッスよ！

これは僕が言ったのではない。前王者・近藤有己が、稲垣克臣vs伊藤崇文の際に、ラジオ解説のなかで言っていたのだ。

「以前、伊藤さんはマジで『アントニオ猪木になる』と言ってたんです。それに稲垣さんは子供の頃、猪木の試合を正座して見てたらしいッスよ（これは『矛―HOKO―』にも書かれている）」

しかも、近藤は「僕もアントニオ猪木には勝ってみたいッスよ」と、鈴木みのる、船木誠勝に続き、打倒猪木を宣言!!　そう考えると、この日は9年前の猪木を彷彿とさせる鈴木の第1試合出場を含め、全体的に猪木引退を意識した大会だった（と思っているのはきっと僕だけ？）。ただし、そのほうが僕自身が面白く見られるのだからしかたがない。やっぱり僕は、いくら『週プロ』の佐藤正行記者（ターザン山本氏に「史上最低の弟子」なる最大級の褒め言葉をもらった凡人）に「偏執的」と書かれようが（846号）、盲目的に愛情を表現することはできない。それはパンクラスが「プロ」であるかぎり、僕は絶対にやる側に回れないからだ。

ところで、まったく関係のない話だが、ここ最近、『紙プロ』が火をつけた（？）「ＰＵＦＦＹが語るマット界」的な、あんなものをありがたがる風潮に、心底、危機感を覚える。ＰＵＦＦＹなんて、ナメやがってとしか思えない。だったら華原朋美の「なんだかヒューヒューです」のほうがよっぽどましだ。

話が逸れてしまったが、逸れたついでに、コラッ!!　そこの18歳のク●ガキ、お前だよ、お前！　人のことをとやかく言う暇があったら、洗顔してとっとと寝ろ!!　ってことで宣言します。今後、誰にかぎらず、あんまりわけのわからん、人を揶揄するような人間はそのうち絞め落としますから。以上!!（Ｓｈｏｗ）

PRIDE―2
3／15（横浜アリーナ）
KRS

極私的ベストバウト
1位　ブランコ・シカティック vsマーク・ケアー
2位　小路の試合後、「しゃべらなきゃいい男なんですけどねぇ」と語っていたパーフェクTVの解説者・西良典師範
3位　シカティックvsケアー戦後の騒然とした中でもまったく動ぜず、ガムを噛んでおられた真樹日佐夫先生

KRSは悪くない、悪いのはグレイシー！

帰ってきたぜェ！　ガンガンいくぜェ！　オレがカタブツだァー!!　ということで4・4東京ドームでは日明兄さんを目の前にして敵前逃亡（？）をやらかした鈴木みのるに、非常に親近感を覚える（というか、〝敵前逃亡〟ならオレのが先輩）カタブツです。

そして、そんなオレの鈴木ゴコロにビンビンくるのが、〝慧舟會のアキラ〟こと、小路晃のマイクアピールなんです。

マイクを握った途端の「ありゃ～スッ！」とか、何を聞かれても「よく覚えてなぁいッス」の発言には是非一言言っておきたいぜェェ！　って感じです。まずは、そのカッゼツの悪さ。「もっとはっきりしゃべれよ、アキラ！」とオレの鈴木ゴコロが言うわけです。続く、「もっと闘いたいんじゃあ～！　負けるもんかぁ～！」は、あれは窪田戦でのオレの心情にも通じて共感できるぜぇ！　これで〝風〟とか〝翼〟とか文学的な香りを盛り込むことでメジャーでも通用するぜェ！　と、重ねていいますが、オレの中の鈴木ゴコロが言うんです。ブチ的には、アキラは強いから、これからも見たいです。引退しちゃ、イヤ……あれ？

さて、今回の興行はメインの幕切れの悪さとか、諸々あって、芳しい評判が聞かれませんが、アキラのマイクアピールやら、延髄斬りをホイラーに決められる佐野やらと見所はかなりあったと思う。メインにしたって、会場中を敵に回しても、「オレ何か悪いことしたの？」って感じで平然としていたシカティックの凄味は十分感じられたわけだし。悪いのはＫＲＳじゃなくてグレイシー！　リングスの山本に苦戦してから、ロープを掴むことを禁止したってことを忘れてると思ったら大間違い！　面白さで見たら十分いける興行なんで、ボクもＫＲＳを追う（谷川風）。（ブチ）

TOMORROW NEVER DIES

3/10（大田区体育館）
みちのくプロレス

極私的ベストバウト

1位　愚乱・浪速&ヨネ原人vs星川尚浩&薬師寺正人
2位　グラン浜田vsタイガーマスク
3位　S・デルフィン&M・テイオーvs新崎人生&船木勝一

ニコニコな時間をありがとう　この幸せをもう一度……

「良い興行」とは何か。ビッグマッチなるものが数多く開催されている昨今、それらは必ずしも（動員的にはOKだったとしても）「良い興行」だったであろうか。

なーんて堅苦しく始めてみましたが、全試合、最初から最後まで通して「これは良かった」と思えるニコニコな興行が最近全くなかったのです。もちろん、試合単位で良いものはたくさんあったけど……

しかーし!!　このみちプロの興行はとにかく良かった。試合見ててこんなにニコニコしたのは（失笑ではなく）本当に久し振り。たった4試合でも大満足でした。試合数、多けりゃイイッてモンじゃないんです。むしろ少ない方が、観客が集中できて良いのでは、と思ってしまいました。

で、試合の方はと言いますと、私の注目は第一試合の浪花&ヨネ対星川&薬師寺。いやー、凄いっっ！あなたたち、何て激しいの？　それに、びっくりしました、ヨネ。台車も追っかけっこも出て来ない！それに強い！私の思ってたヨネじゃない！めちゃめちゃストロングじゃん。すっかりヨネの虜になってしまいました。

そしてメイン終了後。選手、フロント全員がリングに上がり海援隊へのメッセージ。こういう事は個人的には好きではないのですが、ショーンにだけは泣かされた。ダブルクロス面接時に本誌吉田に邪悪呼ばわりされたこの私が泣いたね。そして叫んだね。

「ショーン、あなたはヨソ者なんかじゃないっっ！」

最後に、気になった事を一つ。田尻のコール時のアピールは、いつもアレなのか？　格好良いんだか、悪いんだか……でも忘れられない。

（デカメロン＝素人娘）

BATTLE GENESIS VOL・3

3/3（後楽園ホール）
RINGS

極私的ベストバウト

1位　アレクサンダー大塚vs坂田亘
2位　田村潔司vsセルゲイ・スーセロフ
3位　郷野聡寛vs倉橋達也

根情・粘り・ハングリーという　絶滅語を思い出させたアレク

会場で久しぶりにのものもに会った。「ほえ〜」ののものもである。これだけで本誌読者にはバッチリわかるだろうが、常に見えない読者に向かって問いかけることをモットーとして、とっても優しい本誌は、もう少し詳しく教えてあげます。

ののものもの正体は、元・本誌の編集者（または邪道姫）、現・アレクサンダー大塚の妻である。

ののものもは、アレクが坂田に勝った後にこう言った。

「アレクってこんなに強かったんですね〜、見直しちゃいました〜。リングスで通用するラベル、じゃなくてレベルにいるなんて、なんか嬉しいです〜、ほえ〜」

ののものもと会うと、「相変わらずの、ののものもであった」とちびまる子ちゃんのナレーション化してしまうが、この日のアレクは「根性」「粘り」「ハングリー」という、もはや絶滅した言葉を思い出させてくれた。この日は、なにせリング屋としてリングを設営、撤収。30分の激闘を制した後に、カンパツ入れずグッズ売場に直行。自分の団体のチケット売りに大声を張り上げる。貧乏団体（もちろん言わずとしれたバトラーツ）に所属していると、こういった仕事までやらなければならないのだ。

しかし、それできっちり結果を出すのだからエライ。ハンディをプラスに転嫁し自分の中で見事に消化しているということだ。ののものもが出産のため実家に帰った後、ある日電話してきたアレクが言った。

「これから2カ月間とっても寂しいです〜」

この男、強いのか弱いのかわからない、実に不思議な面白い男である。

（日昇）

プロフェショナル修斗公式戦Vol'49

3/1後楽園ホール
プロフェショナル修斗

極私的ベストバウト

1位　佐藤ルミナvsジョエル・ギャルソン
2位　カーロス・ニュートンvs草柳和宏
3位　村浜天晴（SBの村浜の兄）vs小島弘之

かっこいいとはこういうことさ　プロレスファンでも楽しめます

この日の後楽園ホールは超満員札止め。集まった観客のお目当てだが佐藤ルミナである。ファッション誌などには積極的に露出しているせいか、この日の客席を観察してみると、多くのファンを獲得しているようだった。本誌の取材は受けないのにね。

肝心の試合はといえば、かなり面白かった。はちきれんばかりに期待が膨らんだ観客をルミナが乗せ、乗せられた観客の声援にさらにルミナが乗るというイケイケドンドンな展開、絶え間なく動き続ける選手、観客の期待を裏切ってアッという間に敗れてしまったルミナ……スピード感のある、めくるめく展開で観客の心を見事に鷲掴みにしていた。雑誌のグラビアで見るルミナはカッコつけているばっかりだが、この日はお調子ものな一面も見れたのがよかった。観客とキャッチボールの出来るルミナは、立派なプロレスラーである。絶対に話を聞いてみたい。

もう1人、この日輝いていたのがドレッド野郎、カーロス・ニュートンだ。こんななりして宮本武蔵と女好きというからプチ・ヒクソンな匂いはするが、ニュートンの方が垢抜けている分、親近感が持てる。試合の方も初代シューター草柳のアームロックをいとも簡単に脱出し、アッという間の逆転勝利を飾ってしまった。下手なレスラーよりキャラクターが立っている。おまけに試合にも華がある。立っているだけで絵になるし、おまけに試合にも華がある。

最近のシューティングはプロレスや世間のいい部分を取り入れて、大きくなっている。プロレスも格闘技も分け隔てなく考えるボクとしては、「こんなおもしろいキャラをほうってはバチがあたる！」と、正直言って危機感を覚えた。プロレスも格闘技も、要は人間を見るという作業である。

（ノブ）

RADICAL BOUT REVIEW

Thanks giving DDT

3/1（鶴見青果市場）
DDT

極私的ベストバウト
1位　矢口壹琅&エキサイティング吉田vs二瓶一将&鴨居長太郎vs毒ガスマスク&クラッシャー高橋
2位　どこに出しても恥ずかしくない、アジアン・クーガー
3位　二瓶組超美人マネージャー・ダイアナのしなやかなハイキック

極上の場外乱闘パーティー「見逃せないぞ〜」（byエキサイティング吉田）

クソ寒い中、本当に野外で試合は行われるのか？　そんな不安を抱えながら、電車に揺られ、バスに揺られ、寒さに震え、何とかたどり着いた、鶴見青果市場。受付を済ましたボクの目に飛び込んで来たのが、鶴見五郎（鶴見出身）。「怪奇派Tシャツはいかがですか〜お似合いですよ〜お兄さん？」と、そのルックスからは想像出来ないフランクな応対にたじろぎつつも、〝怪奇派Tシャツが似合う男〟なんて言われて、嬉しくないはずがない。即座に一枚購入。このっ商売上手！

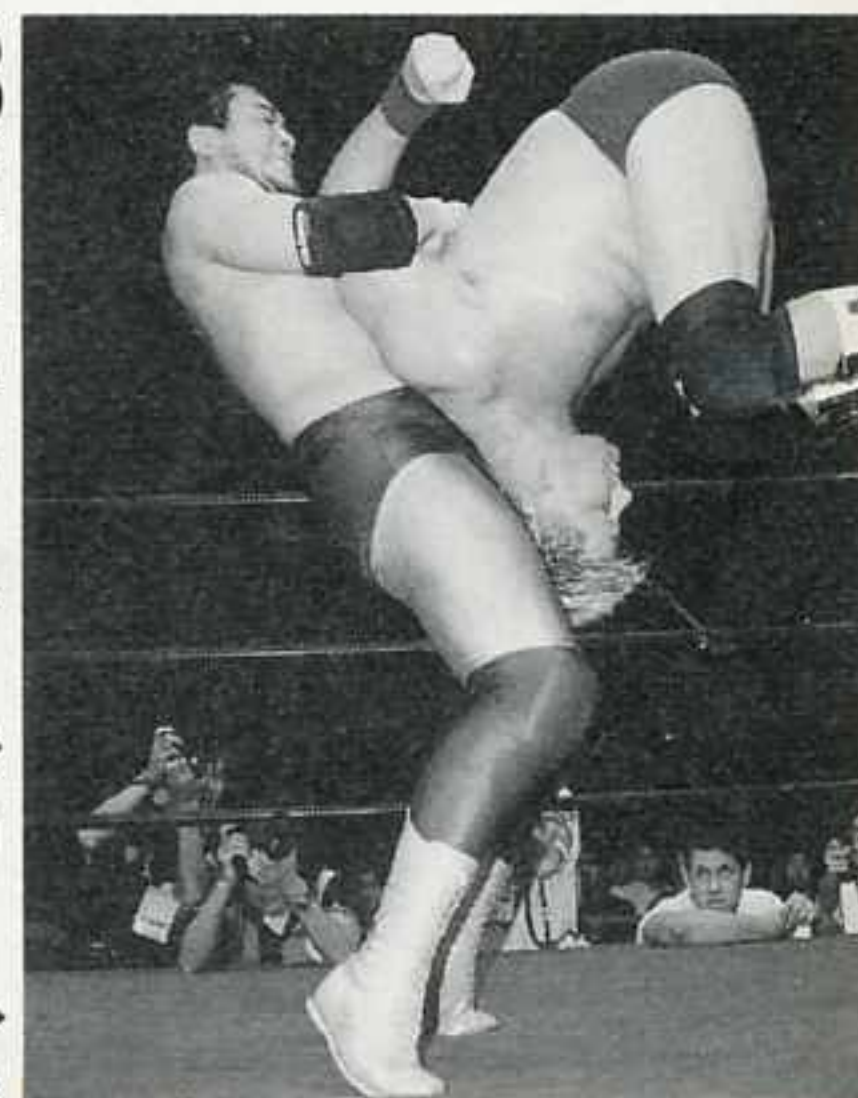
そんなこんなで始まったのが「3WAY DANCEはうまく踊れない」。セコンド、観客をも巻き込み、至る所で『バーリ・トゥード』。あっちでは鴨居の右フックが唸っているし、こっちには毒ガスマスクが吹っ飛んでくるし、組長はマウントからパンチをボコボコ入れてるし、超美人マネージャー・ダイアナはキックと色気を振りまいているし、後ろでは矢口が「愛だぁー」吉田が「気合いだー」。鶴見は「いかがですか〜」。〝幻〟だって見逃せない。

御一行は会場を飛び出し、横断歩道も越えての（勿論、信号無視）文字通りのストリートファイト。ここまでやってくれたら［路上の王］こと、マルコもアングリーだろう。

「ヘタクソ」な場外乱闘は要らないが、この日のそれは、間違いなく超一流であった。今、これだけしっかりした場外乱闘を魅せられる団体は、他にあるだろうか？　そんなの要らない？　いやいや、これも立派なプロレスである。

（チョロ松＝セミプロ）

98エキサイト・シリーズ

2/28（日本武道館）
全日本プロレス

極私的ベストバウト
1位　小橋健太&秋山準vs高山善廣&垣原賢人
2位　三沢光晴vsジョニー・エース
3位　邪道&外道vs小川良成&志賀賢太郎

ドーム決戦間近 10年選手の頂上作戦！

正直、この日の三沢vsエースの三冠戦に期待していた人はどれほどいたのだろうか？

ボクは昔から、ジョニーには、それほど興味が湧かない。ジョニーは名前からも分かる（？）とおりの色男である。プロレスラーたるもの個性が第一。兄弟でも、色男エースより、岩男アニマル・ウォリアーやイモ男クラッシュ・ザ・ターミネーターの方が、断然お気に入りだった。ボクだけじゃなく、色男レスラーは、男子ファンにはあまり受けがよくないようだ。ハンサム・ハーリー・レイスは除くが。

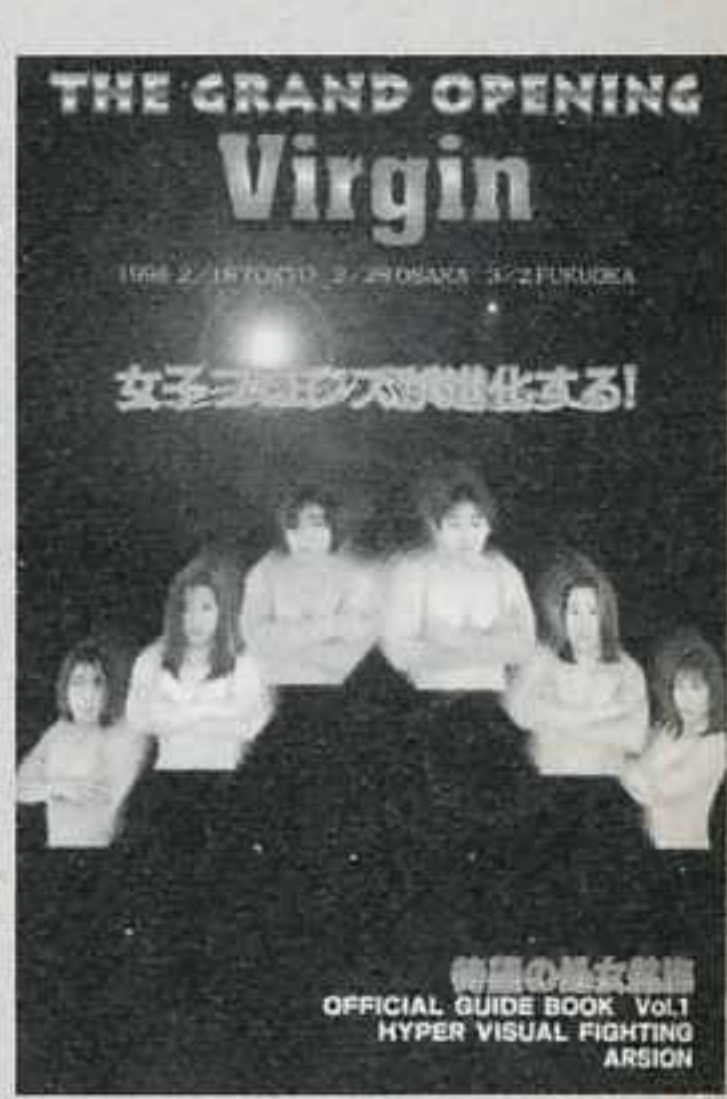
それにここ最近のジョニーの髪型はピンと来ない。32歳と、プロレスラーとして、一番脂がのってるであろうこの時期に、坊ちゃん刈りはないだろう。せっかく綺麗なブロンドヘアーなのに。ジョニーには何年か前の、狼ヘアーがベストと思うのだが。まあ一つ言えるのは、後ろ髪は伸ばすべしということ。これは、受け身とともに、全日レスラーの基本である。

などと言いつつも、メインの三冠戦は素晴らしい試合となった。ジョニーの相手が、川田、小橋でも、あそこまでの盛り上がりは望めなかっただろう。はっきり言って三沢の力が大きかったのは、間違いない。がしかし、会場で起こった大歓声は、ジョニーへと向けられていた。だてに10年も常連外国人として、全日マットに上がり続けていたわけではない。ジョニーはいつの間にかエース級のレスラーになっていたのだ。ときに、試合の腰を折ることもあるが、大技、大技の連続で、あわやの山を築いていった。

みんな心の底から叫んでいた。やるじゃん、エース！　このまま、走れジョニー！

（チョロ松＝セミプロ）

THE GRAND OPENING Virgin

2/18（後楽園ホール）
アルシオン

極私的ベストバウト
1位　石川社長の元気な挨拶
2位　アイドル指向の入場式
3位　セコンドの浜田文子

格闘技とルチャの融合は、まだまだ食い合わせ悪し。

それにしても選手の大量離脱によって若手中心のフレッシュな団体となった全女を横目に、いい歳した離脱組がファーストキスだのヴァージンだのと清純路線の名前で興行を打つのが非常に興味深い今日この頃。そういうわけで、パンフのセミヌードだけでもマニア層のハートを鷲掴みにしたアルシオンの旗揚げ戦レポートである。

この日、バトラーツの石川社長は「彼女たちのやることが認められないような世の中なら、俺がブッ潰す！」という名言を吐いたが、ズバリ言わせていただくとボクの感想は「方向性こそ正しいが、内容はまだまだ」でしかない。なにしろ落ちついて見ていられるのは奥津と玉田ぐらいのもので（アジャは別格）、府川や大向の危険極まりない（相手がではなく、自分が）デンジャラス・クイーンな攻撃ぶりには、場内のあちこちで失笑が漏れていたのが真実なのだ。

ところが、である。女子プロ好きの人々に言わせると、これがまたなぜか「府川と大向は、すっかり変わって強くなった！　それに比べて奥津と玉田は相変わらずなのでダメ！」とのことらしい。

何ィ!?　無理にこれまでの技を捨てて、稚拙な飛び技で自分の頭を打ったり、ムーンサルトプレスで膝を相手の顔面に叩き込んだり、トム・マギー然としたキックを披露したりするのを大絶賛してどうする？　下手に褒めたところで、それに釣られて集まった観客が怒るだけでしかないはずだ。実際、この日は「パンクラスで特訓」という部分を拡大解釈したらしきファンが、「なんだよ、この試合！」と吐き捨てて帰っていくという事件も勃発していたものである。

だが、どうやら間違っていたのは激怒したファンやボクの方だったらしい。アルシオンは決して格闘技指向なんかではなく、ジャパン女子指向（＝秋元康イズム）のアイドル団体なのだから。

（豪）

オラッエッー最近のマット界の流れっちゅうのをナァ教えてやろうじゃネェか
アッー改めアーッ!?(武田いづみちゃん忠告ありがとう)なコーナー!

nちょう マット界 の出来事!

マット界の流れが一目瞭然!

健康ですか……。ボクはご飯を食べている時が一番幸せです。猪木さんは引退してしまいましたが、新たにUFOを旗揚げするそうです。猪木さんは、相変わらず何をやっても面白いですね。ボクは、相変わらず何をやってもドジばかりです。――それでも腹は減る!（チョロ）

1998 2.11～3.7

①

②

③

2・11
【佐山聡考案α&Ω】パレストラ東京●ヘビー級総合優勝はキャプチャーの「ニーハオ」こと宮沢誠。やったネ!（参加者2人だったけど）

2・14
【SB会見】SB&ST友好イベントSHOOT the SHOOT O XX（ダブルクロス）記者会見●大会名は村浜武洋が考えたそうです。株式会社ダブルクロス『紙のプロレス』共々よろしくお願いします。（写真①）

2・15
【新日本】日本武道館●小川直也（三角絞め、8分26秒）ドン・フライ 試合後、当然のように猪木乱入。ボンバイエ! ボンバイエ!

2・17
【セッド・ジニアス】東京ドーム前●アントニオ猪木への挑戦を表明する。しかしすぐさま却下。猪木vsジニアス見たかったです。（vs西村、vs蝶野、vsマサ斉藤でも可）

2・18
【アルシオン】後楽園ホール●アジャ・コング、大向美智子、府川唯未（トータル468ポンド）vs二上美紀子、玉田凛映、キャンディー奥津（トータル403ポンド）。トータル何ポンドって言われてもねえ。面白いけど。

2・19
【冬木軍】後楽園ホール●この日出た急所攻撃、全14発。（女子プロレスは除く）一興行最高記録か?

2・22
【GAEA】後楽園ホール●この日北斗晶と尾崎魔弓が合体しました（ウルトラマンエースじゃないけど）。

2・25
【ネオ・レディース】後楽園ホール●椎名由香vs市来貴代子がこの日のベストバウト。試合後、エキサイト気味の市来に傘を破壊されてしまいました。でも革真浪士団のジャージは格好いいです（もちろんターザン後藤カラー。川田、天龍カラーでも良し）。

2・25
【JWP】北沢タウンホール●中原奈々vs大隅沙理は、中原、センス抜群、栓抜き攻撃で大隅をフォール。

2・26
【リングス会見】●山本健一参戦発表。高阪剛UFCでキモとの対戦が発表される。長井満也の契約解除が発表される。前田日明、「引退試合はヒクソンの百倍知名度がある選手」との発言に、一部では、Mr.ビーンでは、なんて説も……。

2・26
【キングダム会見】●プロ・アマ格闘家公開公募。条件は、年齢15歳以上40歳以下、身長165cm以上。体重70kg以上という、非常に緩やかなものです。チャンコ番も無いということなので、希望者はドシドシ応募して下さい。

2・28
【全日本】日本武道館●「全日本が強いんじゃなくて、僕が強いんです」（by秋山）ジョニー・エースの新技〝メキシカンクラッシャー〟は良かったけど、なんでメキシカンかは不明。あと、菊地毅が壊れてきました。

3・1
【パンクラス】神戸ファッションマート・アトリウムプラザ●鈴木みのるが山宮恵一郎に判定で敗れる。「レフェリングのミス、提訴します」（by鈴木）訴えますか?

3・1
【全女】後楽園ホール●怪覆面の正体は伊藤薫と渡辺智子。ビックリした! ジェンヌゆかりとグリズリー岩本だと思ってました。

3・1
【DDT】鶴見青果市場●クソ寒い中、キャミソールにトランクスの（二瓶組）超美人マネージャー、ダイアナはプロでした（いろんな意味で）。あと、売店でダイアナ裏ビデオ（1万円）が売られていました。見たい!（写真②）

3・3
【無我】EBISU303●山本小鉄さんが観戦してました。藤波かおり（藤波辰爾夫人）のエッセイ「ちょっとごはん食べにこない」絶賛予約受付中でした。ホントに食べに行きますよ。いいんですか?（写真③）

3・5
【バトラーツ】東京FMホール●会場で『紙プロ』を販売しましたが8冊しか売れませんでした（B-SHOCK）。府川唯未が観戦してました。

3・6
【新日本】新潟市体育館●ケンドー・カ・シン（飛びつき腕ひしぎ逆十字固め、12分49秒）エル・サムライ カ・シン、ジュニア5番勝負まずは1勝!

3・6
【Z-PANG】渋谷イーストギャラリー●エースの足立知也選手は女の子に大人気でした。あと、アジアン・クーガーの各種ギロチンは日本一です（おそらく）。必見!モリマンが観戦してました。

3・7
【高田道場】ニッポン放送●『突撃! SPORTS・KING』に高田延彦生出演。悩める青少年

1998 3.7～3.19

❼神格闘十字軍の皆様

❺「ジャンピングアッパー！」（nwo村浜）

❽

❹ブルー・マミー。チープなコスチュームが魅力的！

❻なんだ、バカヤロウ！

に電話で喝！「よく痴漢に遭うんですけど」「高田道場に来て下さい！」「体を鍛えたいんですけど」「レスラーと結婚したいんですけど」「高田道場に来て下さい！」高田節炸裂！

昭和63年3月7日

【新日本】博多スターレーン●ヒロ斉藤（片エビ固め、9分27秒）船木優治　ヒロ斉藤（現nwo）、セントーンで船木優治（現パンクラシスト）を敗る。

3・8

【国際】大津スイミングクラブ●この日行われた、ウルトラマン・ロビンのプロレス教室。名物オヤジも参加して、観客も大興奮。（内容はスクワット30回のみ）（写真❹）

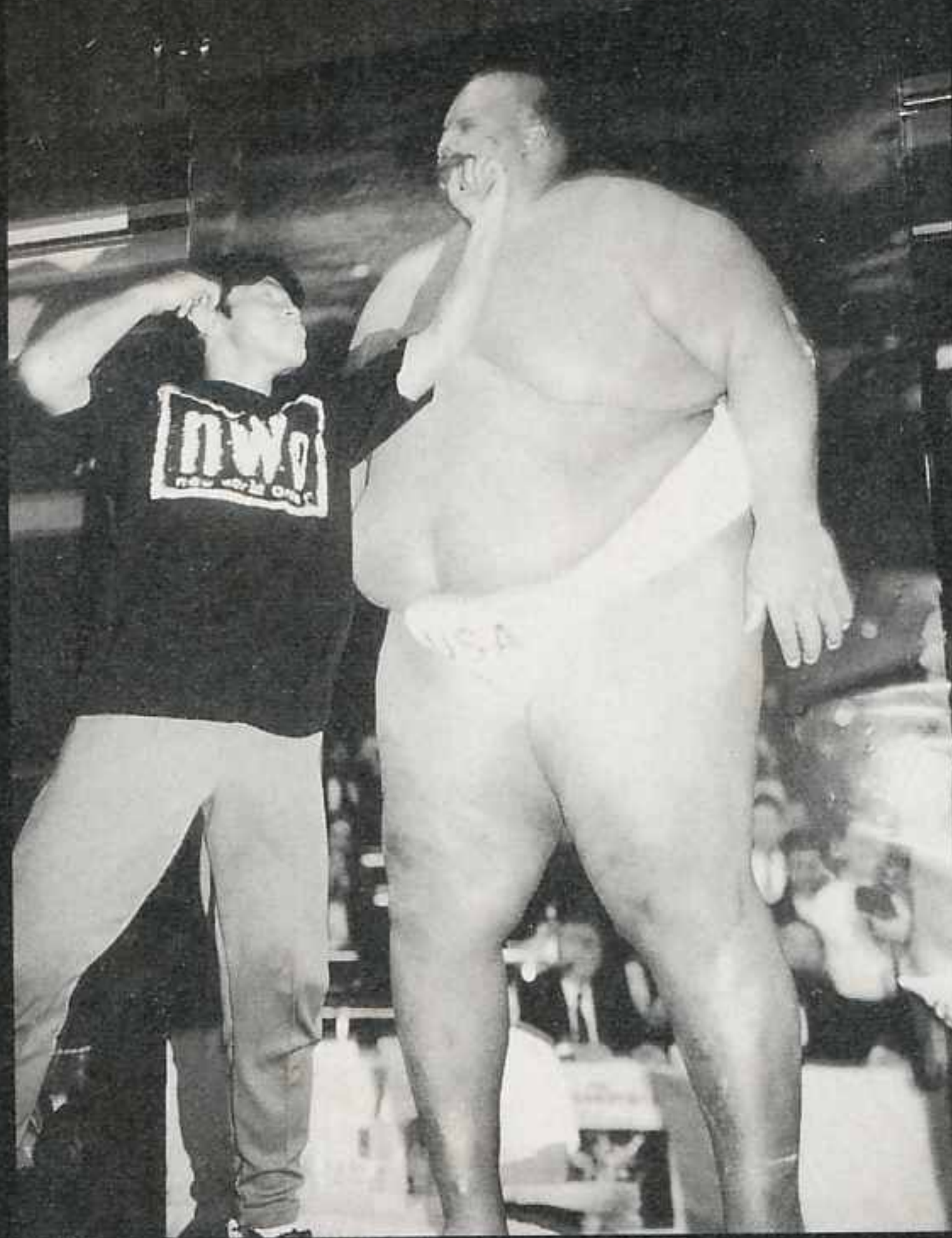
3・9

【新日本】京都府立体育館●ケンドー・カ・シン（ヒザ十字固め、16分13秒）金本浩二　カ・シン2連勝！

3・9

【WCW】●シックス解雇（前1－2－3キッド、元ライトニング・キッド、本名ショーン・ウォルトマン）

3・10

【WAR】後楽園ホール●この日のベストバウトは石井智宏vs山田圭介（IWA）。試合後も通路でド突き合い。これぞ団体対抗戦ナリ！あと、斉藤清六が来てました。

3・10

【みちのく】大田区体育館●エンセン井上（本誌認定プロレスラーNO・1）と朝日昇が観戦してました。エンセンは会場でよく見掛けるネ。

3・13

【リングス会見】●金原弘光参戦発表。和田良覚レフェリー入団発表。「金原は打撃だけ見たら、今のマット界トップなんじゃないかな」（by前田）Q「闘いたい選手は？」前田「前田選手です！」前田「オイオイ、チャンピオンは田村だぞ、お前！（笑）」日明兄さんは御機嫌でした。

3・13

【UFC】ポンチャートレインセンター●高阪剛、キモ・レオポルドを判定で敗る。しかしながら、未だに日明兄さんの付き人も継続中との事。

3・13

【IWA】後楽園ホール●死神、三浦博文VS平野勝美、大黒坊弁慶「あんたたち4人とも化け物みたいな顔してんだから、私達の所いつでも入れてあげてよろしくてよ」（MAYA・談）ごもっとも。インディ世代闘争に勝利したカブキのマイク「やれば出来るじゃねぇか」観客「えーっっっ？　やれてねぇよ」ごもっとも。（写真❽）

3・14

【新日本】宮城県スポーツセンター●ケンドー・カ・シン（雪崩式腕ひしぎ逆十字固め、10分12秒）獣神サンダーライガー　カ・シン3連勝！

3・15

【PRIDE－2】横浜アリーナ●佐野友飛、ホイラー・グレイシーに腕ひしぎ逆十字で敗れる。桜庭和志、バーノン・タイガー・ホワイトを腕ひしぎ逆十字で敗る。小路晃、試合はいいけどマイクが駄目。「闘いたいんじゃ～！　負・け・る・も・ん・か～！」って。ブランコ・シカティックvsマーク・ケアーは反則決着。観客のブーイングの中、本誌・山口編集長は「猪木出てこーい」と叫んでました。あと、グレイシー狩りを宣言した二瓶組長も熱心に観戦してました。

昭和59年3月15日

【新日本】水俣市体育館●佐野直喜（現・友飛）（時間切れ引き分け）山田恵一（現・獣神）　佐野も、14年後の自分の姿は想像出来なかったことでしょう。

平成6年3月16日

【新日本】東京体育館●平井伸和（裏WARスペシャル、9分15秒）石沢常光　こんな日もありました。

3・17

【SPWF】大田区体育館●この日行われた千春トークショー。「谷津さんと寺西さんはどういう存在ですか？」千春「谷津さんはお父さんで、寺西さんはお爺ちゃん。両方好きです」。嵐、矢口らに執拗に絡まれる谷津。マイクを取ると「もういいから。次控えてんだから帰れよ～」代表も大変だ。（写真❼）

3・18

【パンクラス】後楽園ホール●リオン・ダイクのセコンドに付いたバス・ルッテン。隙をみて、ダイクに水を与えようとするも、2人のジャッジから立て続けに注意を受ける。さすがパンクラス。見逃さないね！

3・19

【SB会見】●SB&ST合同興行『ダブルクロス』にて、中野龍雄vsエマニュエル・ヤーブロウの対戦が決定。当日、エマニュエル夫人は来日しない模様。村浜武洋選手（本誌認定プロレスラーNO・2）にも闘ってもらいました。（写真❺、❻）

1998 3.20～4.11 nちょう(マット界)の出来事!

⑪

⑩

⑨カ・シンではありません。黒影です。

⑭おやすみ桜庭

⑬もいっちょ桜庭

⑫眠そうな桜庭

3・20
【キングダム】横浜文化体育館●キングダム、団体最終大会。ニーハオはザ・セイント（セコンドはエンセン井上ネ）に判定負け。この日のベストバウトは北原光騎vsジェシー・ケリス（3試合だけだったけど）。

3・20
【新日本】尼崎市記念公園総合体育館●ケンドー・カ・シン（三角絞め、9分52秒）高岩竜一　カ・シン4連勝！

3・21
【LLPW】後楽園ホール●この日は神取忍vs堀田祐美子のダブルタイトル戦ということで、超満員札止め。マスコミには大入り袋（千円）が配られたそうですが、僕は貰えませんでした（グスン）。（Show氏風）セミは、イーグル沢井が風間ルミを裏切りました。そして新たにX－GUN結成（嘘）。正解はG－MAXです。

3・21、22
【全日本】後楽園ホール●チャンピオンカーニバル公式戦　秋山準がスタン・ハンセンに初勝利。田上明は三沢光晴をジャンピング大開脚キックで敗る。森嶋猛（19歳）がデビュー。馬場さん好みの大型選手ですね。

3・22
【新日本】愛知県体育館●アントニオ猪木、角田信朗（正道会館）を相手に公開スパーリング。ケンドー・カ・シン（裏十字固め、12分17秒）大谷晋二郎　カ・シン5連勝！　ドン・フライ、凶器グローブで山崎をKO!?　デーブ・ベネトゥーの蹴りには驚かされた。猪木ボンバイエ！

3・25
【大日本】後楽園ホール●WAR・OBの乱入が噂されたこの日。現れたのは嵐と大刀光。ビックリした！　タイガー戸口もしくはキム・ドク（3・21LLPW観戦）と維新力浩司だと思ってました。

3・25
【DDT】北沢タウンホール●この日突如現れた、黒影。飛びつき逆十字からマスク、コスチュームまでケンドー・カ・シンしてました。あと、アジアン・クーガーのノータッチトペコンは日本一（おそらく）。必見！（写真⑨、⑪）

平成3年3月26日
【全日本】秩父市民体育館●ジャンボ・鶴田（4分58秒、体固め）カクタス・ジャック　鶴田、マンカインド改めデュード・ラブ改め、再びカクタス・ジャックをバックドロップで仕留める。

3・27
【高田道場】●高田の『PRIDE－3』参戦が発表される。桜庭は、いつものように眠そうでした。（写真⑫、⑬、⑭）

3・28
【リングス】NKホール●この日観戦に訪れていたエンセン井上。バックステージでの日明兄さんとの会話。「お～エンセン、この間のインタビュー『紙プロ』だっけ？いいこと言ってたなぁ、良かったで～、ベリーグーや！」「どうもありがとネ」（写真⑩）

4・3
【日刊スポーツ】●世界格闘技連盟（現・UFO）に安生洋二の参戦が決定。安生には、UFOがよく似合う。

4・4
【新日本】東京ドーム●アントニオ猪木引退試合　西村修がおいしいところ全部持っていきました（花道でのコブラ、猪木の張り手を喰らう）。ドン・フライは素晴らしかった。vsジェラルド・ゴルドー、vs佐山聡、早く見たいです。猪木ボンバイエ！　ボンバイエ！

昭和40年4月4日
●ビジャノ4号誕生日　4・4・4号。猪木と一緒！

平成4年4月8日
【W★ING】四日市中央緑地体育館●中見川志保（エビ固め、7分21秒）伊藤薫　現金村ゆきひろ夫人vs現ZAP・I（前へイディーズ、元U★TOPSなど）。人生いろいろ。

4・9
【K－1】横浜アリーナ●試合は、判定、引き分けが多かった。猪木、小川、高田がリングに上がり花束贈呈。田代まさし、藤原紀香には、ブーイングでしょ、やっぱり？

昭和57年4月11日
【全日本】津山総合体育館　●ジャイアント馬場（11分41秒、体固め）プリンストンガ　馬場vs現ミング（本名ウリウリ・フィフィタ）の味わい深い一戦。

ZAPとはZenjo（全女）、afflict（悩ます、苦しめる）purpose（意図する）の頭文字を並べたもの。「高田道場」NOBUとはNative（生まれながら）Originality（独創性）Backbone（気骨、精神的中軸）Unanimisme（一体的精神・感情）の頭文字を並べたもの。ただそれだけ。ニーハオ！

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記！

紙のプロレス RADICAL

スーパースター列伝

最強を決めるのはもう少し待ってくれないか…

谷津嘉章 (SPWF) PART 1

S.P.W.

聞き手&構成／吉田豪（社会人）
interview by Go Yoshida
撮影／松永源さん（社会人失格）
photographs by Gensan Matsunaga

マーク・ケアー、マーク・コールマンにケビン・ジャクソン。そして日本人では桜庭和志に高橋義生とノールール系の大会でアマレス旋風が吹き荒れまくる今日この頃。
だが、誰か大事すぎる男を忘れていないだろうか？
そう、『紙プロ』読者なら誰もが全面的に支持する藤田、カ・シン、ドン・フライという新日アマレスイズムの源流に立つ日本アマレス・ヘビー級最強の男、谷津嘉章の存在を！
「SPWFだろ？」「インディーだろ？」「社会人だろ！」
そんなチンケな物差しでは測りようがないようなスケールの大きさを隠し持っていた彼氏。
全日時代、観客に「オリャ！」とコールされようとも、「内心迷惑だけど、仕方ないじゃん。お客さんが満足なら」などと徹底してサバサバした反応を示した谷津独特の過激なプロレス観が、いまここで明らかにされる！
まあボクにズバリ言わせていただけば、強けりゃ何を言ったっていいし、谷津ぐらいなら何をやっても許されるんです！　でしょ？
そういうわけでみなさん、御唱和下さい。い〜ち、に〜い、さ〜ん、オリャ〜〜〜ッ！

―今日は谷津さんの、これまでの波瀾万丈なレスラー人生をお聞きしたいんですけど。

谷津 じゃあ、時間もないんで（1時間後に記者会見）パッといきましょう、パッと！

―ガハハハ！ 谷津さんっていうと、まずエリートって言うイメージがあるんですよ。

谷津 いやぁ、エリートじゃないでしょ。だって、この現状を見れば。ねぇ。

―いや、現状じゃなくて原点の話ですよ。

谷津 エリートでもないと思うけどなぁ。

―そうですか（笑）。例えばプロレスやるような人っていうのは、子供の頃に喧嘩したとかの武勇伝があるものですけれど、谷津さんの場合はそういうのをあまり感じないんですよ。

谷津 なんだよぉ。それじゃあ、俺が弱虫みたいに見えるってのかよぉ！

―いや、そうじゃなくて常識人というか。（笑）。それとも昔は無茶されてたんですか？

谷津 無茶って、どういうのが無茶だかわかんないけどねぇ。だけど普通の人達よりは練習はしてると思うけどな、俺の方が。まあ、血ヘドの出るぐらいの練習はしてませんが。

―いや、そういうアマレス方面でバリバリやられてたのはよく知られてるんですけど。

谷津 じゃあ、なに？ 要するにストリートファイトって事？ そういう事はやんないよ。そんなのやったってしょうがないじゃん。

―しょうがないんですか（笑）。

谷津 うん。だって、喧嘩するようなエネルギーが、俺の場合はアマレスの練習に行っちゃってたんだから。

―しかし、アマレス界ではホント、洒落にならないぐらいの素材だったわけですよね？

谷津 自分の口から言えねえよなぁ（笑）。

―言えないですか（笑）。なにしろアマレス時代は、76年から80年まで国内で50連勝して、しかもそのほとんどが1ラウンドでのフォール勝ちなんですからね。それに一回、谷津さんが出るっていうんで他の選手が棄権しちゃって、谷津さんが自動的に優勝したこともあるって雑誌で読んだんですけど？

谷津 いやあ、そんなことはないでしょ。

―それは無いですか（笑）。ちなみにこれは昭和53年の全日本選手権での出来事だって、昔の『週プロ』に書いてたんで、すっかり信じてたんですけど（笑）。

谷津 そりゃ絶対ないよね。ただ俺がエントリーすると、みんな違う所に行っちゃうってのはあったけどね。それでも4人ぐらいは参加するでしょ、やっぱり。一回も勝たないで優勝なんて、絶対ない。それは。

―ちょっと話膨らませすぎでしたね（笑）。でも、このキャリアは尋常じゃないですよ。

谷津 いやあ、そんなことないよぉ。

―それに新間（寿）さんから何から、皆さん絶賛してたじゃないですか、新日時代は。

谷津 あ～。ねえ。（ちなみに過激な仕掛人・新間曰く、「猪木も私も谷津には大きな期待をかけてますよ。アマレスの5年連続日本チャンピオンですよ。言うこともデカいけど、することもデカいですよ」とのことであった）

―高校時代、同じレベルの練習相手がいなくて大学まで出稽古してたとかっていうのも噂に聞きましたけど。

この3人がいずれも新日本を飛び出して、全日本のリングに上がったのもプロレスの考え方に似た部分があったからだろう。

谷津 う～ん、相手はいたんだけど、毎日毎日同じ練習相手だとマンネリ化するじゃん。だから自衛隊とか、海外に出稽古に行ったりとかもしてたね。

―谷津さんは大学を出て2年ぐらいアマレスの講師をしてたわけですよね？

谷津 う～ん。2年半ぐらいやったな。足利工業大学（栃木県）でね。

―それで三沢（光晴）選手とか川田（利明）選手との接点ができたんですか？

谷津 あの連中は付属高校の方だけどね。俺は大学だから。そのとき、ちょうど国体があってね。その栃苗国体に俺達が出たんだけど、彼らは少年の部で出たんだよ。三沢が3年生。川田が2年生。俺はその頃アマレス教えてたから、あの連中に。

―大学のアマレスと高校のアマレスは、かなりレベルが違うらしいですよね。

谷津 でも、いまはもう要するに青少年のチビッコレスリングってあるからね。そこで基礎をやっちゃってるけど、その当時はまだチビッコなんて無かったから、高校がみんなスタートで基礎作りだよな。まぁ練習量からいったら相当差があるね、高校と大学は。

―やっぱり大学になると練習も凄いんでしょうね。

谷津 いやいや、高校なんて365日、一日6時間ぐらい練習してるから。名門になるとね。だけど大学になると練習2時間ぐらいで終わっちゃうから。で、日曜は練習無しね。

―あっ、そんなもんなんですか（笑）。

谷津 だから基礎を作るには高校。基礎の応用が大学だから。朝から晩まで一貫して管理されてるのが、高校だから。大学になっちゃうと、自主的なものになって来るでしょ。コーチはいるけど。だから女に溺れちゃったり、酒に溺れちゃったりする、そんな奴がいっぱいいるわけだよ。

―谷津さんはそっち方面には行かなかったんですか（笑）？

谷津 俺は行かないよぉ（笑）。行ってても、

駄目な谷津になる！（猪木）
凄い谷津になる！（谷津）
（新日デビュー時）

そりゃ修正効くからさぁ。

—だけど、それだけのものを持った人がプロレス界に入るっていうのは、やっぱり日本のプロレス史上初だったと思うんですよね。

谷津　そのへんで自分がプロレスに入ったきっかけは、猪木さんがモントリオール・オリンピックを見て、それで谷津っていうのを買ってくれたと思うんだよね。そのとき、まだ俺は大学2年だから20歳の頃か。それから大学中退してプロレスやったらって言われてね。でも俺はアマレスずっとやってくつもりで、なおかつ後輩にコーチしていこうと思ってたから、ホントに何も考えていなかったんだよ。そのとき一つのきっかけがモスクワ・オリンピックのボイコット（80年）っていう。まあ結局、それが一つの転換期だよね。

—噂によるとオリンピックを目指して新日の3年間スカウトを断り続けたのに、それがボイコットになったから半分ヤケになってプロレス入りしたらしいですよね。

谷津　はっきり言ってそうだね、うん。だからそれは誰のせいでもないんだけどね。

—運命の悪戯ってやつですね。

谷津　そうそう。だって国に怒ったって、国なんて屁でもねえもんな。話にもなんねえよ。

—ガハハハハハ！　そりゃそうですけど、つくづく時期が悪かったですよね。

谷津　肝心なときにな（笑）。だからもうゼロからやるなんてことは、いまはなんとも思わない。昔からそういう当たりクジとかは弱かったからな（笑）。（ちなみにアマレスの世界選手権でもクジ運の悪さゆえ、強豪とばかり当たって結果が出せなかったらしい）

—いつも人生の大事な岐路で貧乏クジを引いてるようなイメージがあるんですよ（笑）

谷津　そうそうそう。まあ、そりゃしょうがないんだ。自分の人生なんだからさぁ（笑）。

—でも、ここまで波瀾万丈な人っていうのも、なかなかいないですよねえ。

谷津　（急に）協力するわ！

—あっ、有り難うございます（笑）。それでプロレス入りして、同期は高田（延彦）さんと（高野）俊二さんになるんですよね。まあ、大卒の谷津さんにしてみれば同期っていうイメージはほとんど無かったとは思うんですけど。

谷津　そうだねぇ。だけど高田、俊二の方が6ヶ月ぐらい早いだろ。彼らはまだ15歳ぐらいだしな。そういうのもあって同期っていってもキャリアが違うっていうか、職人の何っていうの？　まあ、そういう世界だよな。

—その頃、道場でのスパーリング相手っていうのは誰が多かったんですか？

谷津　スパーリングって、その頃はまだね、いまはシュートっていうかガチンコ風のプロレスもいっぱいあるけど。ガチンコプロレスって言っちゃいけないのかな？

—ガチプロですか（笑）。

谷津　そういうのが3～4団体あるでしょ。U系の団体ね。それのハシリだったわけだよな。その中で一番やってるのが藤原さんだよ。あの人が結局、若手をそういうUWFの方向に向かわせたわけだからな。

—谷津さんも道場でやったわけですか？

谷津　俺は1回だけやった。だけどバカバカしくなっちゃってよぉ（笑）。

—ガハハハハハ！　バカバカしい（笑）。

谷津　こんな子供騙しやってもしょうがないと思ってさぁ。それよりもプロレス憶える方が先だったからよぉ。

—子供騙しよりはプロレスが先、と（笑）。

谷津　だって、あの連中は1年とか8ヶ月も掛けてデビューするわけでしょ。自分の場合は入って2ヶ月、1ヶ月半でデビューだったからね。プロレスの方は遅れてる訳よ。ガチンコなんてのはいつでも出来るんだから。

—いつでも出来ますか（笑）。

谷津　っていうか、レベルが凄い低かったから。ガチンコに関してはね。だって関節技なんて立っちまえばいいんだからさぁ（笑）。タックルかわすなんて、俺は何十年もやってるんだし。

—面白いですねぇ、谷津さん（笑）。まったく新しい意見ですよ、それは。

谷津　だから、そう思うよ。今のU系の連中見てても、ヘッタクソだと思うもん！

—つまりタックル下手だなぁとか？

谷津　うん。倒すのになんであんなことするんだとかさぁ。矛盾じゃねぇかと思ってなぁ。

—だけど最近、アルティメットの影響でようやくタックルの有効性が認められてきましたよね。

谷津　まぁ、アマレスが一番強いんだよ（キッパリ）。基本だから、アマレスが。

—いちいち気持ちいいですねぇ、発言が（笑）。

谷津　だってそうじゃん。事実上そうじゃん、みんな。桜庭（和志）なんてあれだよ。あんなの、学生選手権3位だぞ。高橋（義生）だって、あれ3位だぞ。あっ、1回優勝したことあるな。あれ、みんな俺の後輩だよ。なあ。

—後輩ですよ、確かに（笑）。

谷津　藤田（和之）もそう。本田多聞もそう。みんな俺の後輩だよ。あんなもん、1分位でみんなやれるんだから（キッパリ）。

—ガハハハハハ！　さすがですね！

谷津　うん。ホントだよ。

—いや～っ、そういう夢のある話が聞きたくて、今日は来たんですよ（笑）。

谷津　あぁ、ホント？　だけど俺はでも、どっちかって言ったら、変な言い方だけどプロレスって言うのはまだその分だけね、（ウイリアム）ルスカにしたって（アントン）ヘーシンクにしたってね、坂口（征二）さんにしたって、強いって頭が自分にあるから。ショーマンって言い方おかしいけどな、プロレスってある意味では一つのエンターティナーでしょ。そこまで徹してないから、俺はいまここで追求してるだけであってさ。だけどこれだけ追求してても答えが出てこないんだもん、プロレスってのが。奥が深いわぁ。

—そんなに深いですか（笑）。

谷津　だけど、U系ってのは自分が強けりゃいいんだからさぁ、人のことなんて関係無いわけでしょ。プロレスってのは、そういうわけにはいかないわなあ。相手があって、相手をいかに活かしながら、自分が闘って勝つかということだから。ある意味では一つの、お客さんに対するアピールだから。U系はお客さん無視だろ、あれは。そうでしょ？

—はぁ。じゃあ谷津さんの強さをアピールするために、そういうお客さんを無視した方向で闘うという考えはあるんですか？

谷津　歳だろぉ、も～う。

—ガハハハハ！　そうなんですか（笑）？

谷津　だって、いまからやるんだったら、やっぱりスポンサー付けて、1年間その練習しないと。全て忘れて。だっていま俺は、SPWFっていう自分の団体を持ってるから、1年間やらなかったらこの会社潰れるよ。自分が営業から全部やらないと。だからまず無理。

—全日時代、アマチュアに1回戻って試合（昭和61年6月、全日本アマレス選手権フリ

それでしっかり優勝もして。(だが、「マスコミが大騒ぎしたけど、大会が終わったと思ったら騒ぎがパタッと止まって。何だかマスコミやアマレス側に俺がいいように利用されただけで、気が付いたら俺だけが取り残されていたという感じだなあ。もっと何かあると思っていたんだよ。たとえば協会が俺をアマレスのコーチとして認めてくれるとか」と、また も貧乏クジを引いてボヤくことになる)

谷津 あれはだから、自分で経営者じゃなかったわけだよな。いまは主催者だからさぁ。あんときにはいろんなスタッフがいたからさぁ。俺はその末端のレスラーだったわけだから。そりゃ、俺がいなくたってプロレスは成り立ってくわな。いまは、俺がいなかったら成り立ってないんだからさぁ(笑)。

——あのときの挑戦っていうのは、ホントにリスクも大きいし、凄いことだったと思うんですよ。ある意味、高田・ヒクソン戦以上の意味があったんじゃないかっていうか。

谷津 高田なんか俺から言わせれば素人だよぉ、あんなの！

——ガハハハハハ！ そうでしたか(笑)。

谷津 そうだろぉ？ だってなんにも出来ないじゃん、あんなの。あれで格闘技だって金取ってるなんて、ホント考えられないよ、俺には！ ガチンコだったらだよ。

——それに高田さんの場合は、ヒクソンに負けても言い訳が効くじゃないですか。

谷津 だから、そういう風に作ったのは、誰だよ？ マスコミだろ！ 高田、高田って作ったのは。なあっ。マスコミがみんな高田、高田ってプロレス的な観点から書いてたわけだろぉ。ガチンコは違うだろ、高田だったら。

——まあ、それはともかく(笑)。谷津さんの場合はとくに相手がアマチュアだったから、負ければホントに洒落にならなかったわけじゃないですか。そういう意味では背負ってるものが違うというか。ヒクソンに負けてもまだ十分にやり直しが効くけれども、アマチュアに負けたら言い訳ができなかったと思うんですよね。

谷津 ヒクソンなんて俺は負けない、絶対！

——ガハハハハハハ！ 負けませんか！

谷津 1年間休めば、絶対負けない自信ある。だって考えてみな。一番格闘技の強い人間ってのは、1メートル78センチから87センチの間なんだよ。なあ。それはどんな格闘技でも同じだよ。それ以上大きくなっちゃうと、小回りが利かなくなっちゃうから。足腰が弱くなっちゃう。小さいと今度はウェートで負けちゃう。そのランクが一番強いんだから。

——そういえば谷津さんは1メートル86センチですもんね。

谷津 そうだよ。それに相撲界見てみな。曙なんて腰がもたついて、こ〜んなになってんじゃん。やっぱり強いのは、そのランクに入ってくるよな。かつての大横綱とかは。アマレスもそうだよ。そのランクが一番強い。バランスと力とテクニックが一番発揮出来るのは、その間なんだよ。絶対それが強いから。で、ヒクソンは何kgなんだよ。80位だろ？

——ですね。(正確には88キロ)

谷津 80kgの選手が120kgの選手とやったら、そりゃ負けるよ。あと、向こうのテクニックさえこっちが憶えてれば、知ってれば、絶対かなわないよ。相手に勝つには好敵手の技を盗まなきゃなんないからな。自分でこうなったらこう動くとか、体で対応出来る様になるには1年間位かかる、そうなるまでに。それも何にも考えないで、ビジネスの事も考えないで。じゃないと出来ないよなぁ。

——とりあえず1年間練習できれば。

谷津 それだったら、いつでもいいよ。

——頼もしいですねぇ(笑)。

谷津 だって、そんなん俺は格闘技何10年やってんだから、ガチンコでさぁ。そんなの当然の話じゃん。それに俺はアマレスのトーナメントで勝って来たんだから。プロレスだってトーナメントもあるけど、ほとんどが1対1でさぁ。好カード、好カードの連続でしょ。それでトーナメント1日でやったら、みんな3分か4分で終わっちゃうぞ(笑)。何試合もあるんだからさ。そんなのはおかしいだろ？ プロレスはやっぱり1対1だよ。赤コーナー、青コーナーでやるもんなんだよ。

——なるほど。勉強になります。

谷津 だけどガチンコのトーナメントっていうのは、オリンピックでもなんでも、3日、4日かけてやるでしょ。体力持たないから。3日間で淘汰されていかなきゃならないから。そういう意味では、トーナメントやってるガチンコは1日じゃ厳しいなぁ。いいもん出ないわ。集中力続かないだろ。うん。

——そういえば谷津さんの海外での武勇伝で、ボブ・バックランドに「アマレスやろう」ってもちかけたら、最初は「やろう」と言ってたのに「用事がある」とか言い出してバックランドが逃げたっていう話も聞いたことがあるんですけれど。それで谷津さんは「俺の方が強いや」と思ったっていう。

谷津 ああ。まぁ、アマレスだったら負けねえよなぁ。

——シビれる発言ですねえ(笑)。

谷津 絶対負けない、俺！ だってこのタックル、俺は何10年もやってるんだよ、何10年も！ そうでしょ。倒すために何10年もやってんだよ。負けたら、何やってたってなるわなぁ。

——しかし、それが国内デビュー前の武勇伝っていうのが凄いですよね(笑)。(ちなみに谷津のデビューはレスラーなら誰もが憧れるニューヨークはMSG！ あちらでも「じいさんのようなレスラーを相手にしてきましたから、連戦連勝」だったという。さすがだ〉

「気迫が見えない」とか「覇気がない」と言われ続けてきたプロレスラー谷津。しかし、「アマレス」や「強さ」の話になると、口調は非常に熱くなる。

高田なんか素人だろ？ ヒクソンなんか 俺は負けない！

谷津　でも、やっぱり見てて分かるよなぁ。弱いとか。やっぱ強いっていうのは悲しいことに、プロレス以外のU系の連中で、これは強い、ット大会あるでしょ。「よし。俺、出よう」って言ってるのはアマレス出身ばっかりで、ある意味では船木なんてのはセコンドやってるわけだろ。日本じゃエースだけどさぁ。なんで？

――ガハハハハ！　なんで（笑）。

谷津　ねえっ（笑）。なんでセコンドやってるわけ、あいつ？

――いやあ、参謀みたいな感じですかね。

谷津　だって、あれが一番強いってランキングでなってんだったらさぁ、あいつがやるべきだよなぁ。何で高橋なんだよ。ねえっ！

――ホント面白いですねえ、谷津さん（笑）。

谷津　おかしいじゃん、そんなの。何でセコンドなんかやってんの。自分が試してみたらいいじゃんよぉ。

――一番頭がいいからセコンドやってるわけですよね、たぶん。

谷津　うん。だけど、そりゃ負けられないからやんないわけでしょ。例えば高田の場合は、桜庭が用心棒。なあ？　パンクラスの場合は、例えば高橋が用心棒ってなってるでしょ。み～んなアマレス経験者だよ。

――結局、実戦に強いのはアマレスだと。

谷津　うん。あとはガチンコが出来るかだよな。その人間を憎たらしく思えて殴れるかってことになってくるだろ。

――要するにハートの問題ですね？

谷津　そう、ハートの問題！　あとはこのへんのスピードなんか目じゃねえよな。

――ちなみに谷津さんは、ハートの方はどうなんですか？

谷津　俺は人が殴んないと、カァーッとなんないだろうなぁ。相手を殴ることもないわけだからさぁ。ねえ。ある意味では、殴らなくても勝てればいいわけでしょ。もう殴ってきたら、やっぱ殴り返さなきゃしょうがないしな（笑）。でも喧嘩じゃないわけだから。だって、喧嘩っていうのは大体30秒で終わっちゃうからね。「カァー」って来て「ガァー」ってやるじゃん。無我夢中で。30秒もしたら「ハァー、ハァー」って、これが喧嘩だよ。だから喧嘩じゃないわけだから、ある程度技が研ぎ済まされて、体力付けて上がるわけだから。そんなわけにはいかねえんだから。

――谷津さんって、なんかリング上でキレたりするようなイメージはないですよね。

谷津　だって、キレる必要はないじゃん。

――キレる必要はない（笑）。

谷津　うん。だってキレたらやればいいんだから。そりゃ、俺が強いってみんな知ってんじゃん。そんなの。

――はぁ（笑）。

谷津　だから向こうもキレてこないよ。

――なるほど（笑）。納得できました。

谷津　うん。だからそういう部分じゃないじゃん。いまのはすごく雑草のような会話だけど、プロレスはもっと芸術だから。

――猪木さんも「格闘芸術」だって言ってますもんね。

谷津　そう、プロレスは芸術。総合集大成って言うかさぁ。そういう意味では、まだシューティングとかああいうガチンコみたいな練習をしたその上が、延長が、プロレスだと思っているから。な？

――馬場さんも「シューティングを超えたものがプロレス」って言ってましたもんね。

谷津　うん。逆に言えば、シューティングとかあれは、お客さんを全く無視した闘いでしょ。それが逆にいまプロレス漬けになっちゃてるからお客さんは飽きちゃって、そっちに向かってるわけでしょ。ファンがね。プロレスの入りがみんな向こうに行っちゃってるっていうわけでしょ。もっと本物見たいと思うから。っていうことは、お客さんはプロレスに対して冷めてるって事だよな。

――結局、徐々に格闘技の方に行っちゃってるわけですからね。

谷津　行っちゃってるわけだよなぁ。じゃあ俺も向こう行くかってことになるよ（笑）。

――ガハハハハ！　行きますか（笑）！

谷津　だから、前もあったんだよ。佐山（聡）がいた頃、佐山にさぁ。

――一回挑戦をブチあげましたよね。「佐山をサンボで潰す」っていう（笑）。（86年3月、ビクトル古賀との接点からサンボの全日本大会に名乗りを上げた佐山に対し、「サンボをシューティングに化かしてしまう魂胆が見え見え。神聖なものを潰すな！」と谷津が対戦表明。結局、佐山はエキジビジョンのみの出場となる）

谷津　そうそうそう。佐山が大会に出るって言うから、なめてるからさぁ、「じゃあ、俺も出たるわ」って言ったらバックしちゃったもんなぁ。

――バックれましたか（笑）。

谷津　「佐山とやらせてみろ」「そんなにお前が強いんだったら、俺にやらせてみろ」って思ってな。でもバックするわけでしょ、やっぱり。ガチンコだったら俺は負けねえぞ！

――サンボでも勝てると（笑）。

谷津　負けない負けない負けない！

――頼もしいですね、ホントに（笑）。

谷津　だから佐山にしても、高田にしても、前田にしても、ある意味はマスコミが作った人間でしょ。最強って言って。なぁ、違う？（なお以前、谷津はUWFブーム絶頂期にも「俺がそのまま新日にいたら、ライバルは前田だっただろう。でも試合をやったら負けるわけないよ」と発言していたものであった）

――う～ん。まあ、ドラマにしやすいっていう部分はありますよね。幻想を持てるというか。

谷津　そうそうそう。モチーフ持ってるって事だよな。ある意味ではプロレスラーとしてのキャラクター持ってたから活きたわけだよな。でもガチンコは顔が崩れてたってなんだって、べつにちっちゃくたって、せ●し男でも、強けりゃいいわけだろ？

――まあ、そりゃそうですけど（笑）。

谷津　「あいつ面白い勝ち方するな」っていう。プロレスの場合は見栄えがあるからな。

――谷津さんは「アマレスは俺にとっての聖域だ」って言われてましたよね。「俺はアマレスをプロレスに利用した事はない」とか。

谷津　うん、俺はないと思う、全然。柔軟性の気持ちを持ってプロレスやってるから。

――つまり、アマレスとプロレスを完全に別物として捉えているわけですか？

谷津　別物、別物。だからそれを昨今の業界ないしまたファンがね、認めなくなって来ちゃったんだ、別モノっていうのをな。みんな関連性があると。マズい状況になってるわな。

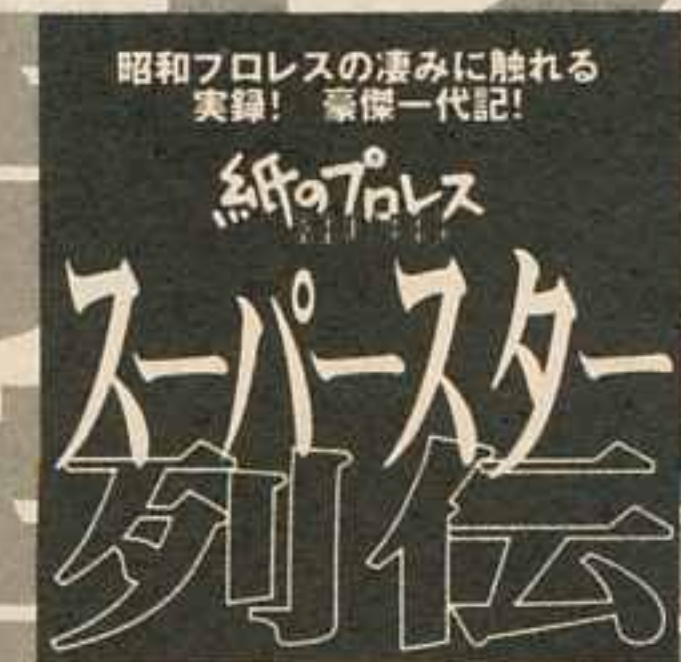
――マズいですか（笑）。

谷津　だから俺はプロレスをいま、1960年代から70年代の後半、80年位まで？　あの頃のプロレスに戻したいんだよ。

――それで、外人を呼んでるわけですよね。

谷津　そ～うそうそう！

――だけど最近のアマレス出身レスラーの特長として、水車落としとかのアマレス技をプ

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝
谷津嘉章

グレイシーよりもアマレスの方が強い！

ロレスに持ち込んで闘う人が多いですよね。

谷津 ああいうのは、だから目立ちたがりなんだよね。ああいうのは絶対強くなんないよ。

——そうですか（笑）。そういえば谷津さんの国内デビュー戦（81年6月、蔵前。猪木と組んで、S・ハンセン&A・ブッチャー組とメインで対戦という日本プロレス史上に残る大抜擢。ついでにレフェリーはユセフ・トルコ！ さらに谷津はハンセンを「白ブタ」、ブッチャーを「黒ブタ」と言い放っていたから強烈すぎる）では、完全にアマレスの技を封印してましたよね。

谷津 だって要らないもん。お荷物じゃん。

——お荷物ですか（笑）。

谷津 だって俺はプロレスをやってんだからさ。割り切んないとねえ。だからもし俺にチャンスがあって、U系とかに行くことがあれば、俺はプロレスを忘れちゃうから。（立ち上がって）こんな格好（プロレス流の構え）しないからね。こうやってやっぱやるからね。

——アマレス流の低い構えですね。

谷津 だってこんな（プロレス流の）格好して受け身を取ったらさぁ、こんだけの空間長くなんだからさぁ。こうやって（アマレス流に）倒れた方がまだ間隔短くなるだろぉ。でもプロレスでそんな事やったってしょうがないよ。身体小さく見えるだけだから。だけどシューティングの場合は、身体小さくして、的を小さくしてやんなくちゃならないからね。シューティングやった後に、またプロレスやりますってなったら、このままの（アマレス流の）状態でプロレスやることになっちゃうよ。忘れちゃうからなぁ（笑）。

——そんなプロへの徹し方が、当時じゃかなり珍しかったと思うんですけど、やっぱり猪木さんとかに結構言われたりしたんですか？

谷津 猪木さんが、84年（8月）か。パキスタン行ったじゃんよぉ、パキスタン。

——ええ。長州さんとかも行きましたよね。（このとき、長州が藤波とタッグを組まされたのが維新軍団、つまりジャパンプロレス勢離脱の発端になったという伝説の遠征）

谷津 あんときに俺、何回も言われたんだよ。「挑戦者が来てるから、谷津やってくれ」ってさ。それで「いいですよ」って俺は言ったんだから。

——そうなんですか！ 無茶苦茶いい話ですねぇ（笑）。

谷津 「いくら金くれる？」って言ったんだよ。猪木さんが「みんな、やりたがんないからよぉ」って言うから、俺は「いいっすよ」ってね。

——まるで昔の藤原さんみたいですね。

谷津 それで結局、来なかったんだよ。待ってたんだけど。非公式でやってくれっていうから。挑戦者が選んだのが長州さんだよ。そしたら長州さんが、「お前やれ！」って。

——ガハハハハハ！

谷津 「お前がやれ、お前が」ってな。

——やっぱり困った時はアマレス選手なんですかね（笑）。それなのにあの頃は小鉄さんとかにしても、谷津さんに対して「猪木さんが言う『腕を折る』という言葉の意味を掴んでいない。要するにレスラーとしての気迫が足りないんです」とか言ってたじゃないですか。ハートがないというか。

谷津 あの頃はだから、プロレスについてはさぁ、自分では新たなジャンルなわけじゃない？ だからやっぱり、身体で試合やる前に悩んでるんだよね。要するに無意識でやってるんじゃなくて、悩みながらやってるんだよ、プロレスを。ねっ？ 「どうしたらいいかなぁ。何が悪いのかなぁ」とかね。

——デビュー戦で血まみれになってるときにも、「なんでこんなことしなきゃいけないんだろう」「もうどうでもいいや」「やめたいなあ」とかって思ってたらしいですね（笑）。

谷津 だけどあれはまた一つの、自分に対するプロレスの洗礼式みたいなもんだよなぁ。アマチュアに対する決別をあそこでしたわけだから、俺は。

——要するに、輪島（大士）さんのデビュー戦（vsタイガー・ジェット・シン）みたいなもんですかね（笑）。

谷津 そうそうそう。あれはあれで自分にとって一番の思い出だもんなあ。

1981年6月24日、蔵前国技館。猪木のパートナーに抜てきされ、ハンセン&ブッチャーと対戦した谷津。血ダルマにされる谷津を猪木はなかば見殺しにした。

——あれを観た谷津さんのお父さんが「プロレス辞めろ」って言ってたらしいですね（笑）。

谷津　ガハハハハ！　まぁハッキリはわかんないけどね。ただ日本の場合は、学校の教職辞めちゃうとね、またすぐに入るってわけに行かないじゃん。辞めたら辞めっぱなしになっちゃう。ただ欧米の場合は、辞めてもその人に実力があれば、また復帰出来る。もう一回大学行けたらいいなって思ってたからね。

——つまり谷津さんは、大学に戻りたいなあと思いながらプロレスやってたってわけなんですかね（笑）。新日でデビューするとき、猪木さんに「駄目な谷津になるな」って駄洒落で言われて、谷津さんは力強く「凄い谷津になる！」って答えてたっていうのに（笑）。

谷津　凄い谷津になんなかったなぁ（しみじみ）。プロレスじゃなぁ。

——ガハハハハハハハ！　谷津さんはもともと「プロレスは簡単なものだ」っていう思いが非常に強かったらしいですよね。

谷津　プロレスってのは、簡単なものだっていうのは、外から見てた部分であってさぁ。自分でやるとやっぱり奥が深いよ、プロレスは。論文書いてるようなもんだからさぁ。

——論文ですか（笑）。

谷津　うん。だって、答えがないんだよ。これだっていう答えは誰が持ってるかっていうと、お客さんが持ってるんだから。俺たちは逆に、その答案を解答してるようなもんだよ。

——採点するのは、お客さんなんですね？

谷津　そう。お客さんなんだから。そうでしょ？　支持してくれるのは、お客さんなんだから。まだウチは支持されてないわけだから。これから、もっと支持されるようにしていかなきゃならないんだよ。それも時間をゆっくりかけてね。あせることはない。プロレスはドンドンドンドン潰れて行くから。うん。

——潰れますか（笑）。でも最近、マニア層では、SPWFが一番面白いって評判ですよ。

谷津　そうなるように必死にやってるんだから。もっともっと外人を呼んで、もっともっとメキシカンプロレスも、女子プロレスもやっていきたいんだけど、それには時間がかかるから。スポンサーがいないから。スポンサーに認めてもらうためにはね、いま今年で5年目だけど、あと2、3年はかかるわなぁ。

——その頃には答えが見つかるんですか？

谷津嘉章

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記！

紙のプロレス

スーパースター列伝

谷津　そう。見つかるんだろうねぇ。

——だけどやっぱり打って出て欲しいですねぇ、谷津さんの話を聞いてると。

谷津　どっちの方面で？

——そりゃあ、もちろん格闘技の方ですよ。

谷津　そしたら、じゃあアレだよ、御社の方でスポンサーになってくれよ（笑）。

——ガハハハハハ！　ウチはお金がこれっぽっちもないですからね（笑）。

谷津　やっぱりやるからには、ウチの連中喰わせてやんなきゃならないからな。半年で3000万は掛かるから、そりゃ難しいわな。ただ最近は、アマレス出身の世界チャンピオンとかがさぁ、ダン・スバーンとか（ドン）フライとかいるじゃん。みんなあれはアマレスだからね。あの連中がグレイシーをひっつけちゃったら、グレイシーは勝てないわけだから、絶対。だからグレイシーは最近アルティメットとか出ないじゃん、最近。

——まあ、負ける可能性がありますからね。

谷津　それで逆にターゲットを日本に持ってきてるわけだ。日本のプロレス界は、それをまたプッシュしてんだからな。「日本に来るな」とか、「マスコミも書くな」って暗黙の了解があるんだけど、グレイシーは違う方のスポンサーで来るから、どんどんどん入って来ちゃってるんだよ。それでマスコミも書かなくちゃなんないからさ。

——それで、さらにグレイシーは勝てそうな相手としかやらないわけだし。

谷津　そうそう（笑）。だからグレイシーなんてアメリカでは大体分かって来たからな、要するにスタイルが。スタイルが分かれば、そりゃアマレスの方が強いわけだよ！　だから、最近アルティメットほとんど上がんないでしょ、グレイシーが。総帥とか、長男とか、次男とかいるじゃんよぉ。ホイスとかヒクソンとか。アメリカじゃもうやんないでしょ。勝てねえぞ、アレ。

——それに日本はギャラもいいですからね。

谷津　うん。日本の方がいいし。

——相手も弱いし（笑）。

谷津　そうそう。よく分かってるじゃん（笑）。

——ガハハハハハ！

谷津　そんなもんだと思う、俺は。

——気持ちいいなぁ～（笑）。これでもし10年時代が違ってたら、谷津さんの人生も全然違ってたと思うんですけどね。

谷津　そうだよね。だけど、もし10年違ってたとして、新日本プロレスとか全日本とかにいたらね。自分のポジションっていうのがあるじゃん。プロレスラーとしてのポジション。そのポジションを捨てたくはねえな。

——そうですか（笑）。

谷津　やっぱやんないわな。今の方がある意味やれるよな、捨て身だから。だってダメもとじゃん。みんなやってんだから、プロレスラー。全日本、新日本にいてやったとしたら迷惑じゃん。俺が負けた場合は。それに負け方もあるからな。そのシューティングっていうか、ああいうストロングスタイルっていうか、U系のな。納得して負ける方と、不本意で負ける方があるわけだよな。だからその通りだと思うんだけど。なんかこんな事言っていいんかなぁ。言っちゃおうか！

——言っちゃいますか（笑）

谷津　うん。だんだんだんだん、U系がショーマンになって来てるんだよ。分かる？　ショービジネスに徹してきてるんだよ。何故かというと肉体に限度があるから。だからトップの方は、これからショービジネスに徹するぞ、絶対！

——ガハハハハハ！　絶対ですか（笑）。

谷津　間違いない（キッパリ）！

——爆弾発言ですねぇ（笑）。

谷津　自分のプライドを捨てるか、自分のプライドを捨てるって言うのは、金でするわけだよな。金を貰ってするわけでしょ。それかプライドをずっと貫くかっていったらばさ、その辺でそういったU系の連中がな、トップ

三沢、川田は俺の後輩だぞぉ 目えつぶって30秒で勝てるよ！

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝

S.P.W.Fも今年で5周年だが、現状は厳しい。谷津vsヒクソンは見たすぎる！

だよ。下の方は、ちゃんとやってんだからさ。名前持ってる奴がだよな。

――でもまあ、それは商売上しょうがないっていう面もあるんでしょうけどね。

谷津　だけど、それだったらU系よりもまだプロレスの方が面白いだろ。ハッキリ言って。

――芸術だし（笑）。

谷津　おぉ、そ〜うそうそう！　だって、ビジネスであんなのやるんだったらさぁ。まだプロレスの方が面白いだろうよ。こっちが八百長って言われるかもしれないけどさぁ（笑）。

――そうですか（笑）。

谷津　なあっ！

――しかし谷津さんの、そういった捌け方っていうのは尋常じゃなく凄いですねぇ（笑）。

谷津　だって、俺は誰にはばかることもないじゃん。お世話になってないから、誰にも。

――世話になってない（笑）。

谷津　自分で俺はやってるんだから。誰にも迷惑掛けてないから、団体にも。他の団体にも俺は行かないし。

――学生プロレスを否定するレスラーは多いですけど、谷津さんは自分のリングにだって平気であげちゃいますからね（笑）。

谷津　アレはアレで楽しいもんね。

――と、いうふうに言い切れるのは谷津さんだけですよ、絶対（笑）。

谷津　だから、俺は吉本（プロレス）入れたりもしてるじゃん。楽しい奴ドンドン入れてさぁ。だから逆にファンに支持されないか、マスコミに支持されないのか、わかんないけどな。

――ガハハハハハハ！　やっぱりマスコミが、そういう所で誤解する面もありますよね。

谷津　だから「谷津さん、そこまでやったらダメだよ」って言われるんだよなあ。

――しかしなんなんですかね、谷津さんのそういう考え方っていうのは。いままでのプロレス界には絶対にない発想ですよね（笑）。

谷津　だからまぁ、みんな楽しくやればいい事だからねぇ。だってプロレスは何でもありなんだからさぁ。流血戦だって何でもありなんだから。あとは支持されるか、されないかだけでさ。まぁ、でも最近はマスコミの力っていうのも、だんだん分れて来たんだろうけどな。まぁ、書いてもらわなくちゃいかんなぁって事もあるけどさぁ。

――一時結構、谷津さんはマスコミと緊迫したムードが流れてたこともありましたしね。

谷津　俺の頭の中では、マスコミが無かったって、お客さん適当に来るかなぁと思うんだけどな。自分の営業力で。だけどU系のいろんな団体あるじゃない、いっぱい。もしあれだったら、俺はいつでも挑戦してやってもいいんだけどなぁ。

――もう、いつなんどきでも（笑）！

谷津　取り合えず、練習試合じゃ負けねえからさあ。

――スパーリングじゃ絶対に負けない！

谷津　スパーリングじゃ負けないよ、絶対！

――夢が膨らみましたよ、今日は（笑）。

谷津　ホント、いつでもいいんだけどな。1試合ぐらいだったら。でも本格的にやるっていうなら、さっきも言ったけど1年は掛かるな。だけどその辺の兄ちゃんぐらいが出るんだったら、わけねえじゃん（キッパリ）。高橋なんてのとかよぉ。

――ガハハハハ！　名指しだ（笑）。

谷津　俺の後輩だぞぉ、あんなのお前！　7つも8つも違う後輩だよ、日大生の。多聞もそうだしよ。藤田だって俺の後輩なんだから。中西（学）だって俺の後輩だしさぁ。

――みんな後輩（笑）。こんなに面白い人だとは思いませんでしたよ、谷津さん（笑）。

谷津　いや、そうだけど。みんな後輩じゃん。基本的には。全部、俺が教えたんだからさ。何で俺が負けちゃうの？　川田だって俺の後輩なんだからさぁ。三沢だってそうなんだから。三沢、川田とも1回ガチンコでやっても、目ぇつぶって30秒で勝てるよ！

――ガハハハハハハ！

谷津　ホントだよ。こう（シュートサインを出しながら）やるんだったら。

――アマレスでやるんだったらですか？

谷津　アマレスっていうか、まぁ何でもありでいいんだったらさあ。でも、プロレスはそうはいかねえんだから、そりゃ。

――難しいわけですね？

谷津　プロレスは難しいんだよなぁ。

※時の流れの重さ感じずにはいられないボヤキと、破壊力抜群の強気な姿勢が絶妙のハーモニーを奏でる谷津インタビュー。まだまだ、こんなもんじゃ終わりませんよぉ〜。次号ではA・猪木、長州力、G・馬場、SWSをメッタ斬り。決して恵まれていたとは言えない数奇なプロレス人生をボヤキ交じりに振り返ります。さあ、読者諸君もタックルの打ち込みを練習しながら、待つべし！　待つべし！

【98年3月17日、大田区体育館にて収録】

各方面で大反響！

格闘家から見たプロレス'98

3・1修斗人気大爆発 もう対岸の火事ではすまされない

本誌認定プロレスラーNo.4
朝日昇

本誌認定プロレスラーNo.3
佐藤ルミナ

敗戦のショックでまたも欠席

シューティングの3・1後楽園大会は非常に衝撃だった。佐藤ルミナが観客を乗せ、乗せられた観客が今度はルミナを乗せてしまったのだ。こういった観客と選手のコール＆レスポンスは今までの格闘技には存在しなかった。最後は「観客に乗せられた部分もあった」（坂本一弘・修斗プロデューサー談）佐藤ルミナが逆十字で敗れてしまった。格闘技側に、プロレスファンが見ても試合に感情移入しやすい土壌が出来つつある。
現在のシューティングは、プロレスのいい部分を貪欲に吸収しようとしているようだ。プロレスとの因縁浅からぬシューティングから見たプロレスとは、果たしてどのようなものなのか？　これは、プロレスファン必読のインタビューである。

ブレーキの壊れた毒舌マシーン

朝日昇

プロレス＆格闘技界 手当たり次第にメッタ斬り！

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
撮影／戸成嘉則
photographs by Yoshinori Tonari
試合写真／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

NOBORU ASAHI

――まず、PRIDE-2を見た感想から聞きたいんですが、どうでした？

朝日 みんな強いのかもしれないけど、試合としては全っっっ然面白くなかった（キッパリ）！

――ああ、見せる気は皆無でしたよね。

朝日 あれは選手が悪いんじゃなくて、ああいう試合設定がいけないと思うな。ボクなんか寝技は分かるけど、分かってる人間でも面白くはないし。

――特に一般客は怒ってましたね。朝日さん的には佐野（友飛）選手の試合は、興味深かったんじゃないですか？

朝日 ボクはホイラーの試合の記事は、喜んで読んじゃう人間ですからね。あれは、佐野選手がよくやったなって思いました。ボクは佐野選手についてはよく分からないけれども、正直言ってもっと早く決着がつくと思ってました。それもパーフェクトに。マウントを返されるなんて一切思わなかったし。やっぱり30キロぐらいの差があると……ホイラーと佐野選手だと技術差はこんぐらい（と両手をいっぱいに広げる）あると思うんですよ。ホントの世界チャンピオンと、こう言っちゃ悪いけどプロレスの方ですよね。そういう意味で差はあるから。

――格闘技側の人はみんなそう言いますね。「思いのほか長く闘った」って。

朝日 でも、あれがグレイシーの作戦かもしれませんからね。長引けば長引くほど、グレイシーは強くなるから。

――ところで『ワールド格闘技』での発言の反響はありましたか？

朝日 別に何もないですよ。誰も読んでないのかもしれませんね。ところで、ボクはプロレスに何か言ったんでしたっけ？ 覚えてねぇや（笑）。

――ガハハハハ！ 「ニセ格闘家がはびこると、本物の格闘技が栄えない。戦ってみたいですね、最強を名乗っているプロレスラーと。」って。

朝日 それは良くないですよ。格闘技やってる人間は、みんな思ってると思うけど、大人しいから言わないだけ。それをボクみたいなのが代表して言ってるだけで。そういう話は大好きですよ（笑）。是非、聞いてください。

――もともとはプロレスファンだったんですよね？

朝日 もうメチャメチャ好きでしたね。ブッチャーの試合を見て、「プロレスはすごいなぁ～」って思いました。絶対レスラーにはなりたくないけど、プロレスの会社に入りたいと思って。

――へ？ 会社ですか？

朝日 ええ。ブッチャーにフォークで刺されるのも嫌だし、体もちっちゃいしレスラーにはなれないなと思って。

――事務員にでもなろうとしたんですか？（笑）

朝日 それでもいいと思ったんですよ。テリー・ファンクの引退試合とか見に行きましたもん。

――ダマされたと思いましたか？

朝日 い、いやぁ（苦笑）……（小声で）ダマされたな。悪いけど、今はプロレスについて、全てのことをダマされたと思いますよ。ホンッットに世界一強い格闘技だと思ってたから。猪木は世界でNO．1の人だって。「プロレスは八百長だ！」って言われても、「うるせえ、この野郎！」ってムキになったし。これはみんな一緒ですよね。

――いったい、どの辺でダマされたと思ったんですか？

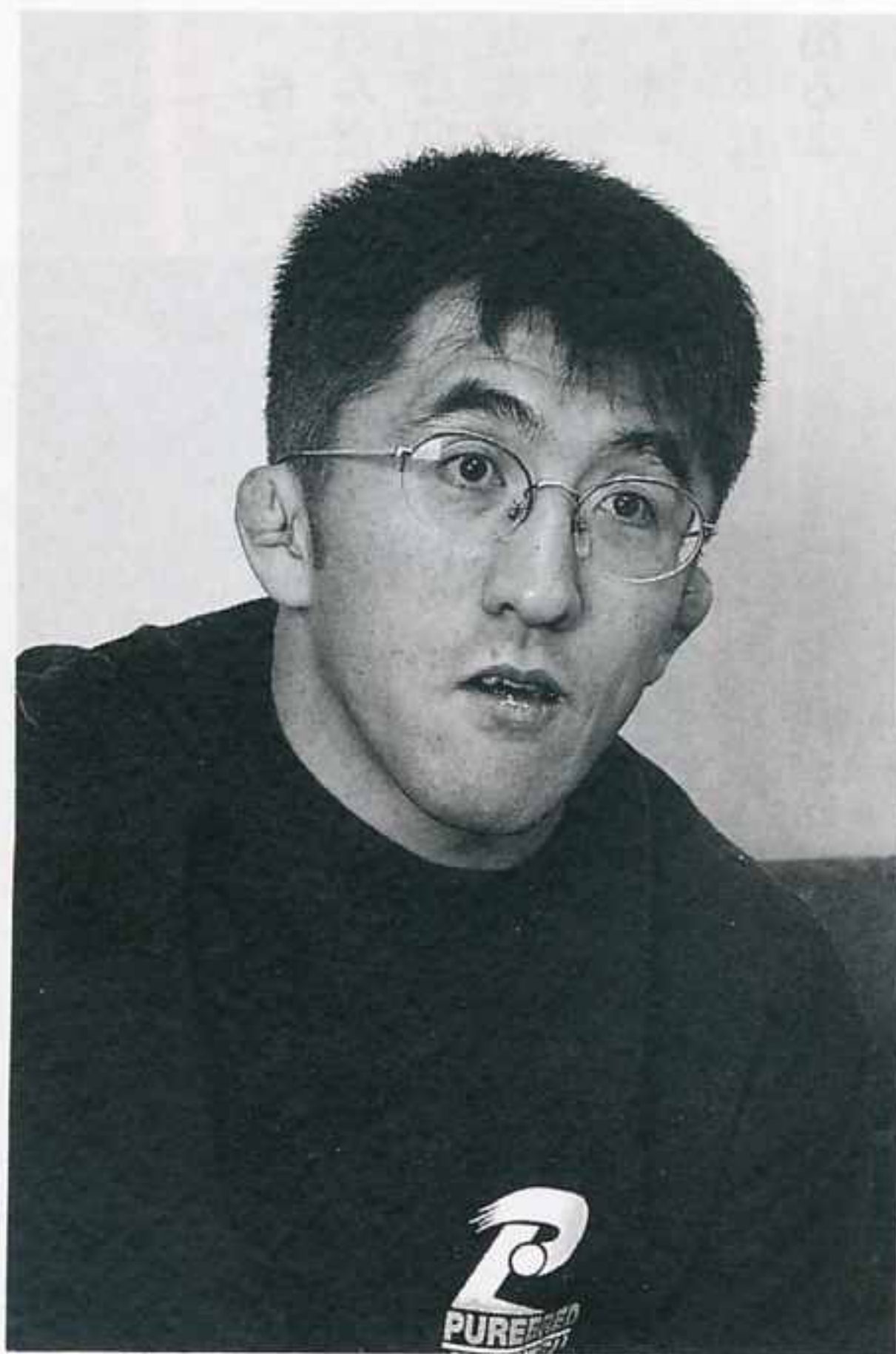
朝日 1番最初、何よりも覚えているのは、シューティングと新格闘プロレスと試合した時（94・3・11、新格闘プロレス後楽園大会）ですよね。

――あぁぁ～。

朝日 でも、あれをプロレスラーと言ったら、ホントにプロレスをやってる人に失礼かもしれないですけど。

――ボクも、それはちょっと違うような気がします（笑）。

朝日 一応、プロレスラーと名乗ってるのに、ジャブ1発で吹っ飛んでるんですよ。「この人たち、何だぁ？」と思って（笑）。でも、あれは本当にプロレスラーじゃないと思ったから。

――あれはプロレス側も、ようやくシューティングを認識したポイントですよね。あの頃はシューティングの強さが見えてなかったですからね。

さすがは初代シューター。プロレスに裏切られたという思いは非常に強いようだ。

朝日 その次はケンドー・ナガサキさんですね。

――ああ……。

朝日 悪いけど「素人だな」って思いました。自分らのやってる技術とか競技の面から見ると素人ですね。

――いくらでもプロレス側からはフォロー出来るんですよね。あの人は相撲の感覚で行っちゃっただけだから。

朝日 それにいろんなところに出稽古に行っても、グレイシーみたいに自分たちの技術がひっくり返るような人はいないなと思って。

――それがニセ格闘家発言につながっていくわけですか。

朝日 プロレスラー全部がニセとは言わないですよ。本当に格闘技の選手としてやってる選手もいると思うし。例えば桜庭さんはアルティメットでコナンと実際に闘ってボクらと同じ土俵になってますから。高阪さんもアルティメットに出てるじゃないですか？ ボクなんかが評価するのはおかしいですよね。だけど格闘技と称して、プロレスやってる人はいますよね。それはとってもいけないことですよね（笑）。詐欺ですよ！

――意外ですねぇ。朝日さんが1番キツいこと言いますね（笑）。

朝日 やっぱり詐欺は詐欺じゃないですか？ これは実際問題、裁判という形でやったらどうなるのか、ボクは知りたいですよ。アメリカでは裁判があったんですよね？

――WWFは「レスラーは確かに殴り合うが、それはもちろん演出の一種」

聞き手／
interview
撮影／戸
photograp
試合写真／
photograp

オタービオをプロレスのリングに上げたのは許せない

と言ったらしいですからね。

朝日　それは当然のことですよ。ボク、ショーとしては、すごい立派なもんだと思います。これはルミナもエンセンも言うだろうけど、4代目タイガーマスクがいいって言うのはそういうところなんですよ。4代目は、格闘技の選手としてはまったくボクの相手にならないですよ（キッパリ）。でも、ボクはトペとか出来ないから（笑）。華やかな世界だから、逆に勉強させてほしい部分もあります。

――線引きが出来るわけですよね。世間の側がシューティングと一緒に括るような団体が嫌なんですか？

朝日　「自分たちは世界で1番強いんだ」って言っておきながら、実際の勝負はしてないわけですよね？　そういうことをして、実際闘うなら闘いましょうって！　自分らは逃げも隠れもしてないじゃないですか？　ボクは逃げるかもしれないけど（笑）。よく知ったかぶりして「みんなプロレスとして、わかって見てるんだよ」って言う人はいるけど、わかってる人がドームに6万人も集まらないと思うんですよ……それをマスコミの人もそうだし、みんなまとめて詐欺ですよね。

――詐欺でしたか（笑）。こういう発言を聞くと、多分プロレスファンの半分くらいは怒るわけですよね。

朝日　でも、ボクはウソを言ってないから。それについて怒るのも自由だし、逆に賛同してくれるのも自由だし。結局、プロレス雑誌とか読んで思うのは、1冊揃ってプロレスを擁護して大きな大きな宗教団体みたいですもんね、ボクから見ると。ボクも初めは洗脳されてたクチだと思うけど（笑）。ホントに洗脳だと思うんですよ、プロレスって世界は！

――はあ、それで佐山さんが洗脳を解いちゃったんわけなんですか（笑）。朝日さんとしてはプロレスと格闘技を分けたいですか？

朝日　分けたいですよね。逆に一緒にしてもらわないと、まだ今は困るんだけど。ボクらだけだったら、そっぽ向かれると思うから。まだマニアの世界ですよね。一般の人も10人に1人が知ってるか知らないかぐらいですよね。

――それでも最近、シューティングにもプロフェッショナルな匂いが出るようになりましたよね。

朝日　そう言ってもらえるのは嬉しいです。

――昔、何度か見に行ったんですよ。でも「地味だなぁ～」っていう感想しかなくて。地味である以上、やっぱりプロレス以上にはなれないですよね。

96・7・7、ホイラー・グレイシーと対戦した奇人。5分7秒、スリーパーでタップを奪われた。試合後には、こんな素敵な4SHOTもあった。朝日は特に悔しそうだ

朝日　そうですね。それは凄く思います。だからプロレスの楽しい部分は取り入れた方がいいなと思いますもんね。それで、リングでは本当の勝負をすべきですよね。格闘技はつまんないとか言われますけど、「だったら実際に1回シューティングを見てください」って思いますよ。

――今、凄い人気ですよね。3月1日の後楽園も超満員札止めですからね。

朝日　プロレスが昔、キング・オブ・スポーツって言ってたもの、それがバーリ・トゥードだと単純に思うんですよ。そうすると今度は、プロレスは5秒間反則が許されてるとか言い出すし。だったら何でも使いましょう。はっきり言ってタダじゃ済まないですよ！　拳銃使います！　いざとなったら車でひき殺してやりますから！　地球ごとブッ潰してやりますよ！

――ザッツ・シュートですね（笑）。

朝日　ああいうは納得いかない理論だし、プロレスを妙に擁護してますよね。

――個人的には、レスラーが「最強」って名乗ることとかは凄く好きなんですよ。それによってものすごいリスクを背負うわけじゃないですか。あとは、それをいかにすり抜けるかっていう。「金にならない試合はしないというか」っていう名言もありますから（笑）。

朝日　でも、やっぱり闘わないとなぁ。頭の中に1人浮かんでくるけど、闘いなさい！（笑）

――以前、橋本さんにインタビューしたとき、凄くいいこと言ってたんですよ。K－1とかの話をしてたら「俺の

次回のシューティングの興業は5月13日（水）後楽園ホール。ミドル級王者決定戦　桜井マッハ速人vs中尾受太郎が行われる。プロレスファンはマッハに注目だ！

キックなんか下手糞や！　俺はプロレスやってるからこのキックが使えるんだ」って。
朝日　……（絶句）。見事ですよ（笑）。それを言われたら、ボクは何も言えない。それは拍手です、パチパチパチ。
──いや、あの人は本当に面白い人なんですよ。「だから、俺は絶対に自分のリングから出ん！」っていう。
朝日　ボクもその通りだと思う。でも、橋本さんも『ハンマープライス』に出るのはやめた方がいいって、たまに思いますよ。例えば、シューティングの名前のない選手がいるじゃないですか？　それに100万円で権利買わせて、そしたらどうなるかなって（笑）。
──恐ろしいことを考えますね（笑）。
朝日　悪いけど考えましたよ。だって、こっちはメジャーにならなかったら生きていけないから。生きていくためには、正直言ってプロレスは邪魔ですから！　はっきり言って目障りですよ！
──まるで前田さんがパンクラスに言ったようなセリフですね（笑）。
朝日　パンクラスやリングスは一緒に出来るんだったらやりたいですよ。

黙々とノリノリなポーズを取り続ける朝日昇。非常に堂に入っている。見事なサービス精神だ。

──じゃあ新日が邪魔なんですか？
朝日　まあ、邪魔ですよね（キッパリ）。
──あぁぁぁぁ!?
朝日　やっぱり6万人集まるんだったら、邪魔ですよね。逆に一緒に出来るんだったらやりたいですね。いい部分は欲しいし。新日があのままだったら良かったんだけど、オタービオをリングに上げたのは許せないですね。やめてほしい。
──ボクにしてみれば、あの試合はあの試合ですごく面白かったですけどね。
朝日　あの試合はオタービオと闘った大原（学）さんに失礼だと思うんですよ。ボクは挨拶ぐらいしか交わしてないですけど、あの人、ホントに一生懸命練習やって、死ぬ覚悟で練習やって、ああいう試合だったと思うんですよ。選手としては「よくやった、見事だったな」と思うけど。それをどちらかの方（要するに武藤）が、上から殴ってるじゃないですか？
──まあ、武藤選手本人もやる気はなかったでしょうからね。猪木さんの時代だったら、もっと説得力のあるやり方が出来たと思うんですよ。
朝日　ボクもプロレスラーを責める気は一切ないですから。あの人たちにも生活はあることだし。ただ、何かを変えていかなきゃならないですよ。
──そういえば以前、『ゴング格闘技』で「パンクラスは仲間だ」と発言されてましたけど。
朝日　パンクラスだけじゃないですよ！　昔、SRSに出たときも言った

んですよ。「リングスとかパンクラスとかキングダムとかバトラーツとか、総合格闘技としてやりたい皆さん、とにかく一緒にやりましょう」って言ったんですよ。そしたらものの見事にそこはカットされてて（笑）。

——ガハハハハ！ それはテレビ局的にはリングスの名前を出すなっていうことなんですかね（笑）。

朝日 ボクはリングスも何もないと思うんですよ！ 総合格闘技であれば何でもいいと思うんです！ こんな小さな世界で争ってもしょうがないじゃないですか？ ぶっちゃけた話、ショー格闘技ですよね。プロレスも総合格闘技だと思うんです。もっと面白いもんが出来ると思うんですよね。別にパンクラスだけとは限らないですよ。

——パンクラスだけじゃないと？

朝日 全然！

——そうなんですか（笑）。だけど朝日さんは「パンクラスは仲間だ」と言ってる割に、以前何かのインタビューで「寝技は怖くて、普通はパンクラスみたいには動けない」って爆弾発言してるのを読んだんですけど。

朝日 ロープエスケープやブレークやグランドでのパンチがないのは全っっ然違うから。パンクラスは昔のシューティングに近いと思うんですよね。ポジションを崩して関節を取りに行くばっかりですよね。「昔、こういうことやってたなぁ」って。逆にボクらは以前のパンクラスに近付いてます。

——シューティング側が変わってきたのはどうしてなんですか？

朝日 もともと、ボクらのコンセプトは古代ローマのパンクラチオンをスポーツにするためのものだったわけですよね？ で、バーリ・トゥードって現代のパンクラチオンだと思うんです。そこでグレイシーも取り入れたし。

——アマチュアだけでも交流したら面白いですね。アマチュア最強選手権とか。

朝日 そうですよね！ パンクラスのアマチュア大会とかあったら絶対選手を送り込みたいんですよ。プロは面倒臭いことが多いですからね。くっだらねえ！ せまい世界なのに。

——鎖国し過ぎなんですよね。絶縁宣言したりとか、すぐに訴訟したりとか。

朝日 格闘技なんだからリングの上で決着付ければいいじゃん！

——大きな敵を一緒に倒すとかね。

朝日 でも、本当の意味で大きな敵って、野球とかサッカーですよ。

——倒しますか!!（笑）

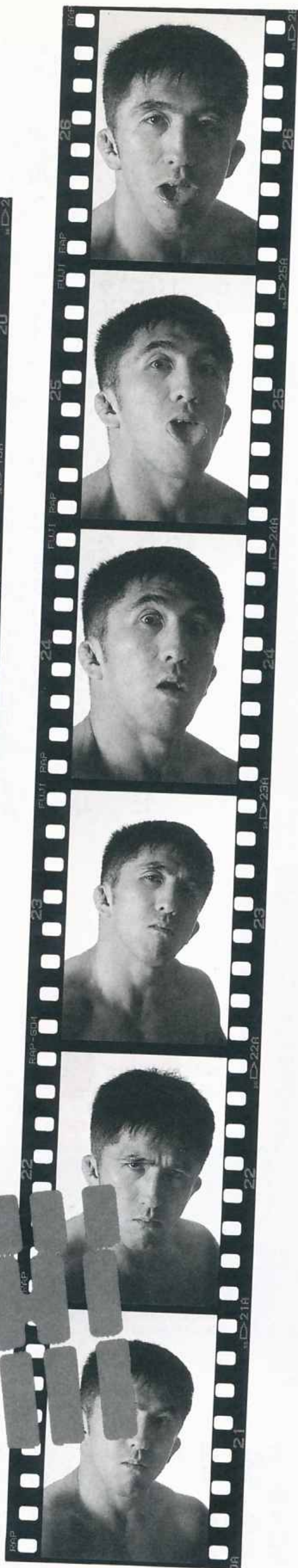
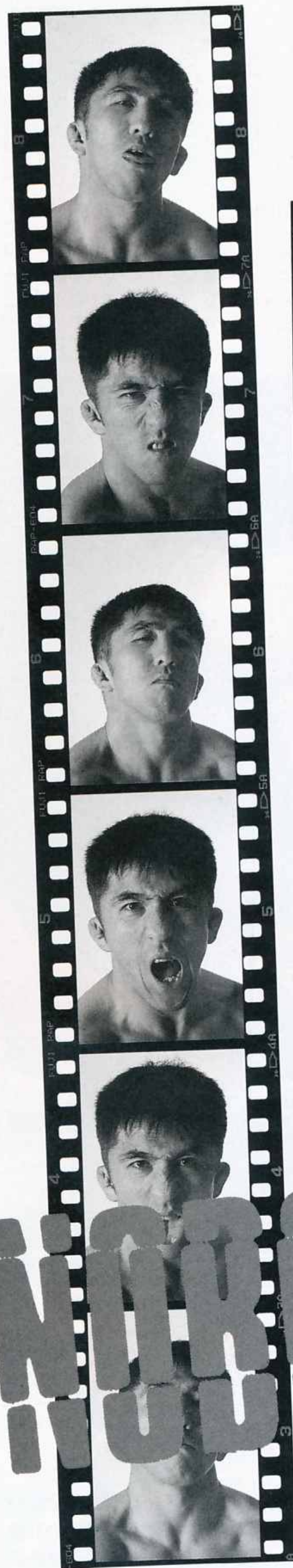
朝日 だってそれに勝てるぐらいじゃないと、本当のメジャーじゃないですよね。結局、今はセンズリこいてるのと変わらないですから。

——それで朝日さんは今度のシューティングとシュートボクシングの合同興行にも上がるわけですけど。

朝日 ボクはどこでも出ますよ！ ウエイトの限度はありますけどね。ただ、試合でボクらと最も近いなと思うことをやってるのはパンクラスですね。ボクらでも出来るんですよ。リングスにもいい選手はいっぱいいると思うし。その中でいいところはお互いに認めあってね。

——気がついたらプロレスファンがシューティングに流れちゃったりして。

朝日 でも流れちゃう可能性って、あ

扉用に撮った写真が、どれも素晴らしいので、すべて掲載してみた。今まで、このようなページをつくった記憶は、ない。

パンクラスやリングスとは できるなら一緒にやりたい

ると思うんですよ。

――実際に流れてはいるんですけど、個人的におかしいと思うのは、プロレスもシューティングも一緒に楽しめる感性があっていいはずなのに、結局壁が出来ちゃって、「シューティングとパンクラス以外は全部クズ」みたいになっちゃう人が多いですからね。もっと柔軟になってもいいと思いますけど。

朝日　確かに違いはあるけどクズとは言えないですよ。シューティング自体がプロレスから生まれたもんじゃないですか？　だって創始した人がプロレスラーだったんですよ。これは消すことはできないですよ。事実ですから。

――佐山さんがいなくなってから色が変わったようなイメージありますね。

朝日　いなくなったわけじゃなくて、ちょっと離れちゃっただけですよ。修斗協会の会長ですから。シューティングから佐山さんの名前が消えることは永遠にないですよ。いろんなことがあったかもしれないけど（笑）。何年後かには、先生も必ず戻ってくると思うんですよね。

――佐山さんが言わなくなった分、朝日さんがこうやってプロレスにいろいろ言ってるんですかね（笑）。

朝日　ボクより言ってるヤツが約1名いるんじゃないですか？

――相変わらずウチの取材申請を断り続ける佐藤ルミナさんですか？（笑）

朝日　うん（笑）。

――今は反省期に入ってるのかもしれないですけど（笑）。でも、レスラーがたまにシューティングの道場に練習しにいきますけど、あれは勇気が必要ですよね。素人に極められる可能性があるわけですから。

朝日　そうですね。パンクラスに参戦する前、TAKAみちのく選手が練習に来てたんですけど、凄いです。あの人もここに泊まり掛けで来て、最初はボコボコに極められてたけど、それでも黙々と練習続けて。真面目な人でしたよ。そのうちに「シューティングのアマチュアに出る」とか訳のわかんないこと言い出して（笑）。「それは悪いけど会社と相談してからにしてください」って言いました（笑）。

――それはビビりますよね（笑）。

朝日　嬉しいけど、あんだけ名前のある人なんだから。その後「もうちょっとやりましょう」って言ったんですよ、そしたら「WWFに行くんです！」って（笑）。

――ガハハハ、面白い人ですね。そのシャムロック並の振り幅の広さ！

朝日　あの試合の時はプロレスラーって凄いと思いましたよね。勝負度胸は凄いです。でも、失敗したんだよなぁ。

――どういうことですか？

TAKAみちのく選手は潜在能力が凄いです！

朝日　ボクが狙ってたのは10分間ドローだったんです。山宮選手はレスリングを大学でもやってた人だから、「絶対に速攻でいかれる」と思って、ガードの基本をずっと教えてたんですよ。そしたら攻めるじゃないですか！

——ガハハハハ！

朝日　「おいおいおい！」って（笑）。マウントを取るわ、首相撲いくわで、「しまったぁ～」と思って（笑）。マウント取ってからのことを教えてなかったんですよ（笑）。惜しかったなあ。7分も闘えるとは思わなかった。潜在能力が凄いですよ！　ウチのジムに入らないかな。WWFからここに入ったらメチャクチャ面白いですよね（笑）。

——そうですね（笑）。どんどんプロレスのいいとこ取りしていくべきですよ。やっぱり、エンセン選手が入ってからだいぶ変わりましたもんね。

朝日　そうですね。あいつがいなかったらシューティングはここまでになってないです。以前シューティングやってた人って、まだこだわりがあるんじゃないかな。「打・投・極がどうのこうの」とか、いつまでチンチクリンなこと言ってんだよ！

——ガハハハハ！　この勢いを止めずに暴走してほしいですね。

朝日　大した勢いでもないですよ。安室奈美恵から見たら、まだ全然じゃないですか？

——でも格闘技界では十分な勢いですよ。正直な話、今は後楽園ホールをソールドアウト出来るプロレス団体は少ないですから。

朝日　次の目標は、おネエちゃんと密会してるところを見つかって、誰かがフライデーに載ることですよ。

——まずはアイドル食いですね。

朝日　でもアイドルは逃げちゃいますからね。お笑いの人は寄ってくるけど（笑）。かわいいおネエちゃんはルミナとエンセンに行っちゃうし（笑）。

【98年3月23日、ゆの郷・シューティングジム大宮にて収録】

98年1月17日の大会で、1年半振りに復帰。アマレスの五輪銀メダリストをまったくよせつけずに完勝。試合後「パンクラスさん一緒にやりましょう」と訴えた。

Yuhi Sano

ホイラー戦は相手に合わせせながら勝ちたかった

聞き手／"Show"大谷泰顕
Interview by "Show"Yasuaki Otani
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

高田道場の威信をかけてグレイシー狩りに臨んだ男
そして
プロレス界の道しるべとなる男

佐野友飛

佐野友飛——昭和59年3月3日、新日本プロレスの後楽園大会、対仲野信市戦でデビュー。若手時代には、同期の獣神サンダーライガーと幾多の「Jr.版名勝負数え歌」を展開した。やがて、佐野はマット界に巨大な資本金と斬新なシステムを持って乗り込んできたSWSに移籍する。その後は藤原組にも積極的に参戦し、UWFスタイルと従来通りのプロレススタイルをどちらもこなしてきた。SWSの崩壊後はUWFインターナショナルに移籍。キングダムを経て、今春、高田延彦が設立した「高田道場」に所属を移している。

何事もそつなくこなし、プロレス界という荒波を難なくくぐり抜けてきたという印象のある佐野だが、それは逆に強烈な印象に欠けるという側面も合わせ持つ。佐野本人にしても、寡黙、無口、大人しいといったイメージだけが先行して、その実像はじつに掴みにくいキャラクターである。それが、バーリ・トゥード・ルールでヒクソンの実弟ホイラー・グレイシーと闘うことなり、俄然注目を集めた。昭和の新日道場出身の佐野には「プロレス」という確かなバックボーンがあることをファンも知っているのだ。なにしろ当日のパンフの佐野の肩書きは「ザ・プロレスラー」である。

3月15日『PRIDE.2』では高田の雪辱戦とばかりに、ヒクソンの実弟・ホイラーに挑んだ。が、最後は見事な逆十字でタップ・アウト。健闘はしたが顔面をボコボコにされ、何度かいい体勢には持ち込んだものの、結局は30キロ軽い男に30分以上闘って敗れ去った佐野。この敗戦のショックはあまりに大きい。この敗戦の意味そして原因を佐野に聞かねばなるまい。はたして、佐野とはどういう男なのか。我々もしっかり知る必要がある。

高田さんと殴り合って「ほら、仲がいいでしょ?」って

——まず最初に、いまの佐野さんにはホイラーのことを聞かなきゃいけないとは思うんですけど、あえて新日本プロレス時代の話から歴史を辿って聞きたいんです。佐野さんの同期には獣神サンダーライガー選手がいますよね。

佐野 同期は彼だけになっちゃいましたね。当時は高田（延彦）さんもいましたし、前田（日明）さんも、当時はまだ海外から帰ってきたばっかりでね。道場生活のなかでいえば、厳しい最後の時代だったと思うんですよね。

——やっぱり練習はものすごく厳しいわけですか？

佐野 いや、練習を厳しいと思ったことはそんなにないですね。

——えっ!? みなさん「厳しかった」って言いますよね。

佐野 確かに厳しかったんでしょうし、次の日に起きるのは嫌でした。でも、なんとかなるかなって。ただ、スパーリングでは、ボロ雑巾のように鍛えられましたね。

——佐野さんは「柔道2段」って聞きましたけど、それだけの強さをもってしてもボロ雑巾にされちゃうわけですか。

佐野 なかには（佐野の寝技が）通用した人もいましたけどね（笑）。現在の新日本には（その人物は）いません。

——じゃあ、他団体には、まだいる？

佐野 他の団体には……いるかもしれないです（笑）。

——やっぱり当時は、藤原喜明さんがズバ抜けて強かったんですか？

佐野 そうですね。藤原さん、猪木さん、藤波さん、高田さん。

——荒川真（ドン荒川）さんは？

佐野 相撲というか立ち技は強かったけど、寝技に関していえば、抑え込むだけだったんで、乗っかられても嫌ではなかったですね。じっとしてるっていうか。

——じゃあ「ホントこの人とは絶対にやりたくない！」というぐらい嫌だったのは誰ですか？

佐野 高田さん、藤原さんは嫌でしたね。やっぱり、すぐ極められますから。乗っかってガッチリ抑えながら、ゆっくり攻めてくれる人は、まだ気持ち的に楽なんですよね。藤原さん、高田さんはあちこち、いろんなカタチで休む間もなく極めてきますから。

——次の日は歩けないぐらいに、体のあちこちが痛かったりするわけですか？

佐野 いや、歩けないことはないですけど、当時、高田さんなんかは若いから力が有り余って、歯止めが効かないわけですよ。ボキッと（笑）。

——うわあ、捻挫ですか！ それが毎日っていうのもすごい世界だよなぁ。その頃って、すぐ上には後藤達俊さんもいたでしょう。

佐野 後藤さんは怖くはなかったですね。ただ、酒を飲むと刃物を持って暴れたりするんで、それは「勘弁してよ」って感じでしたね（笑）。

佐野友飛

Yuhi Sano

——佐野さんは酒を飲んで、そこまで暴れたりしなかったんですか?

佐野　そこまではいかない。ただ、量的には、ずいぶん鍛えられましたね。僕の場合は、飲んでも「あんまり変わらない」って言われますよ。他の人がすごいですから。高田さんも変わっちゃうし。

——相当に豪快だって聞きますよね。

佐野　量よりも癖がね（苦笑）。

——じゃあ、酒が入ると裸踊りなんかもしたわけですか?

佐野　それ、前田さんね。顔に落書きするペイントとか、それこそ下の毛を剃ったりとか（笑）。

——で、当然ですけど、下の弟子が入ってくると違ってきますよね。

佐野　次の年は多かったですよね。橋本（真也）とか船木（誠勝）とか、有望なのが入ってきたから。で、少し余裕が出てきたところを前田さん辺りにガツーン!! とやられるんですよ。当時、前田さんは、帰国して来てからも、まだ寮に住んでたんですよ。その頃、僕と前田さんは同部屋でした。だから早く一人暮らしをしてくれないかと思ってましたね（笑）。

——前田さんが同部屋じゃあ、気を遣いますよね。

佐野　早起きだしね。僕らが掃除をする前に起きてるんで、嫌でした。当時、前田さんは24歳くらいでしたけど、僕らからすれば年上なんで、年寄りの早起きは嫌だなあと（笑）。

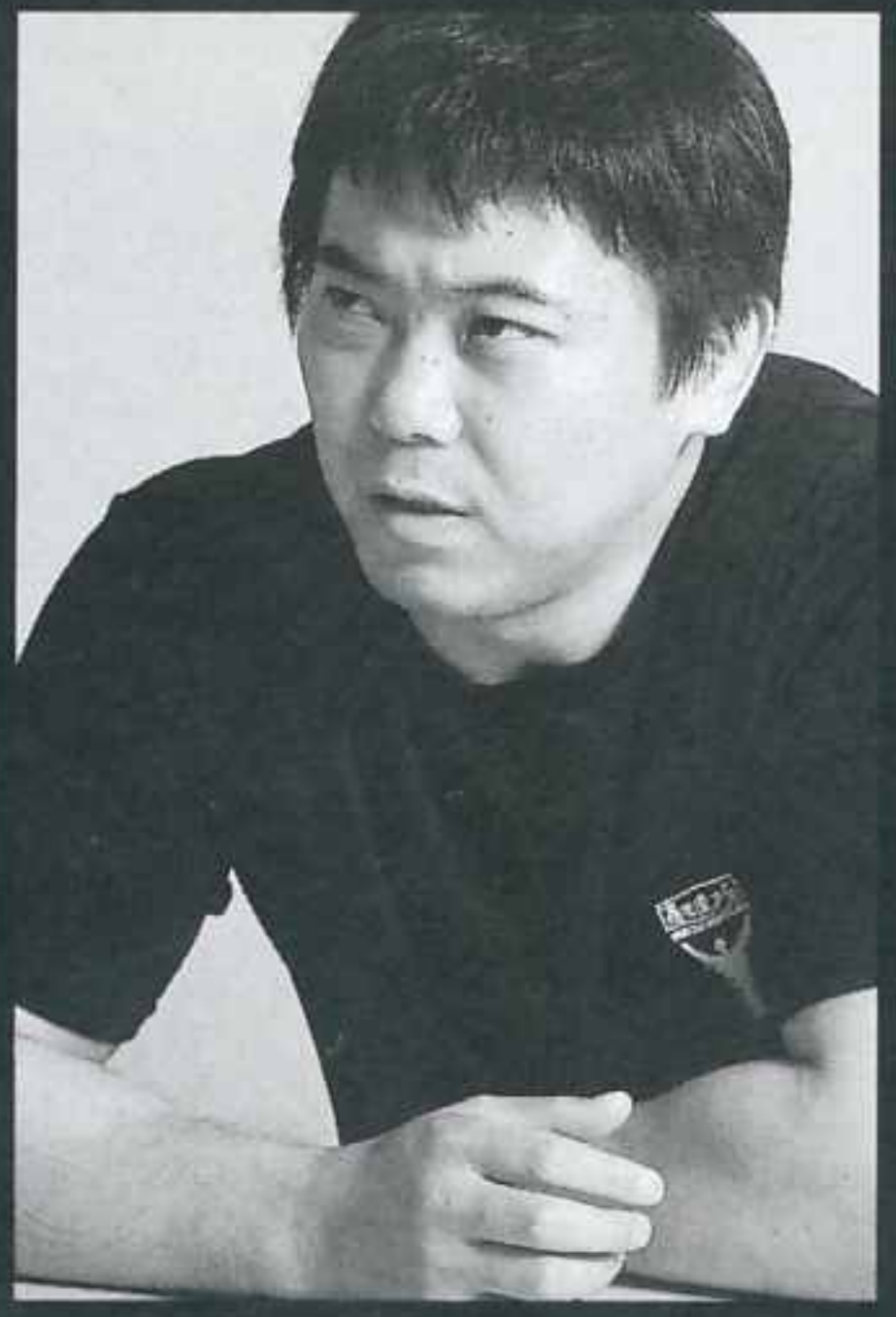
——やっぱり一癖二癖ある方でないと残れないと思うんですよね。当時の昭和・新日本にはトンパチな方も多かったでしょう。

佐野　いやもう新弟子へのイタズラはライガーが一番好きでしたね。それで何人辞めたのかわかんないよ。

——どういうイタズラですか?

佐野　いやもう活字にしちゃいけないようなイタズラ（笑）。

——え?　どんなのですか?

佐野　ボロボロになった新弟子を水のいっぱい入ったフロ釜に入れて蓋をしちゃうとかね。

——すごい話だ!!

佐野　あとは、全裸にして包帯をグルグル巻きにして、目黒学園の前まで連れて行って、そのまま置いてきちゃうとか。包帯がとれたら全裸だからね（笑）。

——いやでもね、そういうことを超えてこないと佐野さんみたいにはなれないわけじゃないですか。まあ、なかには脱落しちゃう人もいるんでしょうけど。

佐野　いやいや、僕はそれはやられてないですから。やられるタイプの人は残らないですよね。イジメられれっ子っていうか、そういうタイプの人は残ってないです。どこに行ってもそういうことはあるんだけど、それをうまくバネにして他の世界でやっていればいいですけどね。

——なるほど。佐野さんが入った頃の新日本道場には、時々、カール・ゴッチさんもコーチとして来てたんですよね。

佐野　ゴッチさんが来てる時は練習はそんなにキツくはないんですよね。テクニック論が多いんで。時間は長いんですけど、順番でやってたからね。けっこう、僕らにしてみたら、いい息抜きになりましたよね。

——ええっ！　それは意外ですね！　ゴッチさんが息抜き!?

佐野　体力的な面でいえばね。精神的にはゴッチさんが来てるからっていう緊張感はありましたよ。バーベルを使わないトレーニング方法を教わったりして、勉強になりました。

——それから佐野さんの青春時代の話でこれだけは聞いておきたいっていうことがあるんですよ。当時、六本木で高田さんと、いきなり殴り合いをはじめて、警察まで来ちゃった事件があったらしいんですけど。

佐野　いきなりじゃないですよ。

——でも、「殴り合ったのに理由はなかった」とか。

佐野　いや、あったのかもしれない……。

——やっぱりあったんですか（笑）。

佐野友飛

極めっこだけならホイラーに取られるわけがない

Sano

佐野　かなり酔っ払ってましたからね。

――そんなに、すさまじい大ゲンカだったんですか？

佐野　単なる殴り合いです（笑）。

――でも、警察まで来ちゃったんですよね？

佐野　一発いいのをもらっちゃって、鼻血が出て、血だるまになっちゃったから。鼻のここら辺（鼻筋）が切れて、まだ跡が残ってますよ。

――うわっ、ホントだ。聞いたところでは「警察が来たから、『いや、僕らは仲がいいんです』って、さらにお互い殴り合って、『ほら仲がいいでしょ？』って言ってタクシーで逃げた」とか（笑）。

佐野　そうそう。

――ＵＷＦ軍団が新日本から離脱した当時は、高田さんと旧ＵＷＦに行こうとは思わなかったんですか？

佐野　それはなかったですね。橋本は迷ってたようですけど。カバンに荷物を詰めてましたからね。

――そうなんですか!?　変な話ですけど、当時の維新軍団が離脱した日には、橋本さんは荒川さんといっしょにソープランドに行ってたって話を読んだことがあるんですけど。

佐野　ホント？

――佐野さんは、そんなことはなかったんですか？

佐野　ない……ことにしときましょう（笑）。

――その数年後、橋本さんをソープに連れていった荒川さんと佐野さんは、新日本からＳＷＳに移籍することになるんですけど。

佐野　あの頃、ＳＷＳっていうと「お金」っていうイメージもあったけど、そんなに変わらなかったからね。どっちかっていうと、いまのほうがお金はほしいくらいだよね（笑）。

――あ、ほしい（笑）。ＳＷＳでは、いっしょに練習していて強かったのは誰ですか？

佐野　北尾（光覇）は力が強かったね。

――北尾さんとＳＷＳっていうと、やっぱり強烈に記憶に残っている事件というのは「八百長」発言なんですけどね。

佐野　あの時はもうねえ？　どうなったんでしたっけ？（笑）

――はい（笑）。で、あの頃はなぜ佐野さんだけが唯一、船木さんや鈴木みのるさんがいた頃の藤原組に参戦してたんですか？

佐野　僕の場合は希望を出していたからね。ただ他のヤツも、やろうと思えばみんなやれたと思うけどね。

――当時は、いわゆるＵ系プロレスと従来のプロレスの両方がやりたかったんですか？　二足のワラジというか両方を並行してやっていきたいと。

佐野　いや、外側から見れば、二足のワラジに見えるのかもしれないけど、当時は、どこでも行けるっていうのと、どこの団体のレスラーでも上がれる場所があればいいなって思ってたよね。それがいまはあるって言えばあるけど。

――当時は鈴木さんとアポロ菅原さんの何とも言えない試合もあったじゃないですか。

佐野　まあ、ああなっちゃうともう団体云々よりも個人だよね。個人、個人の闘い方があまりにも違うとうまくいかないから。

――その当時はバブルが全盛の時期でしたよね？

佐野　そうねえ（と、満面の笑み）。

――車一台をポンと買ってもらったなんて、夢のある話はなかったんですか？

佐野　僕はなかったけど、そういう人もいましたねえ。

――やっぱり当時、ＳＷＳのスポンサーだったメガネスーパーの田中八郎社長が１００万円をポンとくれたりとか、そういう夢のある話がマット界にもあったんですよね？

佐野　あったかな!?（笑）

――いやいや、いまそういう景気のいい話をあまりにも聞かないじゃないですか。夢のある時代の話を是非とも聞きたいんですよ。

佐野　確かにあの頃は、一晩に１００万円くらいは飲んだこともあったけど、そのくらいですよ。

――そのくらいって（笑）。十分豪快な話じゃないですか！

佐野　それに当時、なぜかＵＷＦインターナショナル勢とも仲がよくなってしまってね。宮戸（優光）とも仲がよかったし、高田さんともいっしょに飲む機会が多かったんですよね。だから当然、行く店も似通ってくるし。高い店でねえ（笑）。それより、ＳＷＳの時は宿泊するホテルがよかったね。それまでのシングルベッドがダブルになったし（笑）。

――ＳＷＳが事実上の崩壊になった時に、ほとんど常連といった感じで参戦していた藤原組に行こうとは思わなかったんですか？

佐野　思わなかったね。「どう？」って話はあったけど、その前にそこにいることが疲れちゃってね。ちょっとしたことでモメるから。リング上で道場別に分かれてるぶんにはいいんだけど、変な派閥になってたしね。

――当時は、取材拒否云々でもモメてましたよね。

佐野　うーん、僕は「そんなことでモメなくたっていいのに」って思ってましたけどね。「雑誌に載らなくなっちゃうのかよぉ〜」って。

—で、その後は、飲み仲間だったUインター勢が、今度は仕事仲間になっていくわけですけど、Uインターの道場は、佐野さんにとって、どう感じましたか？

佐野　SWSよりはピリピリしてましたよね。昔の新日本のような緊張感があった。リング上も藤原組でやってたこととそんなに変わらなかったし。

—僕は宮戸さんがいた頃のUインターは好きだったんですよ。バービックが試合放棄しちゃったり、北尾が突然やってきたり、一億円積んで記者会見やったりしてた、あのハチャメチャさ加減が（笑）。

佐野　それが売りだったからね。話題づくりはうまかった。ただ、あんだけ提供してると、次に探すのは大変ですよね。確かに（宮戸は）アイディアはあったんだけど、みんなをまとめる力がなかったから。それに最後はホントにハチャメチャになっちゃったからねえ（笑）。

（上）序盤の攻防について、ホイラーは「佐野選手を尊敬しているのでパンチは使わなかった」と発言。
（中）打撃を解禁したホイラーの攻撃に、佐野の顔はボコボコに。
（下）最後は逆十字でタップ。ヒクソンはこの試合を「柔術の最高のデモンストレーションだった」と評した。コメント技術は冬木とタメを張れる。
○ホイラー・グレイシー（腕ひしぎ十字固め　33分14秒）佐野友飛●

Yuhi

—ただ佐野さんとしては、宮戸さんとは昔から仲がよかったわけですよね。Uインターの最後のほうは佐野さん的には複雑な心境だったんじゃないですか？

佐野　当時から仕事は仕事で一線を引いてましたから。だからって別に「知らないよ」ってことはないけども。

—で、去年はキングダムですよね。

佐野　いまもやってるんですか？

—一応、興行会社として続けていくそうですけど。

佐野　へぇ〜。

—では、肝心な話に入りたいと思います。3月15日『PRIDE．2』のホイラー・グレイシー戦は非常に残念でしたね。

佐野　そうですねえ、結果は悪かったかもしれないけれど、これからのことを考えれば、いい時期にやったかなと。

—いい時期ですか。

佐野　でも結果を出さなきゃいけなかったんですけどね（苦笑）。まあ、プロレスを背負ってやったっていうのもあるけど、一個人でやった部分もあるし。期待を裏切ってしまったのは、やっぱり納得がいかないけど、それ以上に自分のものになるものが多かったですね。

—試合後のコメントでは「足を狙った」と言ってましたよね。

佐野　体重差があったわけですから、とりあえず乗っかれば楽に極められるわけでね。でも、相手のうまさもあって乗っかれなかった。

—ホイラーはなにが一番うまかったですか？

佐野　やっぱり戦術だね。ああいうルールのなかで闘う戦術がうまい。

—佐野さんのなかでは、いままでやってきたプロレスのルールと、バーリ・トゥードは、まったく違うものなんですか？

佐野　まったく違うってことはないですよね。ただ、対戦する相手が変わってくるだけでね。ルール的にはそんなに変わりはないです。

—佐野さんからすると、いわゆるゴッチイズムの「セメント」の技術ではバーリ・トゥードを攻略するのは難し

戦法さえ間違えなければまだまだ闘えたしね

Yuhi Sano

いと思いますか?

佐野　いえいえ、難しいことはないですよ。それでも大丈夫なんだけど、戦略がないとね。相手に対して闘う戦法を変えていかないと。戦法を間違ってしまうと勝てないし。

――じゃあ、佐野さんとしては普段とは何の違和感もなくあのリングに上がれましたか?

佐野　違和感はなかったよね。むしろ、普段よりもリラックスしてたし。周りがどう思うかはわからないけど、自分としては自然な感じでした。ただ、戦法があれではダメだっただけでね。

――僕は「プロレス幻想」が入った人間だから、ホイラー選手のパンチを佐野さんがあえて顔面で受けていたと勝手に解釈してしまうんですよ。高田さんが「佐野は、熱くなっちゃって、『打ってこい』という気迫でもって顔面でパンチを受けちゃって、視界が塞がったのが敗因」と試合後の会見で言ってたんですけど。それも一種の「プロレスラーの凄み」だなって思ってしまったんですよね。一般人にはマネ出来ない闘い方ですから。

佐野　ただ、結果を出さないとね。なかなかあの一族と闘えるチャンスも巡って来ないだろうなって気持ちもあったから。

――闘いたくても闘えない選手は多いですからね。

佐野　あのくらいの体重で、普通に関節技の取り合いをしただけだったら、取られるわけがないですからね。それに、ある意味では相手に合わせて闘ってみたいっていう部分もあったし、合わせながら勝ちたいなっていうのもあったから。

――そういう言葉を聞くと、余裕があったようにも聞こえますよね。

佐野　でも、間違いだったね（苦笑）。相手を倒すための戦法じゃなかった。

――相手のペースに乗った上で勝つつもりが、計算が狂ってしまったということですか?。

佐野　それが間違いの源でしたね。極めっこだけやったら、取られるわけがないですから。下になって上からのパンチで目が見えなくなって、足を取ろうとしたら逆に取られてね。やっぱり戦法の立て方の間違いですよね。

――ホイラー選手と闘ったことのあるシューティングの朝日昇選手に、今号でインタビューをしたら、「思ったよりも長く闘っていたし、まさかマウントを返すと思っていなかった」って言っていたらしいんですよね。

佐野　彼の持っているプロレスラー像がそうなだけで、他のことは全く知らないわけですからね。確かにそういう意見も出てくるだろうけどもね。

――まあ、朝日選手自身がホイラー選手とやった時（96・7・7バーリ・トゥード・ジャパン96　NKホール）には5分くらいで負けてしまってるんですけどね。

佐野　でしょ? 自分がそうだったから、よっぽど相手が強いと思っていたわけでしょ? 彼が持っているプロレスラー像は、レベルは低いわけだから、自分よりも長く闘われておかしいなって思ってるんですよ。きっと自分がホイラーと闘った時は、すごい選手と闘ったって思っていると思うんですよ。僕はそうじゃないですからね。

――ほお!

佐野　ホイラーの実力はあったと思うけど、戦法を間違って負けたわけですから。まあ、それでも、確かにあんなちっちゃい選手に負けて悔しいですけどね。ただ、なんていうんだろう、悔しいけれども、戦法さえ間違ってなければまだまだ闘えたしね。準備期間も、もう少しあればね。練習も2週間しかなかったし、痛めていたヒジも完治してない状態だったしね。息が上がるスタミナっていうよりも、体のスタミナが30分以上、闘えなかったよね。

――じゃあ、2週間の準備期間にしてはよくやれたほうですか?

佐野　勝たなきゃいけなかった勝負だから、そういうことも言ってられないですけどね。「戦法を間違った」なんて、これからはそういう台詞を吐かないような闘いをしたいですよね。もっと厳しくいかないと。

――もし、やれるならホイラー選手と、もう一度やってリベンジしたいと思いますか?

佐野　う〜ん、それに関してはいっていいのか悪いのかねえ。

――大丈夫でしょう!!

佐野　ねえ?

――その前にキモ選手と『PRIDE.3』でやることは、ほぼ決定したと聞いてるんですけど、キモ選手っていうと、リングスの高阪剛選手がアルティメット大会で判定勝ちしてますよね。

佐野　だから、今度はそれ以上の闘いをやって勝たないといけないよね。もちろん、判定じゃなく極めるなら極める、KOするならKOするっていう闘いをしていかないと。

――確かに、佐野さんがキングダム時代に、唐突にマイクを使って「キモと闘いたい」ってリング上でアピールした時にはビックリしました。

佐野　やっぱりクラッシャー・バンバン・ビガロとキモがやった時（96・11・17、U―JAPANのリングで）

の姿を見ていて悔しかったからね。それはビガロが負けたからっていうよりも、キモがタフだなあと思ってね。

――ボコボコになってましたよね。

佐野 Uインター（96・8・17、神宮球場大会）にもキモは上がったけど、結局は負けたまんまですから。誰かがやらなきゃいけないなと思ったし。生かしちゃおけないなって思ったよね（とニヤリ）。

――まあ、主催者側からするとプロレスラーの知名度を使えばそれなりの観客数は見込めますからね。ただ、見る側からすれば勝ってほしいし、ボコボコになって負ける姿は絶対見たくないですもん。まあ、いつでも見る側はワガママなんですけどね。

佐野 見てる側とやる側は違うからねえ。ただ、やる側は見てる側の思っているようにしなくちゃいけないしね。まあ毎回、完璧にできれば文句はないんだけどね。

――それでも、見る側の意見とすれば、去年、高田vsヒクソン戦がありましたけど、あの日の東京ドームには当時のUインターの選手が勢揃いしていて、見ていて単純に嬉しかったんですよね。宮戸さんがいて、田村（潔司）さんがいて、Uインターが甦ってくれって真剣に思いましたもん。

佐野 僕もみんなが集まれたことは嬉しかったですねえ。少しでも高田さんの力になりたかったしね。みんなの気持ちが高田さんにも伝わったと思うんだけれど、結果的にはねえ……。

――それでも、今年の10月11日の再戦がありますから。高田さんもキングダムから離れて、高田道場を開いたわけですけど、最近、U系といわれている団体の動きが活発ですよね。そのなかで、去年リングスとパンクラスがああいう形でモメました。これについて、あえてリングスでもパンクラスでもない中立の立場にいる佐野さんに聞きたいと思います。佐野さんといえば、過去に前田さんとも船木さんとも接点があったわけですけど、ああいう姿を見ると、佐野さんはどう思うわけですか？

佐野 まあね、そんなに争わなくても似たようなルールでやってるんだから。

3月にオープンした高田道場で、佐野は指導員を担当。いろいろな団体を渡り歩いた佐野だが、常に時代の先端を走る団体に身を置いている。

いい意味で交流できれば一番いいんだけどね。ただ、やっぱりこういう世界は閉鎖的だからね。誰でもそうだけど、自分の団体がかわいくてしょうがないし、みんなで肩を並べて、みんなで盛り上げていこうっていうふうにしていかないと、これからはダメだと思う。

――元は同じ新日本なわけだから交われないはずがないんだけど、結局はダメだったわけですもんね。

佐野 船木なんかのところでも新しいことをやってると、自分たちでは思っているんだろうけど、体質的には古い体質のままやってるようだし。

――えっ、古い体質っていうのはパンクラスの「鎖国政策」っていう意味ですか？

佐野 うん。多少は広げてるかもしれないけれども、やっぱりもっと広げていかなくちゃいけないような気がするよね。まあ、単に会社同士では難しいでしょうね。ちゃんとした立場の人に間に入ってもらわないとうまくいかないでしょう。利益が絡んでくるし、土台の存続もかかってくるから、これからはそういうのをなしにしてやれる状況が出てくれば、もっといい世界になるんだろうけどねえ。それだけのデカイ人が出てきてくれりゃあね。まあ、自分たちもそういう人を探さなきゃいけないんだけれども。

――いまこそ田中社長のような方にいてもらいたいですよね。

佐野 うん、失敗しないようにうまくね。確かに悪い時代かもしれないけど、チャンスはいっぱいあるよね。

――そういえば、去年は全日本にも上がりましたけど、いままで佐野さんが経験してきたプロレスとは違いました？

佐野 うーん、確かにマットが少し柔らかくて、足場がちょっと違ったけど、基本的に試合はそんなに違わないんじゃないですかね。もしかしたら（全日本が佐野に合わせて）変えてきたのかもわかんないけどね。逆に、いまの新日本のほうが変わったなっていうイメージは強いから。

――えっ、どういう点で？

佐野 普段、テレビで見ててね。ちょっと違うなって感じるよね。いまの全日本のほうが昔の新日本っぽいところはあるよね。

――今年は新生UWFでデビューしたカッキー（垣原賢人）でさえ全日本に出てますけど、Uと全日本は水と油というわけでもなかったんですかね。10年前には考えられなかったですけどね。

佐野 思ってるほどはないと思いますよ。

――いやあ、そう考えると、佐野さんはマット界の右から左まで、ほとんどやってきてる、ものすごく器用な方ですよね。

佐野 いやいや、人間的には、かなり不器用だと思いますけどね（笑）。

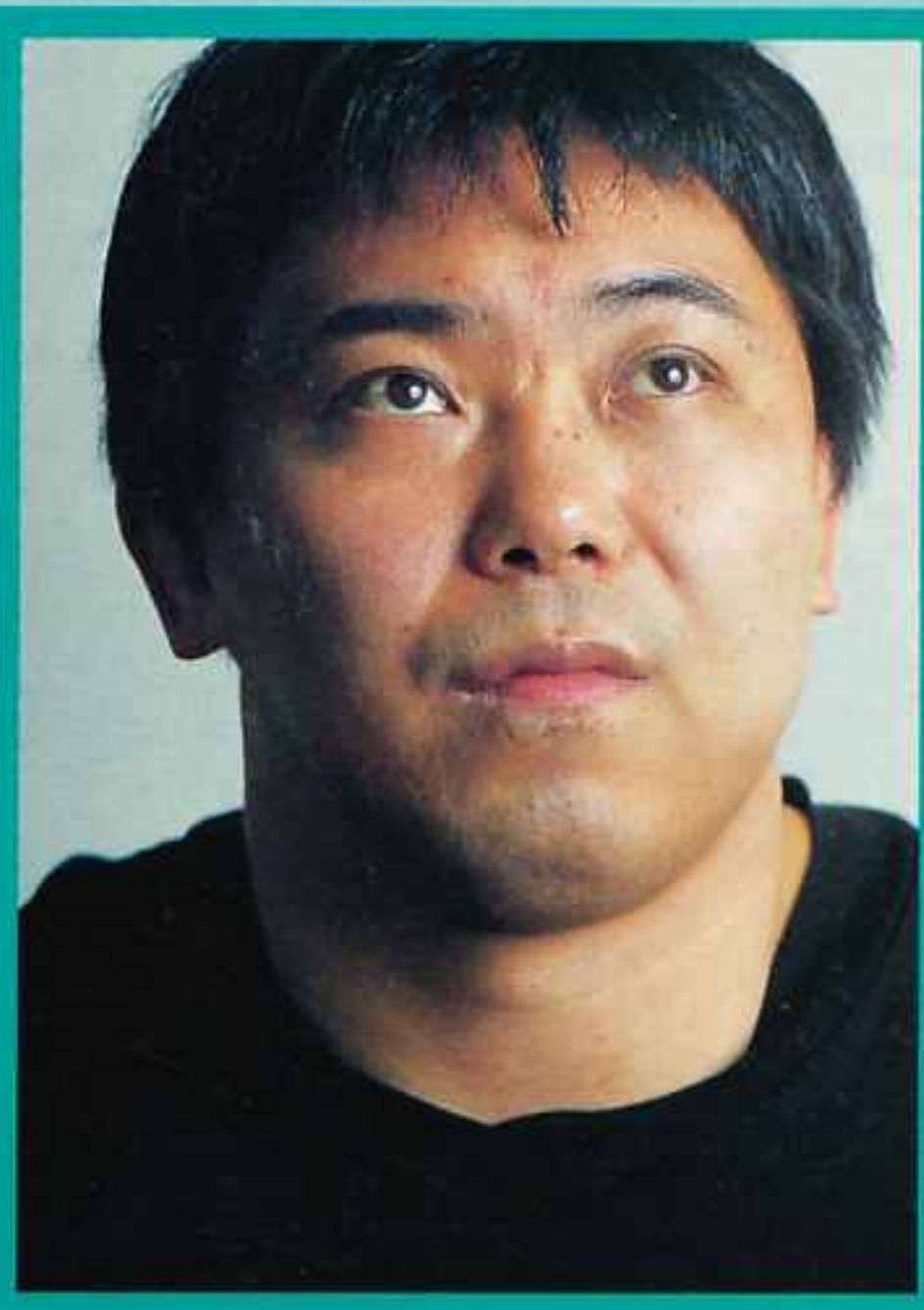
――えっ、じゃあこの人は生き方がうまいなあって思う人は誰ですか？

佐野 うーん、やっぱり俺の同期もうまいでしょう。ズバ抜けてますよ（笑）。

【平成10年4月7日、チャンコがうまかった高田道場にて収録（また食ったんか!?）】

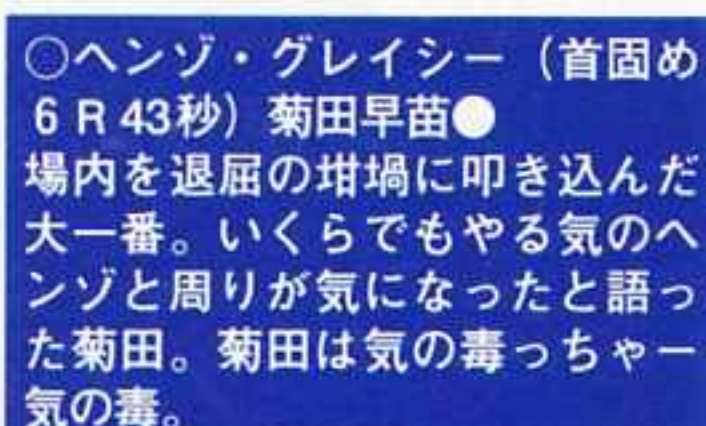
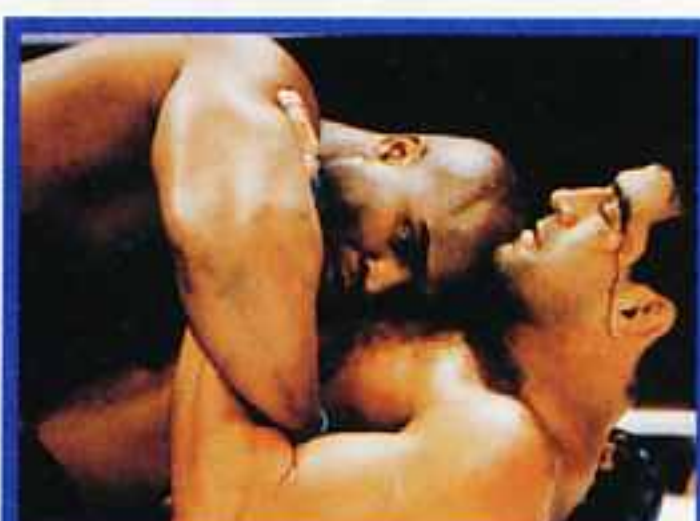
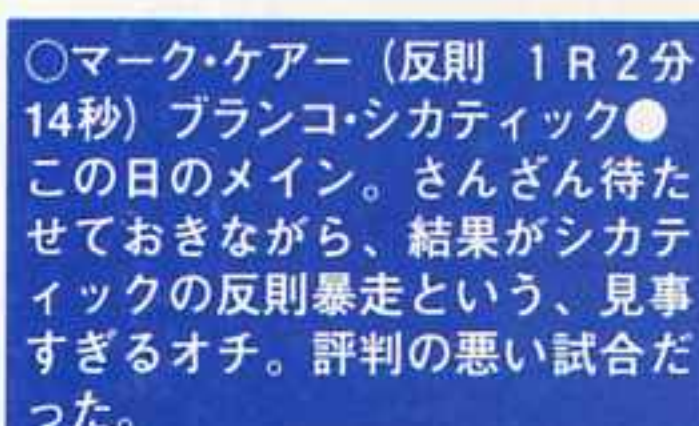
佐野自身も認めているように、『PRIDE．2』のホイラー戦は、戦略ミスが敗因だった。ただ、それを「プロレスが負けた」とするのは早計である。確かに結果だけみれば、佐野はホイラーに負けた。ただ、それだけではプロレスがグレイシーに負けたことにはならない。

本文中にも触れたが、プロレスファンならば、プロレスラーの圧倒的な勝利を念願し、最悪でも手も足も出ない敗戦だけは見たくない。

勝つに越したことはないが、それよりも我々が見たいのはコブラツイストでアルティメット・チャンピオンからタップを奪う姿であり、常に冷静なグレイシーがアワを食って驚いて尻餅をつくような技や気迫である。つまり、大胆で、不敵で、おんもしれえ人間をみたいのである。もし、それでもまだ勝つことだけを重視するのであれば、それは「実力測定」という大義名分の下に、人間そのものを見ようとしない、昨今のマット界の風潮にこそ問題がある。面白くもない実力測定には、限界がある。それは菊田早苗vsヘンゾが証明しているではないか。実際に目の当たりにしたわけではないが、かつて藤原喜明はスパーリング中に目隠しをしながら、いとも簡単に相手の技を凌ぎ、自らの技を仕掛けたのだという。つまりは相手の先手を読むすべを皮膚感覚で体得していたのだ。いわばそれと似たようなことを、グレイシーは我々にみせているだけである。佐野vsホイラーの試合後、ヒクソンが「柔術の最高のデモンストレーションだった」と語っているように、グレイシーは入場料を取ってデモンストレーションをやっているわけである。それは、プロレスや空手が日本中に広まっていくときの手法となんら変わらない。レスラーが素人にバットで殴らせたり、

空手家がビール瓶を叩き切ったりするのと同じである。グレイシーも形を変えた「プロレス」なのだ。

未知の戦術を使う者に対して、2週間という準備期間は短すぎる。ただ、この敗戦はヒクソン戦を控える髙田が必ずや糧にするだろう。「人間的にはかなり不器用だ」という佐野の敗戦が、広い意味で考えれば、プロレス界全体の道しるべになることは間違いない。

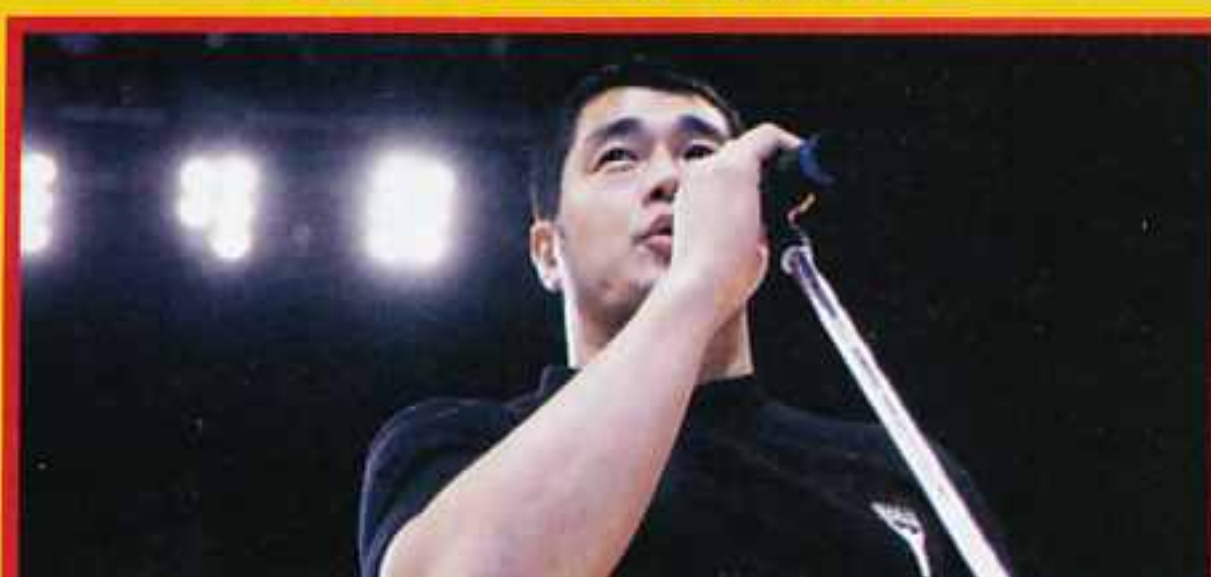
PRIDE-2のプレイバック＆今後のスケジュール

○桜庭和志（腕ひしぎ十字固め3R6分53秒）バーノン・タイガー・ホワイト●
元パンクラシストに粘られながらも勝利した桜庭。前夜は遅くまで『バイオハザード2』に熱中。その調子で行け！

○ヘンゾ・グレイシー（首固め6R43秒）菊田早苗●
場内を退屈の坩堝に叩き込んだ大一番。いくらでもやる気のヘンゾと周りが気になったと語った菊田。菊田は気の毒っちゃー気の毒。

○マルコ・ファス（踵固め　9分9秒）ゲーリー・グッドリッジ●
マルコの圧倒的な強さは見られなかったが、高田が合宿を張るだけあって、この日は負けられなかった。マルコはいい顔だ。

○マーク・ケアー（反則　1R2分14秒）ブランコ・シカティック●
この日のメイン。さんざん待たせておきながら、結果がシカティックの反則暴走という、見事すぎるオチ。評判の悪い試合だった。

怒りまくるケアー。いろんな反則技が飛び交った試合終了間際10秒間は、かなり面白かった。「ケンカじゃないんだからルールを作りました」って、金払ってる観衆よりもルールを尊重するのか？

10月11日 PRIDE-4で高田×ヒクソン再戦決定

いち早く発表された高田×ヒクソンのリマッチ。2人はPRIDE－2のリング上で握手を交わした。すでに20世紀が終わってる人たちもたくさんいるようだが、本誌編集部はしっかり20世紀のままである。とりあえず、20世紀が終わってない人は行く必要あり。その他のカードは現在交渉中。詳細は決定次第発表するので、待つべし！

6月24日 PRIDE-3（日本武道館）で高田の復帰戦決定

魔の10・11以来、試合から遠ざかっている高田がついに始動した。マルコ・ファスとバス・ルッテンの「ビバリーヒルズ柔術クラブ」で特訓を積み、PRIDE－3で復帰するのだ。相手は未定。最近は「桜庭イズムを見習って」かなり肩の力が抜けているだけに、ズバリ言って非常に注目である。マーク・ケアー、マルコ・ファス、キモ、高田、桜庭、佐野が出場予定中。

高田道場遂にオープン！

3月にオープンした高田道場。まだまだ会員を募集中です。プロのレスラー格闘家になりたい人、運動不足な社会人、フィットネスをしたい女性、元気が有り余ってるチビッコまで幅広く指導します。いつ、何時、誰の入会でも受けるというか。場所は東急池上線の池上駅から徒歩2分。

お問い合わせは高田道場まで
〒146-0082 東京都大田区池上4-27-13
TEL　03-3755-1444

日本プロレス超OBが

本誌独占スクープ

猪木引退の日に

今世紀最後の大集結!

構成／チョロ松
text by Choromatsu
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo
司会進行／山口日昇
shikai shinkou by Noboru Yamaguchi

佐野息
RIDE
略ミスが
「プロレ
である。
野はホイ
だけでは
けたこと
本文中
アンなら
な勝利を
出ない敗
勝つに
それより
ブラッ
ト・チャ
奪う姿で
イシーが
餅をつく
つまり、
もしれえ
もし、そ
けを重視
は「実力
に、人間
昨今のマ
ある。両
限界があ
ゾが証明
に目の当
かつて藤
目隠しを
手の技を
のだとい

あんた誰やっけ? エンちゃんそっくりやけどな~(吉村)

——今日は、アントニオ猪木引退の日という事で、猪木さんにゆかりのある、日本プロレスOBの皆さんに集まってもらいました。

吉村 ところで今日は何やるん?

トルコ いいねえ、大阪弁ってねえ。

——ガハハハハ! じゃあトルコさんから皆さんを紹介してもらえますか? ここから本番ですからね。

トルコ オレが言うのか? ただいま紹介を受けました、わたくしユセ……

——自分のことはいいです(笑)。

トルコ あ、そうか。こちらにいる方が、遠藤幸吉さん。皆さんご存じの、力道山のタッグパートナーをやりました、素晴らしい遠藤幸吉選手でございます。ねっ。今度はこちらにいるのが、駿河海さん。プロレス始めた時の力道山時代の三羽烏っていうのは、力道山、遠藤幸吉、それから駿河海さんが三羽烏なの。その後に入ってきたのが、隣にいる吉村道明。これはもう、いまの猪木が使ってる〝闘魂〟。もう〝闘魂〟丸だしの。

——闘魂丸だしときましたか(笑)。

トルコ ホントにそれ以上のね、ホントに吉村道明と遠藤幸吉がいなかったらねえ。途中から駿河海さんは血判状突きつけて、力道山を潰しちゃおうって、がボーンッてクーデター起こしたんだよ。大変だったんだからな。

——ゲッ、力道山にクーデター! 実に驚きです。

トルコ 血判状出して、それで途中で東富士が裏切って、それで彼は嫌気が差して辞めたの。でもあの時辞めなかったら今頃また違ったプロレスの地図が出来てたと思うんだよ。

吉村 (遠藤の顔をまじまじと見つめて)あんた誰やっけ? 横から見たら、エンちゃんそっくりやけどな~。

一同 ガハハハハハ!

トルコ 何言ってんの、エンちゃんだよ。

吉村 ほ~か(笑)。さっきまでな、誰やったかなぁ……。いま横から見たら、エンちゃんや。ようやくわかったわ。

一同 ガハハハハハ!

トルコ それで脇役では最高だったからな。エンちゃんとな、吉村さんはな。

吉村 エンちゃんがそんなに痩せると思えへんがな。こ~んなに大きかったやんけ。

トルコ ちょっとちょっと、あんたとエンちゃんとだけビョ~ンとしゃべっててもわかんなくなっちゃうんだからさ。ね。

——吉村さんの試合は、子供の頃よく見てましたもん。

トルコ 知ってるか。最高だったんだから。オレとは犬猿の仲だったんだけどな。オレがオレとは犬猿の仲だったんだけどな。オレが『紙のプロレス』って好きなのはねえ、ホントのことを書くんだよ。ゴマスリしないで、コイツは。きれーいに書く。ホントのことを書く。ホントにプロレス好きだから。いまのプロレスあんまり好きじゃないんだよ。

吉村 信用したらアカンよ。

一同 ガハハハハハ!

——やっぱりトルコさんの言うことはインチキですか?

吉村 オレが言うことだったら信用してくれてもいいけど、ココが言うことはもうなぁ。

一同 ガハハハハ!

遠藤 ところで山口君、マイクちゃんと置いとってくれよ。そうでないとですよね、いろいろとですよね、色が付かなくなると面白くないからね。

——さすがプロレスを作った男は言うことも違いますねえ。じゃあ、皆さんに猪木さんの思い出話をしてもらいましょうか?

トルコ はい、思い出話ね。あぁ猪木の思い出話してもらいたいの?

南州 僕は若いですよ。

——そうですね。せっかく、今日は猪木さんの引退試合ですからね。

吉村 猪木は今日で引退か。(突然)これからみんな、ドンドコドンドコ死ぬぞ。

一同 アハハハハハハハ!

吉村 いやホント! ドンドコドンドコやないけど、もうおらへんやろ。あーやっぱり逝ったかってなもんやろ。オラもはよ逝きたいわ。昭和の生まれと違うもんな、オレは。

南州 えっ。昭和じゃないんですか?

吉村 オレは15年やもん。

岩田 大正最後だから。

トルコ 最後、最後、最後。

南州 トルコさん、昭和じゃないでしょ?

トルコ 昭和だよ。昭和昭和昭和。昭和5年だよ。

吉村 オレが15年やから、ちょっと離れてるけどな。人は勝手に大正やゆうけどな、オレは大将と違うって。少将やいうて。

一同 ガハハハハ!

トルコ 海軍いたんだもんな。水兵だよ。総長、小腸、総長。海軍にね。

吉村 オラな、日本の国はこんなもんアレやからな、はよ戦争始まらんかな。戦争始まったら、オレ兵隊行くゆうて。

トルコ アンタは何年だっけ?

南州 私は大正……

吉村 10年過ぎやろ、お前ホントは。何どしよ、何どしよ?

あの猪木vsウィリー戦を裁いた自称日本人レフェリー
ユセフ トルコ
両親はトルコ出身。昭和5年樺太生まれ、横浜で育つ。おヘソの下は永遠に35歳。猪木、馬場の名勝負を数多く裁いた名物レフェリー。

今世紀最強最後のボケ役? 火の玉じじい
吉村道明
大正15年9月19日岐阜県出身。戦時中は海軍、復員後は近大相撲部で鳴らした(昭和24年学生横綱)。喋りだしたら止まらないビッグダディー。力道山～馬場、猪木時代の名脇役。

日本で最初にバーベルを作った男
駿河海
大正9年1月1日静岡県出身。本名杉山光夫。得意技は、豪快なボディスラム、胴締めなど。初代ジュニアヘビー級日本チャンピオン。料理の腕は天下一品。

吉村 何どしよ?
南州 イノシシですよ。
吉村 嘘つけ(笑)。
一同 ガハハハハハ!
吉村 モグラやろ。イノシシの親戚でモグラやろ。
南州 イノシシですよ〜。
吉村 でもな、やっぱこうやって見ると、筋肉質の方が長生きするなぁ。
トルコ そうだな。ミッちゃんとかは筋肉質だもんなあ。作った体そのままだったからさ、出来たままの体だからさ。
岩田 エンちゃんも変わんないね。
吉村 オレらひとっつも変わらへんもん。でもな、裸になったらな、ここら辺の骨とか、ここら辺の肉とか、あらへんねん。いやーこれオレ、自分の体かなって思うもん。
——じゃあ猪木さんも長生きしますかね?
トルコ あれは作った体だからダメだな。
——ガハハハハ! また始まった!
岩田 あのねえ、あれも糖尿なんだよ。
——あーそうですね。
吉村 何の話しとるん?
トルコ だからさ、猪木は長生きしないって言ってたの。
吉村 猪木ったってもう55か56やろ。
トルコ 猪木ももう、ガタガタだよ。
——猪木さんのデビュー戦の相手は大木金太郎さんですよね。
岩田 そう。だから金太郎を呼ぼうっていってさ。坂口が連絡を取ったんだよ。だけど車椅子だしさ、喋れないんだよ、ろくに。かえって可哀想になってきたんだよ。
——吉村さんは大木さんともアジアタッグ取ってますよね?
岩田 取ってるね?
トルコ だから韓国何回も行ってるんだもん。凄いんだもん。韓国でもスターだから、ヨッちゃんは。
吉村 あのな、自分で勝手に喋っとったらアカンわい。
トルコ あの時、向こうの原語で歌ったんだよな。それが一番最初だよ。カラオケのレスラーの中で一番最初は、ヨッちゃんだよ。
——は? カラオケのレスラーで一番最初?(笑)
トルコ (気にせず)いや、いまでいうカラオケだよな。レスラーは誰も歌わなかったもん。リキさんも歌えない、猪木、馬場、あぁ馬場は上手かったけどね。
岩田 馬場は上手かったねぇ。
トルコ アイツは北海道のアレが上手いんだよな、なんだっけ?
岩田 俺は河原の枯れすすき? よくバスの中で歌ってたじゃん。
トルコ 上手いっていったら、豊登と馬場とヨッちゃんだな。そうだ、南州さんは、馬場ちゃんの歌マネが上手いんだよ。馬場ちゃんの歌聞かせてよ。ちょっとお願いしますよ。
南州 (馬場さんの歌マネで)♪月夜の寒どけ〜ころろ〜ころろ〜ころろ〜ころころ、あれはねぇ〜あれはねぇ〜。アッハッハッハッ!
トルコ ホントに馬場ちゃんが来てるかと思ったよ、ビックリしたよ。
——遠藤さん、そこで何キョトンとされてるんですか?(笑)
遠藤 馬場クンはねぇ、ころろもいいけれどもねぇ、哀愁のある歌を歌わせたら、あの人は得意なんだよね。要するにですよね、ほんとにね、人よりもあれだけ体が大きかったりね、いろいろあって寂しいところがあったんだろうと思うんですよね。ですから、そういうのがね、人よりも好きだったみたいね。
岩田 ところでトイレどこ?
——猪木さんは歌わないんですか?
岩田 (トイレに向かいながら)ヘタッ、ヘタッ!
トルコ ヘタだよ。だから上手いのは馬場ちゃんと吉村選手と豊登、この三人が一番だよ。あとは誰も歌えなかったよ。
遠藤 豊登の上手なのは尺八ですよ。
トルコ お〜ビックリした。
遠藤 ホントの尺八は上手いよ。
吉村 おい、ホントの尺八はあっちやろ(何かをくわえるマネ)。
一同 ガハハハハハ!
吉村 こっちは道具やろ。
トルコ そうだよ、そうだ(笑)。いまのよかったな。いまのちょっと座布団三枚だな(笑)。
——で、みなさん、ホントにそろそろ猪木さんの思い出話を聞きたいと思います(笑)。遠藤さんはワールドプロレスリングの解説で、「猪木クンがねぇ」、という名解説をされてましたけど、一番の思い出の試合って何ですか?
遠藤 オレが一番印象に残ってる試合といったらねぇ、ドリー・フランク・ジュニア(勿論、ファンク)とですよね、福岡で試合をやった時ですよね。あの時は馬場クン以外には、ドリー・フランクとですよね、シングルでやった人っていうのはいなかったんですよね。一対一の引き分けだったけれどもね、その試合がですよね、猪木クンがプロレスラーとして一本立ちの日で、その時の姿が一番印象に残ってますよね。その他にね、いろいろな試合で印象的なことがありますけれどもね、なんといってもですよね、アレが私の目から見た、猪木クンの門出じゃなかっただろうかと思うんですよね。
——いい言葉ですね。門出ですよ、トルコさん?
トルコ 門出門出。いい言葉いい言葉。ハイ次!
——猪木さんとタッグを組んでた吉村さんの言葉を是非聞きたいですね。吉村さん、猪木さんの思い出をちょっと語っていただきたいんですが?
吉村 猪木の思い出いうたら、リキさん生きてるときにやなぁ、馬場と二人で、控室でな、

要するにプロレスを作った
男ですよね
遠藤幸吉
大正15年山形県出身。得意技はフライング・ドロップ・キック、ショート・アーム・シザースほか。昭和27年マス大山と共に渡米。各地で暴れ回る。力道山の名タッグ・パートナー

特別参加!
日本プロレスフロント&
お宝収集家
岩田浩
日本プロレス時代から40数年フロントとしてプロレス界と密接に関わってきた岩田氏。分からないことがあったら、取りあえず岩田氏に訊け!

特別参加!
数少ない
本物の芸能人(byトルコ)
南州太郎
なぜか今回トルコの推薦により参加が決定した、南州太郎。「漫談、ものまねをやらせたら誰もかないっこない、レベルが違いすぎるよ!」(by トルコ)

力道山潰しちゃおうってクーデター起こしたんだよ（トルコ）

屈伸運動をやなぁ、二百回か三百回か？

トルコ な〜に言ってんだよ。ガッポーンズッポーンと千回ぐらいやってたよ。

岩田 千以上やってたよ。

吉村 あれは、山形か、秋田かやったかなぁ。体育館でなぁ、馬場と猪木にやなぁ、オヤジ（力道山）が屈伸運動やれって言うてなぁ、とにかくガラスやら何から霞んじゃうんだよ、汗で。あれぐらいやっとったから、猪木の足っちゅうのは素晴らしい足になったがな。馬場さんはあんまりだけどな（笑）。いまの猪木があるのは、やっぱりリキさんがおったからやな。

トルコ まあ、リキさんの愛のムチだよな。ビュビューンとな。

——猪木さんだけ叩かれたっていいますよね。何で馬場さんは叩かれなかったんですか？

トルコ 結局ね、彼はエリートだったから。ジャイアント馬場（ジャイアンツ）から来たっていうのがあってさ。猪木は日本で苦しくなって、ブラジルに渡って行っちゃったわけだから。そういう意味じゃ、リキさんも苦労してるよな。韓国人だよな。人間関係にしても、何にしても。そういうアレじゃないかとオレは思うよ。

岩田 それはあるよな。

——話は飛びますけど、猪木さんというのは練習熱心だったわけですか？

吉村 おら熱心じゃないもん。

トルコ だからヨッちゃんの話じゃないって。

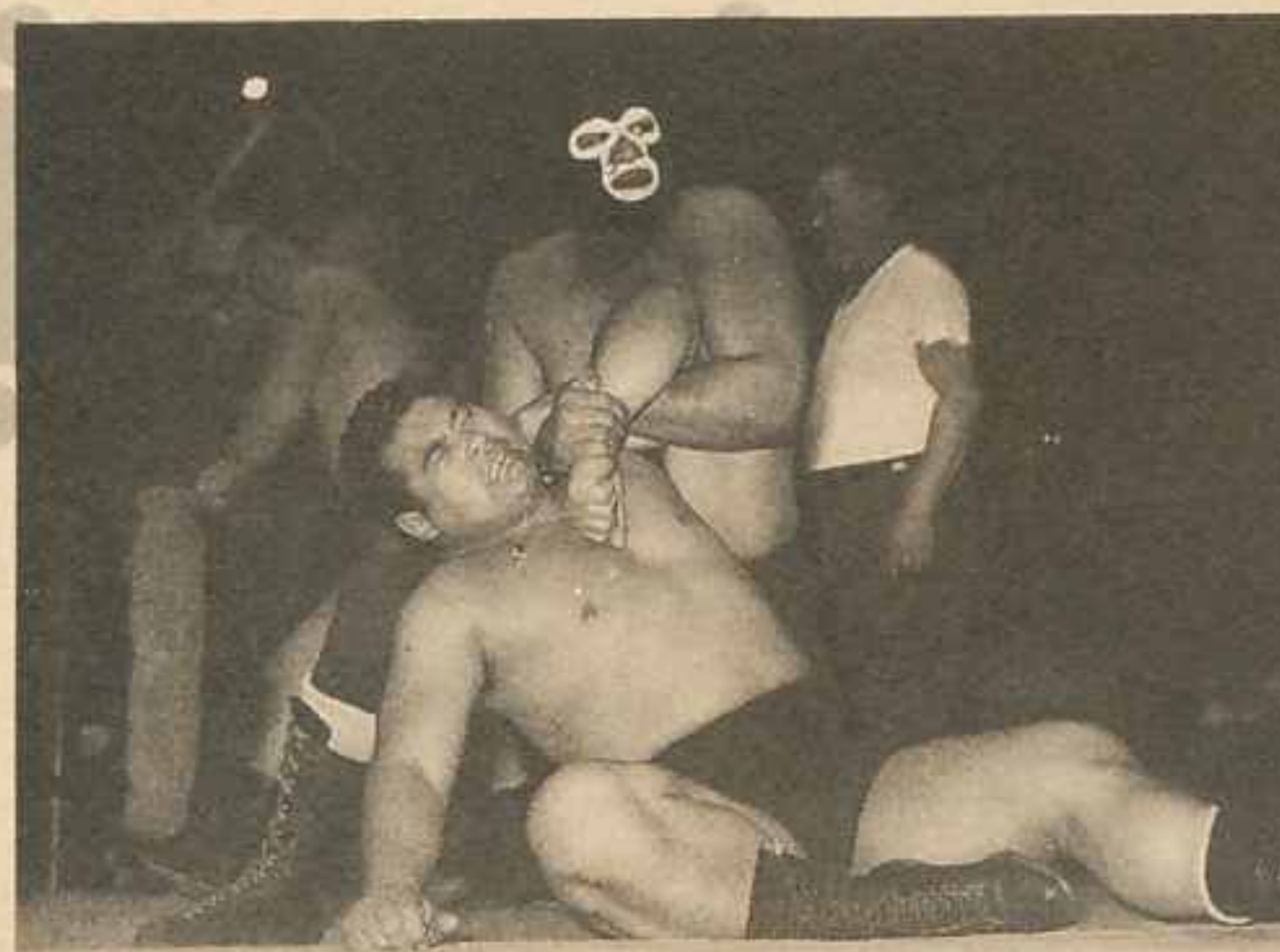
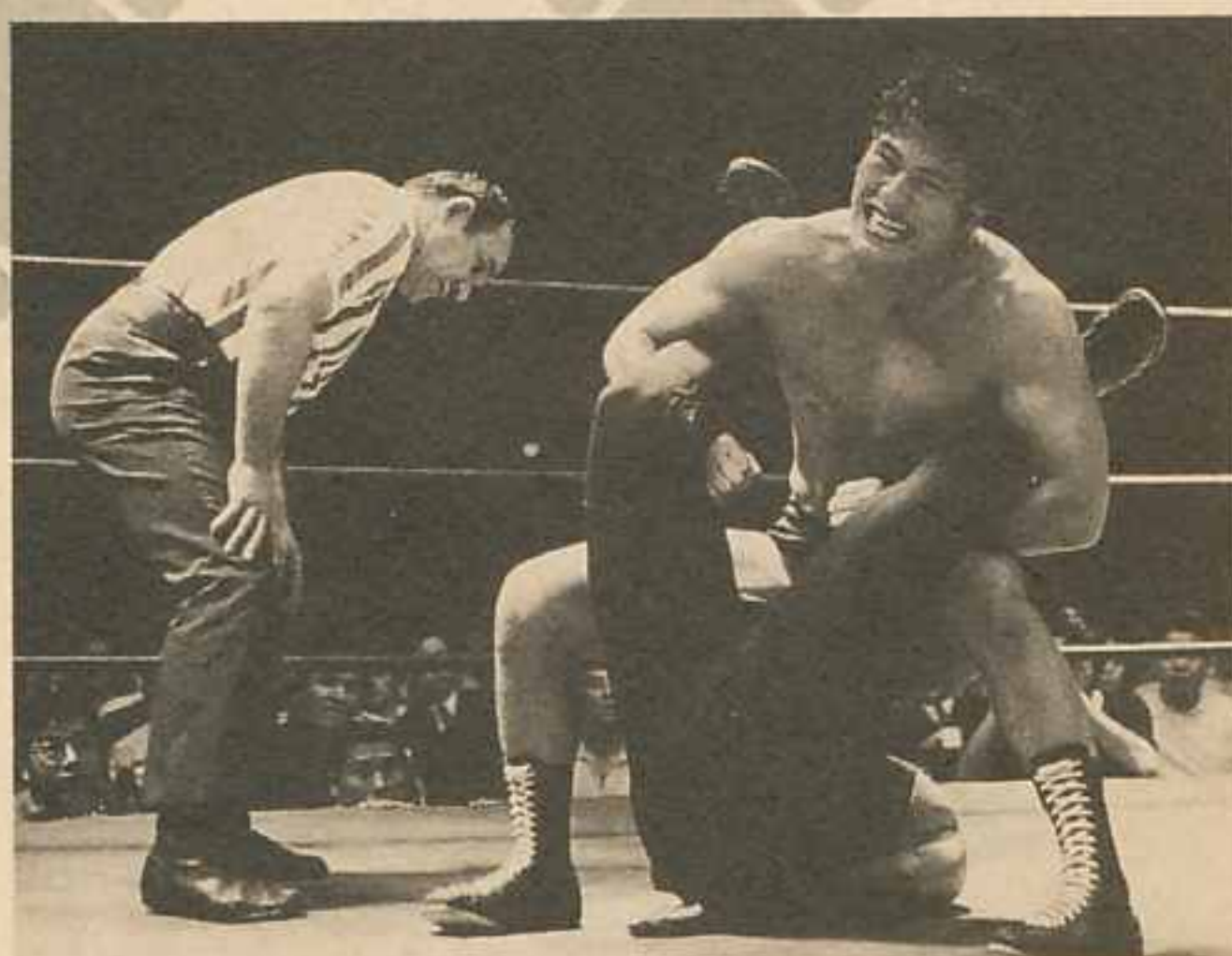
一同 ガハハハハハハハ！

——熱心じゃない吉村さんは猪木さんと初めてあったときの印象はどうでした？

吉村 そんなもん何にも覚えてない！

——アハハハ！ トルコさんは、猪木さんが入門した頃、何してたんですか？

トルコ まだ試合やってたよ。猪木はブラジル人だとばっかり思ってたんだよ。それで、鶴見で試合やったときに、わかったんだよ。アイツは隠してたからな。ヘタな日本語喋ってね、英語の新聞持って歩いてたんだよ。読みもしないやつ。

岩田 あれはリキさんに言われたからだろ（笑）。

トルコ それで鶴見に行ったら、同級生がお客さんとして来てな。外国から来た人間が、何で鶴見に同級生がいるってんだよ。

吉村 とにかくな、人形町の道場でな、猪木はな、稽古？ バーベルやなんかでも、こらぁよう稽古したよなぁ。

——練習熱心だったわけですね？（笑）

駿河海 アレはねぇ、オレが作ったんだよ。オレが入ったときは道具がなかったんだよ。

トルコ 売ってなかったんだから。

——じゃあそれまで皆さんはどうやって稽古してたわけですか？

遠藤 そこで初めてですよね。リングを作ってですよね、腹筋台とかバーベルとか全部ミッちゃん（駿河海）が作ったんですよ。

トルコ それまでは無かったんだよ。バーベルが無かったの。プロレスがバーベルの一番最初だったんだからな。

——そうだったんですか。駿河海さんはどういうきっかけでプロレス入りしたんですか？

駿河海 飲み屋やってたからね、リキさんが飲みに来てさ、とにかくなってくれと言うんだよ。だけどオレはいい年だし、膝とかを痛めてたからな。

トルコ 十両で優勝したんだよ。でもな、膝悪くしちゃって、それで辞めたんだよ。

駿河海 相撲辞めて遊んでる奴は、いくらでもいたから。私は相撲ではリキよりも先輩なんでね、私がやれば付いて来る連中がいるだろうと、そこをリキは考えてたんだろうね。

トルコ そうだな。後はどんな話聞くんだ？

——いや、まだ全然始まってないような気がするんですけど（笑）。ここに集まってる人は、馬場、猪木時代を作った人達ですよね。

岩田 そりゃそうだよ。日本のね。

——遠藤さんは、プロレスを作った人なんですけども？

岩田 駿河海さんは、リキさんを作った人だもん。

——なんせバーベルを作った人ですからね。

これらの写真は、今回参加ビッグ4の若かりし頃のものである。上から、火の玉小僧こと吉村道明。パワフルだ！ そして我らがアントンの試合をレフェリングするユセフ・トルコ。コーションだ！ その下が、イテテと声が聞こえてきそうな遠藤幸吉。ダンディだ！ 一番下が、駿河海。自作のバーベルで鍛えたのであろう、素晴らしい体付きである。ワイルドだ！ この時代の人たちは、みんないい顔しているわけなんですよね（エンちゃん風）。

トルコ バーベルも道場も全部ミッちゃんがやったんだからな。

——駿河海さんは猪木さんの試合とかは見られたことはあるんですか？

駿河海 まあ、テレビだけだね。

——テレビで見てても、馬場さんより、猪木さんの方が凄かったですか？

駿河海 迫力があったからね。

岩田 そりゃもう、見る人が見ればわかるよ。

駿河海 猪木の方がちょっと背が小さいし、片方は大きくて、あれが機敏に動いたら大変ですよ。ああいう大きい人は、自分では精一杯やってると思っててもね、他から見たらそ

んなに動いてないように見えるよな。

——いま現在は皆さん、プロレスはあんまり見てないんですか？　まぁトルコさんは見てないでしょうけど（笑）。遠藤さんはいまのプロレスは見てますか？

遠藤　まあ〜まあ〜。まあっていうとこですよね。全然でもないけれども、まあってとこ

ろですよね。

——吉村さんは、最近プロレスとか見てます？

吉村　最近？　何を？

——誰ぐらいまで知ってます、名前は？

吉村　誰ぐらいいったってなぁ。馬場、猪木やろ……

——藤波、長州とかは知ってます？

吉村　ああ藤波な。長州は知らんわい。オレが辞めてからやろ。

岩田　そうそう。長州は後からだよ。

これが岩田氏所有のお宝、力道山ネーム入りガウンである（三菱マーク入り！）。この後、猪木引退セレモニーで披露されたわけだが、アントンは袖を通したもののすぐに脱いでしまった。う〜ん無念！

こんなもんアレやからな、はよ戦争始らんかな（吉村）

吉村　それやなしにな、誰かもっと有名なのおるやん？

岩田　誰、蝶野？

吉村　いや一人誰かおるやん？　名前のあるヤツおるやん。

トルコ　名前のあるヤツ？　高田か、前田か。

吉村　それやなしに。もう一声！

岩田　斉藤マサ？

吉村　斉藤マサは知ってるよ。

トルコ　わかった、相撲取りから来たヤツだ。なんだっけ。天龍だ。天龍天龍天龍。

吉村　天龍？　アレはお前、相撲取りあがりだろ、知っとるわ。

南州　吉村さん、鶴田さんじゃないの、鶴田さん？

吉村　アレも違うわ。鶴田はアマチュアからいってるよな。なんとかってのが、おったやろ。おるやんか？

——木村健悟？

吉村　いや違う！　ちょっと上の方の名前なんかゆうてみ。

岩田　藤波でしょ、大仁田、長州。

吉村　あっ、長州！

——さっき長州知らんわって言ったじゃないですか！（笑）

吉村　長州、長州。

岩田　あれもアマチュア出だよな。

吉村　あっそう。じゃ知らんわ！　長州力ってのは、なんやアマチュアか？

一同　アマチュア、アマチュア。

吉村　どこのあれやったの？

トルコ　専修だよ専修専修。

吉村　先週？

——凄い！　からくりTVを超えた（笑）。

吉村　ほらアレ、双羽黒か？

遠藤　北尾、北尾ですよね。

吉村　アレは相撲取り上がりだけどな。横綱までいっとるんやけどな。けどな、北尾でもないわ。もうええわ！

——ガハハハ！　駿河海さんは、テレビを見てて、いい選手だと思う人はいないですか？

駿河海　あんまり見ない。

——見ないですか、やっぱり。

岩田　いや、だからねえ、オレは思うよ。ボクは時々仕事でいまの会場へ行くよね。最近の会場はね、先輩たちが入ったらビックリしちゃうよ、おそらく。全然違うもの。レスリングも違うし、会場の雰囲気も違うし。時代が違うってことだよ。それはね、しょうがないんだよ。

——40年以上もプロレスに携わっている岩田さんから見ると、最近のプロレスはつまらないですか？

岩田　いや、つまんないというより、いまのお客さんは、アレが合うんでしょう。ああいうニーズがさ。それにやっぱり営業も合わしていってるんでしょう。ただね、一つ言えることは、プロレスっていうのは一つしかないんですよ。試合だけは、ちゃんとしてほしい訳よ。いまは、踊ってるだけでさ、はっきり言うと。プロレスが踊ってるんだよ。

——プロレスダンスってヤツですね（笑）。

吉村　だけど思うのは、いまの時代とな、我々がやってた頃の時代とやな、試合の内容も全然違うやん。だからどっちが良いとか悪いかっちゅう問題じゃないわな。いまの子はいまの子で、いまの試合のやり方でいいかもわからん。ただプロレスというものはやな、

肉もないのにね、死ねないじゃないか（遠藤）

リキさんが作ったものなんだと。だからこれをね、誰がトップで行こうが行くまいが、やっぱりファンに愛されるスポーツとしてやっていくことが、リキさんに対する供養だと。いままでやなぁ、馬場にしろ、猪木にしろ、やってきてるから、この後や、この後を誰が繋いでいけるかっていう問題はやなぁ、結局馬場にしろ、猪木にしろ二人の責任やと思う。

岩田　でも結局全部、猪木が育ててるんだよ。後に繋いでいけるだけのものを作らんとな。それとねえ、なんの業界でもそうだけどスターはたくさんいるのよ。だけどスーパースターっていうのは、これは一人だけなんだよ。

——そうですよね。トルコさん、もう飽きてるでしょ（笑）。

トルコ　いやいや、そんなことないよ。

——だんだんソワソワしてきてるから（笑）。

吉村　オタクはどこや、新聞社？

——紙の新聞社と申します（笑）。

吉村　紙の新聞社？　新聞は紙やろ？

一同　ガハハハハ！

——皆さんが活躍してた頃に、ボクも……

遠藤　（構わず）しかし、みんな亡くなっていくんですよね。我々は貴重なんですよ。ホントのこと言うと。プロレスに関してはよ。

（この後、亡くなった人々の思い出話が延々と続く……）

吉村　オマエら若い若いと思ってるか知らんが、後何年も経たないうちに、アレも逝ったかってなもんだよ。やっぱ若いときが華よ。

——さっき聞いてくれなかったから、もう一度言いますけどね、皆さんが活躍してた頃に、ボクもプロレス記者になりたかったですよ。昔の方が面白そうですもん。

一同　そりゃそうだよ。

トルコ　全然違うよ全然。月とスッポンだよ。

——巡業付いて廻りたかったですよ。

トルコ　この間古い選手にあったらね、今の巡業は面白くないって言うんだよ。

岩田　親が子供を殺しちゃう時代よ。中学生が親を殺しちゃう時代なんだから。時代が違いますよ。

吉村　オレ、運動せえへんもん（誰もそんなこと聞いてない）。最近運動っていったら、ゴルフ行くぐらいやな。オレも後一、二年であっちいかなアカンから。

遠藤　ところでヨッちゃんは孫何人いるの？

吉村　孫？　まごまごしてるよ（笑）。

一同　ガハハハハ！

吉村　まごまごしとる！　娘が一人だけやろ。あれっ、今度はなんの話しとるの？

岩田　オヤジのガウン持って来たんだ、一枚。オレがこれもって死んでもしょうがないから、アントニオ猪木に、着せてやろうと思って、それで今日持ってきたのよ。

吉村　オレはガウンやらシューズやら芦屋から引っ越したか何かしたとき、こんなもんいるかいってな、みんなほってまった。

——そうなんですか、それは非常にもったいないですね（笑）。ところで今日は皆さんに声を掛けたのはトルコさんですよね。

トルコ　そうだよ。こうやってせっかくOBが集まったんだから、いままでの猪木の最高のね、ファイトを見せてもらいたいね。このメンバーが揃うのも百年に一度あるかないかなんだからなっ。OBが満足するような、そういう試合を期待するよな。

——でも、面白いですよね。猪木さんが最後の試合で、いまのスターたちが猪木さんの前に、試合をするじゃないですか。どっちが面白いか勝負ですからね。

トルコ　それが今日の楽しみだな。

岩田　ただねえ、一つ言えることはね、猪木っていうのは、昔のプロレスを身に付けてるわけだよ。ところが……

吉村　オレが思っとるのは、わざわざやなぁ、自分で命を縮めるわけにもいかんしやなぁ。

岩田　なに言ってるんだよ（笑）。

吉村　オレ、いつでもそう思ってるんだよ。

——ガハハハ！　いま、命の話じゃなくて猪木の話をしてるんですよ、吉村さん（笑）。

吉村　もう、いい加減迎えに来てくれたらええなぁと思うもん。

トルコ　それまで、今日のアントニオ猪木のいい試合をお土産にしたいよな。それを冥土に持って帰ると。

——いいシメですね。トルコさん（笑）。

吉村　そりゃなぁ、いまでもメシ食べるやろ。

——吉村さん、メシじゃなくてシメです（笑）。

吉村　オレら、ものを残すっつうの、これな、ものすっごくオレもうややねん。いまの子やなんかでも、食べ物すぐ捨てるやん。もの凄く抵抗感じるん。オレらは終戦当時が一番の青春時代やな。二十歳かそこらやから。食うもんもなかったからやな。（この後も、延々とモノの大切さについて語り倒すヨッちゃん）あれ、今日はレスラーたった三人しかおらへんやん。三人しかおらへんやん？

トルコ　いや、エンちゃんも来てるよ。

吉村　あ～、エンちゃんと四人か。ほっか、四人や、そやわなぁ。

南州　（トイレから帰って来て）あのさ、遠藤先輩がね、レディースのトイレに入って出てこないんだよ。

一同　ガハハハハハ！

——あー、帰ってきましたよ、遠藤さん。こっちです、こっちです。

吉村　（突然）ちょっと、こん中で誰が一番最初に逝く？

岩田　やなこと言うなよ、ヨッちゃんよ（笑）。

吉村　でも、オレが先逝くような気がするわ。

——今日は東京ドームに行くんですからね（笑）。試合出たほうがいいですよ。皆さんこんな元気なんだから（笑）。

遠藤　だって馬場クンもリングで死にたいって言ってもですよね、肉もないのにね、死ねないじゃないか。

トルコ　この間、馬場ちゃんに会ったらさ、「猪木が引退するんだから、お前はどうするんだよ」って言ったら、「いやー先輩まだやれるからやります」って言ったんだよ。

遠藤　そりゃね、やることは結構ですよ。私

はねぇ、彼を批判するとか、批評するとかそういう意味じゃなくて、一般の人の雰囲気がね、なんで馬場さんはね、60過ぎてもああやってやってるんですかって言うことはね、人がねぇ、ある程度バカにしてるみたいなことを言ってるからね。リングで死のうが、布団の上で亡くなろうが、そんなことは別にどうってことない、私は考えてませんよ。しかしリキさんが育ててくれた結論はね、彼自身が出さなくてならないと思うんですよ。いまのジャイアント馬場っていうものはですよねえ、一人でもってなったと思ったら大間違いで、みんなの力があって初めてなったんだからね。その力をねぇ、セーブして、セーブしたその最後の力はねぇ、自分で決めてもらいたい。私はそう思います。

——結局、力道山先生の祖国で興行をやったのも猪木さんですからね。

岩田 そうそうそう。

トルコ 馬場ちゃんにこの間言ったんだよ。「猪木の引退にちょっと来い」と。「オレは試合があるから」って言うんだよ。「お前が出たか出ないかで別におかしくなる訳じゃないだろ、10分でも顔出せ」と、「お前が引き立つんだよ」と。「猪木じゃないよ」と。

——トルコさんがそう言ったんですか?

トルコ 言ったよ。それでダメだって言うから、今度は女房に電話したの。皇后陛下ね。あの人、皇后陛下だから。馬場のかあちゃん。

吉村 元子?

トルコ そう、ももこ。ももこの言う通りに馬場は動くわけ。ここで馬場ちゃんとオレが話をしてOKするでしょ。

——トルコさん、元子さんですよ。

トルコ そうそう、ももこももこ。

岩田 元子の言うなりなんだよ。

トルコ 馬場ちゃんと話しても、家帰って、ももこと話したら変わっちゃうんだよ。

——だから元子です(笑)。

トルコ 元子? 話が変わっちゃうんだから。だから、女房と話したら一番早いわけよ。この前も「よっ皇后陛下」って言ったら、「トルコさんいつも明るいわねぇ」ってな。皇后陛下って言うのも、オレが誉めてるか、バカにしてるかどっちかだけどな。今度、猪木の引退試合があるから、犬猿の中だろうが、なんだろうが来いと。お前が引き立つよと。オレは誰にも言わないから、来いって言ったんだよ、奥さんに。そしたら「試合があるから」って。「試合って、馬場ちゃんがそれに出たからって客に響くワケじゃないだろ」って言ったんだよ。その日もし来れなかったら、電報でも送れって言ったんだよ。

——電報だけでも、馬場さんの株はものすごく上がりますよね。ファンも喜びますよ。

トルコ 絶対誰にも言わないから、誰にも言わないからって、いま言っちゃったけどさ。だから今日、電報あるかないか、今日なかったら、馬場の時代は、もうおしまい!

——猪木さんの引退とともに(笑)。

吉村 馬場は試合かなんかやってんの?

岩田 アレは踊ってんだよ、リングの中で。

吉村 いや、今日試合でどっか行ってんの?

——金沢で試合があります。

遠藤 さっきからね、プロレスでもって、踊ってるって話たでしょ。結局ね、馬場クンの腕を見るとですよね、踊ってるよ馬場クンはと、こう言うわけですよ。それを言われるのが、私らはもの凄く苦しいのよ。返事に苦しいのよ。

——遠藤さん達がやってきたことまでバカにされるような気がするわけですか?

このメンバーが揃うのも百年に一度あるかないかなんだからなっ(byトルコ)というほどの貴重な4ショット!

トルコ いいこと言った。ホントそれだよ。さすが紙のプロレス!

遠藤 私がいま言わんとしてることは、大先輩の恩師のリキさんにねえ、恥のかかないような形でもってキチッと区切りをつけてもらわなかったらね、これはプロレスの王者とか、ジャイアント馬場だとか、何とか、かんとかということは全部ゼロだって言うこと。いまここに、ヨッちゃんがおるから私は言うんだけどね、ヨッちゃんだって、馬場クンのためにどれだけ犠牲になってきたか分からないのよ。こういうふうに、皆さんのおかげでね、これだけのケジメを出来たんだという形を、一つ作って欲しいというのが、馬場クンに対する本当の私の気持ちです。

——猪木さん引退の日に、貴重なご意見でした(笑)。

吉村 オレ達はなぁ、辞めたのが早かったよのぉ。

——吉村さんが引退したのは昭和48年ですよね。

吉村 そうや。オレがな、数えの48でやなぁ、こりゃもう、ファンに対して申し訳ない。なっ。ほれでオレは辞めたんやからな。やる気になれば、まだ十年ぐらいやっとるわ。それやったらいま貧乏せんで済むわ。ちょっとファンをバカにし過ぎとるわ。客が来るからいいちゅうもんと違うやろ。後のものが出られへんやん。

——吉村さんから見て、馬場さんと猪木さんの、一番の違いっていうと、どんなところになりますか?

吉村 そりゃ人間性が違うやん。

岩田 オレに言わせれば、馬場は利口で、猪木はバカなんだよ。

——バカはバカでもいいバカですよね、猪木さんは(笑)。

岩田 そう。そういう事よ。要領は確かに猪木の方が悪いかもしれない。しかし、打ち込むバカさってのはね、大切なんだよ。よく言うじゃん、バカになってやれって。

——ということで、そろそろ時間だし、トルコさん、そろそろ座談会まとめましょうか。

トルコ はいはい。はい座談会。じゃあ、特別ゲストの南州太郎さんから、どうぞ。

南州 私はね、若い頃からプロレスの大ファンでしてね。あの当時のファイトは凄かったですからね。全国の視聴者の皆さんが、何人死んだか。興奮して見ててね。

——ブラッシーの噛み付き事件とかですね。

南州 あぁもう。いまはそういうファイトは見れない。時代によって違ってきてますからね。芸能界、お笑いにしても何にしても。やっぱり全然違いますわ。中には、いいものも

ダンスみたいなレスリングはやめてもらいたいよ(駿河海)

昔の方が面白そうですもん。

遠藤 そりゃね、やることは結構ですよ。私

ありますけどね。今日は、我々の大ファンだった人の話を聞いて凄く楽しかったです。それと、今後のプロレスがどうなっていくかですよね。それは、皆様ライターの方々も色々あるんじゃないですか？

トルコ　それでは、次は駿河海さんどうぞ。駿河海さんから見た、プロレスをなんか？山口クン、何聞けばいいの？

――プロレスにこれからどうなってほしいか、なんていうのを語ってもらいたいですね。

駿河海　見当がつかないなぁ。前は体だけでも、いろんな人間がいたから、いまの舞の海みたく体は小さくても業師みたいのがナンボでもいたからね。

思い出話に花が咲き、誰にも止める事の出来ないほどの盛り上がりを見せた日本プロレスOB座談会。奇跡の大集結に乾杯！

――技も体つきもみんな個性がありましたよね。いまの選手は同じ様な体してますからね。

駿河海　そうなんだよな。まあ、ダンスみたいなレスリングはやめてもらいたいよ。

――アハハハハ！　いいですねぇ。

トルコ　じゃあ次は、遠藤さんに。はい一言。

――猪木さんへの惜別の言葉なり、まあ、リング上だけですけどね。

吉村　♪さくらー、さくらー。

一同　ガハハハハハ！

吉村　なんやっ！　歌っちゃ悪いんか？

遠藤　そうねぇ。最初の初志貫徹でね、リキさんから教わった言葉をねぇ、守り通してですよね、今日までやられたってことは、大変立派なことだし、誰しも出来るようで、出来ないことをですよね、やってくれた猪木クンだと思ってですよね、ホントに長い間ご苦労様でした。こういうふうに、私は思いますね。

トルコ　ありがとうございます。次は吉村さん。はい一言。

吉村　引退して綺麗に手え引いてまうんか？

岩田　試合はもうやらないんだよ。

吉村　試合はやらないんじゃなしに。

岩田　でも、業界には残るでしょう。

吉村　協会なんてあるんか？

一同　ガハハハハハ！

岩田　格闘技の業界には残るけれども、要するに、国内の試合は今日でおしまいなんだよ。

吉村　結局、引退なんて、誰でも来るはずやからな。猪木の後を誰が継いでいくかしらんけど、次の時代のものを、育てていかないとな。自分が終わったらいいちゅうもんと違う。それがリキさんに対する一番の供養になる。オレはそれしか考えてへん。

トルコ　ありがとうございました。今度は岩田さんか。はい一言、短く。

岩田　ボクは選手と違って、フロントって立場でね、今日は、共に40年も前から一緒にやってきた人たちと、こうやって元気で、久しぶりに会えて、しかも後輩の猪木が今日限りでリングを降りることは、人に言えない感無量のものがありますよ。猪木はこれで、業界から去る男じゃないと思ってるから。これからの新しい闘魂イズムっていうか、これから国際舞台で、どういうふうに伸びてくかそれが楽しみですよね。

――現役を引退したとしても。

岩田　そうです。それと、いま第一線にいる、若手選手のね、まだ誰がトップっていうのは決まってないんだから、どういうふうに自分が、交通整理していくかだね。

――闘魂っていうのは、元々力道山が使った言葉ですよね？

岩田　最初はね、力道山は〝努力〟って言葉しか書かなかったんですよ。〝闘魂〟って書き出したのは、死ぬ一年ぐらい前でしょ。そのサインもボクは持ってますけどね。

トルコ　どうもありがとうございました。今度はなにオレが締めるか。

――最後に面白いこと、どうぞ。

トルコ　はいはい。今日はホントに、遠いところ皆さま、今世紀最初であり、最後の集まりの会を、遠いとこから、吉村道明さん、駿河海先生、遠藤先生、それからプロレスの大ファンである南州太郎先生も。

――馬場さんがいないのが残念ですけどね。

トルコ　私は誘ったんです。本人にも言いました。奥さんにも言いました。来いって言いました。来れなければ、電報でも打てと。だから吉村さん、遠藤さん、駿河海さんが言ってる言葉がね、事実なら、これをみんな頭に入れてもらいたいなと。後は、プロレスOB会ってのを作ってね、相撲協会にも野球にも全部、立派なOB会があるんですよ。プロレスだけがないんだよ。実際に猪木に言ったのは、プロレスOB会ってのを作って、その会長になってくれと。そしたら皆さんも賛成するし、みんなが忙しいときは、オレが一番若いから、事務局長みたいになって、民間の事務局の方は岩田師匠になってもらって、それでアントニオ猪木の事務所に、日本プロレスOB会ってのを作って、そこへみんな来て、いろんな関係でやる。例えば、オレが倒れる、こっちが倒れるってなったら、みんながパッーと来て見舞ってやる。これが一番大事なんだから。これを最後の締めに、猪木さんには成功してもらいたいと。今日は本当に遠いとこ皆様、ありがとうございました。ユセフトルコ、心から、おん、厚く御礼致します。どうもありがとうございました。

吉村　ところでアンタ、どこで日本語覚えたん？

一同　ガハハハハハハ！

【98年4月4日、キャピトルル東急ホテルにて収録】

推薦状

アントニオ猪木殿

貴殿ますますご清栄の由、お慶び申し上げます。

さて、今回プロレスOB会を設立するにあたり、貴殿に会長として就任していただきたく、右連名をもって推挙いたしますので、ご快諾下さるようお願い申し上げます。

平成　年　月　日

推薦人

ユセフトルコ

駿河海 杉山光夫

吉村道明

岩田浩

遠藤幸吉

これがトルコ氏が座談会で言っていた、アントニオ猪木へのプロレスOB会会長推薦状である。座談会参加者5名連名の推薦状。新日本の会長を辞めたばかりの猪木ではあるが、ここは快く引き受けて欲しいものである。

女子プロとは何か？
～女子プロにおける上下関係を考える～

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada

下田美馬
三田英津子
ラス・カチョーラス・オリエンタレス

結局、ナメられるヤツが悪いんです！

上下関係が非常に徹底している女子プロレスの世界。しかし、必ずしも先輩＝強者という公式が成り立たない以上、そこには本音と建前の壮絶な闘いがあるはずである。というわけで、今回は、女子プロ界の天国から地獄までを体験してきたラス・カチョーラス・オリエンタレスの2人にインタビューを敢行した。

一同　ガハハハハハ！
――闘魂っていうのは、元々力道山が使って
いから、事務局長みたいになって、民間の事
【収録】

――最近、ラスカチョに白鳥智香子さんが入りたいって志願してますね。

下田　もう入らないんじゃない？　私は一言言いたいんですけどいいですか？　あいつ私らに迷惑掛けたんだから「すいません」ぐらい言ってもいいんじゃないの？　「入れてくれ」って言ってきたくせにさぁ。まあ、入れなかったのはダメだったからしょうがないんだけど、その費やした時間がムダだったよね。

――下の人には厳しいですね。まあ、3月8日のJ,dでの白鳥さんは不甲斐ない試合内容でしたよね（試合中に肩を脱臼し、戦線を離脱してしまった）。

三田　あいつは線が細すぎる。あれでもプロレスラーなの？　あれじゃ「なんちゃってプロレスラー」ですよ。

――でも、三田さんと下田さんも北斗さんの下からここまで這いあがってきたわけじゃないですか？　脱落せずにここまで来れたのは何でですか？

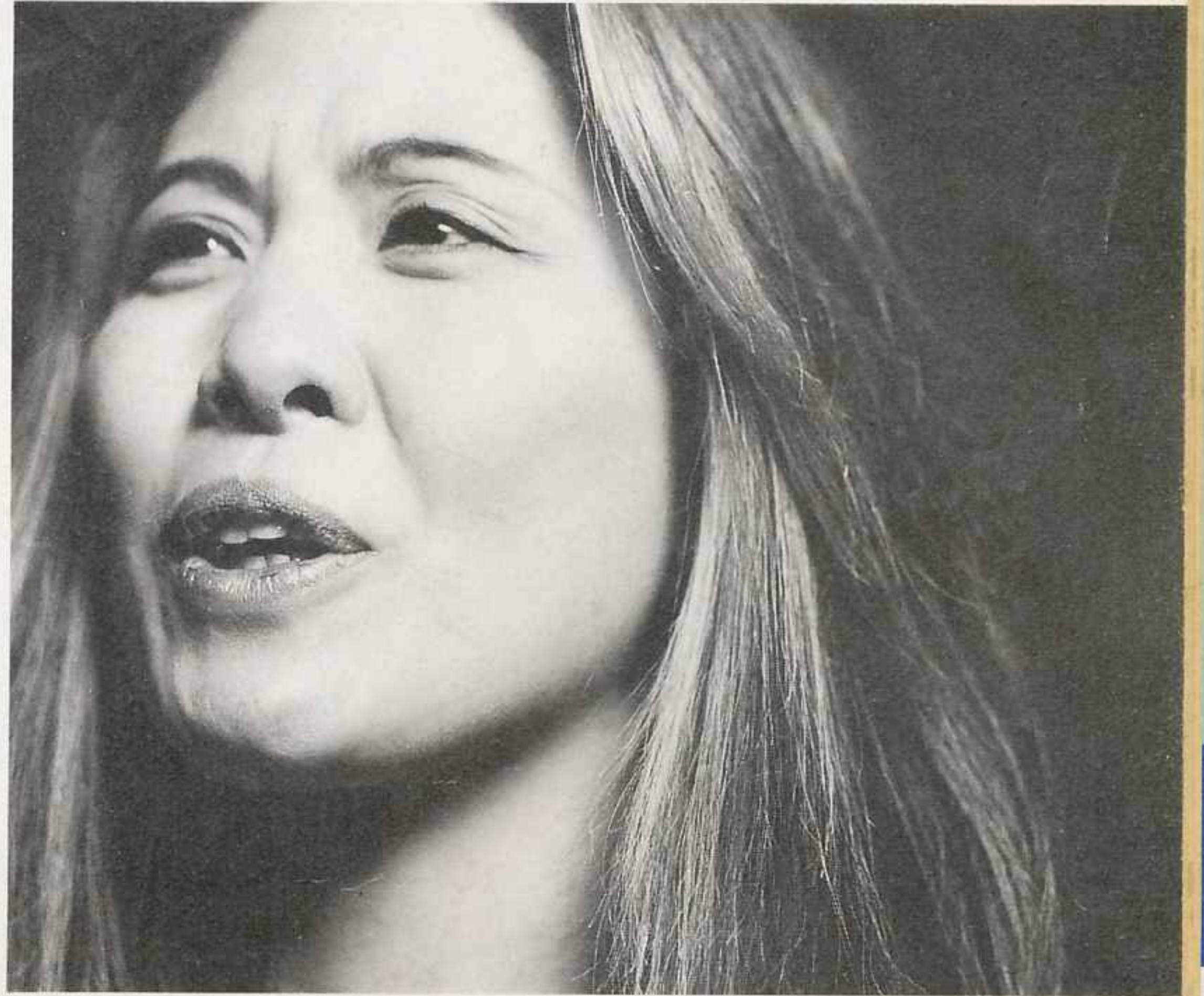
三田　何回も谷底に突き落とされたんだから。

下田　ちょっと上がったらすぐ突き落とされて（笑）。そういうこともあったから、ここに今いるわけで。それが出来なかったから白鳥が入らなかったというのとは次元が違うと思うの。私たちは何されても北斗晶に一生懸命付いていこうと思ってたことはお客さんに伝わったと思うし。

三田　北斗っていう人がいたから自分たちも頑張って来れたんで。何回も辞めたくなったけど、それは親心だっていうことが今は分かる。でも、今のラス・カチョーラスを作ったのは自分たちですよ。

下田　だって逃げちゃったら最後、プロレス界にはいられなくなっちゃうんだから（笑）。逃げようにも逃げられなかったですよ。

三田　会社からも、誰からも見放されて（笑）。しょうがないから北斗晶にくっついていくしかないと思っちゃったの（笑）。

ダンプさん100キロだよ。殴られたら怖いでしょ？（下田）

下田美馬■昭和45年12月23日、東京都出身。昭和62年全女に入門。北斗に土下座してラスカチョ入りを直訴した。昨年９月に離脱、新団体Neo Lady'sに参戦。

――会社から見放されるっていうのは、どういう状況なんですか。

三田　試合が組まれないの。「今日も試合ないの～？　早く試合やりたい！」って感じで。旅（巡業）に置いていかれたりしてましたから。

――試合をしないということは、ファイトマネーももらえないんですか？

三田＆下田　（同時に）もらえない！

――生活も苦しくなるし、どんどん追い詰められるわけですね。

三田　生活よりも、同期に差をつけられるから精神的に苦しい。

――以前、北斗さんが面白い発言をしてたんですよ。「いじめはある意味、全女の伝統だ」って。そういう部分って、今まであまり語られてこなかったですよね。でも、そういういじめとかジェラシーって、リング上のプロレスに絶対反映してくると思うんですよ。逆にそういうがモロに出るのが女子プロレスの面白い部分だとも思うし。リング上でそれが見えればそれはOKですから。そういう意味でラスカチョさんは、いじめられもし、いじめは……。

三田　いじめてないよ！　私たちは間違えたことは言ってないから（笑）。

下田　いじめっていうか、女同士だから。男の人はケンカしてもあっさりしてるけど、女だから絶対に後を引きますよ。

三田　私は「後輩に手を出さない」っていうのが自分の中にあるんです。昔の先輩にしてみれば、「殴らないとわからない」っていう部分もあるかもしれないけど。新人の子や若手の子は馬や牛じゃないんだから、殴ればわかるってものじゃないと思うし。「怖いから言うことを聞かなきゃ」っていうふうになったら、伝えたいことの本筋がわからなくなっちゃうと思うの。殴らなきゃわからないヤツもいるけど、だったら試合で「ガン！」ってやっちゃえばいいんですよ。ただ、みんな伝えたいことは一緒なんだと思う。

――「やるべきことはちゃんとやれよ」ということですね。

下田　その伝え方が殴る人、口で言う人、何も言わない人って別れるんですよ。それでいじめてるとか思われるのかもしれないけど。伝え方の違いなんだと思う。

三田　でも、今はそんなことないでしょ。今の子は殴ったり、いじめたりしたらすぐ逃げちゃう。

――三田さん、下田さんの時代には、まだまだいじめがあったんでよね。

下田　私はすごい殴られたし、いじめられた。個人的なことでもやられましたよぉ。

三田　私たちの世代までじゃないかな？　京子たちの世代は違う。私たちが入った頃に選手がバーって抜けたりしたから。

いうことが今は分かる。でも、今のラス・カチョーラスを作ったのは自分たっついていくしかないと思っちゃったの（笑）。

三田　いじめてないよ！　私たちは間違えたことは言ってないから（笑）。

が入った頃に選手がバーっと抜けたりしたから。

下田　ダンプ（松本）さんなんか100キロあるんだよ。私は50キロぐらいしかなかったんだから。ガンって殴られたら怖いでしょ（笑）。私たちは、殴られたりした最後の世代。

三田　東北に巡業に行ったときに、2人で「帰りたいね」とか言ったときがあったよね。ちょうど駅まで電話を掛けに行ったときだっけ？

――ホテルの電話は使わないんですか？

三田　どこで先輩が聞いてるか分からないし。先輩に聞かれたら「親に電話する暇があったら、洗濯しろ！」ってなるから。駅まで2人で電話しに行ったんですよ。

下田　「帰りたいよぉ」とか親に言いたいじゃん（笑）。

――はぁ、相当プレッシャーがかかってるんですね。

下田　でも、言いやすい子と言いにくい子っていうのもあると思う。「こいつに言ったら試合でガツンとやられちゃうな」と思ったら、弱い先輩だったら言わないだろうし。「こいつだったら試合でもガツンとやられないだろうから、言っちゃえ」というのも絶対あると思うの。そういうのはナメられる自分が悪いんですよ。

――そういうリング外のことも、すべてはリングの上で白黒つければいいわけですね。

三田　美馬ちゃんも試合でやっちゃってたし（笑）。

下田　ウフフフ。でも、後輩にナメられる先輩とか先輩にナメられる後輩はいますけど、結局ナメられるヤツが悪いの！

――ナメられるヤツが悪い！　いい言葉ですね。

下田　そう思わなかったら、「何でナメんだよ！」ってケンカになっちゃうじゃん。

――そういうナメるナメないというのもリング上で答えを出せばいいわけですね。

下田　そうそう。私たちはそうやってもまれてたもん（笑）。

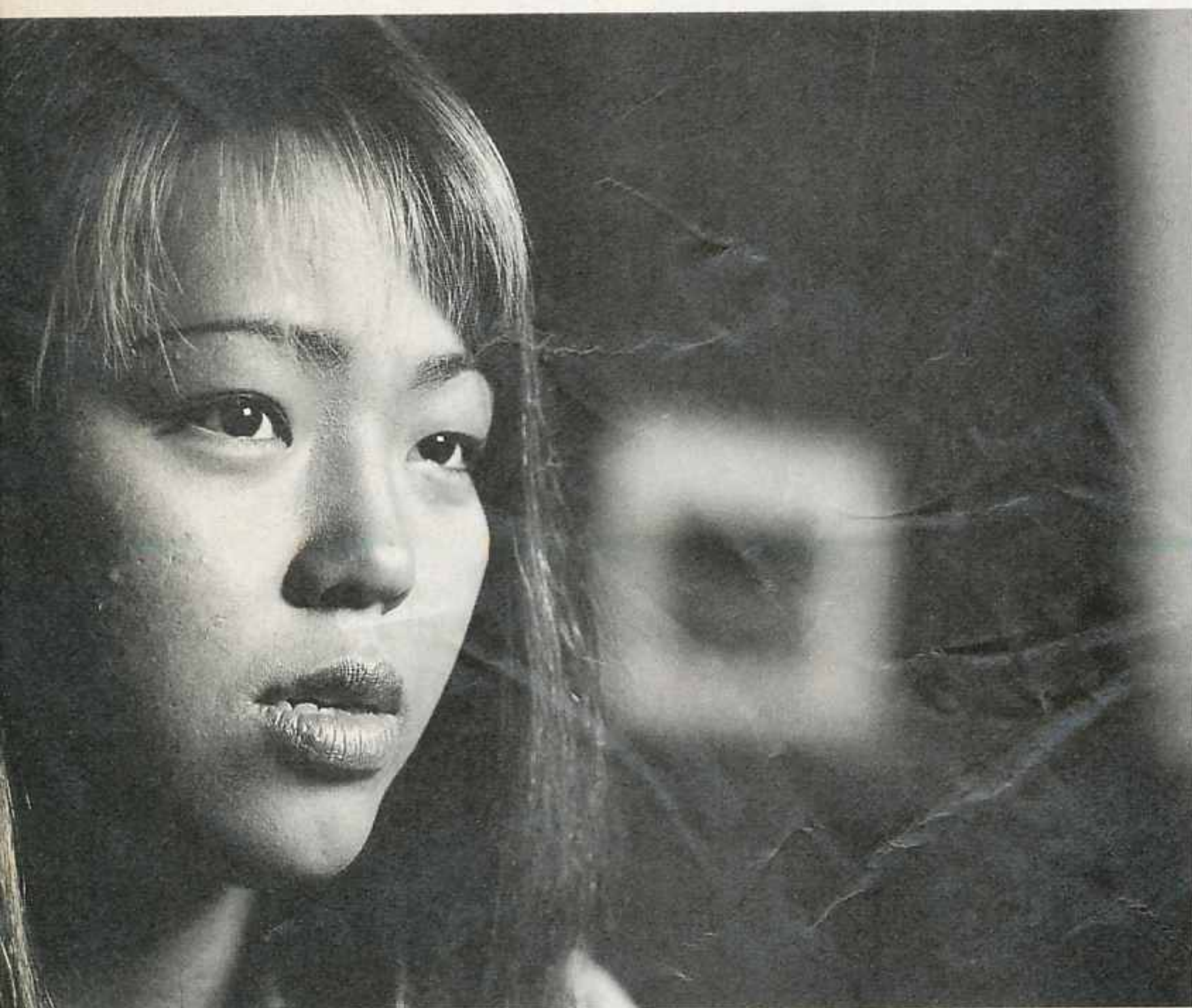
――実際、ナメられてたわけですか？

下田　後輩にもナメられたし、先輩にもナメられてましたよ！　その時には「嫌だなぁ」って思いましたよ。でも、今は怖いものはないから！

――凄い自信ですね。

下田　天狗になってるってよく言われるんだけどね（笑）。あの時、ナメられたお陰で、今の私はここまで図太くなれたんだなって思う。前なんか、「英津、どうしよう～？　辞めたいんだけど～」って感じで精神的に弱かった。そんなかわいい時代もあったんだから（笑）。

三田　別にすごく仲良くて、いっつも一緒にいるっていうわけじゃないんだけど、気が付くと2人して「辞めたいね」とか言ってて。

新人は牛や馬じゃない 私は後輩に手を出さない（三田）

三田英津子■昭和44年5月28日、東京都出身。昭和62年全女に入門。「どんなに殴っても付いてきた」から北斗に認められ、共にメキシコ遠征へ。昨年9月に離脱、新団体Neo Lady'sに参戦。

――そこから抜け出すキッカケが北斗さんと組んだことだったんですか。

下田　後輩にしてみたら「あいつら、また怒られてるよ」って思ってたと思う（笑）。自分がスキを見せると後輩にもやられますね。

三田　北斗さんと組んでて、後輩と当たったときかな。後輩にガンガンやられてコーナーに帰っても、チェンジしてくれなかったですから（笑）。ホントにずっと出てましたよ。

――TV中継のインタビューで北斗さんに「辞めちまえ」とか言われてましたけど、愛情の裏返しなんだろうなと思って見てましたよ。

下田　どうなんですかね？　でも、ダメなヤツには「ダメ」って言わないと分からないでしょ？

――ガハハハハ！　その通りです！

下田　適当なぬるま湯につかっててもしょうがないから。

――ダメなヤツにはハッキリと「ダメ！」って言う北斗イズムはラスカチョもしっかり受け継いでますね。

下田　ガハハハ！　だって気付かないんだから、大きなお世話かもしれないけど教えてあげないと（笑）。

三田　おせっかいなのよね、ラスカチョって。

――まあ、2人ともそういう愛の与えられ方しかされてこなかったから、仕方のないですね。

下田　ガハハハハ！

三田　ダメなヤツに「ダメ」って言うんじゃなくて、自分たちに関わらなければダメなヤツでもいいんだけどね（笑）。腐ったミカンと一緒にいると、こっちも腐っちゃうじゃん。

下田　ダメなものの威力っていうのが凄いんだから（笑）。

三田　私たちに関係ないダメな人ならいいんだけど、ラスカチョを腐らすまでの人は許さない（笑）。

――腐ったミカンは排除するわけですね。

下田　そうじゃなくて、いなくなっちゃうの！　こんなことばっかり言ってると、また周りに嫌われるんだろうな（笑）。でも、いつもこんなことばっかり言ってるじゃないですか？　私たちのファンじゃない人にも「キツいこと言ってるけど、ホントのこと言ってるよね」ってよく言われるんですよ（笑）。

――いいですよね。いつも正直なキャラクターって（笑）。じゃあ、ここまで大きくなったラスカチョから見て、どうしてもガマンならない後輩っていうのは、どういうタイプですか？

三田　ああいうの（とそばにいた遠藤紗矢を指さす）。

――紗矢選手のどのへんですか？

三田　勝手にこの団体の契約書にサインしちゃったことかな。

下田　姉さんたちの意見を聞かずに（笑）。

――えぇぇ!?

下田　「ハンコちょうだい！」って、勝手に押されちゃって。

三田　そういう後輩はちょっとねぇ（笑）。

下田　全女を辞めるときも、私たちより先に「辞めます」って言いに行っちゃうし（笑）。

紗矢（今にも消えそうな小声で）姉さんたちが先だったんですよ。

下田　そうだっけ？　じゃあ、アンタは残りたかったわけ？

紗矢（蚊が鳴くような小声で）ち、違う……。

三田　違うよ、全女に頼まれたんだよ。「連れてってくれ」って（笑）。でも、結構重宝してますよ。

――世話焼かせる後輩なわけですね。

三田　でも、世話焼いてもらってるのは私たちだから（笑）。

下田　ブーブー文句言ってるよね。「仕事が多い！　姉さん2人なのに紗矢は1人だから大変だ！」って。

三田　でも、あの子は誰にもセコンドは負けないですよ。私たち2人が試合のときは1人でチョロチョロしてセコンドをこなそうとするのは凄いと思う。こなせてない部分もあるけど。

――もまれてるんですねぇ。

下田　選んじゃったんだから！

三田　みずから入ってきたんだから！

――ラスカチョが良かったんでしょ？

紗矢（けっこうな小声で）はい。

――何でラスカチョを選んだんですか？

紗矢　下田さんに声をかけられて……。

下田　私、声かけてない（笑）。この人が試合終わった後に格闘技系の先輩にすごく怒られてて。そんで、「この子は格闘技やりたいんだ」って思ってたから、「そんなに怒られるんだったら、格闘技みたいなことやらなきゃいいじゃん」っていうようなことを言ったんだと思うんですけど。

――言ったと思う（笑）。無責任ですね。

三田　「ラスカチョに来なよ」とか言ったんじゃないの？（笑）責任持ちなよ、

3・8J'dの横浜大会で、ラスカチョ３人＋白鳥は裁恐軍と対戦。４人まとめての鉄柵プレスにも成功。しかし、この試合で白鳥の不甲斐なさにラスカチョ姉さんは激怒している。

ここまで言いたいこと言って、今さら頭は下げられないもん（下田）

（笑）。

――厳しくはないんですか？

紗矢　……。

三田　ガンガン酒飲まされたり（笑）。

下田　夜中に電話かけて「今から来い」

結構重宝してますよ。

闘技みたいなことやらなきゃいいじゃ

たんじゃないの？（笑）責任持ちなよ、

下田 夜中に電話かけて「今から来い」

MITA ETSUKO
SHIMODA MIKI

って言われるとか（笑）。

下田 はあ。だいぶ上下関係も変わってきてるんですねえ。じゃあ、ラスカチョ姉さんのいいところってどんなところですか？

紗矢 ……。

下田 探さなきゃないわけ？ 綺麗なところとかさぁ。

紗矢 （ものすごい小声で）綺麗なところとぉ。

下田 そのまんまじゃん（笑）。

紗矢 （かなりの小声で）優しいところとかぁ。

下田 それは「もっと優しくしろ」っていう嫌味？

三田 そうだったの（笑）。今、ちょっといいヤツだなって思ったけど、そういう裏があったか（笑）。

――じゃあ、ちょっと話題を変えます。今まで、ラスカチョの2人の間にジェラシーはなかったんですか？

下田 それは山田&豊田に対しては凄かった。特に豊田、背格好がほとんど同じじゃない？ 自分がダメだからしょうがないけど。

三田 あの2人がいいようにポンポンと上の方に行っちゃってたから。それに対してのジェラシーは凄かった。今でもその頃のこと思うと、よく今まで続いたなって思う。

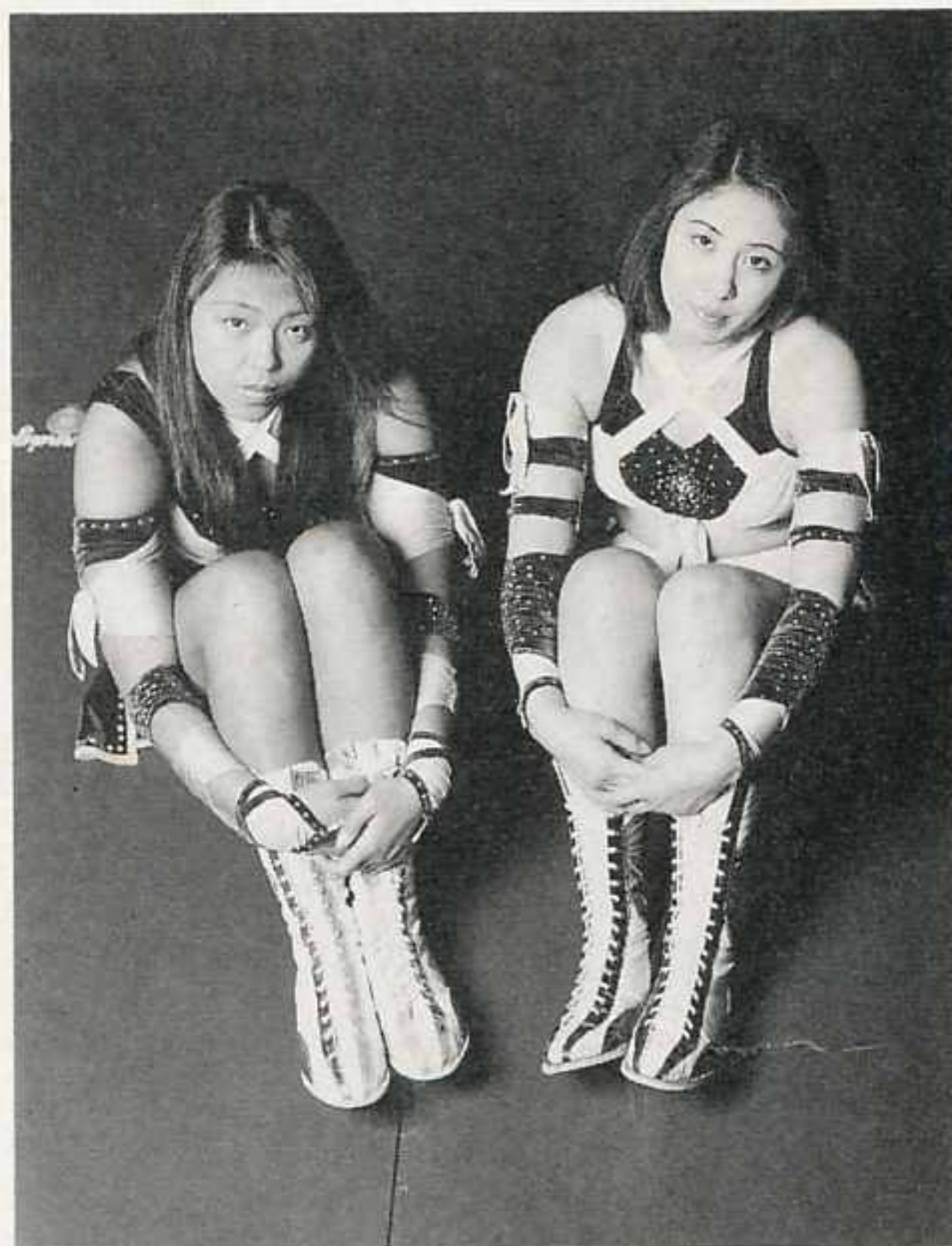
下田 ガハハハハ！

三田 ホントに凄かったんですよ！

私たちの天狗の鼻は苦労してるから折れないの（三田）

私たちは先輩からプロレスラーとは思われてなかったですから。山田&豊田には「こいつらはちょっと手は出せないな」って感じでも、三田&下田には「用事でも頼んどけ」って感じ（笑）。

下田 そうそう（笑）。

――同期の中で、豊田さんっていうのはアクが強いというか異彩を放つ人だったわけですよね。豊田さんが上がっていったとき、先輩はどういう反応だったんですか？

三田 上がってくるものは潰されるんです。昔の全女はそういうのがありましたよ。それでも山田&豊田は這いあがって行きましたから。自分たちがジェラシーを感じてた頃、あの子たちがいい環境にいたわけですよね。その何年間かを自分たちはここ1年で取り戻してる気がするから。

下田 そう、幸せすぎちゃって（笑）。自分たちがそれなりのことをしてるから、当然だと思う。天狗になってるとか言われるけど、そう思っちゃうんだからしょうがないよ（笑）。「みんな、ありがとう」って感じ。

三田 どこの団体からも「ラスカチョ、ラスカチョ」って言ってくれてるし。天狗にならしてくれて、ありがとう（笑）。なりたくたって、昔はなれなかったんだから。でも、ホントになってる人たちもいたけどね。

――そういう天狗になってた人に踏みにじられながら、2人はようやく天狗になれたと。

下田 昔の私たちを知ってる人なら「今は偉そうなこと言ってるけど、昔はあんなだったのに」って感じで（笑）。いいんじゃない、憎めないと思うよ（笑）。

三田 誰でもチヤホヤされたら天狗にもなりたくなるでしょ？

――後輩の突き上げ喰らって、そこから転げ落ちる恐怖感とかないですか？

下田 ……この天狗の鼻が折られたときが辞めるときだって、自分で分かってるから。だから、折られないように大事にしてね（笑）。踏み外さないように、慎重に慎重に。やっぱりここまで他人のことをいろいろ言っちゃって、今さら「すいません」って謝れないもん（笑）。

――頭下げられない？

下田 下げない、下げない。

三田 これがでも、折れないんだよ。色々苦労してるから（笑）。

――先輩に踏まれて育ったわけですからね。

下田 誰か折ってください（笑）。

【98年3月25日、ネオ・レディース道場】

るバトルが始まる!!

松永会長も絶賛!! マスコミでも大反響!
「女子プロレス
オールスターズ（仮題）」は
プロレスゲームの最高傑作だ!
松永高司会長

すごくセクシーでドライビイングな
超カッコイイゲーム!

（安野桃子／漫画家）

本物と見間違える程の精巧さ!
大胆で繊細なニューゲームの誕生

（柏原貴史／俳優）

もうやめられない止まらない。
寝るのも忘れるプロレスゲーム

（山下厚／板前）

オールスターズ（仮題）

モーション
キャプチャー
3連発!

いよいよ7月! 想像を絶する

全日本女子プロレス
アルシオン
ネオ・レディース
そしてレディ"X"が
一同に集結!

全日本女子プロレス・オフィシャル・ゲームソフト
全日本女子プロレス30周年記念ゲームソフト
全日本プロレスオールスターズ(仮題)
女子プロレスオールスターズ -WOMAN'S PRO-WRESTLING ALL STARS-
-WOMAN'S PRO-WRESTLING ALL STARS- CD-ROM
価格¥5,800(税抜き) CD-ROM
プレイステーション用ゲームソフト
'98年7月発売予定

お問い合わせ:株式会社ティー・イー・エヌ研究所
協力:全日本女子プロレス/アルシオン/ネオ・レディース

〈主な特徴〉
- ■[幻の対戦カードが次々と再現]
- ■[女子プロならではの技が豊富]
- ■[選手の声が本物]
- ■[30周年記念プレミアムグッズが当たる]

WOMAN'S PRO-WRESTLING ALL STARS

エキサイティングに加速する
史上最高のノンストップ・プロレスゲーム

98年、激動の女子プロレス界が幕を開けた。しかし、そこにあったのは"崩壊"と"分裂"……。混乱するファンの中に21世紀への希望とも言えるゲームソフトが登場する。それがこの、プレイステーション用ゲームソフト「女子プロレスオールスターズ」(仮題)である。現実に不可能といわれている3団体対抗戦、それがこのソフトで限りなく現実に近く再現される。

バックナンバーの RADICAL お知らせです

かい～や～！

ごちゃごちゃいわんと

山本 健一　前田

RADICAL創刊号

◎特集「プロレスラーとは何か！」
5大ロングインタビュー
高田延彦／船木誠勝／初代タイガーマスク／橋本真也／タイガー・J・シン
◎巻末超ロング・インタビュー前田日明
◎本誌だから実現できた危険騒然対談
ターザン山本vs鈴木健
◎売れ行き無視のバトラーツ特集
石川雄規／小野武志／田中稔ほかバトバト勢総登場

RADICAL第2号

◎特集「プライドとは何か！」
過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
高田延彦スペシャル・ショット
田村潔司／高山善廣／TAKAみちのくロングインタビュー
◎パンクラスとは何だ!?
近藤有己／國奥麒樹真他の若手選手徹底解剖！
パンクラスを解剖する炎上対談
◎特別寄稿
井上義啓「熊殺しの墓標」
新連載・石川雄規の「闘いの美術館」

RADICAL第3号

◎とうとうRADICALに神様降臨！
カール・ゴッチ完全独占インタビューinUSA
◎特集「針の穴にラクダを通せ！」
船木誠勝19ページぶち抜きインタビュー
山本宜久／安生洋二／池田大輔／臼田勝美
ロングインタビュー
◎過激で素敵な師弟対談パート2
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
◎賛否両論！　業界騒然のタブー特集
八百長論議と闘え!!「プロレスの敵は世間だ！」

RADICAL第4号

◎特集「落とし前」と「世界征服」97
前田日明衝撃ロングインタビュー
髙阪剛／近藤有己／山本健一／アレクサンダー大塚
ロングインタビュー
◎神様降臨！　騒然インタビュー・パート2
カール・ゴッチ
◎昭和世代の凄み！　酒、女、ケンカ超過激対談
ドン荒川vs藤原喜明
◎世界格闘技連盟プラス１最強カルテット座談会
村松友視／アントニオ猪木／小川直也／佐山聡

RADICAL第5号

◎特集『RADICALは高田延彦を応援するぜ！』
高田延彦ロングインタビュー
Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎戦慄の新連載　前田日明の破壊的人生相談
◎リングスvsパンクラス局地戦勃発！
長井満也／柳澤龍志セメントインタビュー敢行
◎酒・女・ケンカ超過激対談パート2　ドン荒川vs藤原喜明
◎怒涛の6大ロングインタビュー
ビクター・クルーガー／長与千種／ライオネス飛鳥／ディック東郷／愚乱浪花／ザ・グレート・サスケ
◎世界格闘技連盟を語る超ロングインタビュー　タイガーキング

RADICAL第6号

◎特集「“プロ”と“レス”融合か分裂か！」
蝶野正洋に大胆ロングインタビュー
TAKAみちのく／テリー・ファンク／桜庭和志／近藤有己
◎前田日明の人生相談＆プチッ！インタビュー
◎総力特集　高田×ヒクソン戦、終わる
RADICAL観戦記　ガッツ石松／浅草キッド／花くまゆうさく／仮面シューター・スーパーライダー
試合直後、Puffyに独占インタビューを敢行！
◎打倒！八百長論議！ ザ・グレート・サスケが素人相手にお説教！
◎全女分裂！　激烈インタビュー4連発
井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司

RADICAL第7号

◎特集「反骨の剣」　田村潔司に鮮烈ロングインタビュー
◎そしてUWFの同窓生が集う！
冨宅飛駈／垣原賢人ロングインタビュー
◎みちプロ経営危機の真実とは？
ザ・グレート・サスケが独占告白！
◎もはや敵なし！　前田日明のメガバトル人生相談
◎祝！　復帰記念「プロレス界にモハメドあり！」
モハメド・ヨネインタビュー
◎ひっそりと大胆に反響を呼ぶ新企画　ラジカルバウトレビュー
◎ラジカル初登場２連発！　冬木弘道／MEN'Sテイオー

RADICAL第8号

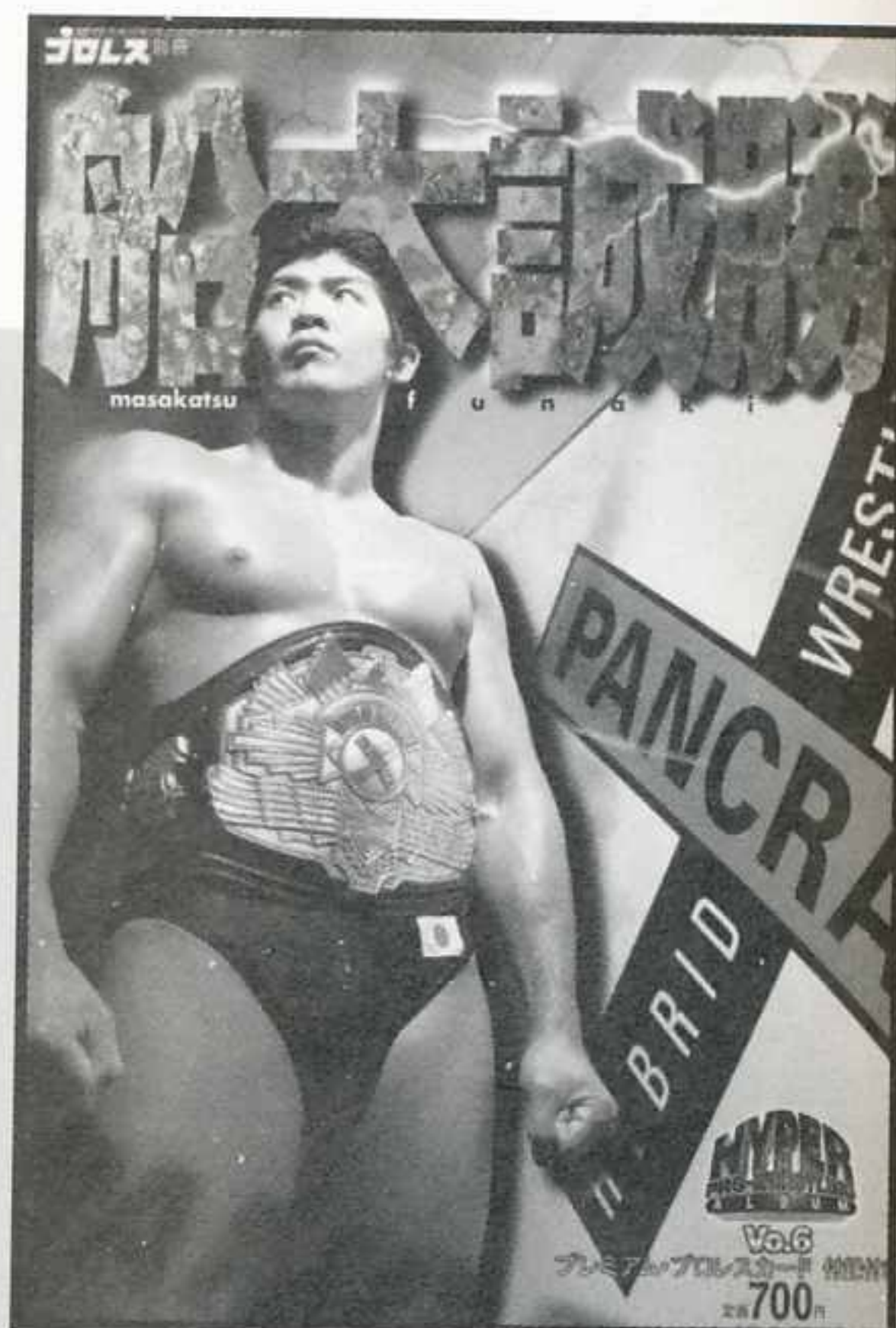
◎特集『格闘技世界大戦前夜！』
アントニオ猪木「元気」と「気づき」のロングインタビュー
桜庭和志／高田延彦／柳澤龍志／ヒカルド・モラエス？／エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
◎波動砲！　前田日明の人生相談『人生は語らず』
◎黒いパンツの心意気PART2
木村健悟、「昭和の新日魂」大いに語る！
◎男プロファンに根強く残る「女子プロ嫌い」の正体を暴け！
ファンのアンケート回答に玉田凛映＆府川唯未が大激怒!!
◎アレクとのものもはホントに結婚したんです！
結婚披露宴インサイドレポート＆独占手記×2

【ＴＨＥ・購入方法】
●現金書留と郵便振替の2種類があります。（あの～申し訳ないんですが、バックナンバーは書店で注文しても買えません。）
●現金書留の場合
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130―3―769154（株）ダブルクロスまで。
代金は創刊号＝610円　2号＝660円　3号～8号＝680円　送料1冊＝310円　2冊＝340円　3冊～4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

前号では某団体や某プロレス雑誌のみならず、なぜかサンボ浅子までもが大激怒！
色々ありすぎたので急遽リニューアルを敢行し、
揉め事を極力起こさない方針となった書評コーナー。

HYPER PRO-WRESTLING ALBUM 船木誠勝
（ベースボール・マガジン社）

ボクの大好きなヤスカク&宍倉次長体制で制作された、奇跡の一冊。インタビューで**「好きな女性のタイプはない」**と語る船木に対し、**「僕なんか鈴木京香が理想」**などとアピールし始めるヤスカク。そして**「もし鈴木京香を自由にできる条件として、バス・ルッテンと闘うならどうします？」**と、**「たとえ話の大好き」**な船木に聞かれてすっかり浮かれるヤスカクを横目に見ながら、**「オレが一番、会いたいのは青木裕子だけど」**などと一人**「心の中でつぶやく」**宍倉次長だけで、ボクはもう十分に満足な出来なのである。

それなのに、表紙のボツ写真を全部並べた**「表紙用の写真、すべてお見せします」**という誰もやらないような画期的コーナーまで設置するのみならず、**「私の知る限り、このように撮った写真をすべて載せた記憶は、ない」**とまで言い切る宍倉次長に心からリスペクト。これもおそらく「誰もやらないことを、夢としてそれに挑戦する」という猪木イズムに違いない。

本誌の表紙でベルト姿の船木をスタジオ撮影したことも全て無視して、**「意外にも、マスコミがキング・オブ・パンクラシストのスタジオ撮影をしたのは鈴木みのるの一度だけ。船木は始めて」**とまで臆面もなく言い放ったことにも、ボクは非常に感動させていただいた。

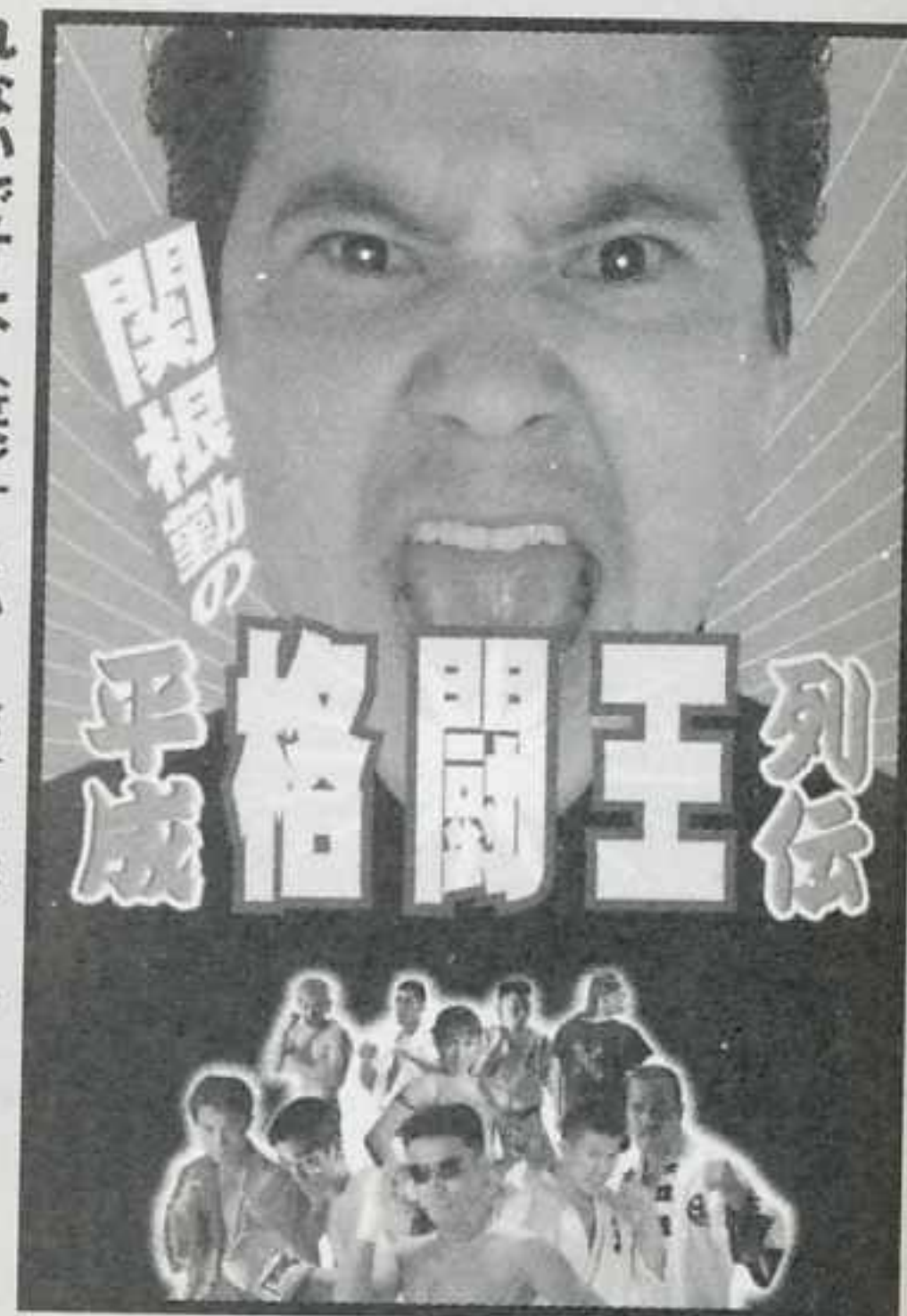
少なくともボクの知る限り、これまでにこのような編集者を見た記憶は、ないのだから。

神話
（神取忍／マガジンハウス）

神取については『プロレス少女伝説』（井田真木子）という歴史的な名著があるため、何を書いても勝ち目がないのが現実だろう。

だが、ヤンキーだった中学時代のエピソードとして、**「気がついたら私が馬乗りになってるんだ。そういう時は遠慮しないで顔をバンバン殴る。結局、私は人を殴るのが大好きなんだと思うよ」**という早すぎたUFC（UFOではない）なエピソードを引き出しただけでも評価に値する。そんな一冊である。

関根勤の平成格闘王列伝
（スコラ格闘技委員会／スコラ）

関根さんの名著『オレのこだわりヒーロー列伝』を愛読してきたボクにしてみれば、どうにも物足りない一冊。明らかに編集センスの問題なのだが、たとえば**「ニールセンは柴俊夫に似ている」**と語る関根さんに、**「読者は柴俊夫さんって言われてもわからないかもしれないですよ（笑）」**という余計な突っ込みを入れたりと、いちいち笑いを消していくのだ。

センスなき編集は無能なり！　であろう。

ザ・バーリ・トゥーダー
（竹内規和／フットワーク出版社）

ぶっちゃけた話が『プロレスラーってこんなヤツ全集』の総合格闘技版といった一冊。

前半はまだしも、後半で大沼孝次君が**「前田はヒクソンに挑戦する素振りは見せず、まだ沈黙を守ったまま」**だの、力道山の裏切りで潰された木村政彦が反撃しなかったのは、**「木村が気持ちの優しい男だったから」**といった、「4月4日、鈴木みのるはどこに……」と表紙に堂々と打った宍倉次長ばりに誰も予想もしないようなことを書いていたりもする。

そもそも木村が反撃しなかったのは、胸を出して力道山の手刀を受けようかと思ったら、胸ではなく「中学生が打ったとしても完全にぶっ倒れる急所＝頸動脈」にブチ込まれてしまったからでしかない。しかも力道山を恨み続けた木村は、彼がチンピラに刺し殺されると「悪は滅びる！」とまで言い切ったのだ。

これは猪木引退のTV特番を見ていても思ったことなのだが、猪木が祖父に「世界一の乞食になれ！」「世界一の気違いになれ！」と言われて育ったという素敵な話が「世界一になれ！」に改竄されたり、「柔道の鬼・木村」が「優しい男」になってたりと、悪質な毒抜きばかりが横行するブルシットな世の中には警鐘を鳴らし続けていきたいものである。

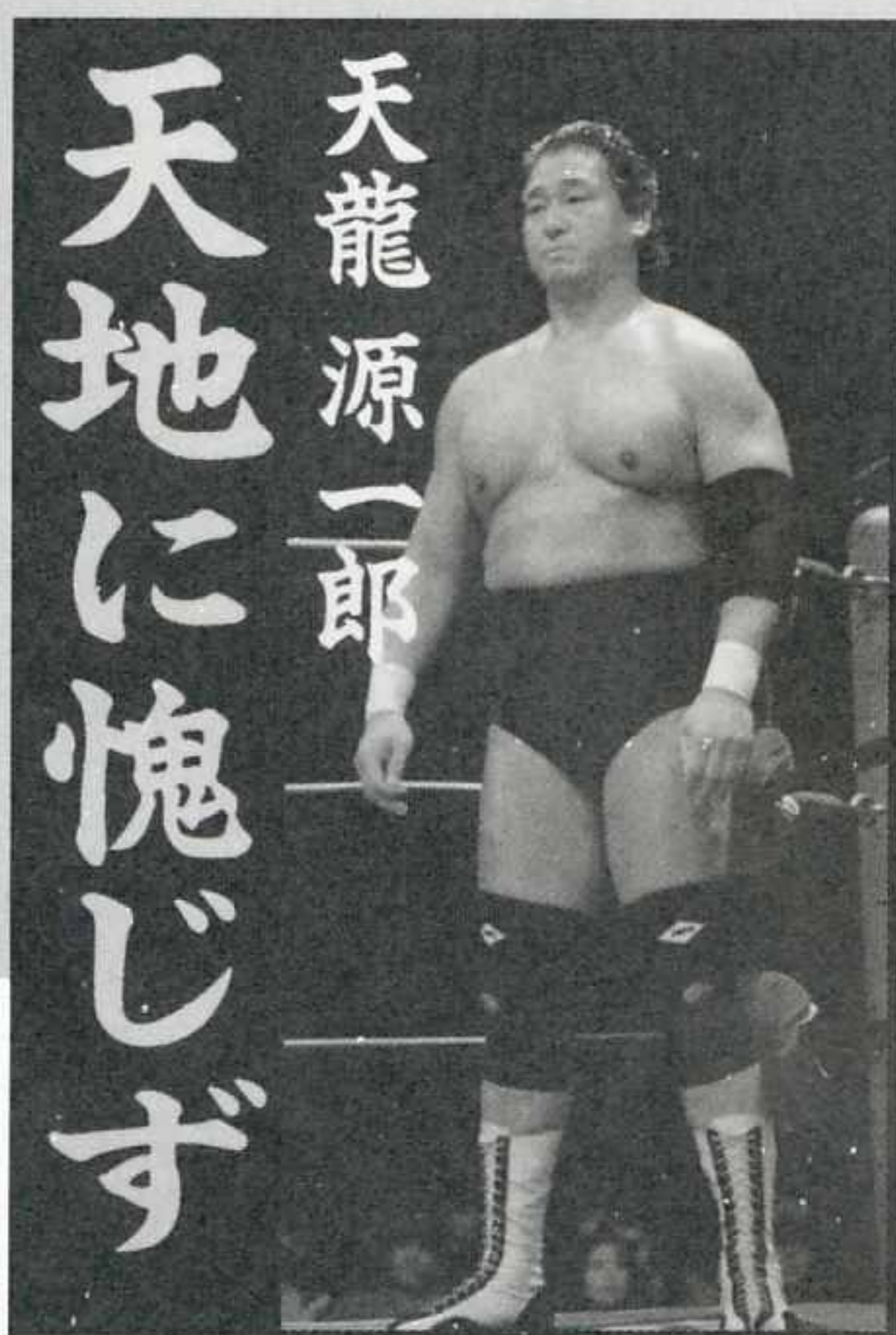
闘いのゴングが聞こえているか（馳浩／日本文芸社）

全日所属で国会議員というどうにも自由の許されなさそうな立場ながら、新日時代の著書以上に暴走して**「不謹慎だ」と怒られそうな話もあえて包み隠さず書いた**奇跡の一冊。さすがに愛の伝道（コケ）師らしく、**「某週刊誌の『私を抱いた有名人』シリーズで禁断の一夜をチクられてしまい、女房に白い目で見られた経験」**から、元・新日道場主らしく新日離脱の真相や高岩を辞めさせようとしていじめまくっていた話も告白しているのだ。

ちなみに馳先生曰く、健介は**「負けず嫌いで上昇志向が強くて独りよがりで甘えん坊で内向的」**。武藤は**「受け身を取ることが大嫌い」**とのこと。褒めているのかけなしているのかよくわからないが、きっとそうなのだろう。

他にも、小橋の**「かったる」**くて**「へなちょこ」**なジャイアントスイング批判や、**「プロレス最強」**とは**「思い上がりもはなはだしい」**。強さを証明したいなら**「相手の土俵で闘い、そして勝て」**という異種格闘技批判など、とにかく手当たり次第に手厳しく断罪。

やはり馳は言葉でもプロレスできるナイスガイだとつくづく痛感させてくれるのだった。

天地に愧じず（天龍源一郎／ビレッジセンター出版局）

自ら**「選手は一流、団体は二流、ギャラは三流」**と語る天龍三冊目の単行本。原稿執筆&インタビューは菊池孝先生と小佐野編集長が手掛けているから、ゴング読者にはたまらないはず。要するに、良くも悪くも徹底してオーソドックスな作りは、まさに天龍らしいと言えるだろう。なかなか読む気にはさせないが、実際に読んでみるとそれなりに楽しめたりするのも、きっと天龍イズムなのであろう。

プロレスラーをめざして夢を勝ちとる方法（ミスター高橋／三一書房）

ピーターことミスター高橋による新日入門のための完全な実用書（当然、トレーニングにはピーターパワーをオススメしている）。

なぜか入門心得に堂々と**「喫煙は一人前になってから」**が入っていたり、新年会は**「十次会を限度とし、最後まで全員付き合う事。当日は無礼講とする」**と最初から勝手に決められていたりするのには、どうこう言っても新日はやはり凄い団体だと痛感させてくれることだろう。

ついでに貴重な選手エピソードも豊富で、南海龍は**「呑むと暴れる悪癖はついに直らず、解雇してサモアへ追い返し」**たことや、**「西村選手は温泉場から銭湯まで」**のマニアだという非常にどうでもいいことがわかるのも、これからプロレス入門を目指すキッズファイターたちには非常にありがたいはずなのである。

心に残るプロレス名勝負（ジョー樋口／経済界）

ハッキリ言って、本の中心となっている**「ジョーが語る名勝負」**自体はイマイチなのだが、後半にひっそり掲載されている自伝部分が文句なし。ジョーの魅力大爆発なのである。

馬場に**「下手なレスラーよりよっぽど受け身がうまい」**と絶賛されたほど素晴らしいバンプで「失神レフェリー」の名を欲しいままにしてきたジョー兄ィ（あしたのジョー調）。

戦時中には軍需工場勤務をサボって敵性音楽とされていたジャズを聞き漁り、プロレス入りすれば両親に勘当され、水商売を始めれば失敗したりという知られざる波乱の人生が、短いページ数にとことん凝縮されまくっているのである（映画出演時のスチールも収録）。

中でも最大のヒットは、ジョーのヘアスタイルの秘密である。当時、山本小鉄もジョーもスキンヘッドなので、レフェリーは髪の毛があったらいけないものなのかともボクは思ったほどなのだが、真実は違った。アメリカ永住を決めてNWAのプロモーターからもレフェリーとして内定を取り付けた矢先に全日へと誘われてしまい、やむなく**「日本流のお詫びの印」**として頭を丸めたのだ！　要するに、浮気が発覚して丸坊主になった猪木と似たようなものだったわけである。

プロレス八百長論者撃滅宣言！（稚陸芳生／文芸社）

主張したいことはわからないでもないんだが、ひたすら読みづらさばかりを追及したかのような文章で、図版も使わずに作り上げて

しまった謎まみれの一冊。筆者の想像に基づく様々な例文を並べていき、最後には**「プロレスラーは喧嘩に弱くたって一向に構わん！」「レスラーは誰もがプロレスを真剣にやっている！　だからプロレスは真剣勝負だ！」「まずは隣の八百長論者を論破せよ！これは戦争だ！　一人一殺だ！」**などとすっかり興奮して一気にまくしたてるが、これで八百長論者が撃滅できるとも到底思えやしないのであった。

　さらにあとがきでは**「プロレス漫画の原作の話があれば喜んで引き受けるので、興味を持った編集者の方は是非声をかけていただきたい」**などと自分の売り込みまでする始末。

　これで果たして彼氏に仕事が依頼されるのか？　個人的には八百長論者が撃滅できるかどうかよりも、そっちが気になるのである。

猪木神話の全真相
（渋澤恵介／KKベストセラーズ）

　86年以降の猪木エピソードや**「猪木の名言、奇言」**などで構成しながらも、著者の思惑とは違う部分で猪木の奇言が大爆発する一冊。

　これはボクも全く知らなかったのだが（山口昇に言わせると常識らしい）、猪木は87年に**「ブラジルで眼の心霊手術に踏み切った理由」**とやらで試合を欠場し、糖尿病時代には**「血糖値が致死量にまで達していた」**というまでに爆弾を背負い続けてきたらしい。

　ついでに怪我のみならず多額の借金まで背負ってきたことは誰もが御存知だと思うが、それでも**「東京プロレスの旗揚げから、ずっと負債を負って、今日に至ってます。完全に至りまして、完至（＝寛至）で」**と呑気にダジャレを連発し続ける猪木。これはボクの持論なのだが、「素敵な男はダジャレ好き（例／大山倍達、黒崎健時、金田正一など）」だという結論に、完全に至らせていただいた（＝寛至）次第である。

もう一人の力道山
（李淳馹／小学館文庫）

　力道山マニアのボクもうならせた傑作ノンフィクションの文庫版。なんと42ページにも渡る追加原稿では**「韓国籍を持つ在日同胞」**として星野勘太郎も登場し、かつて力道山と同居していた幻の在日朝鮮人美女へのインタビューにまで成功しているのだ。これにはハードカバー版を持っていても買うべきであり、もし持っていなければ絶対に買わなければならないと断言できる、男の必読書である。

ヒクソン×高田戦の真実！
（SLAM JAM／メディアファクトリー）

　島田さんの顔に×印を付けるという、初期パンクラス的なビジュアルセンスに悪意を混ぜたような表紙が光るオフィシャルブック。

　近藤隆夫君による冒頭の**「序章・コラージュ」**なる不思議なタイトルの原稿の時点で、**「僕の中では終わっていたはずなのに、20世紀は終わっていなかったのか。いや、終わったことは事実なのだ」**などと、勝手に20世紀を終わらせていたりするから非常に強烈だ。

　さらにマスコミ報道徹底検証コーナーでは、唯一プロレス誌で高田を全面支持した上でレスラーたちによる結果予想まで掲載した本誌をあえて無視し、ウチ以外のほとんどの雑誌を並べて**「高田がヒクソンに挑む……となれば、全国のトップレスラーからの応援メッセージといった記事が掲載されていてもよさそうなものだが、残念ながらプロレスマスコミは今回の一戦に対して、かなり距離を置いてしまったように思える」**と臆面もなく書く。

　これは以前、オフィシャルブックを書評で叩いたのが原因なのだろうか？　もしそうなら言わせてもらおう。応援できないよ。そして営業妨害だ（ヤスカク調）、と。

アントニオ猪木の証明
（木村光一／アートン）

　諸事情で書店には並べられなかったらしい『猪木論』（有朋堂）の加筆訂正バージョン。

「デビュー以来、馬場が猪木の前を走っていた」と木村光一君に言われると、**「いや、そのときジャイアント馬場は走ってない（笑）」**と呑気に答えたり、猪木とゴッチのスタイルが違ってきた理由を聞かれると**「俺がいい加減だから（笑）！」**とこれまた呑気に答えたりと、相変わらずゴキゲンなアントントークが満喫できる。

　だが、最も衝撃的だったのは**「俺が北朝鮮で選挙に出たら絶対当選するのにね（笑）！」**と語るほどに大成功を収めた平和の祭典を開催する3年前まで、力道山を日本人だと信じていたという事実であろう。良くも悪くも、何でも信じ切る男。それが猪木なのである。

必読連載第7回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『バチバチが海を渡った日』

子供の頃、『ブレーメンの音楽隊』という物語を読んだ覚えがある。

当時はその場所が何処にあるのか知らなかったし、ましてや将来自分が訪れるなんて思ってもみなかった。私の盟友、ビクター・クルーガーからの国際電話で”X-FIGHT“なる大会をドイツのブレーメンで開催するという知らせを受けたのは、昨年の9月頃だった。

X-FIGHT（エクストリーム・ファイト）というのはビクターが自分でつけた名前で、つまりはバトラーツ・スタイルの闘いのことである。

バトラーツと出会い、バチバチファイトを体験したビクターがバトラーツスタイルをドイツに上陸させたいと夢を抱き、自らの手で実現にこぎつけたのだ。11月に予定されたものが一度延期になり、あらためて企画された2月の大会が、今回ようやく実現の運びとなった。

ビクタークルーガー、31歳。

別名”熱血巨人“。2m3cm、135kg。均整のとれた体に優れた運動能力、そして何より熱いハートを持つ大男だ。

彼が初めて来日した頃、暫くの間、我が家に滞在してもらった。その際、試合のビデオを見ながら、よく酒を汲み交わしたのだが、これがまた話が弾んでついつい深夜に及んでしまうのだった。

彼とは同い年ということもあり、初めて会った日から妙にウマが合った。全く違う国に生まれ育ったのに人生観が似ていたり、価値観が同じだったりするのは、何だかとても嬉しい。

『俺は現在、とりあえず食うには困らない程度の収入はある。だから、普通だったらこんなに遠い場所まで来て、わざわざ新しいスタイルに挑戦する必要なんてないのかもしれない。でも、バトラーツのタフなファイトは俺がずっと求めていたスタイルなんだ。バトラーツはまだ小さい団体だけれども、いつか必ず世界に届くはずだ。いや、届かせなければならない。ドイツでは今、往来のプロレスに対する熱が下がりはじめている。ファンは、今こそこのスタイルを待ち望んでいるのだ。俺は何度でも日本へ来て技術を学びたい。そしていつかドイツでもバトラーツスタイルを広めたい！　プロレスをバカにする奴らの度肝を抜いてやりたいんだ!!　その時は力を貸してくれ』

そう言って、ビクターはウォッカのグラスを掲げ、我々は、その日7度目の乾杯をした。

1998年2月。成田空港を発ち、私は生まれて初めての欧州へと向かった。パリを経由し、ドイツのハノーバー行きの便に乗り継いだ。現地に着くと、そこに迎えに来ているはずのビクターがいない。スーツケースに腰を降ろしてしばらく途方に暮れていると、人混みの中からひときわ目立つ大男が大急ぎで近づいて来た。

『ソーリー。向こう側の出口で待っていた。待たせて悪かった。さあ行こう。こっちだ』

我々は久しぶりの再会の固い握手をすると、すぐに駐車場に向かった。現地の時間はPM9：45。彼の家があるブレーメンまで約2時間かかるらしい。

『どうした？　ロングフライトで疲れたか？』

言葉少なくなった私を気遣って、ビクターはハンドルを握りながらそう尋ねた。

『いや……、大丈夫だ……』

そう答えながらこっそり視線だけでスピードメーターを覗き込む私に気づくと、ビクターは事情を察し、

『ウエルカム・トゥ・ジャーマンアウトバーン！』

そう言って大声で笑った。ドイツのアウトバーンとは、有名な”速度無制限道路“のことである。

『大丈夫。俺のトヨタは形は古いがよく走るんだ』

ビクターはご機嫌で、180km／hを超えているというのに、更にアクセルを踏み込んだのだった。

”……そういう問題じゃないんだ……こんなスピードでぶつかったら、日本車は木っ端みじんになるぜ。アウトバーン向きに作ってあるメルセデスとはわけが違うんだから……たのむよ、ホント“

そう心の中でつぶやきながら、ただひたすら無事を祈り続けた2時間であった。

翌日はビクターのフィアンセ（婚約者）の家で昼食を御馳走になった。家族を紹介してもらい、食事となった。食卓に並べられたお皿には色々な種類のハムやチーズが乗せられており、それを各自好きなように組み合わせてパンに挟んで食べる。

部屋の壁は白。家具は黒に近い木目の色調。シンプルながら存在感のある、そして頑固さと強い主張を感じさせる色合いとレイアウトだ。しばらくドイツ語で話していたビクターが、今度は英語で私に話しかけた。

『トーイ、こちらのお母さん（ミセス・ウタ）は実は新聞等で紹介されたりする占い師なんだ。もし嫌でなかったら視てもらおうか？　ほら、人によってはそういうのをいやがる人間もいるから……』

私はそういった能力の存在を信じる方だし、彼女の透視能力に興味こそあれ、占ってもらうことに異存などあるはずはない。彼女は人を視るだけで、その人の周りに様々なものが見えるのだという。ウタさんはじっと私を見ながら、二、三、身の回りのことをピタリピタリと言い当てて私を驚かした後、こう続けた。

『あなたは将来外国に家を買うでしょう。どこの国か私にはわかりませんが、近くに大量の水を感じます。それから広

ビクターとの闘いが、時を越えて
カール・ゴッチの祖国に還った

い庭、たくさんの緑と背の高い木。家は1階建てで細長い感じです。後は白い壁に大きな窓が見えます』

私は思い当たる家が一つだけあった。もしこの予言が当たるとしたら、将来、私はゴッチさんの家を買うのだろうか……。実は先日、この予言もひょっとして本当に当たるんじゃないかと思える出来事に出くわしたのだ。

『4月頃、アメリカ人でバトラーツに留学したいという人材が現れるが、その男は受け入れない方がいい。バトラーツの未来に悪い影響を及ぼす。云々』

そして彼女はその男の特徴を教えてくれた。

その時は心当たりはなかったので、特に気には留めてなかったけれど、ついこの間、ライターのフミ・サイトウさんにあった時にこのことを思い出した。

『トーイ君、ところでバトラーツでは留学生とか取ってるの？　実はちょっとした知り合いで、日本に住み込みでやりたいってヤツがいるんだけど』

私は、フとあのことを思い出してフミさんに聞いてみた。

『フミさん、ちょっと待って。ひょっとしてその男、こんな特徴じゃないですか？』

私が例の予言による男の特徴を事細かに言うと、フミさんは目を丸くして驚き、

『うわ〜、その通りだよ！　何それ……、うわ〜、見てホラ、鳥肌立っちゃったよ』

その時、ビクターが帰りがけに車の中で言った言葉が、より真実味を帯びて心の中に甦った。

『俺も最初は信じちゃいなかったけど、彼女の言葉はやたらに当たるんだ』

もちろん、留学生の話は今回は見送った。フミさんもそれには大賛成だった。

さて、滞在3日目、大会当日がやって来た。ブレーメン郊外の巨大な老舗ディスコ「ALASIN」の半分を使っての興行だ。プロモーターであるビクターの苦労の甲斐あって会場は600人近い入りで超満員。会場は、地元の英雄ビクターの旗揚げと〝X-FIGHT〟への期待で、すでに興奮状態だった。入場セレモニーを終え、あとはビクターとの一騎打ちに臨むのみだ。

リングアナに呼び込まれ、先にリングの中に入った。リングが狭くて堅い。

これではビクター・ボムをくらったら一巻の終わりだ。戦慄が走る。大歓声に包まれてビクターが登場してきた。極度の興奮のせいか、ビクターは狂気に近いほどの闘志がみなぎっていた。そして私の闘魂モードも一気に最高潮に達した。

闘いは延長含み、18分のドロー。決着はつかなかったものの、2人のバチバチファイトにブレーメンの観衆は大歓声と拍手で答えてくれた。

カール・ゴッチに導かれた石川雄規の情念と、バトラーツに導かれたビクターの情熱が日本で出会い、その2人の闘いが時を越えて、カール・ゴッチの祖国に還った瞬間であった。

日本に帰り、しばらくすると、ビクターから丁寧なお礼の葉書が届いた。〝熱血巨人〟は実はとてもマメな〝几帳面巨人〟でもあるのだ。

格闘探偵団バトラーツ　石川雄規

Mubito

不世出の天才・マット界に降臨!!

虚構と現実がクロスする 壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

無比人

(22)

真樹日佐夫
コラージュ・通須李伊

【前号までのあらすじ】
天性の格闘センスをプロレス雑誌の編集長・千堂に見出されて、プロレス入りした万無比人――。セメントを含め連戦連勝を続けた無比人。プロレス界の先行きを真剣に考え始めた無比人は、新たな対戦相手として、柔道からマット界へと転身した小川直也の名を挙げた。そして猪木、佐山の協力もあり、小川と無比人の公開スパーリングが決定した。開始を告げるゴングが鳴った――。

カンタス航空のジャンボジェット機は、白々明けの雲海のなかを一路オーストラリアをめざし驀進していた。

ビジネスクラスのスペースの最前部に見られるスクリーンによれば、高度一万メートル、時速九百キロ、機外の温度はマイナス四十度、そしてすでに六千キロ余りを飛んでいるのだ。

成田からシドニーまでの所要時間は九時間半とのことで、この機が発ったのが前日の二十時三十分、時差は二時間あり現地時刻でいうと八時到着の予定であった。

千堂は、前から二列目の窓側に席を占めており、いくたびかの微眠から覚めた頭を左右に小さく振ってみる。晩餐の折にビールとブラディマリーと赤ワインをチャンポンに飲んだのがいけなかったか、量はさほどでないにもかかわらず、脳の深いところに鈍痛が感じられた。

隣では真澄が毛布を胸まで掛け、アイマスクに耳栓もしてかすかな寝息をたてている。おちょぼ口の口許が弛み加減のまま、時折微細な動きを見せるのが、どうかすると千堂を誘っているようにも受け取れた。

頭痛は散じるふうもない。ひとまず眠るのを見合わせると、千堂はボタンを押してスチュワーデスを呼び、ブランデーを運ばせた。迎え酒こそ二日酔いの妙薬というが、ひとくち口に含んでゆっくり喉元を通過させたら、もうそれだけで痛みも軽快したような気がしてくるから不思議だった。

新日本プロレスの道場で無比人と小川直也の公開スパーが行われて一ヶ月半、後にしてきた日本は間もなく桜の季節を迎えるが、これから向かうオーストラリアでは夏が過ぎ初秋の候だという。千堂にはシドニーは初めてで、まだ見ぬ南半球最大の都市へあれこれ思いを馳せつつ、アルコールの力を借り改めて眠気がさすのを待った。

公開スパーが開始されて少しして、いつの間に現れたか猪木と佐山も記者たちがかたまる後方に肩を並べていることに千堂は気づいた。二人して奥にいてゴングを聞いたものか。目が合うと猪木は会釈し、佐山の方はいたずらっぽくウインクをしてみせた。

異種格闘技戦スタイルによるスパーリン

グは、いきなり無比人がドロップキックを敢行して火蓋が切られた。

助走なしの割には蹴り足がよく伸びて、高さも申し分なく、虚を衝かれた格好で小川はもろに胸に浴び転倒。しかし苦笑いしながら、じきに起った。

リング中央にて再度相対峙する両者を千堂は注視し、あの至近距離からのキック一発で四十キロほども体重差のある小川をとにかく横倒しにしてのけた下半身のバネはやはり天性のもの、と呑み込むように了解するとともに先への期待に心をときめかせた。

互いに相手の左へ左へと足を送りながらの睨み合いを経て、今度は小川が仕掛けた。無比人をほぼ真上から見下ろす位置にある頭がすっと沈んだかとみるや、稲妻形の動きのうちに大きく踏み込み、右足がマットを掃くようにして足許を刈りにいく。

足払いか、と千堂が視るうち、無比人はこれまた天性としか言いようがない反射神経の冴えを見せ、ジャンプして空を截らせた。それだけに止まらず、垂直跳びから後方宙返りに転じ綺麗に着地を極めたのだ。

安堵の胸を撫で下ろしたのも束の間、小川が空振りした右足に逸早く引きを命じる一方、左足でさらに踏み込んで掴まえにかかるのを見て千堂は目を剥いた。

足払いを跳んでかわすのを見越してのこと、と悟り知って肝を冷やすうちにも、着地直後のこととて無比人もとっさには逃げが利かぬとみえ、小川の腕のなかに手繰り込まれた。次の瞬間、反り身を見せるその頭ごしに抜き上げるようにして後方へ持っていかれた。

千堂の目にはバッグドロップのようであったが、後に知らされたところでは真捨て身といい歴とした柔道の技で、これで小川は無比人を放さずじまいのままマットに横臥した状態にすることに成功。そうして置いて左腕を両手で掻い込み、半身を起こし両股も用いて頚と肩を殺す——すなわち三角絞めに運んだのであった。

——極まりだね、どうやら。

——万無比人、立ち上がりの速攻は見事だったが。

——あれだけウェートの差があっちゃ、もはやどう悪掻いても跳ね返せまい。三角絞めは小川の得意技でもあるし。

緊張を解いた様子の声がそこここにして、ほかならぬ千堂自身、小川の右の大腿部によって頚に圧力をか

天性としか言いようがない反射神経の冴えを見せ

けられた無比人の苦悶の表情に、これまた彼の敗けを思わずにはおれなかった。同時に、いまなおどこかでそれを期待している己が内面と、戸惑いつつも向き合わないわけにいかぬようでもあった。

信じ難い光景が、ややあってリング上に展開された。

カメラを構えた者たちが無比人のギブアップの瞬間を捉えんとしてか、我勝ちにフラッシュを焚きシャッターを切りだすなか、左腕と肩と頚を殺されたまま横臥を強いられた彼の下肢が徐々に浮き上がり、捩じれたような格好ながら小川の頭部へと接近。弧を描いた後に二本の脚の間に頚を挟んで巻きついたではないか。

両手の塞がっている小川としては引っぺがすわけにもいかず、代わりに渾身の力を込めた様子で無比人の腕を引きつけ、肩と頚を圧迫また圧迫。負けじと無比人もでんぐり返しの逆をいくのにも似て、背を丸め、より深く両脚で頚を挟さんで締め上げる。

上から攻める小川と、下から対抗する無比人と——。静かさのうちにも張りつめた刻が流れ、意想外な成り行きに声もない報道陣ともども呆気に取られる千堂であったが、不意に佐山が脇を掠め過ぎるのを知り夢から覚めたような気がした。反射的に後ろを見やると、猪木が両者へ難しい表情を向けていた。

佐山はリングへ駆け上がった。交錯する小川の肩と無比人の膝を両手で叩き、放れるように促すに及んで猪木の意を受けてのことなのが遅蒔きながら千堂にも理解された。フライ戦を控えていることでもあり、このまま我慢較べが続いて小川にもダメージがのこるようでは、と案じての断と思われた。

二人が身を起こすのを待って、佐山は双方の手を取ると仲良く突き上げた。一斉にカメラがそそがれた。どちらにも異存はない様子で、申し合わせたようにすっきりした面持ちだった。

かくして公開スパーは勝ち負けなしに終わったが、小川の知名度が物を言ってか格闘技マスコミが千堂も驚いたほど派手ばでしく報じ、その点では無比人のいう異種格闘技戦路線緒戦としては先ず以て納得のいく成果といえた。

その小川が同月十五日、日本武道館での新日本プロレス『ファイティング・スピリット'98』でドン・フライに同じく三角絞めで快勝。これを境に万無比人株はさらに

一段アップした感があった。

気を好くしたか無比人は翌週、週に一度の自主興行を終えたところで千堂を食事に誘い、そこで、

——柔道の次なる標的は、空手。

いきなり言いだした。

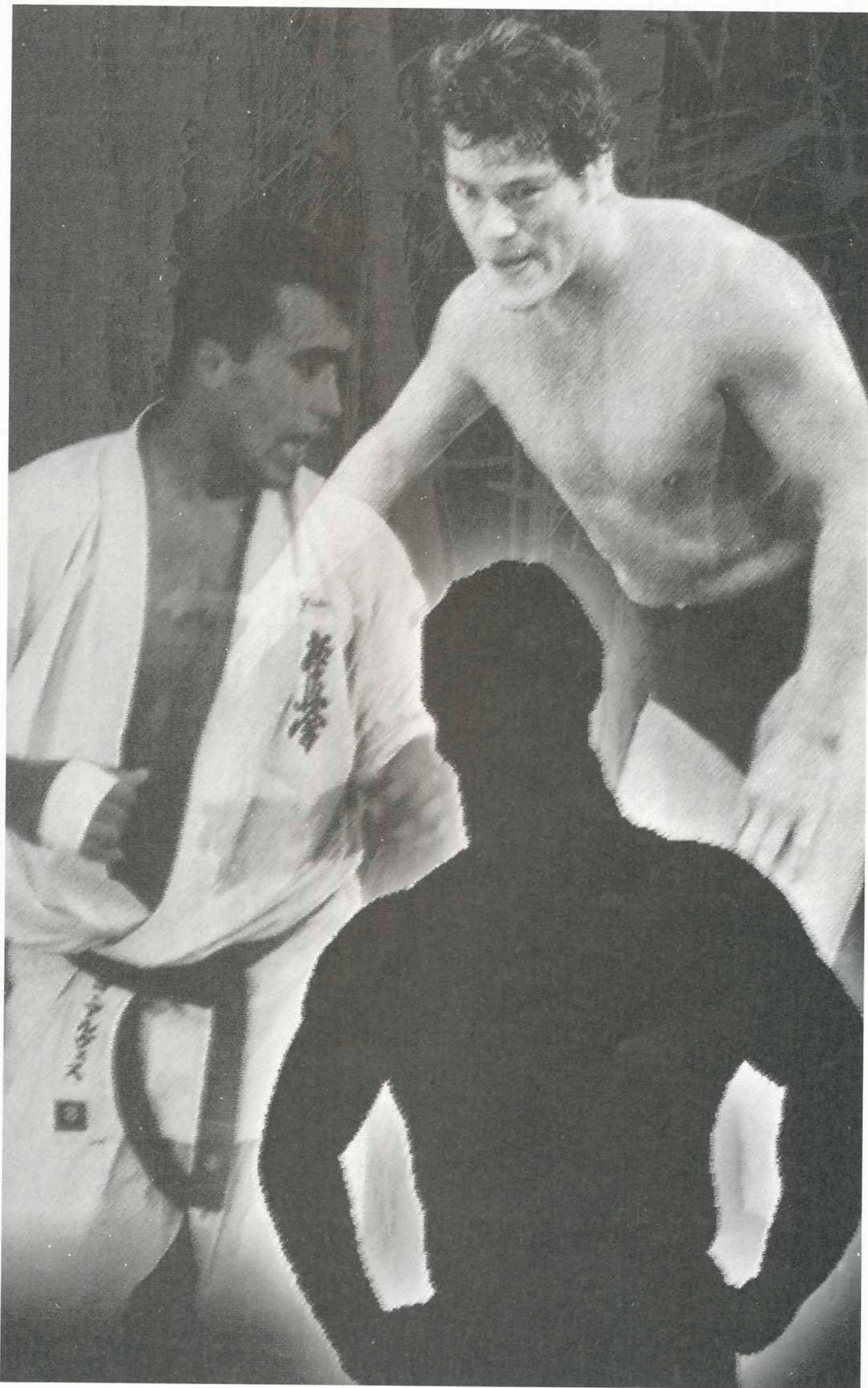
——空手？ 空手との異種格闘技戦が望みということかね。

無比人は深く頷いてみせ、

——うちの興行でカードを組んでくれてもいいし、こっちから出向いて敵のリングでやっても構わないけど、どうせならアンディ・フグ辺りとやりたいねえ。

——フグか。口で言うのはたやすいが、あのクラスとなるとそれなりの実績を積んでかからないことには。K—1リングでの顔でもあるし、いきなり持ちかけても話にならないんじゃないか。

——そこをなんとかするのが部長の役回り、違うかい？

『四角いジャングル』社の近くの小料理屋のテーブルで、無比人と二人きりだったが、そのひとことで千堂としては氷見子の存在を強く感じないわけにいかず、そうか、彼女を近づけたのはマッチメーク等に纏わる報復というより、それを楯に意のままに操ろうとの企みからでは、と謎が一挙に解けた思いがした。

三月に入って間がない晴れた昼下がり、千堂は無比人を伴って西麻布の星条旗通りにある世界空手道連盟巻（まき）道場を訪れた。

(23)

シドニー空港には無比人と氷見子が出迎えた。それに現地在住とおぼしい四十年配の日本人男性。

千堂と真澄が手荷物の検査をすませて税関を出てきたら、彼らの方で先に見つけて、

「ハーイ、部長！」

ロビーの人群れのなか、氷見子が高声を放ち手を振った。選手団一行と先乗りして二日にしかならぬというのに、すっかり日

えた。

それに現地在住とおぼしい四十年配

二日にしかならぬというのに、すっかり日

焼けし見違うほどだ。

近づくのを待って、千堂がそのことを言うと、

「失敗しちゃったの。こっちは秋だっていうことでつい油断してたら、なんでもオゾン層に穴の空いているところがあるとかで、紫外線の強さが半端じゃなくて」

と氷見子。八重歯を覗かせて明るく笑うさまは少年のようでもあり、Sの女王さまとして男にも女にも君臨するようにはとても見えない。

暑さのせいもあろうか、千堂は軽い眩暈をおぼえた。

次いで無比人も身を寄せてき、ごく自然に真澄の手からスーツケースを取った。アメリカに長くいたせいか、大層スマートに感じられた。

「ねえ、氏家さんも気をつけた方がいいわよ。皮膚癌になる人も多いっていうし」

「有難う。それではさっそく、お帽子を買うことにするわ」

「序でにグラサンも」

「ああ、サングラス。そうだわねぇ」

女二人に挟まれた格好で、千堂としてはなんとも落ち着かなかった。

「こちらがプロモーターのタケムラさん。――うちの千堂営業部長に、氏家さんです」

無比人が助け船を出すかのように、男を二人に引き合わせた。

「千堂です。お世話になります」

低頭するのに真澄も倣った。

「タケムラです、シドニーへようこそ。この時間ですと陽射しもまだそれほどじゃありませんし、いかがでしょう、お疲れでなければホテルへ向かわれる前に少しばかり寄り道して、市内をご案内しますが」

厚意に甘えることにして二人は、無比人たちも一緒に空港ビルの前に駐めてあったタケムラのワゴンへ乗り込んだ。

エリザベス女王の建てたオペラハウス、新宿歌舞伎町にも匹敵するという繁華街キングスクロス、シドニー港、ハイドパークなどを見て回り、正午近くに宿舎であるマーキュリー・ローソンホテルへ到着。チャイナタウンの裏手で、すでに気温は三十度を超えているとのことであった。

途中でタケムラが連絡したとみえ、ロビーには士道館館長の添野以下先発隊全員の顔が揃っていた。

「いらっしゃい。皆で中華街へ昼食を摂りに出ようと思ってね。待っているので、チェックインをどうぞ」

添野義二は、かつて大山倍達率いる極真会館にあって〝城西の虎〟と謳われた剛の者だが、そんなふうにはとても見えない柔和な面差しで千堂と真澄を迎え、握手を求めた。

無比人は空手着でリングへ上がった

二十分後、チャイナタウンの店の個室でタケムラも交えテーブルを囲んだところで、

「それではいよいよ明日に迫ったインターナショナル・フルコンタクトカラテトーナメントでの、士道館選手三名と今回プロレス界から特別参加の万無比人くんの健闘を期待し、乾盃といきますか」

添野が音頭を取り、それぞれにグラスをぶつけ合った。

一万人収容のシドニー・エンターテインメントセンターで開催される同トーナメントへ無比人が出場の運びとなったのは、彼を連れて訪れた巻道場で千堂の話を聞いた巻が、

――実績を積む。正道会館や極真会館のトップクラスと対戦したいとなると、いかにもそれだな、決め手となるのは。

と頷いてみせたことからだ。

巻道場首席師範巻久生は元極真会館本部師範代で、大山倍達と義兄弟の契りを結んでいた時期もある。千堂は、プロレス関係のパーティー会場で巻を佐山に紹介されて刺を通じており、無比人に空手との対決の件を言いだされ知恵を借りることを思い立ったのだったが、頷くとすぐ彼ははたと膝を叩いて、

――うん、丁度いい。

――と申されますと。

――この二十一日に'98カラテワールドシリーズと銘打って、シドニーで実戦スタイルの国際大会が行われるんだ。オーストラリアは勿論、アメリカやフランスからも強豪が参戦するというし、そこで上位に食い込みでもすれば、対戦交渉もずっとし易かろうというもの。

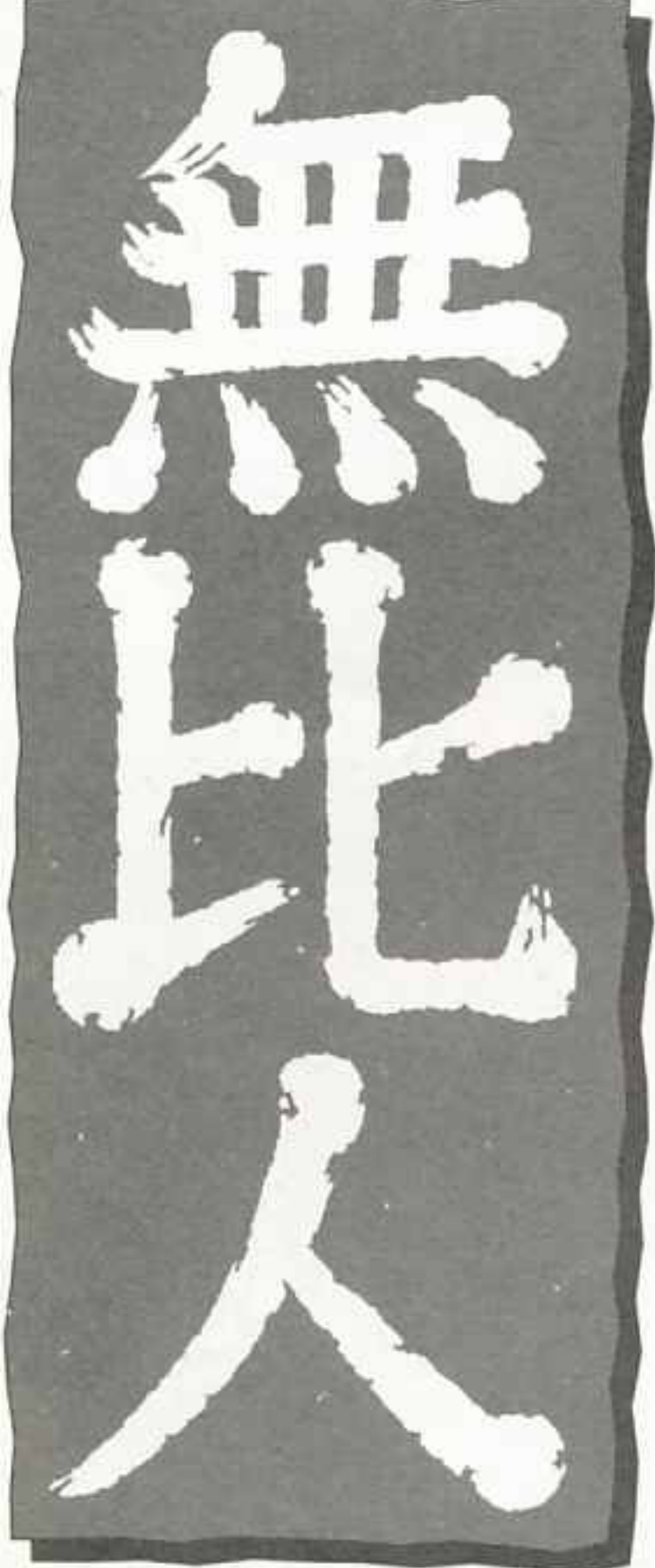
――その大会への出場についてお口添えいただける、ということでしょうか。

――同じ連盟下に士道館があるが、そこのオーストラリア支部がプロモートに一枚嚙んでいるということだし、いまからでも頼めばなんとか融通は利くんじゃないか。添野館長に紹介状を書くから、それを持ってさっそくに訪ねるといい。

巻はその場で一筆認めてくれ、そこから千堂と無比人は所沢の士道館へ回った。結局、添野は三人の日本人選手枠を四名とするよう主催者側と掛け合うことを快諾。一行を引率して先発し、千堂も仕事を徹夜で追い込むと、コアラを見たいと言う真澄を同道し二日遅れで後を追ったのであった。

当日。一回戦の四試合目に無比人は空手着姿でリングへ上がった。

対戦相手はマンソン・ギブソン。

〈以下次号〉

「迷わず行けよ。行けばわかる」な情報ページ

vol.5 たまに火がつく全女直営レストラン

いろいろプロレスラーの副業（本業？）のお店を紹介してきたこのコーナー。今回はプロレス界のキング・オブ・副業、全日本女子プロレスに潜入！副業の失敗が響いて倒産しちゃったけどレストランは大繁盛？

構成＝坂井ノブ　撮影＝戸成ぶつぞう

倒産してもまだまだ健在な全女事務所。かつては多くの選手を抱える会社だったが、最近では多くの借金を抱えてしまっている。

外見はボロいが、ＳＵＮ族の中はログハウス風のこぎれいな内装。40席程の大きさはあるが、正午から１時間は殺人的な忙しさになるそうだ。

内装にマッチした見事なインテリア。全女印のテーブルなどもあり、かなり粋である。

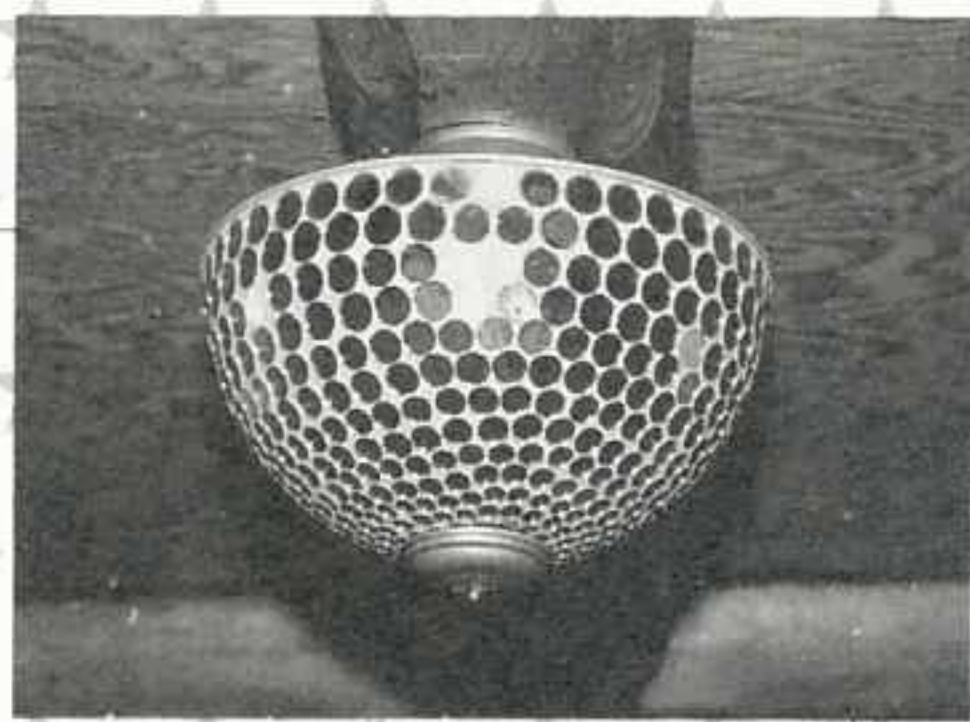
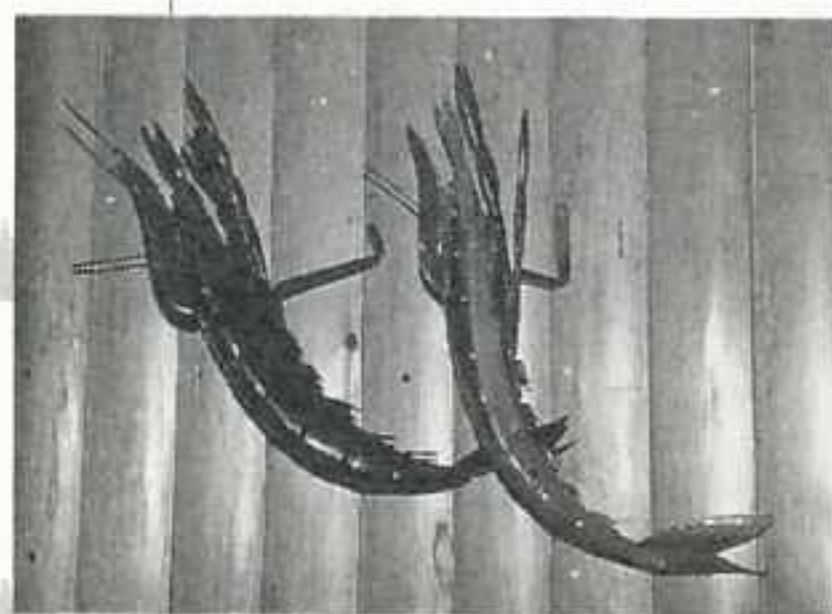
Enjoy Coca-Cola
いらっしゃいませ
LUNCH
A オムレツ＆コロッケ ¥650
B チキンカツカレー ¥780
全品、ライス・スープ・ドリンク付
ようこそ SUN族へ

近所のサラリーマンがランチに寄ることが多いとか。都心でこの値段はかなり安い！

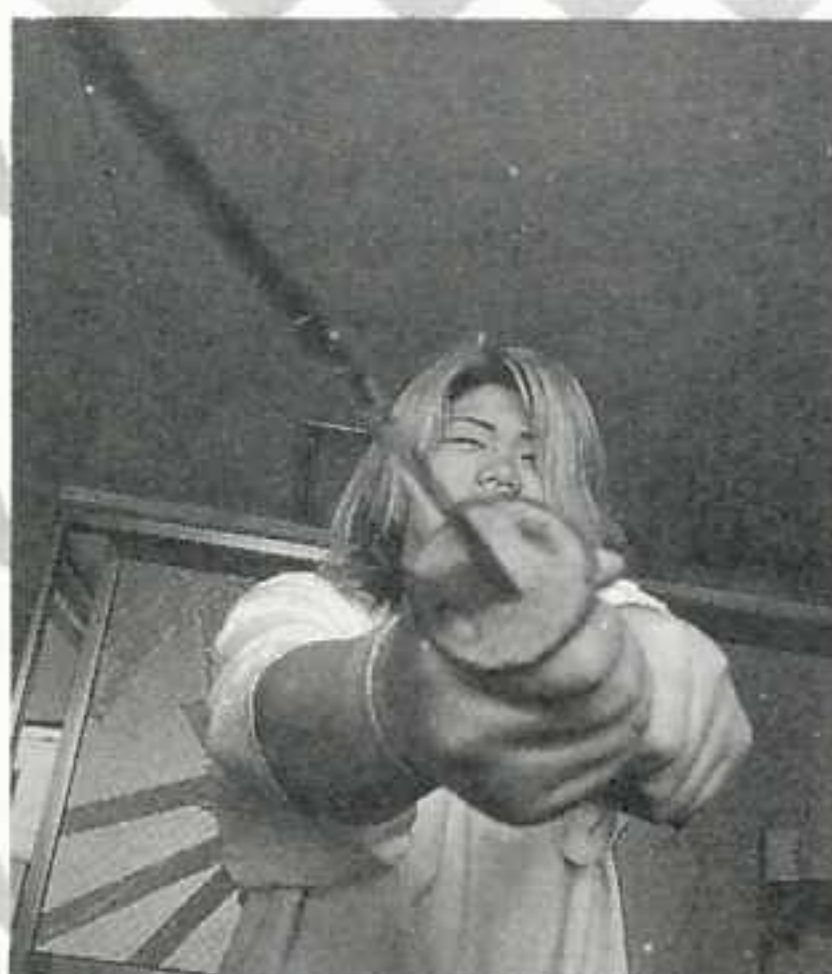
今回のミステリーツアーはひと味違う。全女の倉庫に入る許可が出たのだ。しかも、広報の今井さんによれば、倉庫は「ほとんどジャングル状態」だとか。創立30周年の老舗だけに、どんなお宝が出てくるか、まさにミステリー。

まずは、全女道場の真上にあるレストランＳＵＮ族を訪ねた。ここは昭和63年のオープン以来、10年そこそこの歴史の中で何度もボヤを起こし、そのたびに松永会長が「これで全女にも火がついたな、ガハハハ！」と笑っているのは、すっかりお馴染みである。聞けば、「厨房を火で消毒しようとして、油の量を間違えるとボヤになっちゃうんですよ。まあ、消毒をやってるのが会長とか危険人物ばっかりですから」とのこと。そんな消毒方法があったのか。とにかく豪快な店であることには間違いなさそうだ。もちろん、いいところだってたくさんある。ここは都心の割りには格安で定食が食べられるのが魅力。日替わり定食が６５０円だ。最近は新メニューとして、松永会長が羅漢果ラーメンに次いで編み出した「チキンカツカレー」（７８０円）が人気だとか。

奥にはイベントスペースがあるのだが、そこでは謎のインテリアが目を引く。写真を見てもらえばわかるだろうが、男の欲望にさりげなく直結した小物の数々は、すべて松永兄弟の海外旅行のお土産だとか。なにがなんだか。節操のないお土産だ。

店では人手不足を補うために、フロントまでもがバイトに駆り出され、忙しいときには焼きソバでお馴染みの松永会長までも

客席の奥には部屋がある。普段は客席としても利用できる。まずは店員に相談を。

この奥の部屋、実際こぎれいなのだが、よく見てみるとかなりデタラメなインテリアである。聞けば、すべて会長のお土産だとか。ミラーボールと銃と巨根……。節操はないが、溢れんばかりの夢と欲望のカケラといった趣で実に粋である。

この部屋はイベントスペースとしても使われている。もちろんカラオケもバッチリ装備。

遂に全女のジャングル倉庫に潜入!

Tシャツをもらって帰ろうとすると、「タダじゃ、帰さねえ!」としこたま殴られた。

SUN族のバイトをサボり、ついでに練習までサボった中原が隠れていた!

創立30周年の老舗の倉庫に潜入! 極悪、クラッシュ、ビューティー、マッハなど歴史的が埋もれているはずだ!

しかし! 倉庫は平成ものみ。中でも最も浮世離れしていたのは豊田真奈美のケツTシャツ。

アクセス

[住所] 東京都目黒区下目黒2-17-17
[営業時間] 11：00〜16：00ぐらい
[主なメニュー]
・カルビ丼 500円
・日替わり定食 650円〜
・チキンカツカレー 780円
※全品にライス、スープ、ドリンク付きでこの値段。とにかく安い。

バでお馴染みの松永会長までもが厨房入りするそうだ。練習生や若手もバイトをしているのだが、この日は見当たらないのはなぜか? それはこの日のバイト担当が極悪新人・中原だから。当然のようにサボるようだ。

さて、SUN族を離れ、我々はついに倉庫に潜入。確かにグッズが無造作に置かれている。しかし、どこを見ても平成グッズしか見当たらない。極悪同盟、クラッシュ、ましてやマッハのグッズなどは影も形もない。そんな中、もの凄いものを発見してしまった。豊田真奈美のケツTシャツである。この浮き世離れしまくったブツを目の前に我々が絶句していると、突然日本刀がTシャツに突き刺さった。よく見れば中原ではないか。練習とバイトをサボって、倉庫でなにをしていたのか? 聞けば「凶器を探してたんだよ!」とのこと。さすがZAPの一員、新生全女のぬるま湯体制に背を向け、自主トレ（=凶器漁り）に余念がない。倉庫で拾った日本刀を試したいのか、せっかく発掘した正規軍グッズをグリグリとえぐり始めた! 何てこったい! ひどいよ! すると今度は「うるせえ!」とばかりにしこたま殴られてしまった。が、なんとかイカした豊田グッズだけは死守したので、これを読者プレゼントで提供します!（詳しくはP140〜を参照）

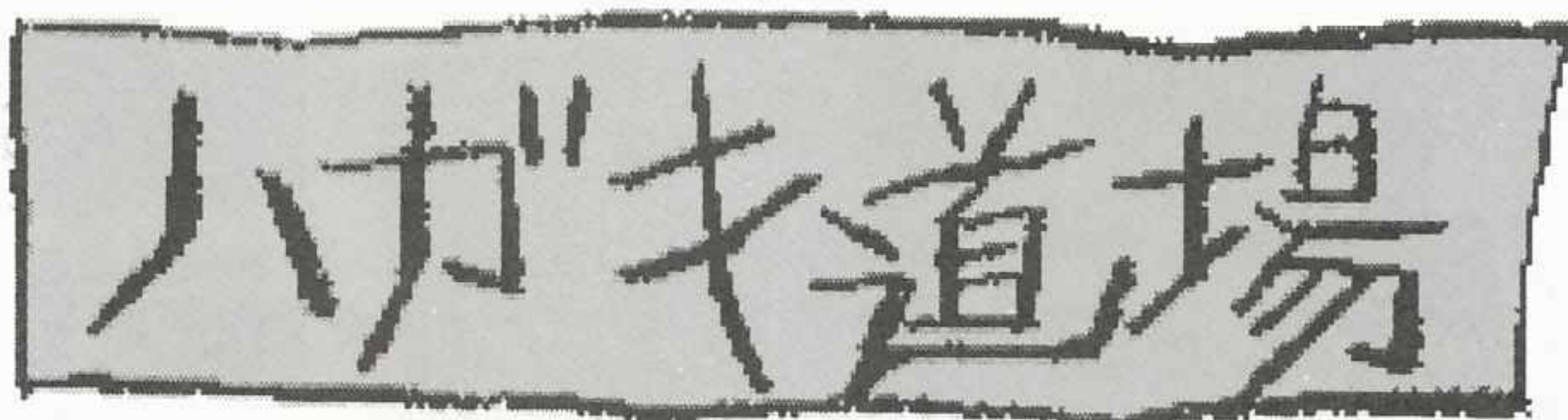
さて、この全日本女子プロレス事務所では、選手のグッズの販売しているらしいので、食事のついでに寄ってみるのもいいかもしれない。あなたが行った日に、SUN族でボヤが出ないことを祈りつつ……。

POST CARD

151-0051

渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス
ハガキ道場

ハガキファイターを育てたい……

ハガキ道場

面白いハガキ職人に憧れ、面白くなりたいと思いハガキ職人＝ハガキファイターになりました。なぜなら憧れる存在がいたからです。野球やサッカーは子供達がマスコミを通じて触れる機会が多い。しかし、雑誌の投稿はそういう機会が少ない。ボクはハガキファイターとしてたくさんの夢をもらったり、夢が叶ったりしてきました。だからこそ、そんな素晴らしい世界を知ってもらいたい。それには優秀な人材を作っていかないと後世に引き継がれていかなくなります。だからこそあらゆる雑誌に通用するハガキファイターを創っていきたいのです。

代表＝SAKAI NOBU

＜ハガキ道場システムチャート＞

つまらない → おもしろい

呼称	キッズファイター	シニアファイター	プロフェッショナルファイター
賞品	そこそこの粗品	けっこうな粗品	かなりの粗品
昇段資格	20点以上	40点以上	

【ルール】
というわけで今回から、私、ＳＡＫＡＩ ＮＯＢＵが道場主を務める投稿コーナーが新発進しました。世界に通用するハガキファイターを育てるべく、道場という形態を取らせてもらいます。当然、ハガキファイターもランク分けします。毎号、面白いハガキを書いてきた人に段位をさしあげます。
●採用されたハガキには、それぞれ１～５点差し上げます。どんどんポイントを取って段位を上げましょう。
★そこそこ面白い人＝キッズ・ファイター
★けっこう面白い人＝シニア・ファイター
★めちゃんこ面白い人＝プロフェッショナル・ファイターとなります。それぞれ当道場でハガキが採用されると
●キッズ・ファイターにはそこそこいい粗品を進呈。
●シニア・ファイターにはけっこういい粗品を進呈。
●プロフェッショナル・ファイターには超豪華粗品を進呈。
じゃ、ボクもこれから、マルコ（・ファス）のところで練習します。桜庭イズムを見習って、ポケモンでもやろうかなって思ってるんですよ。

ハガキ道場

SAKAI NOBU

桜庭和志インタビューは面白かった。彼はすごい人だと思う。Uインター時代に、試合後ファンの1人から「桜庭さん、松村（邦洋？）に似てるって言われませんか？」という声が掛かったんです。彼はその時、仕事の手を止め、にっこり笑って「はい、よく言われます！」と言いました。う～ん、なんかよくわからんけど、スゴイと思って。

（札幌市　西尾洋子　29歳）

■その時の桜庭の笑顔が瞼の裏に浮かんできます。ステキだなぁ、桜庭。こういうエピソードとか、雑誌には決して載らないようなちょっといい話しをお待ちしてます。えっ、「このネタを握ってるのは私だけだから、発表したら出所が私だってバレちゃう」って？　そんなの全然ＯＫ！　ノー問題！　ノー問題！　3点

猪木の肉声、魂の叫びがここまで感じられるインタビューは他にない。

（横浜市　大塚恵美子　31歳）

■素ん晴らしい引退興行でしたね。いや～、マジで感動しました。今号はその感動をエネルギーに変えて、ＵＦＯを全力で応援します！　2点

ザ検証ヒクソン98のチンプさが良い。大蔵官僚みたいなアホは30勝くらいで人生終わるんだろうね。

（山口県　あの頃お前は輝いていたのに……17歳）

■え～、将来の進路に悩みのある人、大蔵官僚よりもビッグな夢を掴みたい人はね、ハガキ道場に来て下さい！　5点

村浜インタビューは言ってることが正しく、面白いっス。

（江戸川区　西村陽介　21歳）

■モノを正直に言う選手です。一部で反感は買ってますが、本誌読者的には村浜とエンセンが予想を遥かに上回る大好評でした。　1点

プロレス雑誌なのにプロレスファンがムカつく記事がのっているのがいやだ。

（川崎市　林俊崇　23歳）

■こういう意見もあったりして、どんどん論争すりゃあいいんです！　1点

元気そうなカタブツ君を見てちょっとうれしく思った自分に気付き、焼身自殺しそうになりました。

（千葉県　武田いづみ　17歳）

■そんないずみちゃんの期待を裏切らずに、今号も出てます。自殺に走る青少年もね、ハガキ道場でいい汗かいて！　ノー問題！　5点

日明兄さんの人生相談は、ドリアン助川よりも感動した。

（愛知県　栗野幸次　29歳）

■ドリアンと日明兄さんを比べちゃいかんです。『週刊プレイボーイ』の松山千春人生相談はすごいけど。　5点

今号のお絵かき師範

ぶっ殺ス♡

桜庭

（岐阜県 今井麻美 21歳）
桜庭人気爆発の今号で、No.1獲得です。毎回、ハガキの片隅に書いてくるイラストに片手間っぷりを感じながらも、愛嬌があるからＯＫです！　麻美ちゃん、おめでとう！　5点

UFCトーナメント王者 桜庭和志

ヨドバシカメラ

（帯広市　サル・ザ・マン　23歳）
独特のタッチと作り込んだ設定で、これから旋風を巻き起こしてくれそうなサル。ま、ボクもサクを見習って、いい加減にやろうかなと。　5点

UFC 桜庭 王者 和志

ベキッ

（帯広市　サル・ザ・マン　23歳）
サルの桜庭イラスト2連発はどちらもいい出来だ！　ハガキ道場ではどんなイラストでもガンガン受け付けます！　4点

ムガー

（埼玉県　中川雅博　20歳）
このハガキ道場ではブッちぎりの強さを発揮しそうな中川。人選の時点で勝ちです。
計10点

激突 カウントアップ・グル～ヴ RADICAL版 好き&嫌いな関係者ランキングが決定!?

ついに猪木が曖昧なカウント・アップに終止符を打って引退しましたが、このコーナーも猪木から自立して闘魂のかけらを胸に抱いて続けていきます。

さて、前号で募集したテーマは井上貴子公認FC『TAKAKO PANIC』に勝手に敬意を表して勝手におっぱじめてしまった非常に勝手な「ラジカル版好きな関係者&嫌いな関係者ランキング」でしたね。しかし、その『TAKAKO PANIC』に対して、どこかの方が訴訟しようとしているご様子。今回のランキングはそのまま載せるとシャレがシャレにならなくなりそうなので、シャレになりそうもないことをシャレにしてみました。ややこしいこと書いてますが、要するにクイズです。ゴチャゴチャ言わんと、どっちが「好きな関係者」なのかハッキリさせたらええんや！　正解を書いて本誌編集部までハガキを送って下さい。で、結果ですが、とにかく「好き」「嫌い」の両部門でトップを独走した落武者・ターザン山本が制圧！　第一線からは退いたとはいえ、圧倒的なパワーの差を見せつけました。さすがすぎます。これはまったくの一般論ですが、左側は関係者業界でもビッグネームで知名度のある人が数多く揃っているから、こっちが「好きな関係者」だとおもうんですけどねぇ、どうでしょう？　右の表なんて本誌バカスタッフどもがランクインしてるし。どう考えても好かれるわけがないよ、犬殺しとトンマと酒乱だもんね。

さて、次号のカウントアップ・グルーブのテーマですが、投稿リクエストを初採用してみました。送ってくれたのは東京都の森一郎太君（22歳）です。「ベスト・オブ・プロレスファンの芸能人ランキング」。

要するにプロレスファンであることを公言したり、プロレスをよく話題にする芸能人の中で、誰がもっとも理想的なファン像に近いのかを決定します。例によって例の如く、1人だけを明記して読者プレゼント応募のハガキに書いてください。

どっちが「好き」でどっちが「嫌い」でしょうか？
（正解した方には中村カタブツ君の秘蔵書き下ろし原稿を進呈します）

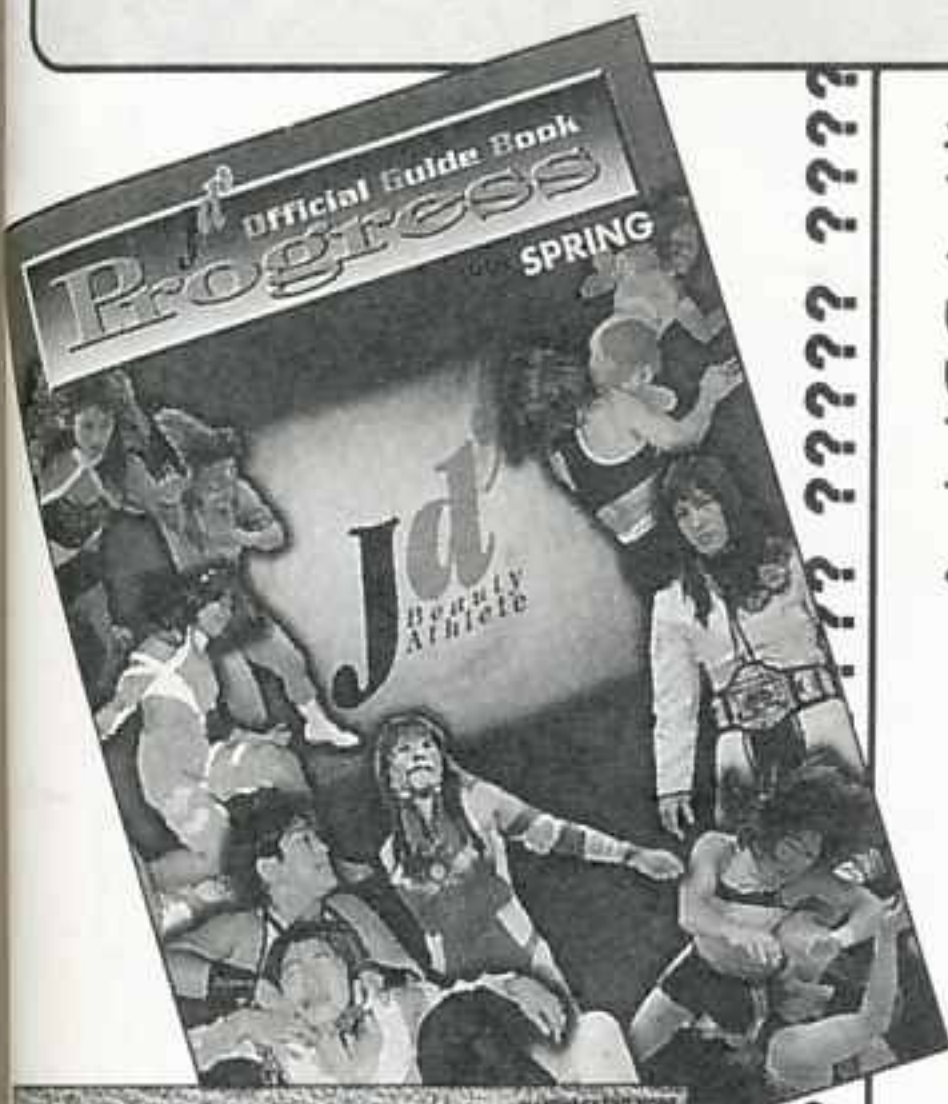
1位 ターザン 35票	1位 ターザン 20票
2位 シッシー 12票	2位 小鉄 15票
2位 ケロちゃん 12票	3位 日昇 13票
4位 ヤマモ 6票	4位 長州 9票
5位 ロッシー 5票	5位 ケロちゃん 8票
5位 ヤスカク 5票	6位 悪い方の健ちゃん 6票
5位 辻アナ 5票	6位 カタブツ 6票
5位 小佐野 5票	6位 のものも 6票
5位 新間 5票	6位 吉田豪 6票
	6位 ノブ 6票

（愛称&敬称略）

新コーナー 匿名リサーチ2000XX

怪しげなタイトルの新コーナーですがこれは千葉県在住の超読者な女の子（17歳）のリクエストから生まれました。「これはプロレスに関する、ヒトに聞けない（いまさら）ことを『紙プロ』に答えてもらおうというおんぶにだっこなぬるま湯に潜水しそうな企画」をやってほしいということなので、「いつ、何時、誰のリクエストでも受ける！」がモットーの当ハガキ道場（別にモットー柔術とは関係ないです）では、全面的に受け入れます。というわけで、この人の今さら人に聞けないことというのはコレです！

「Jd'って何て読むんだ？」

答えは簡単！　ジャンヌ・ダルク略してジェイ・ディーです！　つまりあだ名みたいなもんですね。今号の表紙・高阪がTKであるように、ジャンヌ・ダルクはJd'なわけです。井上義啓さんがI編集長であるように、中村カタブツ君がNKであるように、安田拡了（ヤスカクと呼んでチョンマゲ）さんがYK（YYC）であるように、ジャンヌ・ダルクはJd'なわけです。わかったかな？　というわけで、毎回丁寧さではどこにも負けない指導をしますので、何でも聞いて下さい。別に匿名でも実名でもいいですよ。

紙のプロレス17号
780円
絶賛発売中！

プッシュプッシュDE バックナンバー

巻頭はA・猪木が平壌で開催した「平和の祭典」を総力特集。巻末では藤原組時代のバトラーツ勢が総登場！　必読！

推薦者＝石川雄規さん（バトラーツ）
絶対オススメですよ。この時に山口昇さんがバーミヤン・スタンプ（顔面に生ケツを押しつける）を喰らって陰毛を飲み込んだんですよ（笑）。

ダジャ専

ダジャレズム専門学校 講師＝河口ノブ

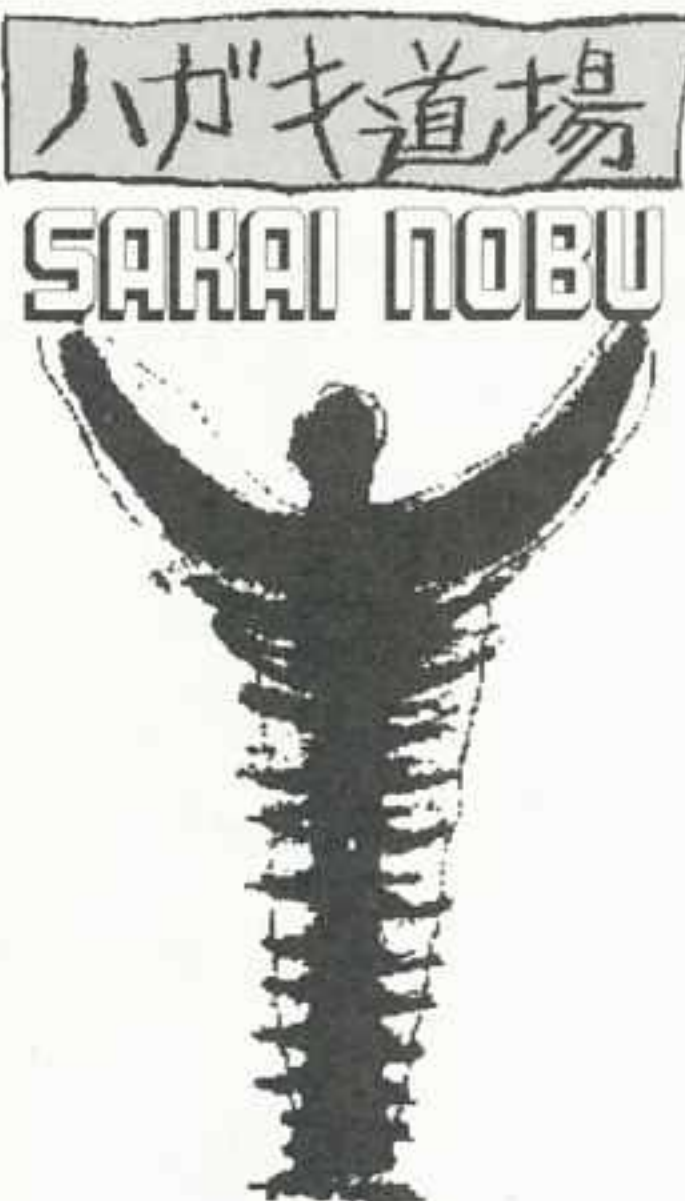
み～んなよっといでぇ～ッ。たのしくあそぼーよッ！　というわけで今号から更に規模縮小のダジャ専。存続か滅亡か？　まあ、どっちでもいいけど。しかし！　ベテラン塩本、会心のダジャレがヒット。ダジャ専史上最高傑作です。パチパチパチパチ！

（熊本県　塩本祐介　32歳）

バカ日誌 RADICAL

中村カタブツ君（35歳）が会社をトンズラしてから早半年。会社にボケがいなくなってしまった。前号までの『バカ日誌』はカタブツだけのものでしかなかったが、今号からはストロング今号！　な〜んつってな、ダーッハッハッハッハ！　というわけでタイトルも『バカ日誌RADICAL』とさせていただくこととする。ようするに編集日記みたいなものである。

『『紙のプロレスRADICAL』は全号読んでるぜ！』という殊勝な読者の方なら先刻承知のこととは思うが、義理と人情と人助けが三度のメシより大好きな本誌編集部は、最近読み始めた方のために「中村カタブツ君（35歳）講座」を唐突に開いてみたいと思う。

中村カタブツ君（34歳・当時）――無能、ポンコツ、ろくでなし、新弟子以下、トンマ、ボケじじいなど、ありとあらゆる罵倒を浴びせかけられながら本誌編集部に1年3ヶ月在籍した伝説の男である。何をやらせても失敗ばかり、いくつか具体的な失敗を挙げてみよう。30歳過ぎて万引きをし（無意識）、武人・真樹日佐夫先生を怒らせ（無意識）、止まってる車に跳ねられ、仕事トイレに入ればブツを流さず（もちろん大）、1日3回は居眠りをして、会社の車を5回以上ぶつけ（うち3回は警察沙汰）……。要するに、常人には到底マネのできないトラブルを次々と巻き起こしてきた偉人なのである。そして、昨年の10月25日を最後にNKの風となってしまったのである。

以上がカタブツ原人だった頃の中村カタブツ君（34歳）である。これだけでも嫌になるくらいのダメっぷりは伝わったと思う。ところが、4ヶ月の失踪を経て、前号の入稿期間中、我が社に電撃復帰を果たした中村カタブツ君（35歳）は見違えるほどに「できるヤツ」に変身していた！　以前の数倍のスピードで仕事を次々とこなしていくのだ。ポンコツでトンマで無能なカタブツ原人は、スーパーカタブツ星人となって帰ってきたのである。まあ、帰ってきたといっても、入稿時だけの特別参戦。シリーズ後半の大場所だけ参戦するデストロイヤーみたいなものか。では、普段何をしているか？　じつはコンビニの店員をやっているのだ。しかし、これは世を欺く仮の姿。その影では、『フルコンタクトKARATE』でライターとして活躍中だ！　カタブツ・フリークはサポートしてあげてくれ！

本誌トップスター（右）と未来のスター（左）が夢の競演（何の？）を果たした！

というわけで、今号からはストロング今号！　……じゃなくて、本誌編集部の日常的バカっぷりを読者の皆様に幅広く笑っていただくコーナーへとリニューアル！　……しようとしたのだが、なにぶん急なリニューアルなのでネタのストックが少ない。ここは未来のスター候補生・松澤チョロQのイカした小咄を披露しよう。

●チョロの「おつかい成功率」は極端に低い。この日も原稿運搬を頼まれ、「1時間で帰ってきます」と言い残して、チョロはバイクでおつかいへ。そして40分後……チョロが戻ってきた。「早いね」チョロの成長ぶりをみんなで喜んだ。が、「バイクが動きませんでした……」。40分間、動かないバイクと格闘していたらしい。動かなくなった原因というのも、バイクの所有者である筆者が、使ったこともねえような装置をいじくったから。普段から大物の片鱗をいかんなく発揮してくれている。

突然ですが、ここで緊急ニュース！　衝撃的な情報がたった今、飛び込んできた！　中村カタブツ君（35歳）が、「悪いけど、俺はおちんちんだけは立派だよ！」と誰も聞いちゃいないのに、突然豪語しだしたのだ！　「それも、プロが褒めてくれるんだから、すごいだろ？」と語り、風俗嬢にも「すごいわね、この反り！」と褒められていた模様！　「さらに俺はテクがあるから、入れさせてもらえるんだよ！」と性豪ぶりまでもアピールする始末。

フリーになって、よりパワーアップした中村カタブツ君（35歳）も、毎回登場します。『バカ日誌RADICAL』をどうぞ、よろしく。

ハガキ道場
SAKAI NOBU

猪木入滅
ブコオの太鼓　増刊
闘魂

UFO!
なんちゃってな
ンムフフフ
長い間、本当にお疲れ様でした
(でも、また帰ってきてね♡)
Presented by
ブコオの太鼓

日本一早い4・4速報号が4月7日に届きました

「あっ、これはチャンコ食べるときに着てましたぁ〜」な募集！

ハガキン太改めハガキ道場では、いろんなハガキを募集しま〜す。

- ●本誌へのご意見、ご感想
- ●楽しいイラスト
- ●匿名リサーチ2000XXに聞きたいこと
- ●マヌケなダジャレ
- ●ぜひやってもらいたいカウントアップ・グル〜ヴのテーマ
- ●紹介してほしい同人誌

などを送ってください。ちなみに合言葉の「ノー問題！　ノー問題！」を明記して下さい。宛先は

〒151－0051 渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
（株）ダブルクロス「ハガキ道場」係まで

ハガキ道場 番付表

順位	名前	点数
1位	中川雅博	10点
2位	サル・ザ・マン	9点
3位	あの頃お前は輝いていたのに	5点
3位	武田いづみ	5点
3位	栗野幸次	5点
3位	今井麻美	5点

今号から番付表を導入します！　とにかく立派なハガキファイターを目指すんだ！

プロレス村の外からマット界を撃つページ
突撃！
となりのマット界
花くまゆうさく
「リングの汁RADICAL」
雨空トッポライポ
「ニックネームよもやま話」
本誌ビジュアルライターズ
「PRIDE-0」
椎名基樹＆せきしろ
「ザ・検証」
書きたい放題
書き倒す！
リングの外の
懲りない面々が
コラムのページが
驚天動地の新装開店！

リングの汁 RADICAL

業界にとって必要ないページ（本人談）

30キロ差といっても、100キロの人と130キロの人が闘う30キロ差と、60キロ台の人と90キロ台の人が闘う30キロ差では、だいぶ意味あいが違ってくると思います。

例えば、ボクシングやキックで60キロ台の人と90キロ台の人が闘うのを想像してみて下さい。ありえないですよね、まして60キロ台の人が勝つなんて。

ホイラーvs佐野は、とてつもなく凄いことでしたよ。この一戦は、ある意味ヒクソンvs高田より重大な出来事ではないでしょうか。もっと語られるべきなのではないのか。

「本当はプロレスラーは（みんな）強い」との意見を尊重して信じて考えれば、そんな強いプロレスラーに対して、30キロ軽く非力な男が、ボコボコにして勝ったのである。凄いことじゃないですか。「本当に強いプロレスラーは、ほんの一部の人だけ」なら、話は別ですけども……。

そんなプライド2の帰りに、駅前で前田vsアンドレや前田長州顔面事件の裏ビデオを売ってる光景を目にしました。

しか〜し！　前田vsアンドレ、前田長州顔面、佐山vsコステロ、猪木vs鈴木みのるなどは、もはや裏ビデオではない。紙プロ読者なら90％の人はとっくに見てるでしょ。逆に見たことない人を捜すほうがムズかしいのではないでしょうか。それほどとっくの昔からベストセラーでしょ、あれは。

いま裏ビデオと言われるのは、ヒクソンvs安生とか、あるのか知らないけどマス大山のアメリカマットでのファイトでしょう。

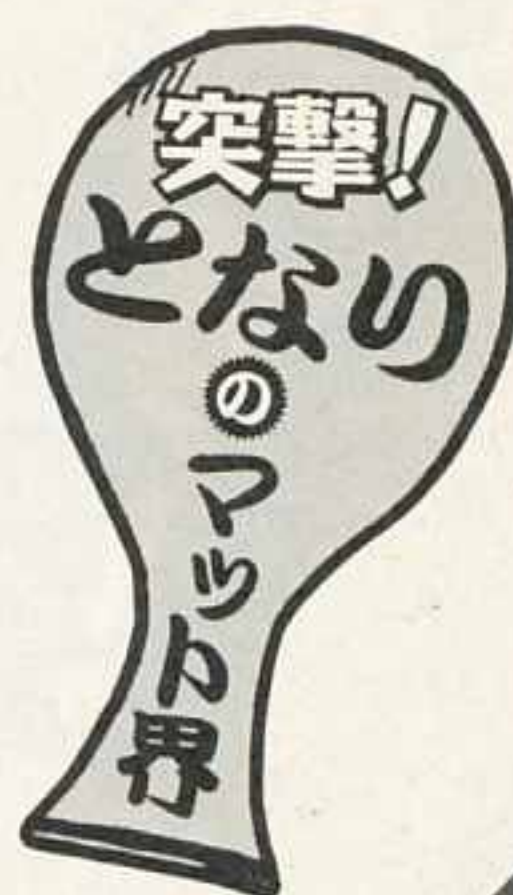
ヒクソン関係なら、いろいろ見たいのがあります。ウワサで聞いた、「黒帯セミナーでのヒクソン圧倒的強さ」、「昔、レスリング大会に柔術勢が出場したが、レフィリングの不公平さにヒクソン激怒。レフリーをブン殴り、みんなで会場をブチこわした」などなど。

ヒクソン物でなら、2本見たことあります。1本は、ヒクソンが柔術大会で試合しているので、引き込み十字で下になって闘っているが画像が悪くてよく見えません。セミナーのもあり、20〜30人を1人ずつ寝技で片づけていきます。ガードポジションからのヒクソンの攻めが見れます。日本の試合では、まだ1度もガードになっていないので興味深いです。ヒクソンがアキレス腱固めでタップを奪うのもありました。この時、ヒクソンはまだ長髪です。

おじいちゃんのエリオvsヒクソン、エリオvsヒクソンの息子ハクソン（たぶんハクソン、画像悪いのでハッキリ判らない）のスパーリングもありました。エリオが、アキレス腱固めでハクソンからタップを奪うオモシロ映像アリ。

もう1本はチャック・ノリスの道場生達にセミナーをするグレイシー一族。場所はラスベガス。アルティメット大会ができる。一番手の相手はヒクソン、数十秒でチョークを取る。二番手はホイラー、これもすぐにチョーク。三人目もホイラーが秒殺。その後もヘウソンやヘンゾが相手をする。

だいぶ前で、まだグレイシーが外国で無名の時である。セミナーの内容は初歩的なことばかりなのであまりたいしたことないが、グレイシー兄弟プラス従兄弟のヘンゾの豪華メンバーです。仕切るのがホリオン、よく喋る。ホイスは今よりもっと細い。

しかしホリオンがいくら喋っても、この無名のブラジル人達に対し、チャック・ノリス道場生達は半信半疑な感じ。だったら闘ったほうが手っ取り早いとホリオン。その場で希望者と兄弟を打撃アリで闘わせ

これで少しは納得しセミナーを再開するが、まだマウントとガードの仕組みを知らない彼らは手玉を取るようにほんろうされていきます。ちょっとかわいそうになりました。それでもグレイシー達はセミナー終了後、チャックに記念写真を次々とねだり、向こうのメンツも保たれました。めでたしめでたし。

花くまゆうさく■バイオハザード2の豆腐には、まだ会えない。

ではないのか。

試合では、まだ1度もガードになっていな

の場で希望者と兄弟を打撃アリで闘わせ

の豆腐には、まだ会えない。

雨空トッポ ライポ
ニックネームよもやま話

トッポ　はい、どーも。お笑い界のブレーキの壊れたダンプカー、雨空トッポライポです。

ライポ　まぁ、我々はエンジンも壊れてんですけど……。

トッポ　それじゃ走れないだろ!!　だいたいこれ『紙プロ』だぞ。お前プロレス知らねぇだろうが。

ライポ　何を言ってんの。俺の知識ひけらかそうか？

トッポ　バカひけらかすんだろうなぁ。

ライポ　君、ダニー・ホッジって知ってる？

トッポ　知ってるよ。元NWA世界Jrヘビー級チャンピオンで「鳥人」って呼ばれてたレスラーだ。

ライポ　そう。そのダニー・ホッジは、遠征バスの後部座席で、Jrヘビーの体重リミットを守る為に必ずオナニーしてたんだよ。鳥人だけによく飛んだらしいよ。どう、この豆知識？

トッポ　ハナっからムダな情報満載でお送りするな!!

ライポ　ちょっといい話でした。

トッポ　でも、昔のレスラーってピッタリのキャッチフレーズがあって、カッコいいんだよな。

ライポ　そうそう。メキシコの生傷お化けカボチャふみつぶし金髪まだら荒法師とかね。

トッポ　お前、キャッチフレーズがゴチャゴチャになってるよ。それじゃレスラーじゃなくて単なる農場荒しじゃねぇかよ。

ライポ　そう言えば、今のレスラーはキャッチフレーズついてるのあんまりいないよね。

トッポ　まぁ、理不尽大王とか破壊王とかね。

ライポ　破壊王、石川敬士&剛竜馬。

トッポ　団体破壊してんじゃねぇか、手厳しいな。

ライポ　いっそのこと、今のレスラーに昔のレスラーのキャッチフレーズつけちゃいましょう。

トッポ　いいね。じゃあまず、ハーリー・レイスの「美獣」。結構アレクサンダー大塚とか合うかも。

ライポ　ああ、米良美一とか水野晴郎とかに気に入られそうな感じはするけど……。

トッポ　♪ホ○のけたちだね〜、って唄わせるな!!

ライポ　でも、「美獣」と言えば、大黒坊弁慶しかない!!　特技がゲップ100連発だぞ、凄すぎる!!

トッポ　意味が分かんねぇよ。しかもメチャメチャ野獣顔してんだろ。アレクサンダー大塚に決定。次はディック・ザ・ブルーザーの「生傷男」。

ライポ　これは簡単。タイガー服部しかいないだろ。

トッポ　何でレフェリーなんだよ。確かにあのやられっぷりはヘタなレスラー以上だけど……。

ライポ　だろ。よし、タイガー服部に決定!!

トッポ　じゃあ次は、ザ・デストロイヤーの「白覆面の魔王」だ。ヒールのマスクマンで選ぼう。

ライポ　決まりました。本田多聞でどうでしょう？

トッポ　どうでしょうってマスクマンじゃねぇだろ。

ライポ　いや被ってるよ。福田和子のマスク。

トッポ　ありゃ素顔だよ。確かに失踪した近所の主婦みたいな顔はしてるけど……いいのか？

ライポ　いいの。次行こ、次。今度は誰？

トッポ　スカル・マーフィーの「海坊主」だ。

ライポ　これは、角掛留造で決まりでしょ。

トッポ　天草海坊主じゃねぇのか、どう考えても。

ライポ　相手の前フリが5しかないのを、9まで引き出して4でボケる、これが俺の風車の理論。

トッポ　完全に負けてんじゃねぇかよ。お前の風車、羽根もぎ取られてるよ。

ライポ　無風地帯の人間風車と呼んで下さい。

トッポ　もういいよ。これ以上お前のプロレスオンチに付き合ってらんない。これで最後だぞ。ブルーノ・サンマルチノの「人間発電所」。

ライポ　昔、豊丸のAVのタイトルも「人間発電所」だったんですよ。

トッポ　お前は明らかに漏電してるよ。

ライポ　新しい「人間発電所」は……ダニー・ホッジ!!

トッポ　ホッジ？　あの人は「鳥人」だって言ったろ。

ライポ　だって、バスの中でコイてたし。

トッポ　「自家発電所」じゃねぇかよ。

雨空トッポライポ■自称・ストロングスタイルの本格派漫才師。トッポ（左）は昭和のプロレスをこよなく愛す。ライポ（右）はプロレスオンチ。「どーってことあるですよ」「俺はお前のかませ犬だ!!」等、自虐的なセリフが大好きである。

5月12日 新宿シアターモリエールにて「オフィス北野LIVE」に出演。問い合わせは03-3588-8135 オフィス北野まで。

PRIDE.0 ゼロ

唐突に始まりました、『PRIDE-0(ゼロ)』 高田と『PRIDEシリーズ』の関係のように、『紙プロ』読者にも活躍の場を与えようじゃないかとの想いで発足したのが『PRIDE-0(ゼロ)』 健悟兄ィよろしく、雑誌で、誌面で、プロレスをしてみませんかっていうことです。そうそう『PRIDE-0(ゼロ)』では、アルシオンにならって、掲載者には『紙プロ』認定・読者ライセンスナンバーをもったい振らないで、ジャンジャン発行しま～す。（チョロ）

『紙プロ』認定・読者ライセンスナンバー0番

千葉県にお住まいの中村カタブツ君(35歳)の作品で、『いっつぁ～Showた～いむ』

強ければ何をしても許されるというのが、この世の鉄則である以上、弱ければ何をされても致し方ないというのもまた鉄則だと思うんですね、非常に嫌だけど。だけど、その人生の厳しい掟をまったくわかっていない男が一人いるわけです。

それがShowです。

あの物の見えなさ、あの醜さ。どこを取っても、どこに出しても、まったく恥ずかしい代物であり、どこを切っても醜悪な面しか見えない、下劣な金太郎飴があの男なんですね。前号のプレス・リポートを読みましたか？

ホントに何をやらせても醜いでしょ。なんでプレス・リポートで自分が『ゴン格』に叩かれたことの言い訳をするのか、理解できないんですよ、ボクには。『ゴン格』は、人種や民族に対する偏見とも取られかねない発言をしたとShowに言ってるのですが、なぜ言い訳ができるのか。お前はホントに偏見に満ちた男なんだから、口答えのしようはないと思うんですよね。その仕舞には「みなさんも気をつけましょう」とか書いてるし。

お前一人が気をつければいいことだろ！ だいたいみなさんとは具体的に誰を指しているのか、はっきり言ってみろ！ 名指ししたい人間がいるんだったら、名指しすればいいじゃねえか、と思うんですね。こういう煮え切らない態度が人々の反感を買うということをそろそろ理解しようよ。

プロレス大賞授賞式について書いたリポートもヒドいですね。冒頭で謎の女性を見かけたと書いてあるけれど、結局それが前振りでもなんでもなく、メガレンジャーのピンクの変身前の彼女だったという、ただそれだけ。授賞式がそれほど面白くなかったんだったら、「メガレンジャー・ショー」に行けばいいじゃねえか、と思いますね。何がしたいんだか、まったくわからない。

まあ、こういった体タラクですよ。自分のダメさ加減を少しは理解して頂けましたか？

叩かれても仕方ないということが納得できましたか？ はっきり言って、こんなダメ原稿なら、ボクが書いた方が10倍は面白く書けると思うんですね。なんだったら半分よこせや、実力の違いを見せてやります。

さらに言いたいのは友達を大事にしろということ。『週プロ』の佐藤記者はプレッシャー会員時代からの友達なんでしょ。そんな彼及び『週プロ』に対して、なぜ迷惑千万な行為をするの？ なぜ、偏執的な態度を取るんですか？ 佐藤記者は「最近では彼のどんな辛口の意見でも一読者の声として素直に受けとめるようにしている」と"編集部発25時"で書いているわけだが、まがりなりにもあなたはこの業界でメシを食っているライターさんでしょ。そのあなたの意見を、一読者の声として捉えなければ、聞くに耐えられないものだと言わしめる佐藤記者の心情について考えたことはないんですか？ 重ねて言いますが、友達をもっと大事にしろよ、この変質者。

さて、そろそろボク個人が受けた腹立つことに関しても言及していきましょう。最近だと『PRIDE-2』でのこと。会場で会った途端にバカが来たという顔をしたことは、OKです。カタブツ君としては、望むところです。けれども、ボクが歩いている時にいきなり後ろから肩を掴んで引っ張るな。何事が起こったかと思ったじゃないですか。Showとすれば、パンクラスの柳澤選手に紹介してやろうという温情だったのでしょうけれども、物事にはやり方というものがあるでしょ。テメエには口がないのか！ だいたいボクは柳澤選手に一度、会ってます。あなたの取材の御供についてP,LABの社長室でお会いしております。先輩風吹かすのもいいですけど、的外れですね。もっとも柳澤選手はボクのことを覚えちゃいなかったけど。

その柳澤選手のことで思い出したけど、お前もう泣くな。自分が泣くことでしか、試合の感動を伝えられないのならライターなんかやめちまえ。ライターならテメエの原稿で勝負しろ、バ～カ！

さて、どうですか？ Showさん。ボクのチ●コビンタを味わった感想は。反論があるなら、いつでも受けて立つので、編集部までどうぞ。

『紙プロ』認定・読者ライセンスナンバー①番

愛知県にお住まいの武上康夫さん(22歳)の作品で、『スコット・ノートンとは何か？』

2月15日東京・日本武道館でノートンは、奥さんがニコニコ笑いながら観戦している前で、適当に小技を入れながら分かり安いファイトスタイルでブリーフブラザーズのパワーこと、佐々木ケンスキィーを倒す。そして試合後、「オレは今、最強のワルだというのを世界中に証明した、いつ何時、どこでも挑戦を受ける！」と外人レスラーにありがちな、オリンピック選手は絶対に言いそうにないことを吠えた。

しかし『週プロ』では「IWGPに挑戦させろ」という一行で済まされ、ほとんどの新日ファンも3日でノートンの魂の叫びを忘れているだろう。

なぜノートンは昔も今も目立てなく、地味なイメージがあるのだろう。

しかし、実際ノートンは地味なレスラーなのではない。

まず外見。少なくともスティーブ・ウィリアムスよりはハンサムだ。また腕にはフラッシュというダサカッコいいタトゥーがある。

ノートンが地味レスラーでない最大の理由は素晴らしき過去にある。勿論、ノートンはアマチュアレスリング国体優勝やフットボール選手といったつまらないものではなく、ブラジルの農園出身、大阪のミナミのストリートファイト出身、といったものに肩を並べるくらい素晴らしい過去の持ち主だ。箇条書きで並べてみると、①アームレスリング全米チャンピオン②バーの用心棒③プリンスのボディーガード④ホーク・ウォーリアーの同級生⑤高校時代、カート・ヘニングとガソリンスタンドで決闘⑥30才過ぎてからのプロレス入り⑦道路工事の兄ちゃんだった。……素晴らしい。過去の経歴を書いただけで眼頭が熱くなる。

ここまでプロレスラーらしい過去を持っているレスラーは他にいないだろう。

そんなノートンが地味なイメージがあるのはなぜだろうか？ それはノートンのすべてが中途半端だからである。

まずノートンはテーマソングが中途半端だ。なんなんだ、あのボンジョビmeetsアイアンメイデンみたいな曲は？

そしてコスチュームに書いてあるviciousの7文字もダメ。中学生レベルのパンクスタイルだ。

たぶんノートンは音楽の好みは80年代で止まっているが、一応流行に乗ろうとして、パンクを意識したのであろう。ノートンはグリーン・デイが今、最もクールだと思っているに違いない。

今、ノートンが求められているのはスタイルチェンジである。

まず、ヘアスタイルを変える。ノートンの髪型はアメリカ中西部の体育会系の典型的なものであるが、ズバリ言って中西のビジネスマンみたいな髪型と同じくらいインパクトがない。ここは80年代のジョン・ボンジョビみたいなフワフワパーマか、グリーン・デイみたいに髪の色を緑か青に染めた方がいい。

またコスチュームに書いてあるviciousもBORN TO BE MY BABYかBASKET CASEぐらい訳の分からない様にした方が神秘性が出る。

過去の経歴で唯一の中途半端な部分である道路工事の兄ちゃんというのは、アントン牧場でアルバイトというように書き換えるべきだ。ついでにバーの用心棒時代も、隣のバーで暴れていたマサ斉藤を警察に突き出し、出所後のマサにスカウトされる、というようにすればいいというかね。

最後にファイトスタイル。ノートンは外見通りのファイトをする。そこにはプロレスの最大の楽しみである意外性がない。ノートンにとって最も意外性のあるフィニッシュホールドはスモールパッケージホールドである。そしてスモールパッケージといえば藤波、藤波といえば無我、無我といえば西村である。西村は蝶野に無我に入れとドラゴンイズム溢れる訳のわからないことを言っているが、蝶野ではなく、ノートンをさそうべきだ。

無我に加入した時こそノートンはIWGP挑戦が認められるだろう。そしてIWGP戦。ノートンは執拗にスモールパッケージを狙ったことが裏目に出てペースがつかめず、あっさり負けてしまう。やっぱりノートンは今のままでいるのが一番いいのかもしれない。

ちょっと待ってくれないか…」

『紙プロ』認定・読者ライセンスナンバー②番

東京都にお住まいの
佐藤耳男さん(19歳)の作品で、

『神様論』

「プロレスの神様(おたふく)ありがと——!! パチパチパチパチパチパチ!」(©河口仁)

神様といってもこれの事ではないですよ。プロレス、及びプロレスラーにとって神様とは何でしょうか? よい子と投稿者常連会・プレッシャーのみなさまは、すでにおわかりだと思います。

客ですよ客! つまり我々、プロレスを見る観客の事ですよ。

プロレスラーが、「私達が戦っているのは、相手ではない、客と常に戦っているのだ。」と言ってるのをよく耳にしたり、読んだりします。つまり、客を呼べるレスラーにならないと、トップにもなれないし、飯も食えない、という事なんでしょう。だけどね(急に文調が変わります。あしからず。)、俺たち客はどうだ? プロレスと戦っているのか? あん?

ズバリ言ってそんなことはないんです。プロレスを見るにあたっての覚悟というものが皆無なんです!! プロレスを見て、それをただ甘受しているだけなんです!!(まあ、投稿者常連会・プレッシャーの様な人もいるんで、全てのファンがそうだとは言い難いが。)

平成10年1月20日、バトラーツ・後楽園大会に行ったときの事。セミの田中vs田尻の試合を、そっと涙を拭き、拍手をして(プレッシャーからの引用。↑ひつこい)見終わった後の、メイン・社長アレクの試合の時に、俺の腹わたが、煮えくり返って脱腸寸前の出来事が起きたんです。

試合が始まり、最高の緊張感の中、ある男性の観客の声援が耳に入ったのです。

「大塚! やれ!」

俺的には、この声援は10点満点ですよ。これほど端的で、それでいてアレクの奮起を促すのには十二分に値するような声援だと思いましたよ、俺は! 彼の声援は、その試合の緊張感を、一層引き上げる材料にはなってましたよ。しかし、その声援が小気味よく、同じフレーズで数回聴こえた後、どこぞのアホが、「うっせえよ! 他のこと言えねえのか!」と、絶叫しやがったのです! 俺は、この一言で緊張感が薄れるのを感じたと同時に、腹が立ちましたよ!! だってですよ? もしその声援が気に入らなかったら、それ以上に、しびれるような声援をリング上に注げばいい事だし、客が客に対してヤジるなんて、その人間が、いかに試合に集中していないかって事を自分でバラす様なもんですよ!! 仮に「他のこと言えねえのかよ!」を支持したとしても、リングに向かって、「ロー打て、ロー!」とか、「右足が空いてるぞ!」とか言えというのか、コラ!! ボケェ!! これは、今は亡きU・インターでの「ヒュー!!」もそうだし、まったく選手をバカにしているというか、プロレスをなめているというか……。腹立たしいですな!!(石川vsアレクは、素晴しい試合だったんですけどね。)

ついでに書くと、ヒールに対する客の対応についてもそうですよ。今、話題沸騰中のブリーフ・ブラザーズ。俺は正直言って好きです。(特に、邪道のギャグセンス満載な所と、一度死にかけた経験のある金村の下ネタの説得力。)しかし、好きだからこそ、鬼の様にヤジります。ハイ。なぜか? それが、ヒールである彼らにとって、最大の喜びであろうと思っているからです。ハイ。それを、ブリ・ブラ(たぶん『週プロ』がやるであろう省略のしかた)のプラカードをもって走りまわる輩(やから)(特に後楽園ホールでよく見かける、メガネ野郎!)? いるじゃないですか。書いていいのかなぁ。死んでほしいDEATH! 君たち、ズバリ言って0点だよ、人生そのものが。(雁之助はそれを見て悦に入ってたみたいだけど。早く、その過ちに気付いて欲しいものです。)

まぁ、長々と書いてしまいましたが、ここで初めて、西村修(ショーグン・ニシムーラ)の『ファンはバカ』発言の意図の一端をつかんだ気がして来ませんか? 来ませんか……。そうですか……。

おしま〜〜い。(河口仁風)

『紙プロ』認定・読者ライセンスナンバー③番

千葉県にお住まいの
武田いづみさん(17歳)の作品で、

『高原の空気』

"マット界"とは、どこからどこまでを指す言葉か。

団体内の人間までか。

マスコミを含むのか。

はたまたファンをも含むのか。

しかし、確実に言えることは、プロレスを観ない人、すなわち一般人は、マット界の「外」の人間だ、ということだ。

私は高校生である。世間で言うイメージ通り、ラルフのセーターに短いスカートで、ルーズソックスを履き、PHSを持つ、ごく普通の女子高生である。

「そんなヤツの書いたものは読めん。」とおっしゃる方、まあ、お待ちください。

私が女子高生なら、友達も女子高生だ。その友達の一人に言われた言葉がある。

彼女は、なんとなくつけていたテレビで、長州力の引退試合を観た、と言った。そのあと彼女は、「八百長なの?」とも言った。

私は、とても驚いた。八百長と言われたからではない。昨日、はじめてプロレスを観た女子高生の口から、「八百長」という言葉が出たからだ。それまで、私と彼女との会話にその言葉は一度も出たことはなかったというのに。

彼女が言うには、「5対1なのに、ほとんど勝った」ことが、全くリアリティーの無いものに見えた、ということらしい。

私は彼女の問いに、「八百長じゃないよ!!」とは答えたものの、なにか不安になってしまった。リアリティーのあるなしの問題ではない。その時の彼女の顔に、「違うの? まあ、私にはどうでもいいけど。」と書いてあったからだ。

考えてみれば、「中」の人間が大騒ぎするようなビックマッチも、「外」の人々にはどうでもいいこと——というか、その存在すら知られていない。どんなに意義のある試合も、「外」にいる女子高生にとっては、ドラマの次回の展開の方が大切で、主婦にとっては、今晩のおかずの方が大問題なのだろう。

ところであなた、風呂に入る時、見ただけで熱いかぬるいかわかるだろうか。わかります? 私にはわかりません。きっと、お湯の温度——具合を知るためには、たとえ指先だけでも入ってみる必要があるのだ。

私が「プロレスが好きなの。」と言えば、友達は必ず、「へぇー…、すごいね。」と言う。

何が!? アタシが!? なんで!?

「へぇー…、すごいね。」の言葉と共にあるのはいつも、引いた態度である。

私はそんな態度をとられると、居心地の悪い気分になった。それはプロレスを軽視された怒りなどではなく、「もしかして、乱暴そうな女とか思われた!?」という気持ちからである。その後、その気持ちに気付いて、ハッとする。「ファンが乱暴そう。」というのは、プロレスを「外」から見ていた頃の私のイメージだからだ。

今、どんな形にせよ、あなたの中にも、私の中にも、プロレスの存在がある。プロレスの温度を肌で知っているのだ。それがぬるいか、熱いか、もう出ようと思っているか、人それぞれだが。でもプロレス、いいでしょ? 好きでしょ?

そして私は思い直した。引かれたら、一歩進んで、からみつくぐらいでないと!!

プロレスの外にいて、そこから見たイメージだけで判断した、つまり風呂を見ただけでお湯の温度がわかった気でいる人々がいる。危険である。

ここで、あなたも、私も、そういう人に対して言ってやらねばなるまい。例えば、引いた態度をとる人、プロレスという言葉だけで嘲笑する人、「レベルがちがいますよぉ——。」と汚い笑顔を見せる、プロレス嫌いの格闘技信奉者に、だ!!

ご唱和ください!

——入る前から風呂の温度のわかるヤツがいるかよ!!(バシーン!)入浴(はい)れ!!

ビジュアルライター大募集!

「読者に、プロのライターとはどういうものか教えてやるよ〜〜」という、気合い不十分の中村カタブツ君(35歳)も加わり、始まりました『PRIDE−0』。今回参戦の4名の中から、あなたの琴線に触れた作品を一つ選んで下さい(応募方法はP143参照)。その結果、一番支持を得た選手は一戦勝ち抜きとなり、自動的に次号参戦が決定します。見事5戦勝ち抜いた晩には、本社規定の原稿料をお支払いします。また採用者全員に㊙プロレスグッズをお送りします。

なお『PRIDE−0』では、随時、参戦希望選手を受け付けています。応募要項は400字詰め原稿用紙3枚〜5枚程度。内容は、少しでも「プロレス」に引っかかっていれば全然問題はないです。あなたの元気で健康なプロレス論を誌上で大公開してみませんか? 住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、

〒151−0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702
(株)ダブルクロス『紙プロ』編集部
「気が狂いたい」係までドシドシ!

締切は5月22日(当日消印有効)作品が郵送途中で折れ曲がることのないよう注意して下さい。それでは、よろしくお願いします。

(バンビ・バートンチョロ)

「最強を決めるのは、もうちょ

ザ・検証 カブキ'98

構成／せきしろ

これができるのはカブキ、タイガー、わたしの3人のみ！（アントニオ猪木談）

デンジャー松永

見事成功した松永選手。さすがカラテ出身といったところか。「（成功するのが）自分だけだったら良いなあ」と負けず嫌いぶり＆「足で握りこぶしが作れる」と目立ちたがり屋ぶりを惜しみなく発揮してくれたとか。ともあれ、おめでとうデンジャー！

朝日昇

格闘技界を代表して挑戦してくれたシューティングの朝日選手。しかし、蛇手というよりもまことちゃんのグワシ、というかお得意の奇人ポーズでした。残念ながら結果はX。ところで私はシューティングの興行をよく見に行きます。頑張れ、朝日選手！頑張れ、中尾選手！

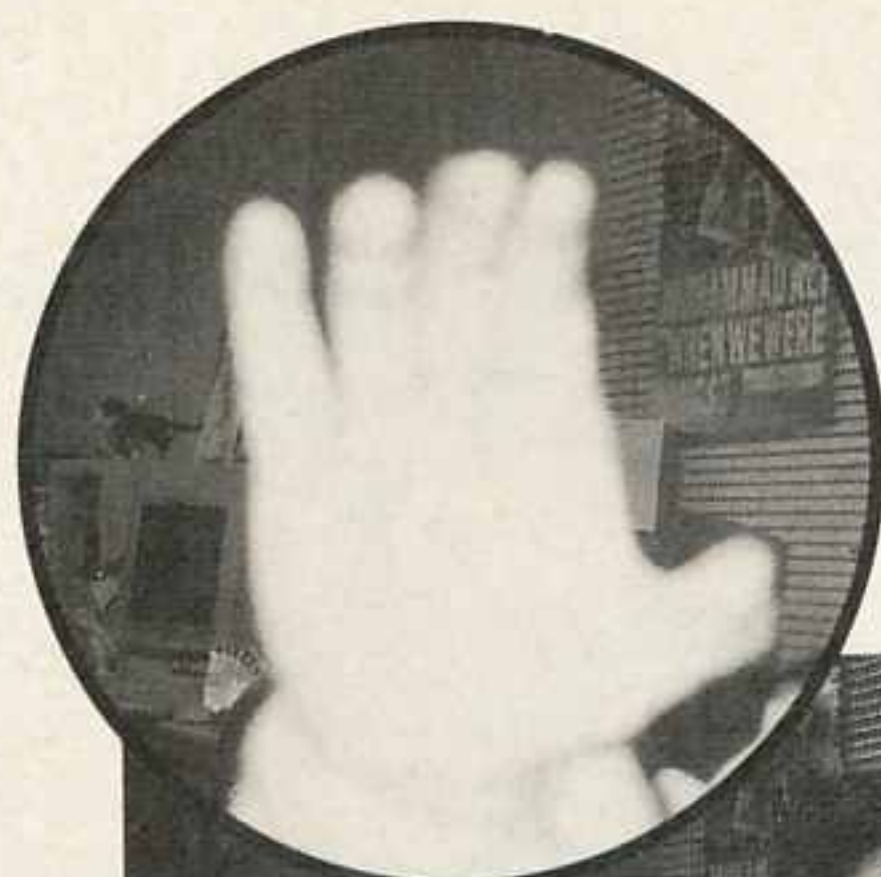
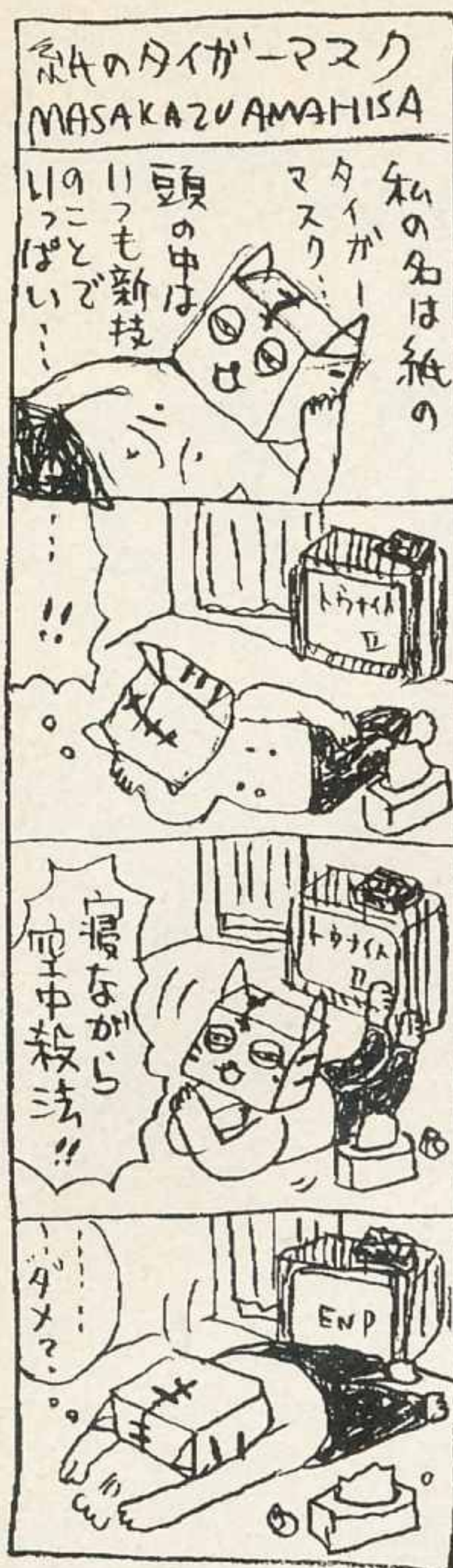
感動させてよ！（ニャハハハハのパチパチパチパチなイラストで河口仁を）

というわけで、4・4東京ドームの第4試合（6人タッグ）の面々が全員中年労働者ヅラでリングが四角いジャングルではなく四角いサウナ（もしくは四角い健康ランド、または四角いパ・リーグ）のようだっただろうが、かおり夫人（藤波の奥さん）の書いた料理＆ミニエッセイ本のタイトルが『ちょっと、ごはん食べにこない！』だろうが、今回も『ほとんどジョーク』並の〝爆笑連載〟『ザ・検証』を懲りずに始めてみよう。

さて、プロレス村の住人でもなく、ペンギン村の住人でもない私が今回検証するのは『プロレススーパースター列伝』のカブキの巻に掲載されている猪木の発言についてである。その発言とは、「私のプロレス仲間でのあだ名『花王石鹸』が読者にばれてしまったが……」ではなく、「これだ!! まさに直角90度に指の下の第1関節だけが曲がり、第2関節から下はまっすぐピンとのばす芸当は、よほどカラテ、拳法の修行をつまぬと不可能！ 現在、ザ・グレートカブキに全米のレスラーが怯えるのも、格闘家だけに、そのことを知っているからで……。自慢ではないが……日本人レスラーでも、これができるのはカブキ、タイガーマスク、わたしの3人のみ！」という発言である。通称「蛇手」と呼ばれるこの芸当、できるのは本当に3人だけなのか？ 誰もが勉強に身が入らないほど気になるはず。よって、その真偽を検証してみようというわけだ。

ところで、読者諸君（ザ・検証サポーター）の中にもすんなりできてしまう人が意外と多いのではなかろうかと思われる。現に一緒にこの検証を行っている椎名氏もあっさりやってのけた。ちょっとした特異体質ならば可能なのであろう。ならば、結果

紙のタイガーマスク
MASAKAZU AMAHISA

ラスカチョ
女子レスラー界を代表して挑戦してくれた下田選手と三田選手。残念ながらできませんでしたが、三田選手は指の靭帯が切れているらしく、反対側に直角に曲がりました。ところで私は三田選手の大ファン。「僕の靭帯を使ってください」というプロポーズの言葉を添えておきます。

島田裕二
レフェリー界を代表して挑戦してくれた島田レフェリー。しかし、蛇手というよりも、両手を広げて子供を驚かせる気の良い親戚のオジさんといったところ。残念ながらできませんでした。

本誌バカ編集長が「俺はやれば出来る子なんだよ！　これでも結構曲がってるじゃネエか！」と負け惜しみを言って再選を要求。現在、再検証を検討することを検討中です。（編集部）

中村カタブツ君（35歳）
額に浮き出てくる数字が低い人界を代表して挑戦してくれた中村さん。案の定できず。関節が曲がるということを初めて知った人のように永遠と無心に関節をいじるだけ……。やがて、関節→間接→間接キッス♥と頭の回路がつながったのか、ニヤリと笑ったとか。

山口日昇
マスコミ界を代表して挑戦してくれた『紙プロ』の編集長。しかし、蛇手というよりも、インチキ超能力者の念力ポーズといったところ。結果は×。もちろん壊れた時計も動きませんでしたし、スプーンも曲がりませんでしたし、海も割れませんでした。

格闘技界
ティング
よりもまさ
得意の奇人
は×。とこ
をよく見に
頑張れ、中

っさりやってのけた、ちょっとした特異体質ならば可能なのであろう。ならば、結果は「偽！」と結論を急いではいけない。そう、猪木は「レスラー」と限定しているのである。また、カブキ人気に嫉妬して顔にペイントして挑戦した「アメリカンドリーム」ダスティ・ローデスあたりが「俺だってできる！」と意地になって言い張りそうだが、残念！　ダスティ無念！　猪木は「日本人」と限定しているのである。

よって検証範囲は絞られてくるわけだ！あとはコツコツ「日本人レスラー」をシラミ潰しに調べていけば良い。そして誰かができた時点で結果は「偽」と自然に導かれるわけだ。が、結果が「真」ということも考えられる。日本人レスラーの数を仮に100人としても、その場合100人全員調べなければいけない！　息をするのも面倒臭い私にとって、その作業は非常に辛い。……しかし、危ぶめば道はない。迷わず検証するしかないのだ。

というようなことを考えているふりをしながら、検証を開始するや否や、デンジャーこと松永選手が見事やってのけてくれました！　おめでとうデンジャー！　ビバ！デンジャー（素晴らしい！　デンジャー）！　ありがとうデンジャー！　断然デンジャー！　100%デンジャー！　激！デンジャー！　キング・オブ・デンジャー！　セックス・ドラッグ・デンジャー！　くうねるデンジャー！　だから釣りはおもつらデンジャー！　友達以上恋人デンジャー！（以下永遠とデンジャーを讃える言葉が続く。途中「タイガー電子ジャー」などのダジャレを折り込みながら）

以上、今回の検証結果は「偽」でした！

●募集

ところで、そもそも猪木とタイガーとカブキはできるのだろうか？　大切なことを調べるのを忘れていた。さて、大募集！　「俺だってできる！」というレスラーの方を募集いたします。（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部まで連絡ください。「俺はできなかった」というのも歓迎！　さあ～、ポストへ急げ～！

「ファンはバカです」。

構成／椎名基樹

　この発言により、それまで同期より一歩遅れをとっていると思われていた西村“無我”修が、ガゼン注目を集めることとなった。「俺は藤波の咬ませ犬じゃない」と言った長州力や、「誰が一番強いか決めればいいんや」と発言した前田日明など、プロレスラーは歴史に残る名言とともに、スターとなっていくものだ。これらの発言と比べると、西村のそれはあまりに素っ頓狂に感じられるが、この言葉がファンの心をとらえたことは、最近の西村のファイトぶりと観客の反応を見ても、明らかな事実のようだ。この発言が、どこか時代の一端をとらえたことは間違いないのだ。ただやみくもに、甲高い声で、しかも間も悪く「時は来た〜！」などと叫んでみても、ただ面白かったで終わってしまう。さらに、同じ素っ頓狂でも、西村の師匠のように唯一歴史に残る発言が「お前、平田だろ!?」だったりした日にゃあ、時代をとらえるどころか、時代に乗り遅れてしまう。長州も前田も、その時に求められている言葉を言ったからこそ、ファンは熱狂したのだ。

　しかし、この「ファンはバカです」という発言が、時代の要求を満たしていたとすると、大問題だ。と、いうことは俺たちプロレスファンは「バカ」と罵られたということになってしまう。それとも、自分こそは当てはまらないと思っているバカが、この発言を支持したのだろうか？　じゃあ、一体、誰がバカなんだ！　オレか？　オメエか？　剛か？　折原か？　息子のツネか？　と、ワザと興奮しながら、プロレスファンは、本当にバカなのか？　西村の言うバカとはどんなヤカラなのか？　筆者がプロレス会場で見かけた、実に個性的なファンの方々の例を挙げてみるので、それがバカなのかどうか、読者の皆様並びに、もし読んでいたら西村選手に判断していただきたい。今回の検証はみなさんにお任せする。

★もう2年くらい前のこと、新日本の会場。俺の前の席に、男３人と女１人のグループがいた。その中にカップルが１組あって、２人はハジに座っていた。男はメガネのヤセッポッチで『DONTAKU』などと書かれたＴシャツを着ていた。女はおとなしかった。４人はとても仲が良く、菓子などを交換しあっていた。観戦中、男３人はプロレス談義に花を咲かせて、少しうるさい。女は黙っていた。話題は天山のこととなった。メガネの男がリーダーらしく、天山はああ見えても、なかなか基礎がしっかりしているなどと、他の男２人にウンチクをのべていた。うんうんと聞いている男２人。と、やおら、メガネが女の肩をガシッと抱き、甲高い声で一言。「マサさんも、そう言ってたもんな！」女は見つめられながら、呆気にとられていた。俺も呆気にとられた。すると、会場に『ＵＷＦのテーマ』が流れてきた。すると、メガネは、抱いていた腕を離して、両手を激しく振りながら立ち上がって、また甲高い声で叫んだ。「山ちゃ〜ん！♥」

★大阪での新日本の会場。タッグの試合で、武藤が出ると「よ〜し、抜いてしまえ」などと、髪の毛に関するヤジを飛ばしてウケてる客がいた。そいつのヤジは、武藤が出る度に軽く「抜けコール」が起きるほど盛り上がった。俺はなんか大阪らしい楽しみ方だなあと、感心していた。その試合が終わり、ライガーが登場した。フッとヤジ男の方を見ると、ヤツは座席の上に立ち上がり、獣神のテーマに合わせて、陶酔した表情で、ギュイイインとギターを弾くマネをしていた。

★代々木での猪木フェスティバルでのデキゴト。海賊男がその日のメインディッシュだった。闘いの途中、誰かが「お前は誰だ!?」とヤジって、皆がウケた。すると１人がやたらしたり顔で（と、言っても顔はわからなかったが声の表情が）「正体がわかったぞ」。ザワつく会場。気分を良くしたそいつは「今日はジャーマンは出さないのか〜い？」と、通ぶった。どうも彼は、高山だと言いたかったようだが、どう見ても違う感じなので、会場は奥歯に物が引っ掛かったような、妙な雰囲気になってしまった。

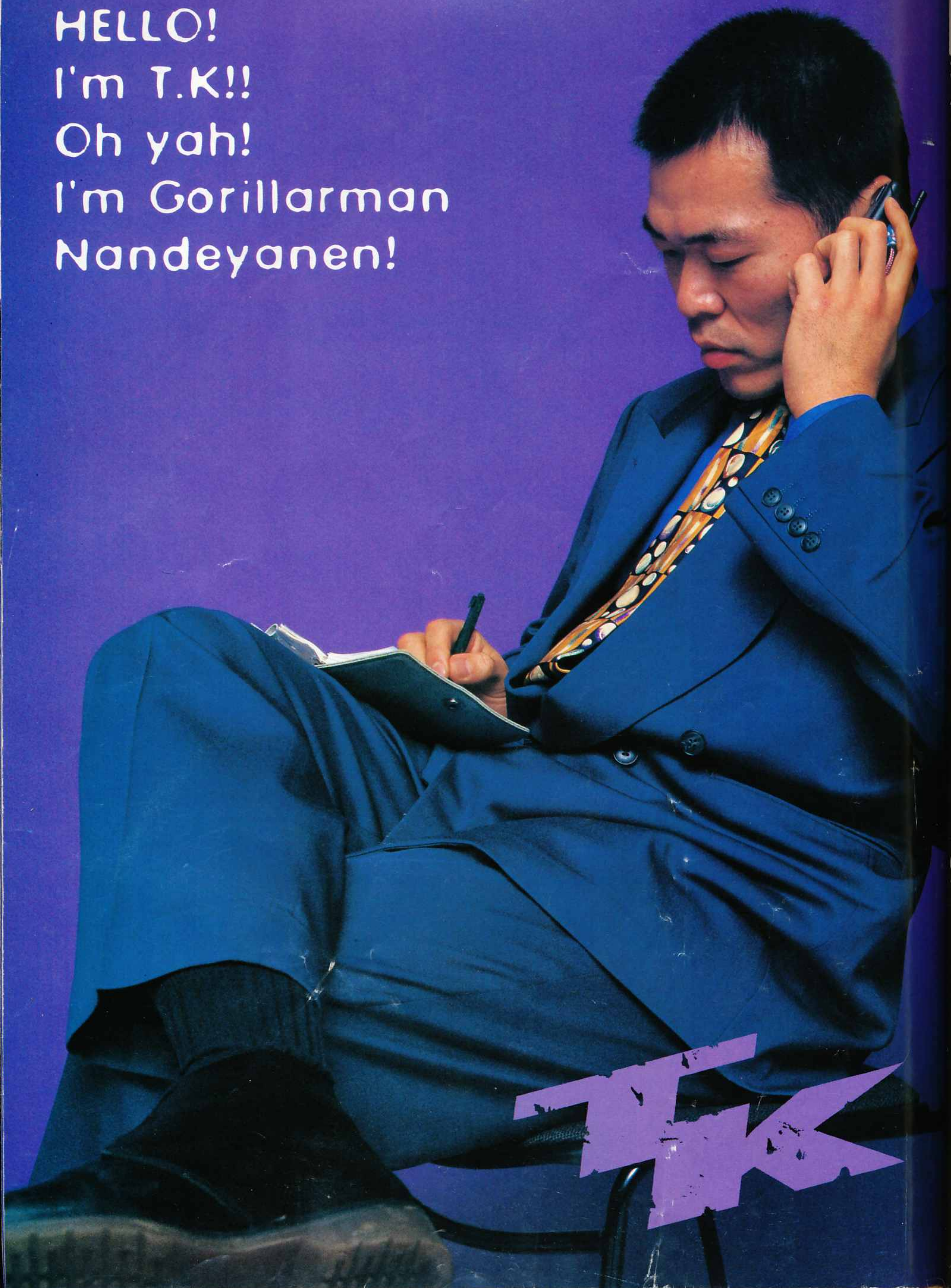
★これは、有名な人物なのかも知れないが、新日本の客席に橋本がいた。と、いっても身長170cmのだ。でも、もちろん丸々と太っている。しかも、あの何と床屋に注文しているのかわからない髪形をしている。モミアゲもボサボサだ。けど、本物の破壊王に比べ、目、鼻、口が、何か小っちゃ〜いのだった。４月４日のドームには蝶野がいた。襟足を伸ばした角刈りに、ナマズヒゲ。けど、そのヒゲが薄〜い。ｎＷｏのロゴ入りサングラス。彼にはなんと彼女がいて、２人でプロレスカードを見せ合いながらキャッキャッとはしゃいでいた。

★だいぶ前のパンクラスの会場。俺の隣は、お父さんと小学生の子供連れ。観戦していると、隣からお父さんの声で「卍、卍」と聞こえてくる。またしばらくすると「コブラ、コブラ」などと言っている。おかしいなあと思っていたら、休憩の時間にお父さんが、俺に話しかけてきた。「あの〜、これは技の形になったら、もうオシマイっていうプロレスなのかね」どう説明していいのかわからないので、俺は仕様がなく「そんな感じです」と答えたら、次の試合の途中で２人は帰ってしまった。息子とプロレスを観ようと張り切ったお父さん。楽しみにした息子。ちょっと可哀想だった。

★この間の『プライド2』でのデキゴト。俺の前は、またもやお父さんと小学生の親子。お父さんはフリーファイトが大好きらしく、見所もわかっている。しかし、小学生には難しいし、しかもどの試合も停滞気味。小学生は、しだいに溜息をつきだした。盛り上がらぬまま、ヘンゾvs菊田に。一向に終わる気配のないガードポジションの攻防。さすがに、息子を気遣ったお父さんは軽いギャグを込めて一言。「この試合はラウンド無制限だから、もしかしたら明日まで続いちゃうかもな」そしたら、息子がムチャクチャ深い溜息を、ハァァァ〜。可哀想だった〜。

★しかし、極め付けはなんと言っても、４月４日。東京ドーム、否、闘強導夢（この当て字のアイデアで、田中ケロの字リングアナは社長賞をもらったそうです）。アントニオ猪木の引退興行での、７万人の猪木狂騒曲。猪木の試合が始まるだいぶ前から、テンションが上がり切った客が、あちらこちらで「１、２、３、ダァーッ」と叫んでいる。２、３人のグループの誰かが音頭を取り「ダァーッ」と絶叫。それを何十回と繰り返すうちに、その人数は20人くらいに膨らみ、最後は見も知らない同士が、泣きながら握手をし、なんだか知らないが「ありがとう」などと声を掛け合っている。古着＆ヒゲ面の今時のアンちゃんと、ネクタイのサラリーマンが、感極まって抱擁する姿は、もはや異常事態だった。ニセ猪木も出現して、スタンドを走り回った。その姿をオーロラビジョンが映し出す。ウェーブは、練習でもしたかのように簡単に波立った。

　バカといえば、こんなバカな事態もない。この大騒ぎを、ヤツはどんな気持ちで眺めていたのだろうか？　そう、この世紀の大イベントで、唯一猪木に闘魂注入された男・西村“闘魂伝承”修は!?　やはり、バカだというのだろうか？　これをバカというのなら、大昔、ワールドプロレスリングの若手インタビューで、金本、小原、山本（現天山）と共に出演し、辻アナに「入門して今まで、一番苦しかったことは？」と聞かれて、皆、トレーニングのことを挙げたのに、１人だけ「札幌の興行の時、スピード違反で捕まったことです」と答えた、西村、お前もそうとうなもんだと、俺は思うぞ。

HELLO!
I'm T.K!!
Oh yah!
I'm Gorillarman
Nandeyanen!
TK

TK

ヒクソンに勝つのは自分も自信あるし誰もが狙ってると思う

第16回アルティメット大会でキモを破ったリングスの番頭はん

髙阪 剛

LONG INTERVIEW

聞き手／山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi

撮影／松永源さん
Photographs by Matsunaga Gensan

見てみ、この色（男ぶり）ッ！
見てみ、この面（構え）ッ!!

とにかくゴツくてイカつい〝闘う顔〟といえば髙阪剛である。Jリーグやプロ野球には絶対にない、マット界の宝ともいえる〝顔〟を持つ男が、〝世界の総合格闘技界の顔〟になりつつある。

昨年10月に行われた寝技のみのアルティメットとも言われる『コンテンターズ』で、アメリカのビッグ・ネーム、トム・エリクソンと、判定で敗れたとはいえ時間切れの大接戦を演じ、一気にその名を高めた我らがツヨシ。

そして、去る3月13日。アメリカ・ニューオリンズで開催された『ジ・アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップXVI』のヘビー級スーパーファイトで、怪人・キモに判定ながら圧勝！

これで我らがツヨシは「T・K」として全米にその名を、いや、顔を轟かせることとなった。

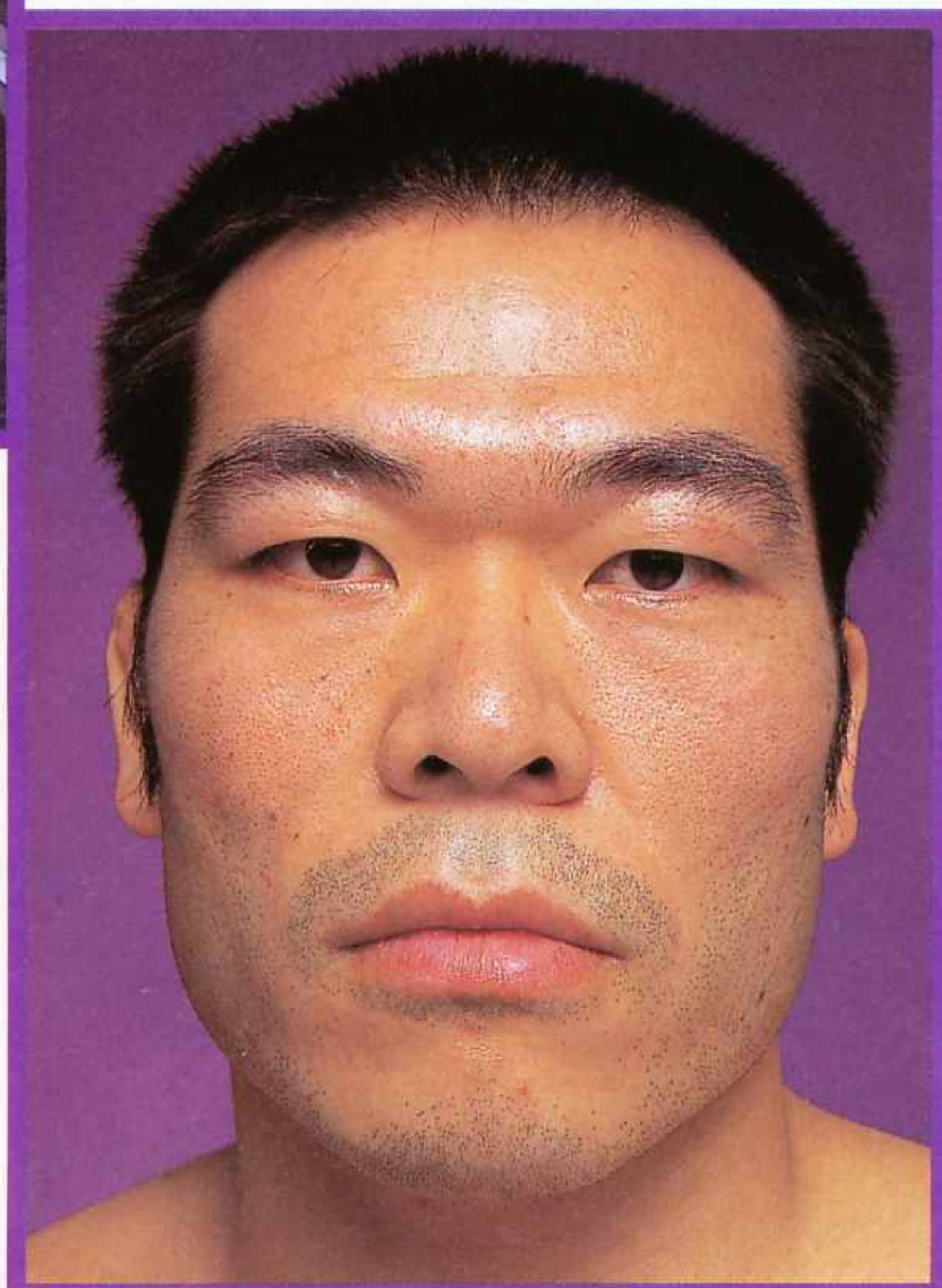
ゴツイ顔に似合わない戦略家としての繊細な頭脳、修羅場にも動じないビッグ・ハート、言わずとしれたその実力、観る者を魅了する華麗なるファイトぶり——。

いま注目のこの男が見つめている先は、流れの早いフリー・ファイトの世界の未来像である。

これからなにかをしでかすこの〝顔〟をキミの細胞に刻み込め！　ヒクソンもしくはグレイシーに関する初公開衝撃発言も含めたロング・インタビュー、本日公開!!

見てみィ!!

——そういえば最近、会場で「おかん」の声を聞きませんね（試合会場で「ツヨシーッ!!」と熱血的な絶叫声援を送ることで有名な〝髙阪の母〟のこと）。

髙阪　それがですね、兄貴に子供が生まれたんで、その世話が忙しいらしくて「お前のことまで構ってられへん」って言うんですよ（笑）。アルティメットには付いてこようとはしたんですわ。でも、それが応援とか心配とかじゃなくて、まったくの買い物目当て（笑）。

——ガハハハハ！　息子がオクタゴンに入るのに、頭の中はショッピング。さすが「おかん」ですね（笑）。

髙阪　ホンマに信じられないですわ。去年の大阪大会で前田さんと長井さんのあの不穏な試合の後、報道陣どころか関係者だって控室に入れなかったのに、「ちょっとスンマセン」って勝手にロープくぐって控室に入って、呑気に写真撮ってましたからね。騒然とした、あの控室で。たまりませんわ。

——ガハハハ！　さすがに、その顔を産み落とした「おかん」は胆の座り方が違うな（笑）。でも、髙阪さんはホントにいい顔をしてますね。〝地から湧き出るような顔〟してますよ（笑）。

髙阪　グフフ。『西遊記』に出れますかね（笑）。

——まったくOKです（笑）。『西遊記』じゃもったいないですよ。リングスって、Jリーグとかプロ野球とか他のスポーツ選手にない顔が揃ってますよね。ゴツくて、いかつい顔というか。

髙阪　めちゃめちゃバリエーションありますよね。同じ顔って二人といないですよね（笑）。うちのおかんに言わせるとリングスで一番男前なのは成瀬（昌由）さんと田村（潔司）さんだって言ってましたね。

——格闘家は顔が命ですよ。

髙阪　「腹減ってるんじゃないかな

見てみこの色（男ぶり）!!

見てみこの面（ツラ）（構え）!!

昔からの悪いクセでU大会に出ちゃったようなもんです

高阪剛

あ、あいつ」って顔ですね（笑）。

——ひと昔前で言うとハングリーってやつですか。でも、アルティメットのキモ戦のビデオを見ましたけど、高阪さんもホントにそんなイカつい顔して、しなやかな動きをしますね（笑）。

高阪 ギャップってやつですかね（笑）。でもね、当日は熱があったんですね。計ったら余計まいっちゃうと思うんで、計んなかったんですけど。前日ぐらいから発熱して、最悪でもないけどちょっと悪いっていう体調だったんで。だから、力が抜けてたんですね、きっとね。

——力といえば、アナウンサーはやけに力入れて"T・K"って連呼してましたね（笑）。

高阪 あれはね、モーリス（・スミス）が、アナウンサーに「ヤツは"T・K"だから。"T・K"は凄ェんだぜ」って言ってね。それと"TSUYOSHI・KOHSAKA"っていうのがアメリカ人には発音しにくいんで、「なんかミドルネームみたいなもんはないんか?」っていうのもあったんですよ。その時にたまたまモーリスが自分のことを"T・K""T・K"って騒いでたんで、だからもう"T・K"でいいじゃねえかって。

——"T・K"でいっちゃえ（笑）。

高阪 いっちゃえ、いっちゃえ（笑）。かまわねえよって（笑）。「向こうはキモなんだから、お前は"T・K"にしなきゃダメだ」って、わけわかんない理屈なんですよ（笑）。

——ガハハハハハ！ 実際のところ"T・K"ってなんだ？ "タフマン高阪"の略か？ とか思ってましたよ（笑）。

高阪 "テクニカル・KO"の略とかね（笑）。

——ガハハハハハ！ 俺の名前はテクニカル・KOだぜ！

高阪 いただきじゃないですか（笑）。

——バッグンですよ。

高阪 「いつでもどこでも負けてやるぜ」って（笑）。

——「いつ何時、誰にでも負けるぜ」（笑）。

高阪 「間違いねえぜ」「なんたって俺はテクニカル・KOだからな」（笑）。

——毎回毎回、凄絶な負け方をする（笑）。

高阪 グフフフ。よろしいですな。

——しかし、リングスでの最近の高阪さんの闘いぶりを見てるとね、マットに華を咲かすって感じがしますね。

高阪 ホンマですかぁ？（笑）。自分はもう、関西の田舎者を象徴したような男のつもりなんですけどね。

——だけど、成瀬選手とか坂田（亘）選手とかとは"カッコイイ観"の基準は違いますよね。

高阪 どうなんですかねぇ？

——坂田選手や成瀬選手がカッコイイと感じるもののストライクゾーンってなんとなくわかるような気がするんですよ。たとえば成瀬選手だったら音楽でいうとB'Zだったりとか。

高阪 なるほど、そういうことですか。それはね、ありますよ。要は人がやりもしないようなこととか、人が避けて通るようなことを好んでやるクセがあったんで。小学校の頃からズーッとそうでしたよ。

——やっぱり（笑）。

高阪 「うわぁ〜！ あいつあんなことやってるぜ」って言われることが快感だったんですよ。だから、ウンコを掴んで投げたりとか、水たまりをコーヒーだって言って飲んだりとか（笑）。そういう変なクセがあったんですよ、昔から。

——ガハハハハ！ どちらかと言えば変態系ってやつですね。

高阪 変質者ですね（笑）。

——闘うリングの変質者（笑）。

高阪 あと、蜘蛛を捕まえてきて育てたりとか。あとチューチューってわかります？ 凍らせてポキッと折るやつ。

——アイスの？

高阪 そうそう。あの中に小〜っちゃい蛙を入れて、蝿をいっぱい捕まえてきて食わすんですよ。その食わす瞬間っていうのを人に見せたくて「見てみぃ」ってジッと見せて、パクッといくと「ほらな」って（笑）。

——なるほど、立派な変質者ですね（笑）。アルティメットに出たっていうのは、そういう変なクセの流れの中にあるわけですか。

高阪 あ！ でもね、正直言って、うちの中では誰もまだやってなかったから、一番乗りしたいなっていうのはありました。

——なんか、そういうのがあるような気はしましたね。

高阪 なんか一番でやったら、「おぉ！」ってなるじゃないですか。だから、そういうクセであるんでしょうね。モーリスが最初に来た時も、どうしても最初に試合したかったんで「やらしてください」って言いましたから。

——クセでオクタゴンに入った男！ 凄いな、それも（笑）。

高阪 昔からの悪いクセ（笑）。時々、「オレ、なんでこんなとこにいるんだろうな」とかって素に戻るんだけど（笑）。「あっ！ クセか」って（笑）。

——クセで勝っちゃったようなもんですね（笑）。

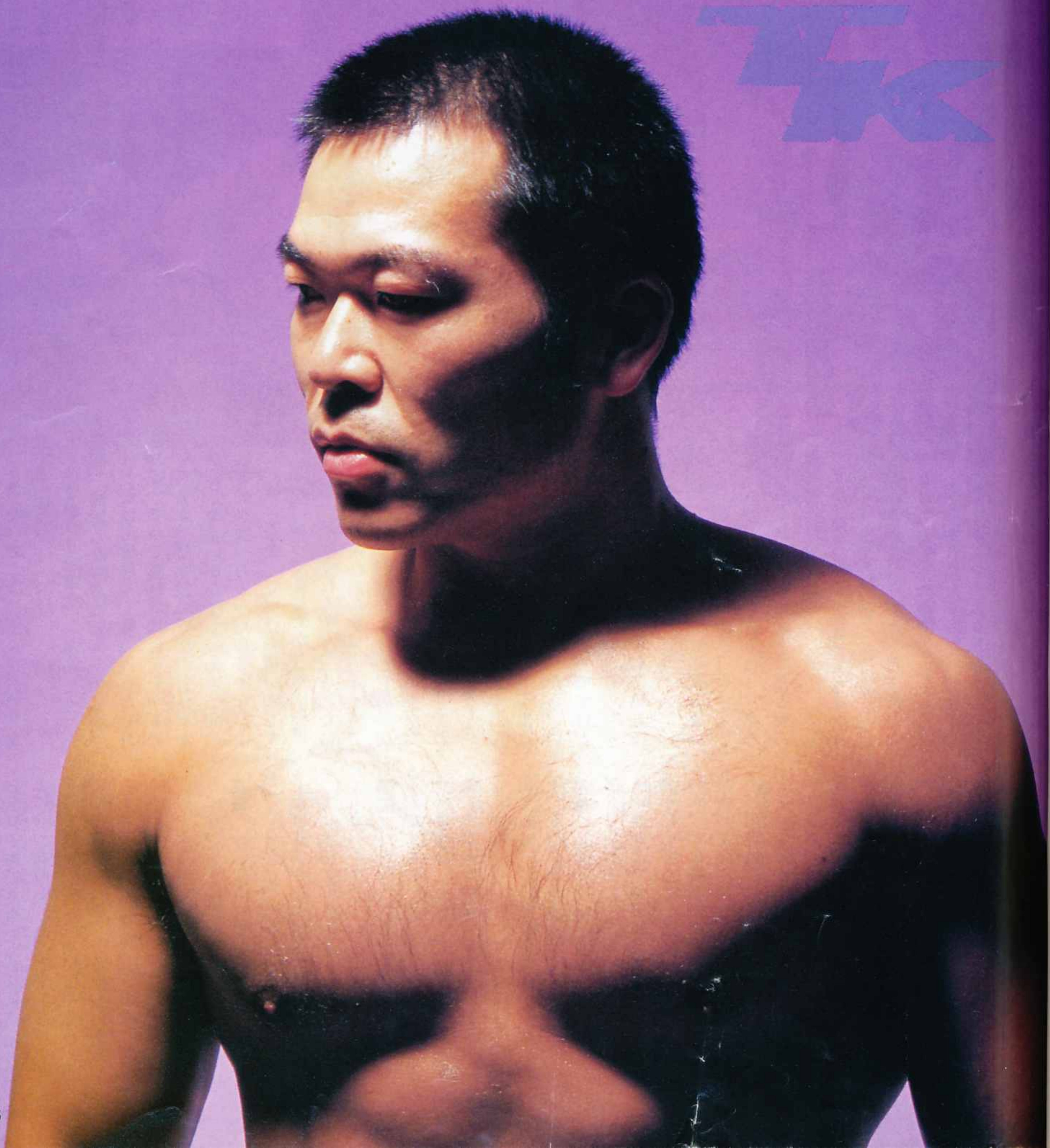
高阪 クソみたいなもんですよ！ グフフフ。よくわからんですけど。

「モーリスが“打撃で行け、TK !!”“口を塞げ、TK !!”って言ったら、ちゃんとその通りにスタンドに移行したり、キモの口を手のひらで塞いでスタミナを奪っていきましたからね、は～い。ツヨシ・コーサカは顔に似合わず冷静沈着な男ですよ、は～い」（キモ戦でセコンドについたユージ・シマダレフェリーの証言）

オクタゴンに入っても、アメリカでは大人気の怪人・キモを目の前にしても、まったく怯むことのなかった我らがツヨシ（TKでも可）。冷静な試合運びでキモを終始圧倒。終盤には、パワーにまかせたタックルで持っていかれる場面も見られたが、最後は我らがツヨシ（TKでもヨシ）が文句のない判定で勝利を収めた。ブラボー、ツヨシ !!（TKでもOK）

TK

フフフ。よくわからんですけど。グフ

高阪剛

フフフフ。

――何言ってんだ、T・K！（笑）。さっき聞き忘れたんですが、"T・K"っていうのは"T―Kay"という綴りでいいんですか？

高阪 あれはね、すいません、口がすべったんです（笑）。ただの"T・K"でいいんです。すいませんでした。グフフフ。

――なぜだ！（笑）。

高阪 いや、ただの"T・K"じゃあつまんねえなって思っちゃっただけなんです（笑）。

――うちの編集部ではtrfが由来だとか、カンカンガクガクでしたよ。

高阪 自分は人の真似するのは大嫌いですからしないですよ（笑）。

――きっとこの"T―Kay"という綴りには何かあるはずだって。

高阪 チッチッチッ、ノンノンノン（笑）。違うんですよ。あれは向こうで試合が終わった直後に「お前のTシャツを売ってくれ」って客に言われたんですよ。Tシャツなんか作ってないですからね、当然。でも、向こうの選手ってのは自分のTシャツを作って会場とかで売るんですよね。そういうのがまた喜ばれるんですよ、お客さんには。で、「だったら作ってくれよ」って客に言われて「へ？ 作んなきゃいけねえのか」と思って。で、考えたら"T・K"ってただ付けただけだったら、ゴリライモの"ゴ"って書いてあるTシャツと一緒だなあって思って（笑）。

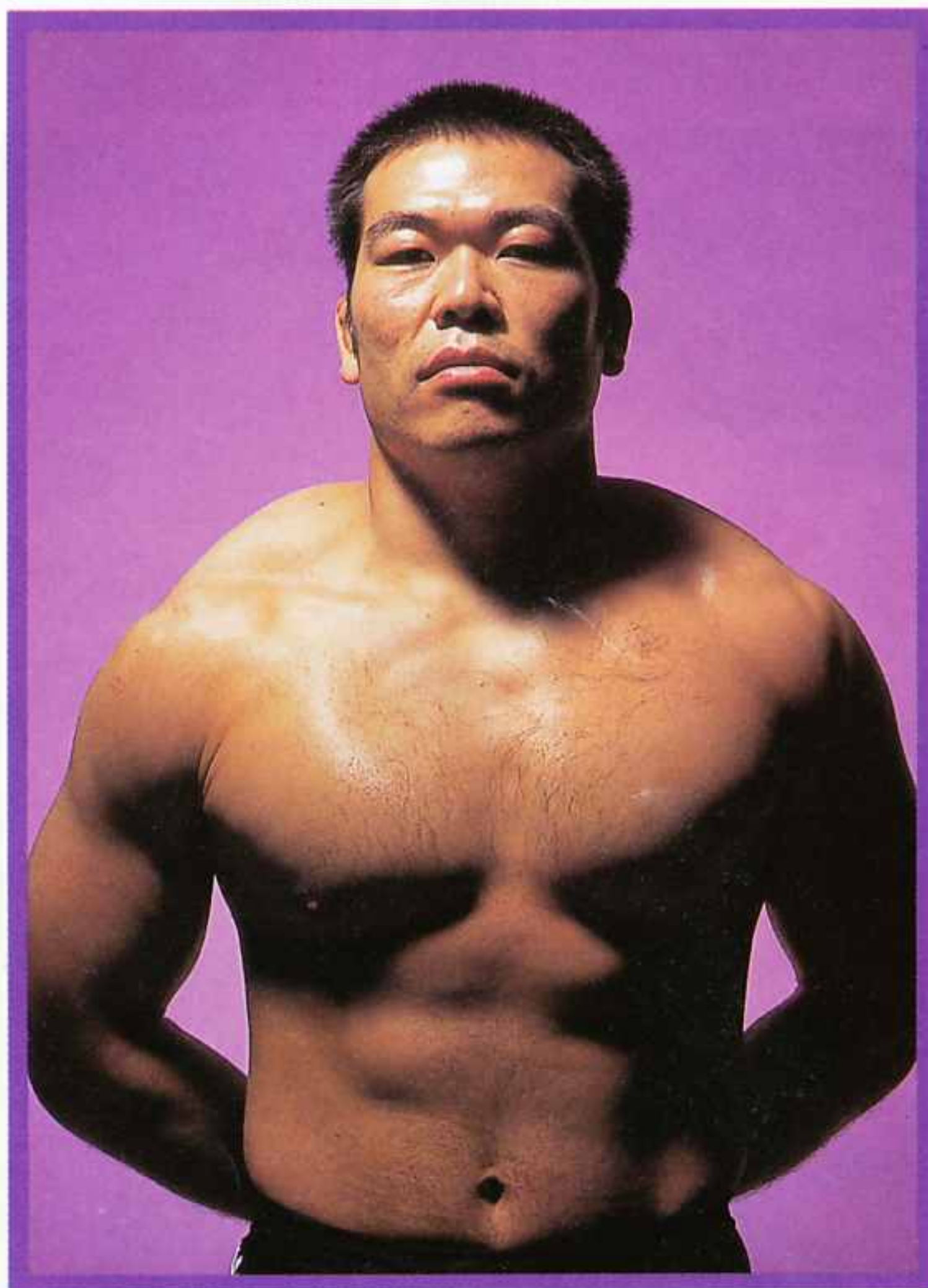
――ゴリライモの"ゴ"！（笑）。

高阪 だから、なんか細工しなきゃいけねえなとか思って。

――それで"ay"を出来心で付け足しちゃったと（笑）。

高阪 少なからずTシャツっぽく見えるんじゃねえかな、と思ったんですけど、ダメですね（笑）。

――クックック。

高阪 なんだこれって（笑）。前の晩に書いた作文を次の日に見るようなもんで、なんでオレこんなこと書いてるんだよ、カッコ悪りぃって（笑）。

――ま、それはともかく、実際、怪人・キモは闘ってどうでしたか。

高阪 いやぁ、凄くいい選手だと思うんですよ。ただ、最初ヒールを取りにきたんですけど、元気な時ってなかなか関節技って極まんないんですよ。で、あそこでキモは「もらった」と思ってガッときたと思うんですけど外れた。「もらった」と思った時に、外れちゃった時の精神的ダメージって凄いデカイんですよ。「なんだよぉ」って『電波少年』じゃないですけど、なっちゃうんですよ（笑）。

――さすがフリが細かいですね（笑）。

高阪 関西人なもんで（笑）。だから、自分とかは関節取っても「外れたら外れた時」って感じで試合をやっていくんですよ。だけど、それができなかったんじゃないかなって。あの一発の失敗でアワ食っちゃったんじゃないかなと。見てたら凄い顔してやってましたからね。「お前、それ疲れるやん」「そんなに力入れたらダメやん」って思ったんですけど、思い切り絞ってましたから、まあ、ちょっと痛かったですね（笑）。でも、あの状態じゃ、まず極まんないと思ったんで。頭の切り替えがうまくできるようになったら、いい選手だと思うんですけどね。パワーはあるし、ちゃんと（タックルを）切る技術も持ってるんで。

――人は見かけによらないもんですね（笑）。

高阪 いや。最初から自分ねぇ、キモ選手は"やれば出来る選手"だと睨んでたんですけどね（笑）。

――ガハハハ！"やればできる子"だと思ってたんですね（笑）。

高阪 「昔から言うてたやろ、あんたのことは。やったらできんねんでぇ」って（笑）。あれはもったいないですよ。練習はちゃんとやってると思うんですけど、「ダメだ」とか思うとガクッと疲れるじゃないですか。そういうのをコントロールできないんじゃないかな。上になった時も、もっと楽してパンチを打てばいいのに「当ててやろう、当ててやろう」と思ってるから力が入っちゃって。結構、空振ってるもんねぇ。

――キモはふだんの顔も凄いですけど、やたら力が入って、さらに凄いことになってましたね。

高阪 凄い！ 下から見てたら凄い顔。「うりゃあ！」って感じで腕を振り上げますからね。「そりゃ見えるわ」って（笑）。

――ガハハハハ！

高阪 こ〜〜んなに腕を振り上げるんですもの。そりゃ、二の腕掴んで止めますよ（笑）。そんなんで殴らせるアホなんかいないですよ（笑）。

――ガハハハ！ アルティメットに出てみて、"世界の風を感じたぜ"みたいなのはありました？

高阪 ある！ でも世界っていうか、アメリカの風ですかね。考え方がもの凄い前向きですよね、主催者にしても選手にしても。一番凄いなぁと思ったのが、試合終わって主催者側と選手が集まってミーティングをやったんですよ。内容はこれからどうやったらもっとよくなるかってことなんだけど、試合のあとだから12時とか夜中なんですよ。それでも嫌な顔せず、タンク・アボットとか、マーク・コールマンとかも集まって2時間ぐらいミーティングやってたんですよ。そうやってフリー・ファイトの火を消さないようにしようとか、これからどうやって前進していこうかっていうのを考えていて。

16回目にしても、まだそうやってちゃんと前向きに考えているんだなあっていう。

——選手にしても単なる賞金稼ぎに出てきてるわけじゃないんですね。

髙阪　そうですね。その辺は凄いなあって思いましたね。

——それでまあ、試合後の髙阪さんの「試合はゲームのつもりでやってる」って言葉につながるわけですけど。このゲームっていうのは一体どういうことかなのかなっていう話をしましょうか(笑)。

髙阪　ああ、はいはい。例えば将棋だとすると、将棋っていうのはルールは一つで、駒が揃って「用意スタート!」で始めるじゃないですか。フリーファイトを全体で括るといろんな将棋があると思うんですよ。例えば歩だけの将棋だとか。あとは桂馬とか銀とかああいうややこしい動きをする駒がない将棋だとか。今回出たアルティメットっていうのは、そのややこしい動きをしない将棋のようだなぁって感じたんですよ。単純明快、見たまんまっていうね。それに比べて、うちとかパンクラスのようなスタイル、アメリカに行くとサブミッション・スタイルって言うんですけど、こういうスタイルは難しいですよね。例えば戦略の立て方一つでも自分から何か行動を起こさないと絶対に勝てないじゃないですか。そのために絶対に技術が必要なんですよね。ということはややこしい動きをする駒をいっぱいもってなきゃ、ゆくゆくは勝てなくなってくるんですよ。

——戦略的な引き出しをたくさん持ってなきゃいけないわけですね。

怪人・キモを寄せつけないファイトぶりはアメリカのファンのド肝を抜くには十分。PPVのアナウンサーは「TK! TK!」を連呼し、観客は「コーサカ・コール」を送った。日本マット界が世界に出ていく時に、実に頼もしい存在が髙阪剛という男である。

オクタゴンから帰還し、3月28日のNKホール大会のリング上に元気な姿を見せたツヨシ(またはTK)。ニコライ・ズーエフを相手に多少戸惑ったものの、シッカリとタップを奪い、タフネスぶりと勢いがあるところを見せつけた！　強いぞ、ツヨシ!!（あるいはTK）

キモは「うりゃ〜」って感じで腕を振り上げるんですもの

髙阪　そうですね。だから、そういうのを考えて、うち以外のフリーファイトを考えた時に、そういう例えがポッと浮かんで、〝確かにそうだな、ゲームだなぁ〟っていうのを感じたんですよ。

——じゃ、リングスの試合も髙阪さんにとってはゲーム?

髙阪　ゲームですね。

——そのゲームって言葉がシックリくるかこないかっていうのが、格闘技を見る方の好みの差になってくるんでしょうね。

髙阪　ああ。でも、そうなっていかざるをえないと思いますよ。技術的に言うと行くとこまで行っちゃってるし、まあ、でも、先の技術があるかもしれないけど、そうなった時に誰が一番強いかっていうと技術を一番活かせる人間になると思うんですよ。で、結局そういう試合になると、見るからにゲームライクになりますよね。昔みたいにバッチンバッチンやるんじゃなくて。互いの微妙な駆け引きをふんだんに使わないと勝てなくなってくると思うんですね。

——当然の如く、戦略が一番重要になってくるわけですからね。

髙阪　タクティクスですね。自分が入門した時に前田さんから、『レスリングに一番必要なのはタクティクスだ』ってオレはゴッチさんに言われた」って話を聞かされて。まあ、デビューした当時は、タクティクスだなんだって力でねじ伏せられたら終わりじゃんとか思いましたよね。でも、うまく力

を流す技とかもあるし、そういうのも全部身に付けていくと戦略っていうのは凄い重要だと、ここ1～2年ぐらいで感じるようになりましたね。

―そこでね、フリーファイトを髙阪さんの得意なモノポリーで考えたらどうなるだろうって思ったんですよ。

髙阪 そう！ そういうことなんですよ。

―いかに人の考えつかない戦略を編み出せるかという。でも、戦略って一度表に出ると「みんなのもの」になっちゃうじゃないですか。で、選手の戦略なり実力が平均化していくと、見ている方の勝手な言い分としては、非常につまらなくなりますよね。

髙阪 でも、それはもうね、いや、ある時期を超えたらそれはなくなると思いますよ。ある時期を超えないことには、やっぱり先には進めないゾという。だから、もうちょっと辛抱して見る目を変えれば、もの凄く面白いもんだということがわかると思うんですよ。

―糸井さんが、モノポリーで世界8位かなんかになったのって知ってます？

髙阪 ああ、聞いたことあります。

―で、世界のレベルは感じたんだけども、実は「東京で行われた日本代表選考会の方が戦略レベルでは上だったと感じた」と言ってるんですよね。アルティメットに出て、そういうのは感じました？

髙阪剛

髙阪 うーん、よく似た感覚は確かにありましたよ。例えば、ちょっと話はそれちゃうけど……。

―どーぞ、気の済むまでそれてください（笑）。

髙阪 いわゆるオクタゴンってありますよね。よく「入ってどう思いましたか？」って記者の人とかに聞かれるんですよね。で、「いやあ、思ったより広いなって感じました」と正直に答えるんですよ。そうすると、「いや、そうじゃなくて雰囲気とかは……」っていう展開になる。でもね、自分は意地張ってとかそういうんじゃなくて、ホントに素で入った時に「あっ、広い！」と思ったんですよ。

―はいはい。

髙阪 だけど、聞いてくる人は「威圧されました」とか「怖かったですね」とか、そういう感じの答えを聞きたいらしいんです。

―いやぁ武者震いが止まりませんでしたとか。

髙阪 そうそう。だけど、だけどですよ。ハッキリ言って、もうそういう次元の問題じゃなくなってきてるってことが一つあって。で、それと同時に今回のキモ選手なんか入ってきた瞬間に完全に緊張してるっていうか、もう、闘牛場の牛がいきり立ってるって状態で来たわけですわね。

―「殴るぞーッ」と（笑）。

髙阪 「わかるっちゅーねん」ってやつですよね（笑）。だから、逆にこっちが醒めちゃったというか。

―冷静になれたと。

髙阪 はい。「なんだ、あいつがああだったら、こっちは楽に行こうかなあ」って感じになっちゃって。

―「力抜けっちゅーねん」って逆に心配になったり（笑）。

髙阪 そうそう。オレ、心の中でつぶやいてましたもん。「見てみィ、アレ」って（笑）。

―ツッコミを入れてたと。

髙阪 だから、実際自分にとっては、オクタゴンであっても、そういうことなんですよね。真っ正面からズバッといくもの考え方をするときもありますけど、とくに試合とかになると、周りから周りから見ていっちゃうというか。

―周り？

髙阪 たとえば、タックル行ってああしてこうしてって考えるんじゃなくて、例えば〝レフェリーの鼻から毛が出てるゾ〟とか（笑）。

―あ、そういう周りから見る。もっと深いのかと思いました（笑）。

髙阪 試合終わったら何しようって考えたりとか。要は、どうなっても身体が反応してくれるだろうっていう自分を信用してる、というのがあるんですけどね。まあ、だからレベルがどうのっていうのは、あとから感じるんだと思いますよ。糸井さんも多分、世界大会に行ったときにそう感じたのかもしれないけど、帰ってきて余計そういうふうに感じたんじゃないかと思うんですよね。

―「あ、普段やってることで通用したんだ」っていうことですね。

髙阪 そうですよね。あとはもう、それができるかできないかの問題なんで。結局あーだこーだ考えてもね、試合中にアガっちゃったとか、一回失敗してアワ食っちゃってダメだとか、そうなっちゃったら、もうどうしようもないですからね。

―どこかのキモ選手みたいに（笑）。当然、これからは戦略的レベル、技術レベルも上がっていく。でも、まあ、簡単に言っちゃえばそれはスポーツですよね。

怖いことがヘーキでできる…言ってみりゃ変人ですわ

高阪　ですね。

——でも、ボクの中の格闘技は、「スポーツ？　そんなチンケなもんと一緒にしないでくれよ」っていうのがあるんですよ（笑）。

高阪　そんなバカなっていう（笑）。

——そうそう（笑）。「ふざけんな、な〜にがスポーツだ、この野郎！　健康ランドでも行きやがれ！」っていう（笑）。

高阪　自転車でも漕いでろ、この野郎！っていう（笑）。

——そうそう（笑）。そういう昔ながらの心根みたいのがビシッと根を張っちゃってるんですよね（笑）。

高阪　ボクらも「時代だ」って言うのは簡単なんですよ。でも、確実にプロじゃない選手、アマチュアであったり、趣味でやってる選手の中にもフリーファイト、トータルファイトって浸透してますよね。まず田村さんとこであったりとか、ジムがいっぱい出来てて、お金さえ払えば習うことが出来る。身体を動かすことが出来る。昔と違うっていうのはそこですよね。何にも知らない人でも、まかり間違えばプロとして闘えるかもしれないという。そういう状態が起こってますよね。

——そういう渦は確実に起こってますね。

高阪　逆にプロよりも遥かに素質がある選手も、ひょっとしたら、そっから生まれてくるかもしれないっていう、そういうプロにとっては恐ろしい時代が来ることもあるし。

——実際に、もういるかもしれないですしね。

高阪　結局そうなると、こっちの商品がいい、あっちの商品がいいという状態になりますわな。全体のレベルアップっていうのは、そういうところからまず起こってくるんで、そういう状態にはなりつつありますね。ただ一つ！　自分がいくらゲームだとか言ってても、殴られりゃ痛いし、極められればケガするし。っていうことをヘーキでやれる……言ってみりゃ変人なんですよね（笑）。「普通喜んでやんねえぞ、こんなこと」って感覚はあるんですよ。

——ああ、なるほど。

高阪　だって「あんなに痛いことをなんでやるの？」って聞かれても。自分が答える時は……。

——クセですか！（笑）。

高阪　そう、クセですから（笑）。まさにそうですよ。生活の一部。「しゃべったりすることと同じ感覚なんですよ」っていう風に答えると思うし。でも、それが普通の人にとっちゃあ、わかんない（笑）。まず、絶対にわかんないですよね。だけど、やってる本人は実はイッタイほどよくわかってるんですよ、それは。

——文字通り痛いほどわかってると。高阪さんたちは、俺らがあーだこーだ言える義理じゃない凄いことをやってるのはボクもわかるんですよ。なんたってリングスやアルティメットのリングでやってるんですからね。でも、だからこそアマチュアには出せないプロの凄みを見せてほしいんですよね。前田さんをはじめとして、高阪さんや田村さんの辿ってきた道程とか歴史とかはわかるけど、技術論とかは一切わからねぇですからね、ボクは。

高阪　グフフ。だけど、それはね、わかんないようだけど、実はわかってるはずですよ。

——あ、いや。実はその自信はあるんですよ（照）。オレに技術論を語らせるところはないかなとは思ってるんですけど。ただ、やりたくないだけで。

高阪　それを語りだしたら実際にやるしかないんですよ。

——そうそう。これは野球でもなんでもそうだけど、ちょこっとやってる人より全然レベルが上の人がプロになってるわけじゃないですか。だから、いくらやっても、プロには「到底かなわないな」って一発でわからせる存在でいてほしいんですよ。

高阪　そりゃそうですわ。でも、野球でもサッカーでもそうだけど、まあ、昔のプロレスの流れとはまったく別の流れになっちゃうけども、自分のやってる先に、形としての華やかなゴールがあるっていうのは凄く生きる[illegible]与えてくれる職業じゃないかな[illegible]なん[illegible]思うんですね、別の意味で。オレ[illegible]対にプロになるんだっていう人も[illegible]からは増えてくるだろうし、そうい[illegible]意味ではこれからが本当の正念場っていうかね、プロとしてのね。新しいものが生まれる過渡期ですよね。

——なるほど。少しカジった人って「トウシローに何がわかる」って感じの態度取るでしょ。あれがイヤなんですよ、うるさくて（笑）。黙って見ろ

グレイシーに「ウソだろ？」って技で勝つのは近い将来ありえますよ！

高阪剛

からこそアマチュアには出せないプロの凄みを見せてほしいんですよね。前の態度取るでしょ。あれがイヤなんですよ、うるさくて（笑）。黙って見ろって（笑）。トウシローは絶対「あいつのヒールホールドの掛け方はうまいぜ」ってとこから入らないですからね。

髙阪　まあ、それはね。「見てみィ、あのヒールの角度！　艶！」（笑）。艶は関係あらへんって（笑）。「あの入り方見たあ。たまんねえよなぁ、あの角度！」っていうのは……。

——それはない（笑）。

髙阪　でも、それは逆におもろいかもわかんない（笑）。

——ああ、それも素敵ですね（笑）。でも、それがトウシローだろうが目の肥えた人だろうが見ている方は、人間の本能に引っかかるものがリング上から立ち昇るから格闘技に魅了されるんだと思うんですよ。戦略や技術やゲーム性やスポーツ性を超えた部分、見ているものの細胞が叩き起こされるような闘いを望んじゃうわけです。猪木さんや前田さんにはその生き様や考え方まで含めてリング上から見せつけてもらいましたからね。こういう考えは髙阪さんがこれから走ろうとしてる道では邪魔なんですかね？

髙阪　いや、それはわかる！　だから、そういうのはこれからですよ！　でもハッキリ言って、まだそこまでには達してないと思うんですよ。いや、技術的には達してるんですけど、やっぱり凄い不安定だし、自分もたまたまUFCであぁいう勝ち方ができたけど、相手によったら逆の立場もありえますからね。何をやっても通用しないっていうこともありえますから。でも、そうなった時に〝とっておき〟のモノを持ってるのと持ってないとでは大きく変わってくると思うんで。でも、その〝とっておき〟まで行けてないと思うんですよ。だから、もっともっと前進しなきゃそういうものは手に入らないと思うし。窮地に追い込んでいかないとそういうモノは手に入らないと思うんで。だから、これから先、自分がどうすればもっと強くなれるかとか、どうすれば弱点を克服できるかとか。これから先の技術はどうなっていくのかとか、そういうのを考えてばっかりいるんですよ。

——それはわかる！

髙阪　でしょ（笑）。

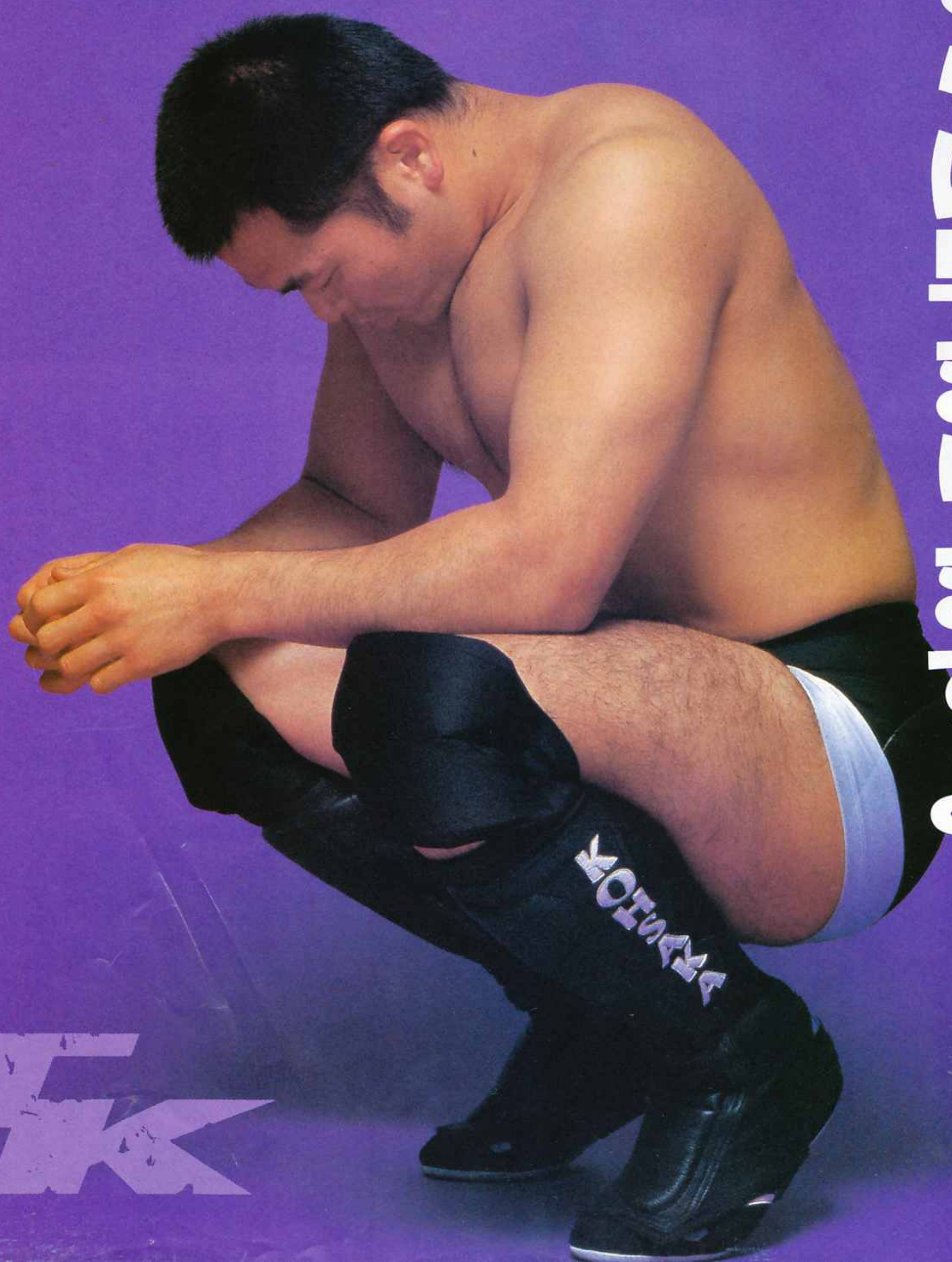
——だから、ボクの言ってることは、要するにとてつもなくグレードの高いゼイタクな要求なんですよ。アマチュアには絶対望まない、望むべくもないゼイタクな要求を満たしてくれるのが真のプロだと思うし。

髙阪　はいはい。あとね、一つ、これはもう確実に言えることは、ファンもそうやって、かなりフルイにかけられちゃうと同時に、選手もフルイにかけられちゃうんですよね。だから、技術のない選手、プロとしてやっていく資格のないと思われる選手は、どんどんフルイにかけられて落とされちゃうと思うんですよ。近い将来に、そういうのが見えてきてると思うんで。で、そん中で生き残るためにはどうしたらいいかっていうのは、個々の選手が考えると思う。で、猪木さんだとか、前田さんとかの引退によって、そのスピードがさらに早まると思いますね。今、凄いスピードでフリーファイトとか格闘技の世界が流れているんで、見てる

猪木さんや前田さんの引退で
スピードはさらに早まりますよ

TK

KOHSAKA

高阪剛

人もついていくのが精一杯だろうし、やってる本人はもっと大変だし。でも、そういう意味での〝熱〟っていうのは、もの凄くありますよ。

——だから、今がつまらないっていうんじゃなくて、きっとリングスやフリーファイトの世界がもっともっと面白くなるのはこれからだろうなっていうのはわかるんですよね。

高阪　（パチン！と手を叩く）そこまでわかってたら、もう十分ですよ。

——でも、しかし！

高阪　ほう！

——例えば、グレイシーがマサヒコ・キムラという日本人に負けて、日本にリベンジを図るために約50年、誰も考えつかないような戦略を練ってきたというドラマも成り立ちますよね。実際は違うかもしれないけど。

高阪　はいはい。

——だから今、ここまできたら見たいのは、またブラジル勢が50年戦略を練って考えなきゃならないような、圧倒的な勝ち方なんですよ。ゲームとして勝ってもらうことじゃなくて。「勝った負けたのシーソー・ゲームになるのは勝負だから仕方ない」って言われたらお手上げですけど、でもズバリ言って、プロ格闘家から、そんなスポーツライクな意見は聞きたくねえんです。なーんて、そんなゼイタクなことまで望んじゃうわけですよ。

高阪　「なんじゃ、あれ？」っていう勝ち方ですよね（笑）。

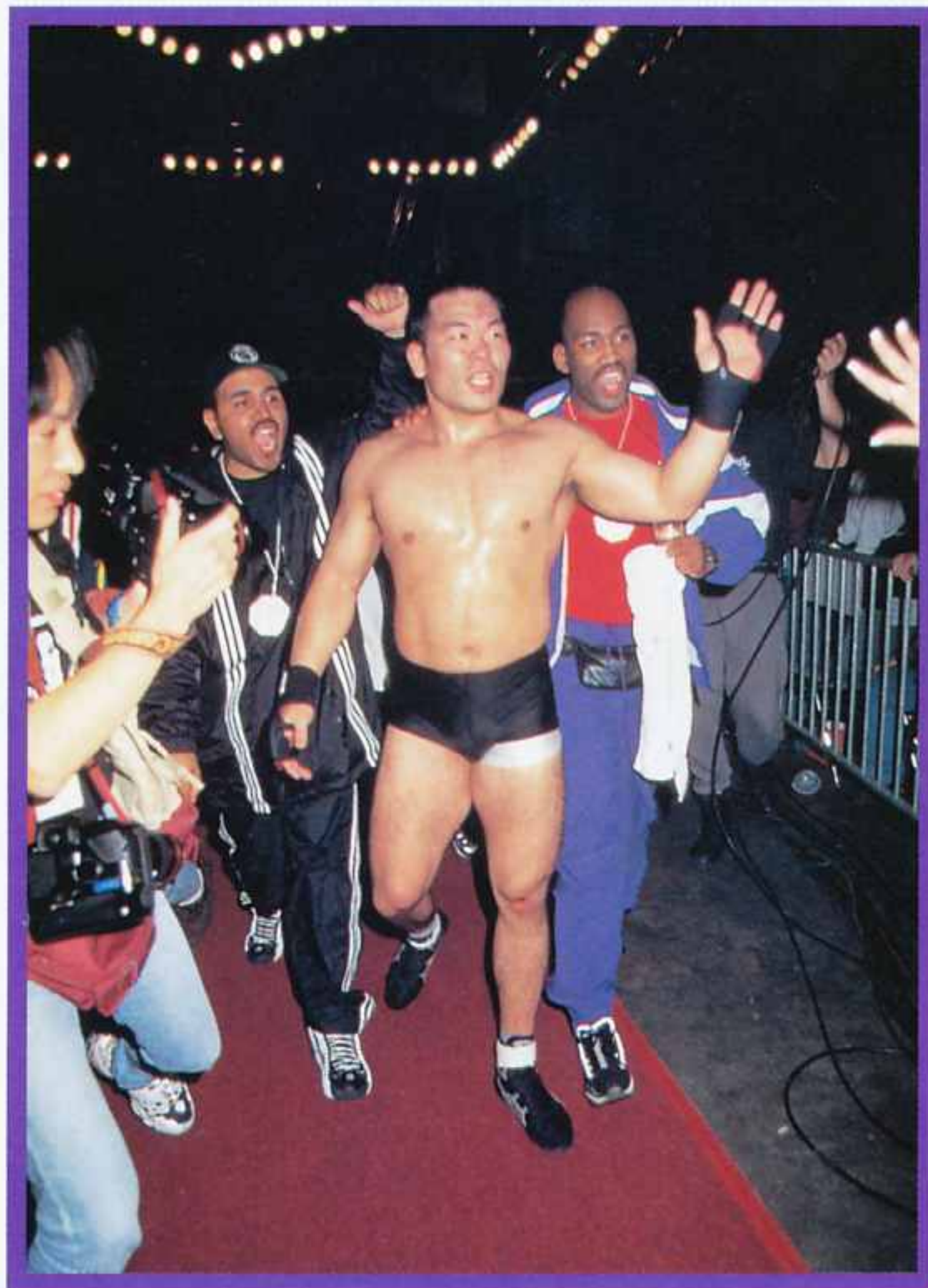
——そう、「うそぉ！　いいもん見たなぁ」っていうね（笑）。

高阪　でも、それはね、目の肥えた見てる人にしてみれば、「あっ、あれだろ！」っていうような技で、グレイシーにしてみれば、「なんだあれぇ？」っていう様な技ですよね？

——そうそうそう。

高阪　でもね、それは近い将来ありえますよ。なんでかって言うとグレイシー柔術がどういうものなのかっていうのは詳しくは知らないですけど、例えばヒクソン、彼個人にしてみると、ハッキリ言って頭だけで闘ってるような人ですよね。

——おお。

高阪　こうきたら、こう返すっていう。で、相手がひるんだら、ここで勝負をかけるとか。多分そういうのだけで闘ってる人だと思うんですよね。そんなメチャクチャ馬力があるわけじゃないだろうし。で、結局そうしてると自分の知らない技術とかでパッとかやられちゃうと、次のアイデアが浮かばないと思うんですよ。あそこまで行ってる人だったら。

【こうさか・つよし】 1970年3月6日滋賀県生まれ。講道館柔道4段。95年には「トーナメント・オブ・J」も制したリングス・ジャパンの核弾頭

——はっはー。

高阪　でも、その勝つってことに関して言えば、正直言って自分も自信あるし、誰もがその機会を狙ってると思いますよ。ただ、なかなかチャンスに巡り会えないっていうのがね。正直言って自分とかがやらしてくれっていったって、あそこまで周りが評価してる人間と、自分なんかを試合させるかって言ったらNOじゃないですか。

——いや、だってT・Kと言えば、アメリカじゃもうビッグネームじゃないですか。トム・エリクソンというアメリカのビッグネームと判定まで持ち込んだT・K！ってことで。

高阪　いや、もうちょっと頑張らないと。でも、やれるんだったら今すぐにでも試合はやりたいですよ。

——おお！　いいぞT・K！　頼もしいぞT・K！

高阪　だけど、「やれるんだったら、やりてえ」ってみんな思ってますよ。当然、あそこまで頭の肥えた人間だから、「なんだこれ？」って技じゃないと勝てないと思うんですよ、逆に。そうなったら、さっきおっしゃったような話になると思うんですよ。

——エリオ・グレイシーが「わしは150歳まで生きて日本人を倒す！」っていうような、劇的な勝ち方（笑）。「あれは日本人にしか、考えつかん技じゃぁ！」とかなったら面白いですね（笑）。とにかく一度土壌を整備している今の段階を超えたら、ゼイタクなドラマが起こることを期待したいですよ。

高阪　そうですね。なぜ今まで自分がヒクソンとか柔術関係の連中に対してひと言も言わなかったかというと、自分にはその資格がなかったんで。ハッキリ言って彼らのやってる試合の中では、自分たちのやってるサブミッション・スタイルっていうのは別枠として考えられているんで。で、こっちのスタイルの試合には絶対に上がってこないんですよね。やるんだったらバーリ・トゥードのスタイルでやろうっていう話になると思う。そういうバーリ・トゥードの形式で試合もしてないのに、「オレとやらせろ」っていうのは問題外じゃないですか。

——はいはい。それでアルティメットにも出ていったと。

高阪　だから、昔からバーリ・トゥードの試合はやりたいと思ってた。でも、その資格を得るまでは我慢しようと思ってたんです。

——我慢強いぞ、T・K！（笑）。

高阪　グフフフ。我慢強いし、変なクセがあるし（笑）。だけど、「オレなんか、メチャクチャ普通の人間やなあ、常識的やし」って思うけど、こう言ってる方がおかしいかなとも思ったり（笑）。ま、とにかく、俺らがやってることが面白くなるのはこれからですわ。期待してください。

【4月2日、六本木アートセンターにて収録】

前田日明の

WORLD MEGA-BATTLE 人生相談

単行本発売発表間近!!
寸止めなしの殺戮連載!

第5回

人生は語らず

4月4日、アントニオ猪木の引退式に行った——。

行ってビックリしたのは、あのモハメド・アリが来ているということだった。

それを聞いたからには、猪木さんには悪いが、引退式どころの話じゃなくなってきた。

さっそく新日本プロレスの企画広報部長の永島さんに「アリのサインを貰えないんだったら、猪木さんの引退セレモニーには出ない！」と無理矢理ゴネて、永島さんと通訳のケン田島さんを引きずるようにしてアリの控室に向かった。

控室に入ってアリを視線で追うと、俺に背を向けた格好で、家族と彼の親友でもあるカメラマンのハワード・ビンガムさんと談笑している最中だった。

アリに近づいていくと、ケン田島さんが「彼は昔、新日本プロレスにいた、とても強いレスラーで、アキラ・マエダというんだ。彼が貴方の熱烈なファンでサインが欲しいと言っている」と紹介してくれた。

すると、彼はビンガムさんに耳打ちして、彼の口を通してこう言った。

「サインをくれというのは嘘で、俺と闘えと言うんじゃないだろうな」と。

そして、かすかな笑みを浮かべながらジャブを3発、俺に向かって放った。

俺も笑いながら身構えると、アリはニッコリとし、周りの人間たちの空気も一気になごんだ。

その機転のきいた様子は、とても一人で歩けないような難病にかかっているのが、まるで嘘のように見えた。

その時、俺はフと思った。

「本当に身体が悪いんだろうか？ ”ホラ吹きクレイ“の異名通り、彼一流のホラで演技をしているんじゃないだろうか」と。

「僕は高校生の頃から貴方のファンです」と言うと、アリはサインをしてくれた後に、握手をしてくれた。

その手は震えていたが、俺は飛び上がらんばかりに喜び、アリに挨拶をするのも忘れ、ア然とする永島さんと田島さんに置いてけぼりをくれて、ドアを開けて飛び出した。

周りにいた報道陣に向かって、誰彼となく「アリのサインを貰ったゾ」と、見せびらかしながら自慢した。

そして、ひと通り自慢し終わった後、俺は後悔した。

”なんて浅はかだったんだろう。もっとクールにならなければ“と。

”クールであれば機転をきかして、俺が持っていたものとアリの私物が交換できたのに“と……。

——40歳に手が届こうという俺を子供のように喜ばせるほど、アリの目はまるで子供の目のように爛々と輝いていた。

構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

Q 先日、新宿で呼び込みに誘われるままに路地裏のバーに入ったんです。水割りを2杯飲んで、怪しげな雰囲気に気がついて、お金を払って店を出ようとしたら、突然怖いおじさんたちに囲まれて、財布の中身を巻き上げられてしまいました。こういうときに立ち向かう勇気が欲しいのですが、どうすれば身に付くでしょうか？

（神奈川県・ボヤッキー・22歳・会社員・男）

A この頃、こういうふうなバカな極楽トンボみたいな若い奴が多い。**アホか、コイツは！** こういうのには鉄則がある。まず、キャッチャー（いわゆる悪質なポン引き）がいるような店には絶対行かんことやね。俺の友達にも昔、こんなんやってたヤツがおるけど、話を聞くと、この子みたいなのを一人捕まえて、半分マージンを貰う仕組みらしい。で、「最高ナンボ払わせたことがあるんや？」って聞いたら、350万円やって！ これは儲かるで。引っかける方もムキになるで、これは。ええ商売や。世の中なんてそういうボロい落とし穴がいっぱいあるからね。

で、そういう状況になったら、もう暴れるしかないやろうね。同じ10万払うんでも、何にもせんで10万払うか、自分も壊れるの覚悟で店のものをブチ壊して10万払うかってことでしょ。だから騙されたって気づいた瞬間にどう腹を括るかやね。腹を括れないと暴れることはできない。

何をするにも、まず覚悟が必要。何かをしようとすれば、出血が伴うんだよ。**出血のないところに結果は伴わない。**傷をつくるんなら向こう傷や。

まあ、だけどこういう時一番いいのは、トイレとか行くふりして逃げることやろうね。で、逃げるにしても覚悟して逃げる。覚悟が大事ですよ。覚悟があったら特攻隊でもできるけど、覚悟がなければ女の子一人押し倒すこともできないんやから。どうせ押し倒しても「嫌だ」と言われるんだったら、やることやって「嫌だ」と言われましょう。「嫌だ」と言われてもパンツ取ってしまえば、こっちのもんでしょ。それが男子の本懐。

だから、この子はこれをきっかけに「男らしさとは何か？」っていう、キンタマがなぜ男の子にブラ下がっているかという疑問に気づくことやね。男らしさとは覚悟というものが大きな要素を占めている。

勇気を持つ前に覚悟を持つ！ 覚悟があったら勇気なんていうものはオマケでついてくるはずや。グリコみたいに。覚悟を持てば300メートルくらい一気に走れるで。

Q ボクは空手を8年やっていて、今まで町の喧嘩では負けたことがありません。人は不良などと呼びますが、ボクは将来医者になってアフリカで病気に苦しんでいる人たちを救いたいという夢があります。でも、勉強はしたくありません。喧嘩が強くて入学できる医大なんかないじゃないですか？ どうしたらいいでしょう？

（大阪府・ゴロゴロマキマキ・17歳・高校生・男）

A これは典型的な、この頃流行りのノータリンの症状や。**こいつは17歳にしてはなかなか頭が悪い！**

「空手を8年やってて、町の喧嘩で負けたことがありません」って当たり前。「人は不良というけど、将来は医者になりたい。でも勉強はしたくありません」ってね、これはもうハッキリ言って頭が不良やね。

でも心優しい俺はこいつのために、どういう医者になれるか色々考えてあげました。うちのマンションで近所の子供が医者をやってる。そのお医者さんにだったらなれる！

これを人呼んで〝お医者さんごっこ〟という。どうしても医者になりたいって言うんだったら、俺がその子らに頼んで、医者にしてやってもええで。

それからね、頭が不良の人は自分では気づいてないんだけど、知らず知らずに周りを苦しめてしまうんだよね。意味もなくガンつけられた町の善良な人々とか、意味もなく殴られたこいつのお父さんとお母さんとか、意味もなくカツアゲされた友達とか他の学校の生徒とかね。

身に覚えがあるやろ？

だから、アフリカで病人を救う前に、自分の周りの人たちをまず癒しなさい。それができないうちはアフリカで人を救うなんて夢のまた夢っちゅーこっちゃ。

気をつけよう。暗い夜道と空手ボケ。（前田日明は語る……「この頃老人ボケと空手ボケは、日本の社会で大きな問題になっとる」）

Q 前田さん、こんにちは。17歳の高校生です。高校の美術教師に悩まされています。人の作品に自分の意見を押しつけて自分の好みの作品にしてしまうわ、ウソツキだわ、そして常識もありません。「パンフレットに載せるから」と作品の完成を急がせ、徹夜で絵を描いたのに、実際はそんな話はまったくなく、「ごめん」の一言もありませんでした。さらに制作中に私のフトモモがチラッと見えたと言い、そのことを校内の機関誌にまで掲載しやがりました。陶芸の授業時には手を必要以上に触ってきたので、頭に来て態度を悪くしたら「そんなんだから成績が悪い」と言われてしまいました。美術には自信を持って

AKIRA MAEDA

いるつもりだったので、ショックです。人を傷つける、モラルのない人間は教師にはなっていけないと思うのですが、こういう教師にはどういうふうに接すれば良いのでしょうか？（大阪市・握力16ｋｇ・17歳・高校生・女）

A 今ね、子供がおかしくなったっていうけど、ハッキリ言って教師もおかしいね。パーが多い！

で、この女の子は美術教師としてどうのこうのよりも、この教師が異性として嫌なんだろうね。「先生みたいなのは男として嫌いなタイプだから、私につきまとわないで」っていう感じがハッキリ出てる。

でも、困るのはこういうイジけた教師を怒らせると、内申書とかいうわけのわからんもんがあるからね。悪いこともしてないのに悪く書かれてもたまらんから、もうスパッと割り切ることやね。

しかし、この子が社会人になったら、この教師の数百倍いやらしくて、数百倍性悪な人間なんていっぱいいるからね。だから、この教師は社会に出た時に対決する**強敵のための前哨戦の相手**だと思って、おだてたりイジめたりする練習を積むことやね。つまり実験リーグ、バトル・ジェネシス！

美術教師ってね、大概は絵描きとかになりたかったんだけど、才能がなくてなれなかった。でも、「俺はこのままでは終わらんぞ」とか思ってる人間がいまは大多数だ。だから、中には「ロダンは弟子を愛人にした」「ピカソは80歳過ぎて子供を作った」とかの類の芸術家のおとぎ話を実践しようとして、女の子に手を出そうとする勘違いした奴も出てくる。

そういう時は「痴漢のような目をして、私の手に触らないでください」って言うことやな。それに、そんなだから成績が悪いと脅されたら、反対に「そんなだから下司な美術教師にしかなれなかったのよ。ホントは芸術家になれなかったのに」そして「先生って、まさか教育者じゃなくて、もしかして芸術家のつもりでいるんじゃないでしょうね。そんなつもりでいると、ある日、豆腐の角が飛んできて、頭ぶつけて大ケガするかもしれないわよ。あなたはロダンでもピカソでもないんだから。うふ♥」ってそれとなく注意しましょう。**コツは優しくね。**うふ。

Q **日明兄さん、私の彼氏はとても冷たいんです。会うのは1ヶ月に平均1回です。会っていても、クツのヒモがほどけて結んでいる私を平気で置いていきます。でも、私は彼氏と付き合っているという自信はあるし、そんな冷たいところが好きなんです。「いつかはラブラブになってやるぜ！」という野望のために頑張っています。でも、道は長そう。日明兄さん、彼を私にメロメロにさせるにはどうすれば簡単でしょうか？（八王子市・寺島千鳥・会社員・26歳・女）**

A こんなんはチョロイで。**まずは簡単にやらしたらアカン！** ヒット&アウェー戦法を取ることやね。

この彼氏にとって、この子は恋人のうちに入ってないんだよ。持ち駒がなくなった時に呼ばれて、やった後は冷たくされてってね。この子はそういう冷たいところに魅力を感じてるって言うけど、それを気づかれたらダメ。反対に「あなたのこういうところは好きだけど、こういうところは……」って少しずつ耳元で囁いてやる。その言葉によって、「そういうことを言ってくれるのはお前一人だけだ」と、相手がだんだんその気になってきたらシメたもんや。

だから、彼のためになるようなことを二言はいらないから、**一言だけ言ってあげる。**「ダメ」とか「イカン」とかいう言葉を使わずに、「あれは良かったけど、ここをこうしたらもっと良かったのにね」とか、別の言い方をもって、男をその気にさせる。強引に自分の方に向かせるっていうんじゃなしに、自分の言葉に影響されるような方向に持っていく。つまり、女の子は好きな相手の前では戦略家になることに尽きます。

で、彼氏があんまり冷たい素振りを見せるようだったら半年くらいパッと間を空けるといいね。「今のあなたと会うのはイヤです」って言って離れる。これは勇気のいることやけど、最後にラブラブになるための地盤固めやから我慢するこっちゃね。で、離れる時には最後に渋い手紙を書くのがいい。この手紙のポイントは、**”自分“っていうものを出さないこと。**

「今のような付き合い方があなたに身についてしまうと、将来、本当に好きな人と出会った時にあなたを不幸にするだけだと思います」「私はそんなあなたを見るのがイヤだから、しばらく離れてお互いに自分自身を見つめ直す機会があった方がいいと思います」「でも私は、それによってあなたが私の元に帰ってくることを願ったりしないから。ただ、私はあなたが誰からも恋い焦がれるような素敵な人になってほしい。そのために敢えて私は身を引きます。いつまでもあなたのことを思ってます」って書いて、最後にハートマークにチュッ！ってやればそれでOKや。

そういうのは必ず男の胸を打つ。「こんなに俺のことを思ってくれてたのか……悪いことしたな」って思っちゃうからね。こういう手紙を貰うことにかけては達人である俺が言うんだから間違いない！

前田日明の WORLD MEGA-BATTLE 人生相談
人生は語らず

すべからく、**男でも女でも魅力の正体っていうのは、神秘性**なんだよ。彼は多分そういう手紙だとかを貰うことによってこの子に神秘性を感じるはずや。

よく女の子は「なんでも言い合える仲になりたい」とか言うけど、恋愛で一番やってはいけないことはそれやねん。なんでもかんでもお互いにわかってしまったら、例え松たか子でもイヤになってしまうはずや。松たか子は歌舞伎の名門のお嬢ちゃんっていう神秘性があるからいいんであって、一から十までわかってしまったら、例えスーパーモデルでも魅力なくすで。

ある程度、接近戦になってきた時に、もうワンランク上の関係に行くためにポロッと言うのはいいんだけど、ベラベラと**語りに落ちたらアカンね。**語りに落ちたら、周りのことが見えなくなって、自分の世界だけでエッチラオッチラ踊ることになっちゃうからね。そんな自分勝手な見苦しい踊りを見てもつまらんだけでしょ。踊りには神秘性が大事ですよ。

この子もね、**人をその気にさせる天才・アントニオ猪木**でもよく研究して、彼氏をその気にさせる踊りを開発するこっちゃね。で、彼氏をその気にさせる踊りができるようになったら、ワタクシのところに来なさい。以上!

Q 前田さん、こんにちは。僕は今まで自分を怒らせた奴や自分を裏切った奴をずっと許せないままでいます。本当は、猪木さんのように"何事も許しきる心"を持ちたいのですが、いつまでも根に持つタイプです。また、困ったことにそんな自分がちょっと好きです。アキラ兄さん、僕はこのままでよいのでしょうか? それとも僕にも"禁談"が必要なのでしょうか? 教えてください。

(埼玉県・ツネ・職探し男・24歳・男)

A **「許しきる」なんてことはできない!** みんな基本的に許しきれないんだよ。逆に言えば、許しきることができないから、許せるんだよ。

許しきれないんだけど、時とともに薄れていく記憶や印象の中で、自分の自尊心とともに一緒に葬り去るっていうのができるようになる。自分の自尊心とともに葬りされない許しっていうのはできないんだよ。

どういうことかというと、「なんでこんなことを俺が許さなアカンのや」と思ってるうちは許されへんねん。それが、例えば他人に「あいつは器がデカイ」とか言われたら、「あんなことでも許したんだ」とか思うでしょ。「許しきれないことを許した自分」にちょっと感動する。そうすると許せるようになる。そんなもんですよ。

だから、裏切りとかにあったら、**ドンドン根に持ったらいい**んだよ。それで爆発したら爆発したでケロリとする。エネルギー不変の法則で、爆発しようと溜めこもうと同じだったら、目いっぱい恨んで、目いっぱい爆発しよう。"こうしてやる、あしてやる"と考えてるうちに、ガソリンも底をついてくる。とりあえず「コノヤロー、ブッ殺す!」と叫びながら暴発を防ぎましょう。

AKIRA MAEDA

Q 私は25歳の若造ですが、会社では新人教育の担当を一任させて貰っています。私自身、厳しすぎるかなと思うこともありますが、当たり前のことを教えているつもりではいますが、耐えられずに辞めていく人が後をたちません。人材不足の折りだけに甘やかすことも大切だとは思いますが、どうすればいいのでしょうか? 日明兄さん、新人教育のポイントを教えて下さい。

(板橋区・西野慎・25歳・会社員・男)

A 「私自身厳しすぎるかなと思う」んだったら、相当厳しすぎるんちゃうか。反対に、「これじゃちょっと甘いんちゃうかな」ってぐらいがちょうどいいぐらいでしょう。それと、厳しくする時って**タイミング**があるんだよね。わけもわからずに厳しくしても、ド新人は理解できない。

俺らが、例えばタックルを教えるとする。6メーター四方のリングの中で動いてるわけだから、逃げるも突っ込むも、その6メーターの中にいるわけでしょ。だから、ワンステップで6メーターの範囲を有効射程になるようにステップワークを考えなければいけないわけや。でも、それを教える前にタックルをやらせると、簡単に相手にステップバックされて、捕まえきれずに、簡単に首を絞められてオシマイとなる。そういう失敗をして、初めて「どうしたら相手を捕まえることができるんだろう」って悩むわけでしょ。そういう時にさっき言ったようなことをパッと教えたら身に付くんだけど、経験もないうちに、「こういうことがあるから、こうせえ、ああせえ」って概念的に教えても、「そんなもんなのかなあ……?」で終わっちゃう。

だから、目的意識っていうか、なんでそれが必要なのかを**認識できないうちは、厳しいことを教えてもムダ**なんだよね。そいつがそれまでに、厳しいものの中に意味を見出せるような経験を積んでたらいいんだけど、ない場合はダメやろうね。

それから、えてして教える側は「こんなこともできないのか」って言いがちだけど、それをグッと抑えて「やったじゃないか!」って言ってやる方が効果的なんだよね。つまり、厳しいことをする時は厳しいことをするぞというムード作り、それが終わった時は"厳しいことをやり遂げたんだ"という達成感を得られるようなムードを作ってやる。それが大切やね。

それでもダメだったら、「これが今のお前には必要なんだから、黙ってやってみろ!」と断言して、とにかくやらせてみることっちゃね。

ド新人でもなんでも、人間みんな自分が主人公になりたいわけでしょ。だから、みんなに注目されたり、「俺ってなんて凄

いんだろう」って思えれば、やってることに夢中になって力が伸びるわけじゃない。

でも、新人がわけわからずやってると、「自分が主人公になってない」って感じて、スネたり退屈しちゃうわけや。俺が小さい頃、近藤さんっていう近所の石屋のおっちゃんがいたんだけど、俺らが駆けっこしてると「ボク、足早いなぁ〜」とか声を掛けてくる。それを言われた子はね、目ェつぶって息止めていつまでも走ってたね。**人間って何歳になってもそういうところがある。**

教師と生徒の関係作りっていうのは、共通の部分で作業するっていうことと、感情をさらけ出しても、もう一つ上のステージがあるんだという神秘性でバランスを取ることが肝心やね。

憎まれ口を叩いたとしても、「これは憎まれ口じゃないんじゃないかなあ」って相手に思わせる雰囲気を作ってあげる。**アメとムチの法則**が生きてくるわけや。でもムチばっかり打ってるとそのうち二人で秘密クラブに行く関係になってしまうから気をつけましょう。

Q **僕は世の中、食い殺すか食い殺されるかが全てだと思っていますが、下らない連中に食い物にされるのがどうしても嫌で現在無職です。前田さん、僕はこれからどうしたらいいんでしょうか?**
(長野県・血に飢えた獣・無職・26歳・男)

A うーん……こいつは……芸術的な……**アホや**……(この後、しばらく絶句する前田であった)

だいたい「下らない連中に食い物にされるのがどうしても嫌で」まではわからないこともないけど、だから「現在無職です」って、なんやねん! 全然理由になってへんやんけ。

このまま一生無職ではいられないんやから、まず何かを始めることやね。とりあえずキミはハガキの字がもの凄いヘタだから、**まず字を勉強することから始める**こっちゃ。この字じゃ、この子の言う下らない連中にすら相手にされへん。字を見たら、その人の性格ってだいたいわかるからね。この子はズボラか、わけのわからんことに熱中するか、どっちかやな。

それに「食い殺すか、食い殺されるか」って、悪いマンガでも読んだんちゃう? もっと現実を見ることから始めましょう! でね、実際「食い殺すぞ!」って言って噛みついてくる連中よりも、「食い殺すなんて人聞きの悪い。キミとボクの仲じゃないかぁ」とかウマイこと言って寄ってきて、パクッとくるタチ悪い連中の方が本当は一番アブナイで。一番大切なことは、キミの言う下らない連中から、「こいつは下らなくないぞ」って思われる人間になればいいだけや。それには、まず何かを始めなければ話にならんねん。

昔、**塚原卜伝**が隠居する時の話があってね、3人の子供のうち、誰に秘伝である〝一ノ太刀〟っていう太刀筋を教えるかを試験したんだよ。

襖の間に角材でできた枕を挟んで、パッと襖を開けた瞬間に枕が落ちてくるように仕掛けて、一人ひとり息子たちを呼ぶ。どうそれに対処するかを見る試験。まずは長男を呼んだ。長男は入ってくる前にパッと気づいて、その枕をどけて「なんでございましょうか」って部屋に入った。次男は、

AKIRA

パッと開けた瞬間に落ちてきた枕をのけぞりながら避けて、同時に刀に手をかけたんだけど、それが木だと確認できると刀を納めて部屋に入った。三男は襖をパッと開けた瞬間に落ちてきた枕をパンパンッと四つに切ってから部屋に入った。

で、誰に秘伝を授けたと思う? これが長男に継がせたんやね。理由は〝見切りの術〟でわざわざ余計な争いに巻き込まれないことが肝要だということ。剣を抜くのはいつでもできる。いつ剣を抜くかってことが大事であって、その見切りができる者にこそ〝一ノ太刀〟を授けるべきだという卜伝の評価だったわけや。いつもすぐに剣を抜いてしまうのは愚の骨頂で、いくら技術があっても名人・達人でもなんでもない。

これと同じで、いろんな経験をして、いろんな**モノの見方、考え方**を身につけて、的確に対処できるようにしとかなあかんで。

無職のまま毎日ブラブラして、AVでセンズリばっかりこいとるから、こんなアホになってしまう。

結果的にチンポばかりでかくなるけど、男に必要な脳味噌の能力は大きくならない。スケコマシでしか有名にならない某男優のように。これは、チンポにばかり血がいって、脳には届かないからやな。これを医学的にいうと、**チン肥大虚血症候群**という。

前田日明の

WORLD MEGA-BATTLE 人生相談

人生は語らず

Q 笑顔が不気味と言われて、悩んでいます。それも大好きな子に言われちゃったんで、辛すぎます。**現在は鏡の前で笑顔の特訓中です。何かいい笑顔の作り方はないでしょうか？**

（茨城県・モハメド瀧・会社員・24歳・男）

A モノは考えようや。反語ってあるやろ。ブスを褒める時に反語を使うじゃない、俺たちも。腹の中では**”ドラえもんそっくりやぞ“**とか笑いながらも、「手が綺麗だね」とか「爪が綺麗だね」とか「その髪型いいね」とかさ。

だから、キミの大好きな子は「笑顔がカワイイ」って言いたいけど、照れ隠しで「笑顔が不気味」って言ってるだけかもしれない。それを、いちいち真に受けて悩む方がおかしい、24歳にもなって。

言葉っていうのは怖いもんで、心にもないことをよく言うんだよ、みんな。人の悪口もそうだしさ。例えばAがBの悪口を言うとする。そうするとAはスッキリするんだけどBはムカムカッとする。だけど、実際AはそれほどBのことを悪く思ってはいないんだよ。でも、Bはムカムカするから Aの悪口を言うと。そうやって循環してるんだよ、人間のキャッチボールっていうのは。だから、人とコミュニケーションする時は、言葉そのものじゃなくて、なんでその言葉を言ったのか。言う必要があったのかっていう、**言葉に隠された沈黙の意味**を考えなきゃいけない。

この場合も、「笑顔が子供っぽいね」とか「素敵ね」っていうのは普通だけど、**「不気味ね」**っていうのはワンクッション確実にひねってる。このひねるっていう行為の中に、キミに対する気持ちや好奇心が入ってるはずや。少なくても「不気味だから近寄らないで」っていうメッセージは入ってないような気がするね。

それに、**不気味な笑顔って結構ええで。**普通は、その不気味な笑顔ってやつができないから、苦労して「怖そうにするのはどうしたらいいか」って悩んだりするんやから。それが元々できるんなら、こんな楽なことはない！　それに、どう見ても不気味なヤツが、ボソッと面白いことを言えるようになると、無理して笑顔の特訓なんかするよりも人を笑わすセンスが身に付く率が高い。

キミの大好きな子も、キミにホントに興味なかったらそんなことさえも言わない。だから、キミは不気味に徹した方がいいね。生き方としても面白い。**自然な姿にこそ、その人の真実のオリジナルがある！**不気味さこそがキミの真実の個性になるっちゅーこっちゃ。ただ、キミの大好きな子はキミを毛嫌いしてるだけかもしれないから、とりあえずキミは「”笑顔が不気味“と俺に言うときの君は、食べたくなるくらい異常にカワイイ……。**食っちゃうゾ～**」と言いながら、寝技に持ち込むべし。

【日明兄さんの大総括】

この頃いろんな奴が、この崇高なる人生相談に投稿してくる。それはそれでいいのだが、本当に何も考えてない奴が、信じられないくらい多い。まだミジンコの方が人生悩んでるんじゃないかとも思えてくる。まず相談をする前に”何を聞きたいのか“ということをハッキリさせてから人に相談しましょう。何が聞きたいのかさっぱりわからないのが多すぎる。何が問題かをよく考える。つまり、上手く聞くということは、自ずと答えへの近道ということっちゃ。そうすれば、くだらない質問に答える俺の手間が省けて、仕事が少しは楽になる。でも、女の子はそこまで深く考えなくていいけどね。

人間の魅力を知りたい諸君！ 相談、受け付けてやってもええで！

この華麗なる人生相談は現役バリバリのスパーク中！　子供のように爛々とした瞳を取り戻したい若人よ（老人でも可。女の子は特に可）、いますぐ日明兄さんに聞け！　以上、敬礼っ！

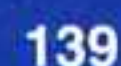
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
（株）ダブルクロス　RADICAL編集部
『日明兄さんの暗い夜道と空手ボケ』係まで。

アントニオ猪木スペシャル！ 引退記念グッズを大放出！

きページ増だ！
セト連盟改め

**●アントニオ猪木引退記念
公式写真集INOKI　1名**

写真家・原悦生が26年間の活動の中からベストショット50枚を激選！オリジナルプリント原版を再現！

＜ルー出版提供＞

**●アントニオ猪木引退興行
記念パンフレット　2名**

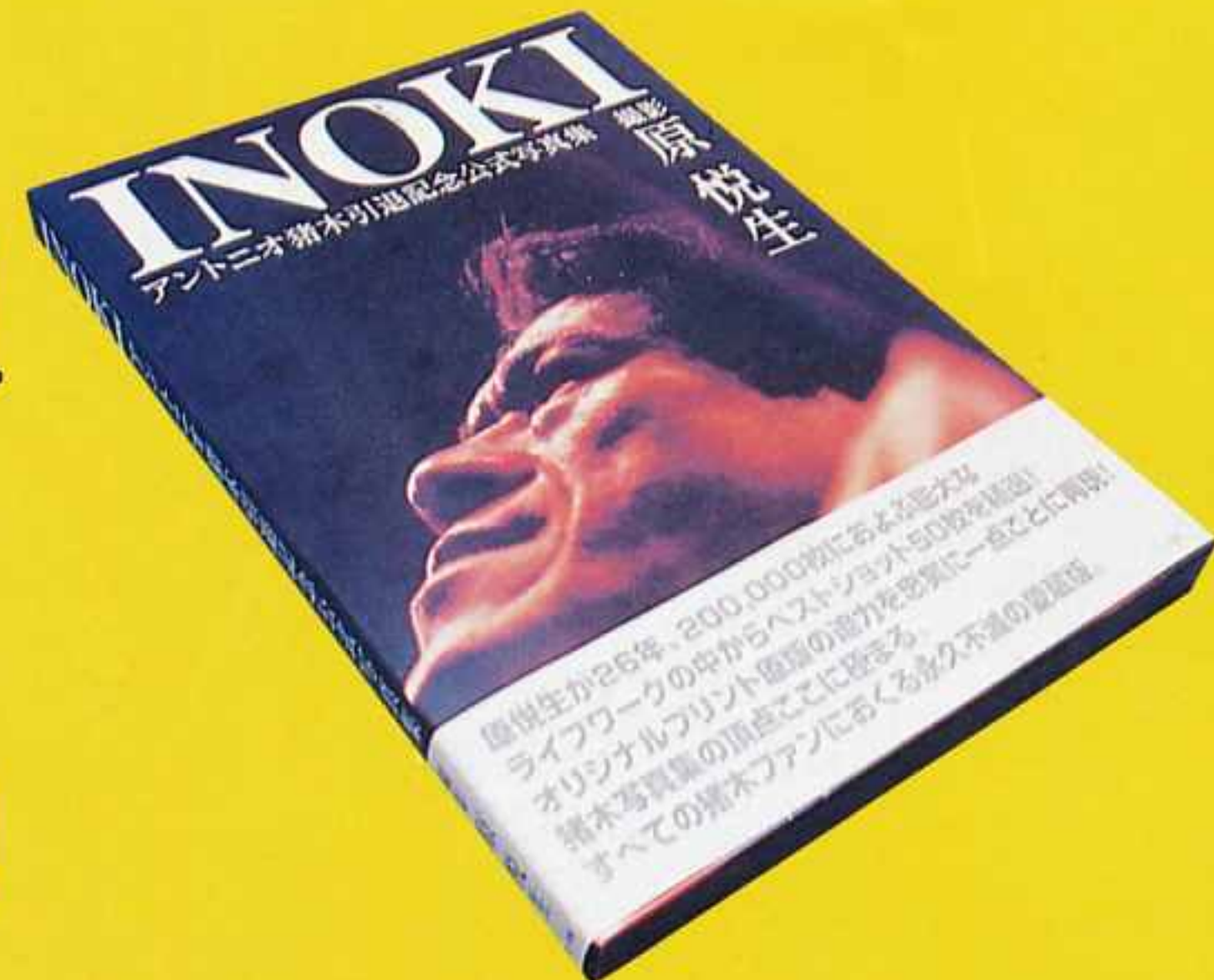
3万部刷って完売した脅威のパンフ。しかも内容は資料としても貴重。力で取ってみろーッ！

**●新日本プロレスリング
闘魂烈伝3　3名**

新日所属27人、他団体選手も含めると計43人使用可能！　技も500種を突破！絶賛発売中！

＜TOMY提供＞

**●燃える闘魂のぼり
5本セット　1名**

抜群の造形美を誇るのぼり5本がセットになってあなたのお手元に！

出せばわかる
ーッ！

**●闘魂VスペシャルVol.44
誰も未だ見ぬ猪木　3名**

イラク、カンボジア、ソマリアでの闘魂外交の模様など貴重な映像を満載！　見てえ！

＜ヴァリス提供＞

**●世界最小の格闘技
フィンガー3　3名**

プロフェッショナルフィンガーレスリング用のリングがアントン引退が登場！

＜TOMY提供＞

**●迷わず撮れよ！
撮ればわかる！　キャラトル　3名**

これで写真を撮ると、猪木直筆闘魂サインと似顔絵がプリントされます！

＜TOMY提供＞

●nWo公認オフィシャルビデオ

**●『天才対決』A・猪木vs
武藤敬司編　1名**

猪木vsムタ他、マットの天才同士の激突を収録！　4月30日発売

＜ヴァリス提供＞

●『闘魂伝承』A・猪木vs橋本真也編　1名

猪木＆坂口vs橋本＆蝶野他、猪木と橋本絡みを中心に収録！　6月30日発売

＜ヴァリス提供＞

**●燃える闘魂の名言・奇言
猪木神話の全真相　5名**

猪木に密着取材＆独占インタビューを敢行！　"真実"が次々と明らかに！

＜KKベストセラーズ提供＞

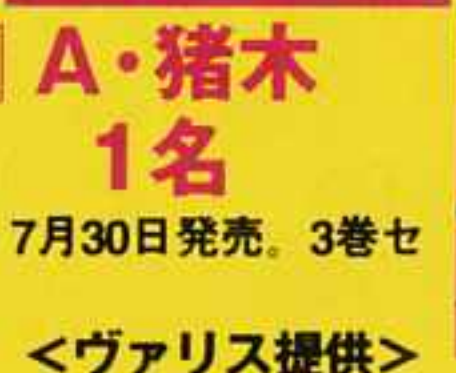
**●テメー、コノヤロー！
アントニオ猪木フィギュア　1名**

見てみい、この色！　見てい、この艶！　ポーズも最高！　問題なし！

**●『世界戦略』A・猪木
vs蝶野正洋編　1名**

猪木vsフレアーも収録！　7月30日発売。3巻セットは4月30日に発売！

＜ヴァリス提供＞

●長州力引退記念

本誌でしか手に入らない激レアグッズを大放出！

●毎度おなじみ
バンバンビガロTシャツ　各1名

今回はシブめ狙いでいい感じ。右上からフリーバーズ、ブロディ、ラシアンズ、アンドレ、タイガー服部です。希望を明記してね。お問い合わせはバンバンビガロ03-3460-1145まで　<バンバンビガロ提供>

●日明兄さん直筆　人生は語らずサイン　1名
リクエストサイン　3名

リクエストサインは応募の際に好きな言葉を書いてくれれば、日明兄さんがその言葉を書き込んでくれるゴージャスなプレゼント！　<日明兄さん提供>

●高阪剛使用済みラグトップ・Tシャツ　各1名

今号の顔・高阪選手が練習時に使用していたラグトップと、3月のNK大会の入場時に着ていたTシャツにサインを入れてプレゼント。かっこいいぜ、TK！　<TK提供>

●石川雄規「情念」Tシャツ&サイン色紙　2名

バトバトの新グッズはトーイの情念Tシャツ、セットでサインもつけちゃおう！　かわいいっすよ　<バトラーツ提供>

好評につき1ペー…
世界プレゼント…
UP…
ユーポ…

前号の世界プレゼント連盟をさらに発展させたページ──それがユーポー（ユニバーサル・プレゼント・オーガニゼーション）というか。まあ、プレゼントなんてのは風船のようなもので、息を吹き込んで膨らませていてもちょっと手を抜くとシューッとしぼんでしまうんです。私はプレゼントの原点を求めて新しい船出をし……いきますかーッ！　い〜ち、にぃ〜、さぁ〜ん、ダァーッ！

●新日…
闘魂…
新日所属…
計43人使用…
絶賛発売中…

ハガキを 迷わず出せよ。出…
アリガトー…

●W★ING　Tシャツ1名&ステッカー3名

このTシャツ（サイズはMかL、黒のみ）は通販も実施中！　3500円を現金書留で〒547-0027大阪市平野区喜連3-4-15中川方W★INGフリークスグッズ係まで。送料は着払い。ステッカーは1枚300円。

©新日本プロレスリング
発売販売元：南武興業（株）造形部
販売代理店：（有）GESSE

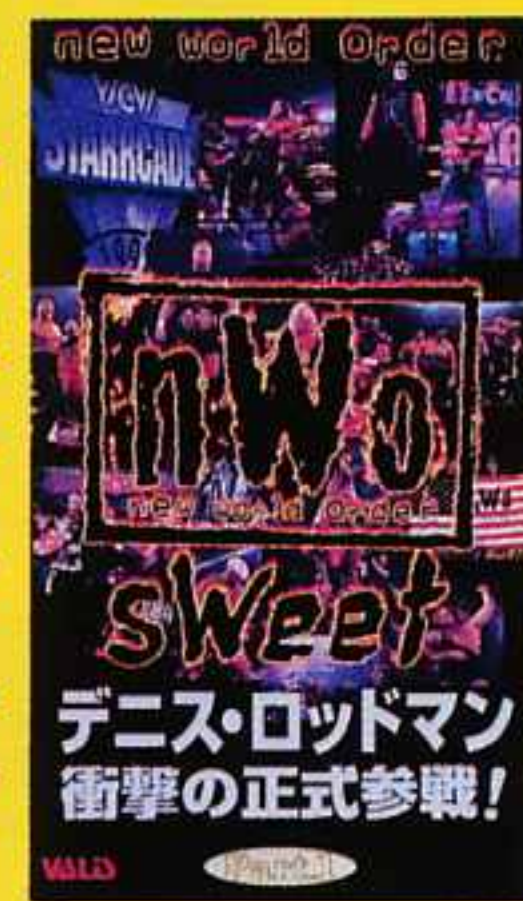
●プロレスガレージキット
獣神サンダーライガー　エル・サムライ　各1名

この商品はガーレジキットというもので、組立キットになっております。通販（各7000円）もやってます。お問い合わせ先は（有）GESSE　練馬区春日町3-34-27-101　FAX03-3577-6935まで　<南武興業（株）造形部提供>

●IWGP列伝 PART-8　2名

平成9年6月5日の橋本vs武藤から平成10年1月4日の健介vs武藤まで、中身の濃いタイトルマッチを満載！〈ヴァリス提供〉

●nWo公認オフィシャルビデオ nWo sWeet PART-2　2名

ホーガンvsスティングの頂上対決やホーガンvsジャイアントなど、ビッグマッチを満載！　必見！〈ヴァリス提供〉

●nWo公認オフィシャルビデオ nWo sWeet PART-1　2名

ロッドマン&ホーガンのプロモ映像やnWoがホーガンの誕生日を祝うシーンなど直輸入映像満載！〈ヴァリス提供〉

●FINAL POWER HALL in 闘強導夢 PART2　2名

今年1・4東京ドームの試合を収録！　去りゆく師匠・長州に健介が捧げた勝利は涙もの！〈東芝EMI提供〉

●FINAL POWER HALL in 闘強導夢 PART1　2名

感動の嵐となった長州力、最後の5人掛けやセレモニーを収録。最後のパワーホールに耳を貸すべき！〈東芝EMI提供〉

●新日本プロレス創立25周年記念 激闘史 VOL.4〜覇権闘争伝〜　2名

団体抗争から長州引退まで、激動の平成マット界の戦国絵巻を余すところなく収録！〈東芝EMI提供〉

●長州力引退記念 甦る反逆の炎〜復刻版〜　2名

燃え盛る反逆の炎・長州の歴史的なかませ犬発言や藤波との名勝負数え歌を収録。見ないとカチ喰らわすゾ！〈東芝EMI提供〉

RADICAL9号
応募券
貼ればわかる

グッズも人気爆発！　格闘技&女子プロ特集

●ダイエットブッチャー
格闘愛パンツ　各1名
格闘愛のパンツも出た！　ダイエット・ブッチャーは直営店「オクタゴン・アストニッシュ・アタック」（渋谷区神宮前5-16-8 TEL03-3486-5539）で販売中！
＜ダイエット・ブッチャー・スリムスキン提供＞

画面は開発中のものです
©(株) ナムコ

●3D対戦格闘ゲーム
鉄拳3　3名
パンクラス鈴木みのるの動きをモーションキャプチャーで解析したキャラクターも登場する究極の格闘ゲーム！　プレイステーション用のソフトです。＜（株）ナムコ提供＞

●キーチェーンゲーム
K-1 GRAND PRIX　各1名
K-1戦士を育てて鍛えて闘わせてるゲーム。アーツ、フグ、ベルナルド、希望の選手を明記すること。K-1たまごっちだね＜ハズブロージャパン株式会社提供＞

●エンセン印
大和魂トレーナー　1名
どこに行くにもエンセンが着ている大和魂トレーナー。アバンギャルドだね！
＜イーフォース・ジャパン提供＞

●PRIDEorDIE
Tシャツ　3名
迷彩柄が素敵なPRIDEシリーズのTシャツ。直訳すると「プライドか、死か？」、どっちにする？
＜KRS提供＞

●完全保存版
オフィシャルビデオ
PRIDE-2　3名
ケアーとシカティックの大乱闘を目撃しろ！　もちろん全試合を収録！
＜（株）メディアファクトリー提供＞

●アルティメット・
ファイティング・
チャンピオンシップ
'97イン・ジャパン　2名
97年12月21日、横浜アリーナの興奮がビデオに！　桜庭の歴史的勝利も収録！　＜バップ提供＞

●PUREBRED
宙ぶらり十字固めトレーナー　1名
文句なしの格好良さ！　ちなみにこれはバックプリントです。　＜イーフォース・ジャパン提供＞

●アルシオン
旗揚げ記念パンフレット　2名
話題を振りまいた史上初のセミヌードパンフレット！　将来、プレミアがつくことは間違いなし！　＜アルシオン提供＞

●府川唯未★ビジュアルブックス
裸のジャングル　5名
このままじゃプロレスがだめになる！　という危機感から府川が筆を取った！　全プロレスファン必読！
＜芸文社提供＞

●福岡晶写真集
AGeLLe　2名
福岡晶4冊目の写真集！　とりあえず過激さだけなら女子プロレス写真集史上最高だ！
＜ビクターブックス提供＞

●白鳥智香子写真集
DESIRE　3名
Jd' プリンセス・白鳥がギリギリ限界まで挑戦しました！　リング外での意外な表情がハートをグッと掴みます！　＜英知出版提供＞

●ラストルーズソックス！
千春ポスター　2名
女子高生マニアやSPWFマニア、挙げ句の果てにはポスターマニアも喜ぶ一品を放出！

●ラス・カチョーラス・オリエンタレス
猛武Tシャツ　各1名
青い字の三田Tシャツとピンクの文字の下田Tシャツ。こじゃれたデザインが目を引きます。希望を明記してね！
＜ネオ・レディース提供＞

●ラス・カチョーラス・オリエンタレス
闘賊パーカー　各1名
青い字の三田パーカーとピンクの文字の下田パーカー。会場でも販売中！　希望を明記してね！
＜ネオ・レディース提供＞

全日ドーム大会記念(スペシャル)

●全日本プロレス中継30コンプリートコレクション
98エキサイトシリーズ三冠ヘビー級選手権試合　2名
東京ドーム大会も決定した全日本の底力を見せつけた2月28日の武道館大会のビデオ。
<バップ提供>

●全日本プロレス中継30コンプリートコレクション
98新春ジャイアントシリーズ三冠ヘビー級選手権試合　2名
今年1月26日、大阪府立体育会館での三沢vs秋山の三冠選手権試合を収録。この熱を感じろ！
<バップ提供>

●全女倉庫で眠っていた
奇跡の豊田真奈美グッズ　1名
話題を呼んだ豊田の写真集から作ったTシャツ。一度見たら二度と忘れられない強烈なデザインだ。レオ澤鬼のようなタッチの豊田タオルもセットにして1名様に！
<全日本女子プロレス提供>

プロレスショップならではの激レアグッズを大放出！

マスク作りセット　1名　オフィスTAKA

独自の商品展開をするお店・オフィスTAKA。このような斬新なグッズも販売してます。お店では12800円でマスク3枚入りセットを、6800円でマスク1枚入りの会員限定福袋を絶賛販売中！　売り切れの場合はご容赦ください。

【所在地】〒207-0012　東京都東大和市新堀1-1435-21ブンカビル
【TEL／FAX】042-566-5407

Tシャツ詰め合わせ　1名／ビデオ詰め合わせ　1名　バディスラム

大阪在住プロレスファンのオアシス・バディスラムからは、豪華なプレゼントが届きました。Tシャツ詰め合わせの目玉は、JWPの若手選手のサイン入りTシャツ！　ビデオ詰め合わせの目玉はPRIDE-1もの。Tシャツ希望かビデオか希望を明記してください。お店では各団体の大阪大会のチケットを販売中！
【所在地】〒556-0011　大阪府浪速区難波中3-3-10ナンバ清水ビル2F8号
【TEL／FAX】06-645-1378
【営業時間】平日12：00～21：00　日祝11：00～20：00

ゴルドーのサイン入りちらし　1名　ファイター

主に空手やキックなどの格闘技グッズが中心のお店。たしかにどこでも手には入らないような貴重なグッズではある。しかも、このツアーは中止になったらしい。ちなみにこのお店は、中村カタブツ君（35歳）の心のオアシスでもある。

【所在地】〒160-0022　東京都新宿区新宿3-3-9伍名館ビルB1
【TEL】03-3354-1903【営業時間】11：00～19：00

50　151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
(株)ダブルクロス
「紙プロ」編集部
「応援できないよ」係まで

応募券
1.住所
2.氏名　3.年齢
4.希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.好きなプロレス団体
8.好きなレスラー
9.P116～PRIDE-0の勝者は？
10.ベスト・オブ・プロレスファンの芸能人を1人（1組）だけ挙げて
11.やってほしい企画

応募方法

住所、氏名、年齢、ご希望の商品、面白かった記事&理由、つまらなかった記事&理由、好きな団体、レスラー、今号P116～PRIDE-0の勝者は？、ベスト・オブ・プロレスファンの芸能人を1人（1組）だけ挙げて、やってほしい企画を明記し、応募券を貼付して左記宛てに送ってください。

締切は5月23日（当日消印有効）
※応募券のないものは無効となります

グレート・サスケ劇場 次号より再開!!

グレート!!
その電波を、これからどこへ
届けるつもりなんだ!!

「最近、グレート・サスケ劇場がなくて寂しいです。グッスン」（今治市・新澤ありさ・17歳）といった声が、本誌編集部に続々と寄せられています。確かに今号、前号とサスケ&みちプロ情報は少なかったですが、本誌はサスケ&みちプロを決して忘れてたわけではありません！（ちょっと忘れてたけど）。膝の手術も成功し、サスケ社長も、自身の復帰&みちプロ再興に向けて奮闘努力をしております。サスケの今後はストロング・コンゴウ、な一んつってな。ということで、猪木さんも「UFO」を発進させましたが、サスケ社長も、ことUFO好きと「元気」にかけては、猪木さんにも負けていません。こんな不景気で暗い世の中なのに、なぜか、ますますそのバカさ加減がスケール・アップしているサスケ社長が織りなす、新生「グレート劇場」に乞うご期待！　それではみなさん、読みますかーッ!!

No.9

1998年5月15日発行
定価:本体648円+税

発売元:株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元:株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188(編集・制作)

編集兼発行人:山口日昇
編集スタッフ:坂井ノブ／松澤チョロQ／吉田豪／八木賢太郎(猪木引退試合に感動しすぎたため非番)
デザイン:ツースリー(出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川ふるーる)
カメラマン:斉藤ユーリ／戸成ぶつぞう／松永源さん
お勘定:林ヘックション一枝
天才助っ人:中村カタブツ君(35歳)
フィニッシュ:ツー・スリー
印刷:図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは(株)ダブルクロスにね♥

紙のプロレス RADICAL

No.10は
6月中旬
発売予定

※地域によっては多少発売が遅れます

緊急告知!
CAUTION!

アクションカメラ
のホームページ

ホームページアドレスは…
http://www.wani.com

待ちに待ったアクションカメラのホームページが開設されました。雑誌には載せられなかったアブナイ写真やスタッフの裏話が、キミのパソコンで見られるぞ。月2回の更新予定でいつも新しい画像が…? さあアクセス開始!

なーんつってな。ということで、猪木さんも「UFO」を発進させましたが、サスケ社長も、ことUFO好きと「元気」にかけては、猪木さんにも負けていません。こんな不景気で暗い世の中なのに、なぜか、ますますそのバカさ加減がスケール・アップしているサスケ社長が織りなす、新生「グレート劇場」に乞うご期待! それではみなさん、読みますかーッ!!

紙のプロレス WANIMAGAZIN MOOK 72 RADICAL 1998 No.9
闘魂は連鎖する!!
平成10年5月15日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体648円＋税

Jリーグにもプロ野球にもない
インタビュー&
話題騒然人生相談!!

アントニオ猪木と同じ時代に生きれたことを誇りに思います。
東芝EMIは 引退してもアントニオ猪木を応援します!

新日本プロレスリング オフィシャル・ビデオ

KING of SPORTS NEW JAPAN PRO-WRESTLING

猪木引退

メモリアル・ビデオ続々リリース決定!!

第1弾 5.27 2巻同時発売
『燃える闘魂 アントニオ猪木引退試合』
(1998年4月4日：東京ドーム)
PART.1／TOVH-1346 PART.2／TOVH-1347
VHS各巻：税込¥10,200 約90分収録予定
●4.4 東京ドームで遂に"燃える闘魂"が幕を閉じる。猪木最後の試合を対戦者決定トーナメントを含め完全収録／超完全永久保存版／
※2巻同時にご予約の方に店頭にて「アントニオ猪木 大型全身ポスターAタイプ」(タテ1,456×ヨコ515%)(非売品)をプレゼント／

第2弾 6.24 3巻同時発売
『不滅の闘魂 アントニオ猪木物語』
第1話／TOVH-1348 第2話／TOVH-1349 第3話／TOVH-1350
VHS各巻：税込¥10,200 約90分収録予定
●新日本プロレス旗揚げから引退試合まで26年間のアントニオ猪木の激動の歴史を完全ビデオ化。「猪木イズム」の集大成ここに完結／
※3巻同時にご予約の方に店頭にて「アントニオ猪木 大型全身ポスターBタイプ」(タテ1,456×ヨコ515%)(非売品)をプレゼント／

第3弾 7.29 発売
『不滅の闘魂 アントニオ猪木物語』
レーザーディスク[3枚組ボックス]
TOLH-1348〜50 税込¥28,350
※ご予約の方に店頭にて「アントニオ猪木 大型全身ポスターBタイプ」(タテ1,456×ヨコ515%)(非売品)をプレゼント／

W(ダブル)特典
ビデオ全5巻または「引退試合」(2巻)と「アントニオ猪木物語」(レーザーディスク・ボックス)をお買い上げの方全員に「アントニオ猪木 公認 全巻購入認定書(フォト付き)」を進呈。(詳しくは商品封入の応募券をご覧下さい。)

企　画：新日本プロレスリング㈱
発売元：㈱ビデオ・パック・ニッポン
販売元：東芝EMI㈱

過激な闘いの集大成。ここには新日本プロレスの歴史がある。
新日本プロレス創立25周年記念(復刻版)

激闘史

VOL.1 闘魂伝説
新日本プロレス創立からIWGP構想発表まで
TOVH-1342 カラー／モノラルHi-Fi／90分

■昭和48年10月14日
アントニオ猪木・坂口征二 vs カール・ゴッチ・ルー・テーズ
■NWF戦・昭和49年3月19日
アントニオ猪木 vs ストロング小林
■北米タッグ・昭和52年4月1日
アントニオ猪木・坂口征二 vs T・J・シン・上田馬之助 他
●アントニオ猪木・山本小鉄、徹底インタビュー!!
[平成4年2月収録]

スペシャルプライス ¥6,200 TAX IN

VOL.2 激闘戦国記
第1回 IWGPから藤波・長州の抗争へ
TOVH-1343 カラー／90分
ステレオHi-Fi(一部モノラル)

■昭和56年4月23日
アントニオ猪木 vs スタン・ハンセン
■昭和56年4月23日
タイガーマスク vs ダイナマイト・キッド
■昭和58年6月2日／第1回 IWGP優勝戦
アントニオ猪木 vs ハルク・ホーガン
■昭和60年4月18日
アントニオ猪木 vs ブルーザー・ブロディ 他

VOL.3 超戦士集結
世代闘争、そして闘魂三銃士時代へ
TOVH-1344
カラー／ステレオHi-Fi／90分

■昭和62年10月4日(巌流島)
アントニオ猪木 vs マサ斉藤
■昭和63年8月8日(横浜)／IWGP選手権
藤波 vs 猪木
■平成2年9月30日(横浜アリーナ)
アントニオ猪木30周年フェスティバル
■平成3年8月11日(両国国技館)
／G1クライマックス決勝戦
蝶野 vs 武藤 他

その他、未発表の試合を含め、名場面の数々を収録!!
4月22日 3巻同時発売

WAR、Uインターとの抗争、超世代闘争、ジュニア統一、4大ドームツアー、nWoの台頭、長州引退まで…全プロレスファンに捧げる!!

VOL.4 覇権闘争伝
激動の団体抗争から長州引退まで('92〜'98)
TOVH-1330 ¥10,200(税込)
カラー／ステレオ・Hi-Fi／105分収録 **絶賛発売中**

1998新日本を占う今年最初の大一番全11試合!!
札幌 IWGP 3大タイトルマッチ／ 武道館 猪木、大乱闘!!
1998.2.7 SAPPORO & 2.15 BUDOKAN
FIGHTING SPIRIT '98
TOVH-1345 ¥10,200(税込)
カラー／ステレオ／Hi-Fi／約130分収録
■IWGPジュニア選手権(2/7 札幌)
(王者) (挑戦者)
大谷 vs ライガー
■IWGPタッグ選手権(2/7 札幌)
(王者) (挑戦者)
武藤・蝶野 vs 中西・小島
■IWGPヘビー級選手権(2/7 札幌)
(王者) (挑戦者)
健介 vs 西村
■NWOジャパン・シングル・コンバット7(2/15 武道館)
〈NWOジャパン〉
武藤 vs 山崎
蝶野 vs 越中 他
■異種格闘技戦(2/15 武道館)
小川 直也 vs ドン・フライ

NWOジャパン・シングル・コンバット7は全てダイジェスト その他はノーカット収録／
4月29日発売

インディーマットの制圧そして統一に動き出すか、1998年のFMWには要注意!
ハヤブサ復活!インディー二冠戦挑戦者決定トーナメントを制す!
天使か悪魔か?白い革命戦士たち『ブリーフ・ブラザーズ』がFMWマットを席巻!

FMW

WHITE LOVE ホワイトラブ

■FMWオフィシャル・ビデオ14th
〜白い革命戦士〜
TOVS-1300 税込¥9,990
カラー／ステレオ／Hi-Fi／約144分収録

[主な収録試合](一部を除きダイジェスト収録)
■1月6日 後楽園ホール
「インディペンデント・ワールド世界ヘビー級選手権」
「世界ブラスナックル選手権」ダブルタイトルマッチ
(選手権者) (挑戦者)
田中将斗 vs ミスター雁之助
■「インディペンデント・ワールド世界ヘビー級選手権」&「世界ブラスナックル選手権」2冠選手権
次期挑戦者決定トーナメント 全試合収録
ハヤブサ・田中将斗 ノーカット 3／13札幌
邪道・黒田哲広 3／7石巻
(勝者) 3／16岩手
ザ・グラジエーター・大矢剛功 3／8十和田
金村ゆきひろ・中川浩二 3／7石巻
(勝者) 3／16岩手
決勝 3／17 後楽園 ノーカット
■3月13日 札幌中島体育センター
フォーコーナー・ハンドカフ・ファッキン・ドッグ
8人タッグマッチ〜ロスト・ザ・ブリーフ〜
[ZEN×TEAM NO RESPECT]
大仁田厚・中川浩二・黒田哲広・保坂秀樹 vs ミスター雁之助・金村ゆきひろ・非道・ホーレス・ボウダー 他
その他、控え室でのインタビュー等
衝撃的ドキュメント映像を満載／

ビデオ用特別映像特典
★『ブリーフ・ブラザース』ヒストリー!
(収録内容)'98年1月13日 島根・出雲ドーム『ブリーフ・ブラザース』誕生／ から3月13日 札幌大会での「"解散"を賭けた戦い」を経て3月17日 後楽園凱旋までの世間を騒がせる"お楽しみ"コント名場面&珍シーンを超貴重収録／

〈ボーナストラック〉
■2月19日 後楽園ホール『冬木軍』興行
ランバージャック・デスマッチ
ハヤブサ vs 冬木弘道 他
■2月28日(みちのくプロレス 徳島大会)
タッグマッチ (TEAM NO RESPECT)
ハヤブサ・新崎人生 vs ミスター雁之助・金村ゆきひろ

4月29日発売
著作・制作：フロンティア・マーシャルアーツ・レスリング㈱
発売・販売：東芝EMI㈱ 協力：冬木軍プロモーション／みちのくプロレス

全国のレコード店、書店、プロレスショップおよび各団体試合会場他にてお求め下さい。
●内容についてのお問い合わせは：東芝EMI(株) 映像部 ☎03-5512-1749
●ご注文についてのお問い合わせは：同 販売3部 ☎03-5512-1558
TOSHIBA EMI

9784898295847
ISBN4-89829-584-3
C9476 ¥648E
1929476006486
雑誌 69861-72

印刷：図書印刷株式会社